

実施報告書

【2018年度】

グラスルーツからの
日米関係強化に関する
政府タスクフォース
(各地各様のアプローチ)

2019年6月5日
外務省

はじめに

我が国と米国は、自由、民主主義、基本的人権、法の支配などの基本的価値を共有する同盟国です。経済関係においても、日本企業による広範な対米投資は約4,690億ドルに達しており、約86万人を超える米国国内での良質な雇用を生み出し、米国経済の成長や各地域社会にも貢献してきました。

「協力」を基調とした日米関係に対する理解を連邦議会及び政府関係者のみならず、より広く、米国各地の一般国民にも行き届くような形で深めていくためには、草の根レベル(グラスルーツ)での取組を積み上げていくことが重要です。

こうした中、在外公館のみならず、関係省庁、独立行政法人日本貿易振興機構(JETRO)及び独立行政法人国際交流基金等の関係団体や、在米日本企業及び日本経済団体連合会(経団連)等と連携し、日米両国の緊密な関係について、我が国の文化・伝統に関する理解の裾野を広げながら米国の一般国民にわかりやすく訴えかける活動を強化していくことが喫緊の課題です。

このような問題意識の下、連邦レベルにおける取組の具体的方策について検討する「グラスルーツからの日米関係強化に関する政府タスクフォース(各種各様のアプローチ)」を立ち上げ、3回の会合及び2回のフォローアップ会合を実施し、議論を重ねてきました。

本報告書は、それらの議論も踏まえ、在外公館が2018年度に米国各地において実施した様々な関連の取組をまとめたものです。

実施期間	: 2018年度
実施件数	: 337件
のべ参加人数	: 約110万人

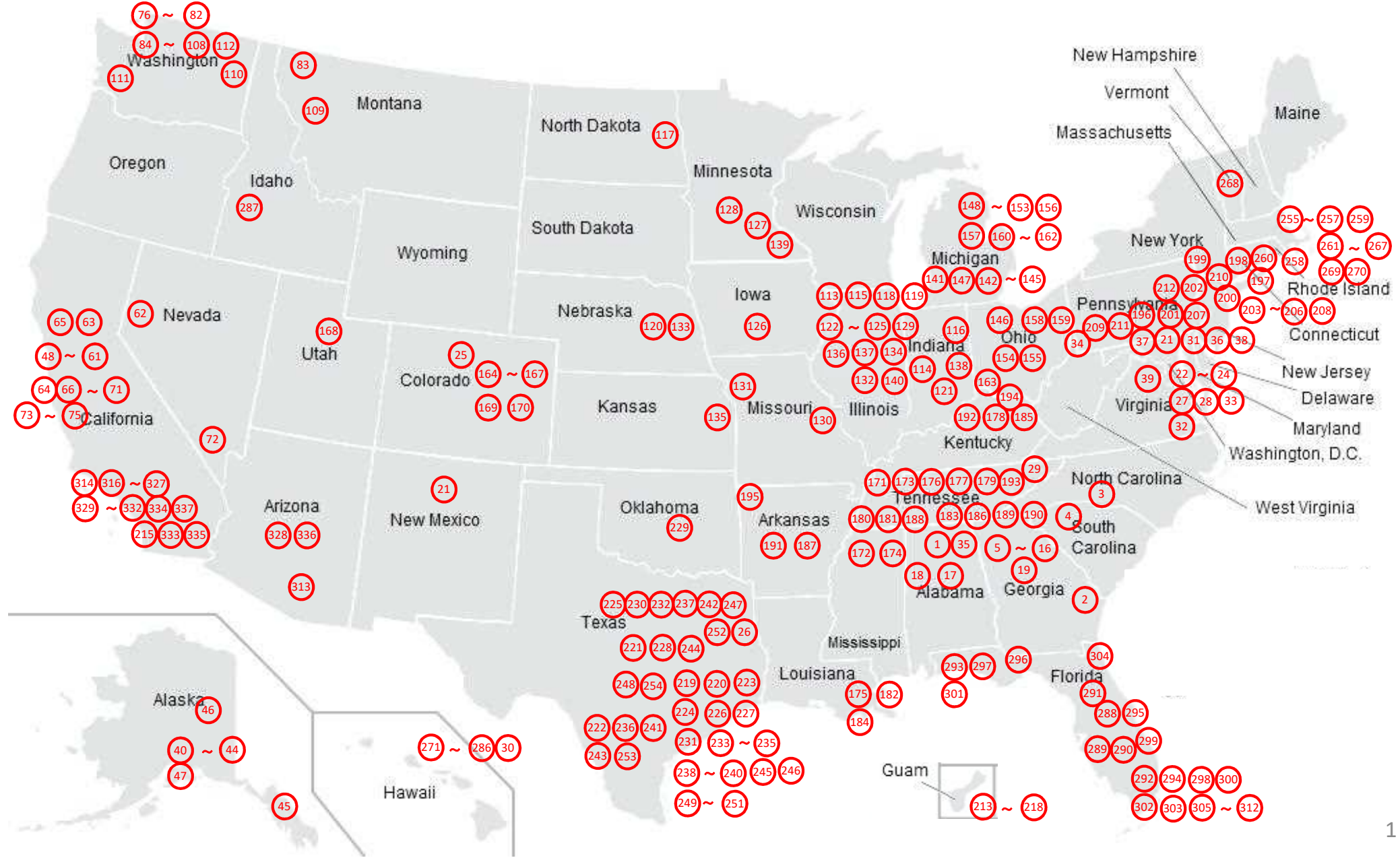
目次

在アトランタ総領事館	P1
在アメリカ合衆国大使館	P20
在アンカレジ領事事務所	P37
在サンフランシスコ総領事館	P45
在シアトル総領事館	P73
在シカゴ総領事館	P110
在デトロイト総領事館	P138
在デンバー総領事館	P160
在ナッシュビル総領事館	P167
在ニューヨーク総領事館	P192
在ハガツニヤ総領事館	P209
在ヒューストン総領事館	P215
在ボストン総領事館	P251
在ホノルル総領事館	P267
在ポートランド領事事務所	P283
在マイアミ総領事館	P284
在ロサンゼルス総領事館	P309

米国各地における グラスルーツの取組

実施件数: 337件

延べ参加人数: 約110万人



① ダイキンアメリカ社ダイキンフェスティバルへの在外公館長表彰 (アトランタ総領事館)

■実施時期 2018年5月23日

■実施場所 アラバマ州ディケーター市

■関係機関 ー

■訴求対象 ディケーター市民等

■開催規模 約3,000名

■概要・効果

【概要】

ダイキンアメリカ社(アラバマ州ディケーター市にあるダイキン工業(株)米国子会社)が、日本の伝統・文化に触れる機会として地元住民と共に楽しめるよう盆踊り大会を現地流にアレンジし1994年から開催してきている「ダイキンフェスティバル」が25年目(四半世紀)を迎える。

この機会に合わせ、日本とアラバマ州との友好親善促進にダイキンフェスティバルが果たしてきた貢献を称え、ダイキンフェスティバル会場で、総領事より内海靖浩ダイキンアメリカ社 取締役社長 兼 CEOに表彰状を贈呈。

【効果】

雨天の中でも浴衣・法被で祭りを楽しむ地元米国人約3,000人に対して、北部アラバマ地域で日本の伝統・文化に触れることができる最大の機会となっているダイキンフェスティバルが日・アラバマ友好親善に果たしてきた貢献を伝えることができた。

また、フェスティバルに来場していたモー・ブルックス連邦下院議員に対しても進出日本企業の地元コミュニティへの貢献、日・アラバマ関係の深さについて印象づけることができた。



(写真提供:ダイキンアメリカ社)



(写真提供:ダイキンアメリカ社)

② サバンナ・ビジネスツアーにおける日米経済関係発信事業 (アトランタ総領事館)

■実施時期 2018年6月14日

■実施場所 ジョージア州サバンナ市

■関係機関 ジョージア日米協会

■訴求対象 サバンナ地域の要人

■開催規模 50名

■概要・効果

【概要】

6月14-15日にジョージア日米協会がNext Generation Manufacturing(ジョージア州所在の製造業が後援する製造業の将来を考えるフォーラム)と協力して開催した国際貿易港サバンナやサバンナ所在の日米有名企業(三菱日立パワーシステムズ社、ガルフストリーム・エアロスペース社)等を視察するツアーの中で、総領事館館員より日米経済関係及び日本についての発信を行うネットワーキングセミナーを実施。

【効果】

サバンナ港(2016年貨物取扱量全米第4位)を有し、ジョージア州有数の経済都市圏を形成しているサバンナ地域において、エドナ・ジャクソン前サバンナ市長をはじめ、サバンナ開発局、ワールド・トレード・センター・サバンナ、サバンナ港湾局、サバンナ地域商工会等の代表といった地元要人に対して、日米経済関係及び日本について包括的な情報を提供し、日米経済関係への理解を促進することができた。



③ シャーロット盆踊り大会 (アトランタ総領事館)

- 実施時期 2018年8月4日
- 実施場所 ノースカロライナ州
シャーロット市
- 関係機関 シャーロット日本人会
- 訴求対象 シャーロット市及び
近隣在住市民
- 開催規模 約5,000名
- 概要・効果

【概要】

シャーロット日本人会が主催する盆踊り大会に、総領事館広報文化ブースを設置し、和服展示を実施した。

【効果】

盆踊り大会に足を運んだシャーロット市民等に広く日本文化及び日米交流の実例を紹介できた。さらに、盆踊りに訪れていたJETプログラムの元参加者との交流で、JETプログラム参加者の米国における日本関連活動への継続に弾みを付けた。



④ グリーンビル盆踊り大会 (アトランタ総領事館)

- 実施時期 2018年8月25日
- 実施場所 サウスカロライナ州
グリーンビル市
- 関係機関 サウスカロライナ
日米協会
- 訴求対象 グリーンビル市及び
近隣在住市民
- 開催規模 約900名
- 概要・効果



【概要】

サウスカロライナ日米協会が主催する盆踊り大会に、総領事館広報文化ブースを設置し、和服展示の実施とともに日米交流の実例を紹介した。

【効果】

盆踊り大会に足を運んだグリーンビル市民等に広く日本文化及びJETプログラムなどの日米交流プログラムを紹介できた。

⑤ 労働力開発セミナー (アトランタ総領事館)

■実施時期 2018年9月6日

■実施場所 ジョージア州アトランタ市

■関係機関 笹川平和財団USA、米国務省、
ジョージア工科大学国際ビジネス教育研究
センター

■訴求対象 日米企業関係者、技術短期
大学等教育関係者、地元自治体関係者

■開催規模 70名

■概要・効果

【概要】

笹川平和財団USAがアトランタ市で開催した
The Alliance Working in America (日米連携
がもたらす連邦・地方レベルにおける米国の
利益に関するセミナーシリーズ)の日米関係に関するイベントのサイドイ
ベントとして、「ジョージア州の労働力への投資：日米対話」と題する労働
力開発に関するセミナーを同財団、米国務省、ジョージア工科大学国際
ビジネス教育研究センター、アトランタ総領事館の四者で共催。

【効果】

米国の中でも経済成長が著しく、また日本企業の新規進出・追加投資
が続くジョージア州において、日本企業の同州における労働力開発の取
組について日米企業関係者や教育関係者等に情報提供することができ、
また、米国の経済成長に資する労働力開発について日米が協力し得るこ
とを示す機会となった。



(写真：Sasakawa USA)

⑥ 狂言のレクチャー・デモンストレーション実施 (アトランタ総領事館)

■実施時期 2018年9月14日

■実施場所 ジョージア州ダンウッド市

■関係機関 ジョージア州立大学
ジョージア日米協会

■訴求対象 ジョージア州立大学学生・教員、
近隣中高校生徒、近隣住民等

■開催規模 約200人

■概要・効果

【概要】

米国南東部最大級の日本祭りであるジャパンフェストにおける狂言公演に先立ち、ジョージア州立大学ペリメター校において、狂言のレクチャー・デモンストレーションを実施。地元中高生が狂言師の指導のもと舞台上で実際の狂言の動きを体験。

【効果】

ジョージア州立大学で日本クラブを組織し日本に興味関心がある学生から、普段は日本文化に特段興味はないが演劇に興味がある学生、また日本への訪問が予定されている中高校生といった若い世代に日本を代表する伝統芸能である狂言の歴史やパフォーマンスに触れる機会を提供することで、日本への興味を高めることができた。



⑦ ジャパンフェストVIPイベント (アトランタ総領事館)

■実施時期 2018年9月15日

■実施場所 ジョージア州アトランタ郊外
グウィネット郡(ジャパンフェスト会場内)

■関係機関 ジョージア日米協会、
ジョージア日本人商工会

■訴求対象 ジョージア州議会議員等
地元要人とその家族

■開催規模 約50名

■概要・効果

【概要】

米国南東部最大級の日本祭りであるジャパンフェストの機会を活用し、地元要人を対象に、ジョージア州進出日本企業の存在・活動を理解してもらう企業展示ツアー及び日本企業代表等との懇談、日本文化に触れてもらう狂言鑑賞と狂言演者との懇談を組み合わせたイベントを実施。

【効果】

通常の広報・チケット配布だけではジャパンフェストへの参加が得られにくい議員・自治体首長等の参加が得られ、日本企業の活躍、日本文化の魅力を紹介することが出来た。



⑧ ジャパンフェスト(相撲にかかる展示ブース) (アトランタ総領事館)

- 実施時期 2018年9月15-16日
- 実施場所 ジョージア州アトランタ郊外
グウィネット郡
- 関係機関 ジャパンフェスト
- 訴求対象 アトランタ圏在住の日本に
関心を有する一般市民
- 開催規模 約23,000名



■ 概要・効果

【概要】

米国南東部最大級の日本祭りであるジャパンフェストの会場に、総領事館の広報文化ブースを設置。2020年の東京オリンピックに先立ち、日本のスポーツとして米国でも知られている「相撲」について、日本古来の神事や祭りであり、同時に武芸でもあり武道でもある相撲の歴史と共に紹介。展示に加え、来場者が参加できる「紙相撲」大会も実施。

【効果】

総領事館広報文化ブースには、アトランタ相撲協会(米国人の相撲愛好家が結成)のメンバーを含む多くの米国人が訪れ、紙相撲大会には子供も大人も夢中になって参加しており、日本の新たな面について多くの来訪者に知ってもらうことができた。

⑨ ジャパンフェストにおける狂言公演 (アトランタ総領事館)

- 実施時期 2018年9月15-16日
- 実施場所 ジョージア州アトランタ郊外
グウィネット郡
- 関係機関 ジャパンフェスト
- 訴求対象 アトランタ圏在住の日本に
関心を有する一般市民
- 開催規模 約23,000名



■概要・効果

【概要】

米国南東部最大級の日本祭りであるジャパンフェストにおいて、2008年に「人類の無形文化遺産の代表的な一覧表」(世界無形文化遺産)に記載された日本の伝統芸能である能楽のうちの「狂言」の公演を実施。また、狂言演者一行による狂言紹介ブースを設置。

【効果】

単独公演では多くの米国人に足を運んでもらうことは困難な日本の伝統芸能公演・紹介を米国南東部地域で最大規模の日本祭り「ジャパンフェスト」の機会を利用して実施することで、約2万人の来場者に狂言を目にする機会を提供することができ、日本文化への関心層の拡大に繋がった。

⑩ サステナビリティ及びエネルギーに関するラウンドテーブルの開催 (アトランタ総領事館)

■実施時期 2018年9月26日

■実施場所 ジョージア州グウィネット郡

■関係機関 グウィネット郡商工会議所、
ジョージア日本人商工会



■訴求対象 ジョージア州のエネルギー事業関係者等

■開催規模 約30名

■概要・効果

【概要】

ジョージア州公共サービス委員会の委員からのサステナビリティ及びエネルギー利用に優れた知見を有する日系企業の取組を共有する機会を設けたいという要請に応え、ジョージア日本人商工会及び日系企業が多く進出しているグウィネット郡の地元商工会議所との協力の下、「サステナビリティ及びエネルギーに関するラウンドテーブル」を開催。

【効果】

ジョージア州政府公選職からの要請に応え、ジョージア日本人商工会の支部が地元商工会議所との協力の下、よき企業市民としてサステナビリティに取り組む日本企業を印象づける上で有意義で、ジョージア州公共サービス委員会委員自身がラウンドテーブルについてツイッターで発信を行っており、日本企業の良い取組の拡散に繋がった。

⑪ 歩こうアメリカ、語ろうニッポン(第2団) (アトランタ総領事館)

■実施時期 2018年12月11日～12月12日

■実施場所 ジョージア州アトランタ市、ブルックヘイブン市

■関係機関 World Affairs Council of Atlanta、ジョージア工科大学、
オグルソープ大学付属美術館、JETAA他

■訴求対象 大学生、市議会関係者、JETAA、現地有力者、
一般米国人他

■開催規模 約130名

■概要・効果

谷口内閣官房参与を団長とする一行がWorld Affairs Council of Atlanta、ジョーズクリーク・ノースフルトンロータリークラブ、ジョージア工科大学等で、日米経済、エネルギー、日本文化等に関する発信を行った。

オグルソープ大学付属美術館では、開催されていた浮世絵と西洋美術との交流に関する展示会に合わせ、日本酒のプレゼンテーションを行った。JETAAとの意見交換会も開催し、日本の魅力について現地の理解を深めることができた。



⑫ グローバルヘルスへの日本の貢献にかかる講演 (アトランタ総領事館)

- 実施時期 2019年2月14、15日
- 実施場所 ジョージア州アトランタ市
- 関係機関 エモリー大学ロリンズ公衆衛生大学院、モアハウス大学医学部
- 訴求対象 国際保健・公衆衛生・医療分野の学生・教員等
- 開催規模 約80名

■ 概要・効果

【概要】

米国疾病管理予防センター(CDC)、国際的NGOであるカーター・センターやCARE USAが本部を置いており、国際保健・公衆衛生の専門家、学生、援助関係者が知識層の一角を成しているアトランタにおいて、瀧澤郁雄JICA人間開発部次長を講師として、「グローバルヘルスへの日本の貢献：平等性、質、持続性の促進」と題する講演を実施。

【効果】

通常の総領事館イベントでは接触がほとんど見込まれない国際保健・公衆衛生・医療分野の学生・教員等が講演会に出席。「国際保健・公衆衛生分野における日本」を切り口に新たな日本への関心層を開拓することが出来た。



⑬ 在アトランタ総領事館開設45周年記念レセプション及び桜植樹式 (アトランタ総領事館)

■実施時期 2019年2月18日

■実施場所 総領事公邸

■関係機関 ー

■訴求対象 ジョージア州知事以下
州政府関係者及び州経済界関係者

■開催規模 約40名

■概要・効果

【概要】

アトランタ総領事館が2019年2月に開設45周年を迎えることを記念して、2019年1月に就任したブライアン・ケンプ ジョージア州知事を始めとする州、フルトン郡(アトランタ市が所在)及びアトランタ市政府の要人、州議会議員、主要日系企業幹部等を招き、記念レセプション及び総領事公邸前庭での桜植樹式を実施。

【効果】

就任直後のブライアン・ケンプ ジョージア州知事を始めとする地元政財界の要人に、長年にわたる日本とジョージア州との友好関係、とりわけ、日本企業によるジョージア州への投資と雇用創出について強く印象づけることができた。



⑭ ジョージア州議会における在アトランタ総領事館開設45周年記念決議の採択（アトランタ総領事館）

- 実施時期 2019年2月26日
- 実施場所 ジョージア州アトランタ市
（ジョージア州議会上院及び下院）
- 関係機関 ジョージア州議会上院及び下院
- 訴求対象 ジョージア州議会議員等
- 開催規模 約250人



■概要・効果

【概要】

アトランタ総領事館が2019年2月に開設45周年を迎えるにあたり、ジョージア州議会上院及び下院でそれぞれ記念決議が採択され、2月26日に日本国総領事が両院に招待され、記念決議が手渡され、スピーチの機会が提供された。

【効果】

ジョージア州議会上院及び下院における親日的な議員や日本企業によるジョージア州への投資を良く知っている議員によって提出された記念決議が採択され、また、採択された決議が日本国総領事に両院それぞれの議場で手渡され、日本国総領事がスピーチを行うことにより、これまで日本とジョージア州との友好関係や経済的繋がりにあまりなじみのなかった州議会議員にもジョージア州における日本のプレゼンスを印象づけることができた。

15 ジョージア州議会における在アトランタ総領事館開設45周年記念行事（アトランタ総領事館）

■実施時期 2019年2月26日

■実施場所 ジョージア州アトランタ市
（ジョージア州議会議事堂及び議員会館）

■関係機関 ジョージア州議会

■訴求対象 ジョージア州議会議員

■開催規模 約250名

■概要・効果

【概要】

2019年2月にアトランタ総領事館が開設45周年を迎えることを記念して、ジョージア州議会上院及び下院が記念決議を採択し、日本国総領事に手渡す機会にあわせ、州議会議事堂及び議員会館において、日本とジョージア州との経済関係・姉妹都市関係等を紹介するパネルやオリンピックに関する情報、癒やしのロボット「パロ」等を展示。また、昼食時に和食を提供。

【効果】

来場した州議会議員や議員スタッフは日本・ジョージア州関係、日本企業のジョージア州への投資・雇用創出にかかる展示パネルを熱心に観覧しており、また、イベント当日にジョージア州を訪問した杉山駐米日本大使と立ち話をする機会を設けることができたことから、ジョージア州議会関係者の日本への関心を高めることができた。



16 在日米軍関係者とのネットワーク構築・強化事業 (アトランタ総領事館)

■実施時期 2019年3月15日

■実施場所 ジョージア州アトランタ市

■関係機関 ー

■訴求対象 在日米軍経験者等

■開催規模 約30名

■概要・効果

【概要】

ジョージア州内に居住している在日米軍経験者及びその家族等を対象にレセプションを開催。ラリー・エリス米国陸軍大將(退役)による北東アジア情勢にかかる講演を実施したほか、アトランタ沖縄県人会による沖縄音楽・舞踏のパフォーマンスを披露。

【効果】

出席した在日米軍経験者及びその家族からは、日本が米国軍人をこのように大切に考えてくれていることに感銘を受けた、日本での楽しい思い出がよみがえった等の声が口々に寄せられたところ、米国南部における在日米軍経験者を通じた日米友好関係のネットワークの強化に資するものであった。



17 バーミングハム桜祭り (アトランタ総領事館)

■実施時期 2019年3月16日

■実施場所 アラバマ州
バーミングハム市

■関係機関 アラバマ日米協会

■訴求対象 バーミングハム市及び
近隣在住市民

■開催規模 約1,100名

■概要・効果

【概要】

アラバマ日米協会が主催する桜祭りに、総領事館広報文化ブースを設置し、ひな祭り・端午の節句展示の実施とともに日米交流の実例を紹介した。また、今回、アラバマ州所在の日系企業ダイキンアメリカ所属の太鼓グループが参加しており、大勢の観客を引き寄せた。

【効果】

桜祭りに足を運んだバーミングハム市民等に広く日本文化及び日米交流の実例を紹介できた。



18 タスカルーサ桜祭り (アトランタ総領事館)

- 実施時期 2019年3月23日
- 実施場所 アラバマ州
タスカルーサ市
- 関係機関 アラバマ大学
タスカルーサ校
- 訴求対象 タスカルーサ市及び
近隣在住市民
- 開催規模 約1,500名
- 概要・効果

【概要】

アラバマ大学が主催する桜祭りに、総領事館広報文化ブースを設置し、端午の節句展示の実施とともに日米交流の実例を紹介した。

【効果】

今次桜祭りは地元のファーマーズマーケットと同じ時間・場所で開催されたことから、去年より多くの人々が桜祭りに足を運び、タスカルーサ市民等に広く日本文化及び日米交流の実例を紹介できた。



19 コンヤーズ桜祭り (アトランタ総領事館)

- 実施時期 2019年3月24日
- 実施場所 ジョージア州
コンヤーズ市
- 関係機関 コンヤーズ市
- 訴求対象 コンヤーズ市及び
近隣在住市民
- 開催規模 約30,000名
- 概要・効果

【概要】

コンヤーズ市が主催する桜祭りに、総領事館広報文化ブースを設置し、ひな祭り・端午の節句展示の実施とともに日米交流の実例を紹介した。

【効果】

桜祭りに足を運んだコンヤーズ市民等に広く日本文化及び日米交流の実例を紹介できた。



②0 全米知事会 夏の総会(日米投資セッションの実施) (在米国日本大使館)

■実施時期 2018年7月19日

■実施場所 ニューメキシコ州サンタフェ市

■関係機関 JETRO

■訴求対象 日・米州政府関係者、
経済関係者、日系企業関係者

■開催規模 約150人

■概要・効果

【概要】

ニューメキシコ州サンタフェ市で開催された全米知事会夏の総会のサイドイベントとして、JETRO主催「日米投資サミット」が開催された。

開会の挨拶では藺浦総理補佐官、平井鳥取県知事、杉山駐米大使、畠山JETROニューヨーク事務所長が日米関係の重要性、米国における日系企業の投資、雇用創出等を具体的な例とともに紹介した。

【効果】

米国側からはパネリストも含め6名の知事(ヒッケンルーパー・コロラド州知事、ヘヴィン・ケンタッキー州知事、マルティネス・ニューメキシコ州知事、サンドバル・ネバダ州知事、ハーバート・ユタ州知事、ブルガム・ノースダコタ州知事)が出席し、参加した各州関係者に対し、日本企業が長期にわたり深く米国各地の地域に根ざして事業を展開していること、及び日本企業と州との緊密な関係をアピールすることができた。

パティンソン全米知事会事務局長を始め、日米問わず、多くの参加者から本セッションを評価する旨のコメントを得られた。

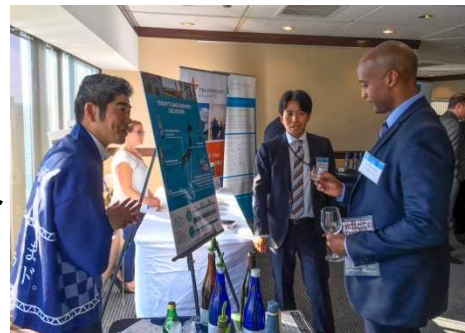


②① メリーランド州経済団体主催イベントにおける日本酒プロモーション及びマグレブ建設プロジェクトのプロモーション (在米国日本大使館)

■実施時期 2018年9月26日

■実施場所 メリーランド州ボルチモア市

■関係機関 世界貿易センター・インスティテュート
(WTCI: World Trade Center Institute)



■訴求対象 メリーランド州及びワシントンDC近郊を含む中部大西洋地域の
ビジネス関係者、メリーランド州政府商務局・運輸局関係者

■開催規模 300名



■概要・効果

【概要】

メリーランド州最大の経済団体であるWTCIが加盟企業・団体を対象として行ったワインテイスティング・イベントに大使館のブースを出展し、日本酒のプロモーションを実施(日本大使館含め10か国の大使館が出展)。日本酒(4銘柄)は、日本酒造組合中央会の提供を受けたもの。利き酒師の資格を持つ館員が説明を行った。同時に、ブースにはJR東海を招待し、現在同州で進行中のマグレブ建設プロジェクトに関するプロモーションを実施した。

【効果】

当日は約80名がブースに立ち寄った。来訪者の中には、飲食店経営者や小売業者もあり、日本酒の取扱いに大きな関心を示していた。マグレブ・プロジェクトに関しても、日本酒を楽しみながら、JR東海による説明を熱心に聞く来訪者もあり、同社が準備したマグレブ模型約50個も全て配付された。本イベントを通じて、参加者であるメリーランド州のビジネス関係者に訴求できたのは勿論だが、主催者のWTCIとのやり取りを通じて、日・メリーランド経済関係を地元経済団体に直接アピールする人脈を形成することができた。

22 日本産ウイスキーの歴史、魅力の紹介 (在米国日本大使館)

■実施時期 2018年11月7日

■実施場所 ワシントンD.C.

JICC(大使館日本文化広報センター)、
笹川財団(米国)オフィス、大使館旧公邸

■関係機関 笹川財団(米国)

■訴求対象

一般市民、元在日米軍関係者、ABC News、
BuzzFeed、NBC News、NPR、
Washington Diplomat(5社)の文化担当記者

■開催規模 10～100名

■概要・効果

【概要】

平成30年度「日本ブランド発信事業」のもと、総合酒類メーカーの技術者ならではの幅広い視点を持ち、35年にわたり洋酒のエキスパートとして活躍している本坊酒造株式会社取締役・久内一氏を招いたウイスキーレクチャーイベントを開催した。

【効果】

ウイスキーを通じて日本の歴史や地理的背景を紹介し、日本文化に対する理解を促進することができた。



23 ウォール・ストリート・ジャーナル紙 CEO Council 総会にあわせた Japan Nightの開催（在米国日本大使館）

■実施時期 2018年12月4日

■実施場所 ワシントンD.C.
フォー・シーズンズ・ホテル

■関係機関

ニューズ・コープ、
ウォール・ストリート・ジャーナル

■対象

ウォール・ストリート・ジャーナル紙
会員企業CEO 約70名



■概要・効果

【概要】

(1)開会后、当館河本経済公使より挨拶続き、ロバート・トムソンNews Corporation社CEOがモデレータを務める形で、「日本企業は、人口構成の変動、グローバル市場の変革、破壊的な技術にどう対応するか」に関し、パネルディスカッションが行われた。八代尚弘昭和女子大学グローバルビジネス学部長・特命教授、ランドール・チェイフェッツ三菱UFJ銀行常務執行役員、石川隆次郎米国三菱重工業副社長、池野昌弘米国NEC長兼CEOが登壇。

(2)パネルディスカッションでは、日本の少子高齢化や、政府の進める働き方改革、日本の人口構成から考える今後の日本での投資機会、ビジネスの可能性等につき、闊達な意見交換が行われた。

(3)パネルディスカッションの後、食事を交えたレセプションが開催された。

【効果】

(1)同イベントには、全米各地に本拠地を構える米国企業CEOが参加しており、パネルディスカッションを通じて、少子高齢化政策、政府の進める働き方改革、今後の日本での投資機会、ビジネスの可能性等前向きな発信を行うことにより、草の根レベルでの日米経済関係強化を推し進める上で非常に有意義なイベントとなった。

(2)米政府関係者からは、ロス商務長官の出席があり、パネルディスカッション後も日本企業関係者や当館関係者と挨拶を行うなど、米政府関係者との有意義な意見交換の機会となった。

24 2019年ワシントン新春祭り
(在米国日本大使館)

■実施時期 2018年1月27日

■実施場所

ワシントンD.C.市内
ワシントンマリOTT・ワードマンパーク
ホテル

■関係機関 ワシントン日本商工会
(ワシントン日本商工会財団)

■訴求対象 ワシントンD.C. 在住の日本に
関心を有する一般市民

■開催規模 約1,500名



■概要・効果

ワシントン商工会(及びワシントン商工会基金)との共催により、日本の正月の伝統行事や遊びを紹介する場としてワシントン新春祭りを開催。当日は、餅つき、獅子舞、百人一首カルタ、羽根突き、各種お正月ゲーム、各種模擬店、おみくじ、駄菓子屋等の披露・実施。日本の正月文化と伝統芸能のパフォーマンスを紹介する新春祭りを開催することにより、当地一般市民等の日本に対する理解と関心を高めることを目的とする。

25 “The Evolving U.S.-Japan Alliance” (在米国日本大使館)

■実施時期

2019年2月7日

■実施場所

コロラド州 デンバー大学・コロラド大学

■関係機関

全米日米協会連合(NAJAS)

コロラド日米協会

■訴求対象・開催規模

地元有力者(SNS上で影響力を有する若者層含む) 一般参加者等 75名

■概要・効果

2019年2月7日、デンバー大学及びコロラド大学にて、“The Evolving U.S.-Japan Alliance”というテーマのもと、宮家邦彦(キャノングローバル戦略研究所研究主幹)とデヴィッド・シェア(元米国国防次官補)による講演会を開催した。講演会では、地政学的観点から見た日米同盟の重要性について語られた。韓国や北朝鮮、中国の昨今の国内事情を踏まえ、アジア地域のパワーバランスについて、参加者の理解を深める機会となった。



26 “Japan Update Symposium” (在米国日本大使館)

■実施時期

2019年2月15日

■実施場所

テキサス州

ダラス/プラノ・マリオット・アット・レガシー・タウン・センター

■関係機関

全米日米協会連合(NAJAS)

ダラス・フォートワース日米協会

■訴求対象・開催規模

地元有力者

(SNS上で影響力を有する若者層含む)

他一般参加者等 126名

■概要・効果

2019年2月15日、ダラス/プラノ・マリオット・アット・レガシー・タウン・センターにて、“Japan Update Symposium”というテーマのもと、中林美恵子(早稲田大学教授)とジーン・パク(ロヨラ・メリーマウント大学教授)による講演会を開催した。講演会では、日本の安全保障環境、日米同盟、日本経済等の分野における日米関係について語られ、参加者から講演内容について高い評価が得られ、すでに来年の開催も期待する声があがっていた。



27 歩こうアメリカ、語ろうニッポン(第3団) (在米国日本大使館)

■実施時期 2019年2月11日～2月13日

■実施場所 ワシントンD.C.、バージニア州ノーフォーク市
メリーランド州ベセスダ市

■関係機関 スローヴァー・ライブラリー、オールド・ドミニオン大学、
トマス・ジェファソン高校、アメリカン大学他

■訴求対象 現地大学・高校生、姉妹都市関係者、退役軍人
市関係者、一般米国人他

■開催規模 約120名

■概要・効果

島内元駐ブラジル大使を団長とする一行が、スローヴァー・ライブラリー、トマス・ジェファソン高校、アメリカン大学で発信事業を行ったほか、オールド・ドミニオン大学及び米日カウンスル関係者他と交流。

日本との交流が比較的薄い層を対象とし、日米関係全般、日米安保、日本とビジネス交流する際のポイント、草の根日米交流の重要性等、日米関係について多様な切り口から発信を行うことで現地における対日理解促進に寄与した。



28 全米知事会冬の総会に際するレセプション (在米国日本大使館)

- 実施時期 2019年2月23日
- 実施場所 ワシントンD.C.(大使公邸)
- 関係機関 全米知事会(NGA)
- 訴求対象 全米50州及び5準州知事
- 開催規模 約200名

■概要・効果

【概要】

全米知事会(NGA)冬の総会が当地で開催される機会をとらえ、大使主催レセプションを公邸で開催。全米各州知事を招いたところ、27州の知事が出席した。日本政府からは、藺浦総理補佐官及び辻外務大臣政務官が出席し、今回のため特別に収録いただいた安倍総理からのビデオメッセージも紹介した。8名の総領事も出席。また、経済界からは経団連ミッション(団長:早川トヨタ自動車副会長、永野東京海上ホールディングスCEO)をはじめとする、全米各地でビジネス展開する30社以上の日本企業幹部、JETRO在米各事務所長も出席し、各州知事と懇談した。

レセプションでは握り寿司の実演・提供を行うと共に、米国と姉妹関係を持つ17県からの日本酒を日本酒ソムリエによる解説付き(利き酒)を提供。また、知事への土産として、日本国旗と各州旗を持ったピカチュウのぬいぐるみ、日本国旗と各州旗のピンバッジ、抹茶セットを手交。

【効果】

本レセプションに全米から27名もの知事が一堂に会したというのは画期的なことであった。特に、本年1月に20名の新任知事が着任した直後のタイミングで本レセプションを主催し、日本政府関係者及び日本企業幹部との接点を設けることができたことは、新任知事へ日本と各州の友好関係・経済関係をPRし、州知事との人脈形成を促進する上でも大変有意義だった。

今後も本使による地方出張、当館から各州のワシントンDC事務所への働きかけ、総領事館との連携を通じ、このモメンタムを継続し、更なる関係強化につなげていきたい。



29 “Tennessee-Japan Forum 2019” (在米国日本大使館)

■実施時期

2019年2月26日

■実施場所

テネシー州 ナッシュビル市
フロスト・ブラウン・トッド法律事務所

■関係機関

全米日米協会連合(NAJAS)、テネシー日米協会

■訴求対象・開催規模

地元有力者(SNS上で影響力を有する若者層含む)
他一般参加者等 110名

■概要・効果

2019年2月26日、フロスト・ブラウン・トッド法律事務所にて、“Tennessee-Japan Forum 2019”というテーマのもと、油木清明(日本経済団体連合会政治グループ長)とウェンディー・カトラー(アジア・ソサエティ・ポリシー・インスティテュート副理事長)による講演会を開催した。講演会では、貿易、安全保障、外交の分野における日米関係について語られ、参加者からは多くの質問が寄せられ、強い関心がうかがわれた。



30 “Japan Update: A glimpse at the US-Japan Relationship” (在米国日本大使館)

■実施時期

2019年3月1日

■実施場所

ハワイ州 ホノルル市 ハレクラニ ホテル

■関係機関

全米日米協会連合(NAJAS)、ハワイ日米協会

■訴求対象・開催規模

地元有力者(SNS上で影響力を有する若者層含む)
他一般参加者等 100名

■概要・効果

2019年3月1日、ハレクラニ ホテルにて、中山俊宏(慶応義塾大学総合政策学部教授)とジェイムズ・ケリー(元東アジア・太平洋担当国務次官補)をスピーカーに迎え、“Japan Update: A glimpse at the US-Japan Relationship”をテーマにしたイベントを実施。戦略地政学から見た日米関係について語られた。参加者からは高い評価を得られた。



31 日本酒PRイベント:「Kampai! For the Love of Sake」の上映会・試飲会（在米日本大使館）

■実施時期: 2019年2月26日、27日

■実施場所 ワシントンD.C. フリアギャラリー(26日)
メリーランド州ボルチモア美術館(27日)

■関係機関 JETROニューヨーク事務所
南部美人、八海山、
サケディスカバリー、
ヤンワントレーディング等



■訴求対象 インポーター、ディストリビューター
レストランオーナー、シェフ、バイヤー
ソムリエ、バーテンダー、メディア、
一般市民

■開催規模 540名

■概要・効果

【概要】

日本酒の需要拡大等を目的とした「Kampai! For the Love of Sake」の上映会・試飲会(第1部:映画上映、第2部:試飲会)。

【効果】

ニューヨーク、LA、サンフランシスコのような都市と比べるとワシントンDCやボルチモアでは大使館主導でも、民間でも十分な日本酒PRイベントが行われてきたとは言えない。今回酒蔵、卸売業者を巻き込み、当地の飲食業関係者を招待して大々的にイベントを行ったことにより、当地においても十分日本酒消費を伸ばす余地があるということを関係者に印象づけることができた。また、これまで日本酒に触れたことのなかったアメリカ人に良質の日本酒を紹介することで、今後日本酒の継続的な消費者になってもらうきっかけをつくることができた。また、もともと日本酒を好んで消費する人々には、専門家からより深く日本酒を知ってもらう機会を提供することもできた。



32 ジャパンデイ・イベント (在米国日本大使館)

■実施時期 2019年3月3日

■実施場所

バージニア州ノーフォーク
オールド・ドミニオン大学

■関係機関

オールド・ドミニオン大学主催



■訴求対象

- ・ノーフォーク・バージニア地域の日本に関心を有する一般市民
- ・ノーフォーク海軍基地勤務者(特に在日米軍勤務経験者やその子弟など潜在的親日派)

■開催規模 約600名

■概要・効果

【概要】

バージニア州における随一の人口圏であるノーフォーク・バージニアビーチにおけるジャパンデイ・イベントをオールド・ドミニオン大学が実施。けん玉イベント、風呂敷紹介、書道・生花・折り紙レクチャー等の文化催しを行い日本文化への親しみを持ってもらいつつ、日系企業数社の参加(三菱ケミカル、ユポ、日本ガイシ)を得て、当地における日系企業の活動や貢献に関するプレゼンを実施。日本への理解と関心を高めることが出来た。

【効果】

これまで、当地における日本関連イベントはほぼ開催されてきておらず、地域住民へ、文化から経済、日米交流プログラムまで、広く日本について知ってもらう機会となった。参加者数は想定の倍以上の人数となり、「当地において日本イベントがこれまで無いことが残念だった」という声も聞かれた。その日の夜の地元ローカルTVでも放映され、参加者のみならず地域全体への波及効果のあるイベントとなった。



33 在米国日本大使館における女性活躍支援イベント (在米国日本大使館)

■実施時期 2019年3月5日

■実施場所 ワシントンDC

■関係機関 在米国日本大使館主催

■訴求対象 ワシントンDC、メリーランド州
及びバージニア州の州政府、
民間企業等関係者

■開催規模 87名

■概要・効果

【概要】

3月8日の「国際女性デー」に合わせ、安倍政権の主要政策の一つである「女性の活躍支援」の取組への理解を深めるため、当地の著名な女性ジャーナリストを迎えた講演及び日本人女性ジャーナリストをモデレーターとした対談イベントを実施。

女性ジャーナリストが米国内でも少数であった頃にキャリアを開始したことの苦労ややりがい、職業と家庭の両立、女性のエンパワーメントに関する見解などについて講演及び意見交換が行われた。

【効果】

当日は、ワシントンDCを含む3州の民間企業関係者（日系企業を含む。）、メリーランド州政府関係者、国務省等の連邦政府関係者等、多様な所属先からの参加を得ることができた。

当地での著名人をスピーカーとしたこともあり、会場は満席となったほか、会の終了後も個別質疑を希望する者が後を絶たず、盛況であった。

WAW!/W20のパネルを掲示し、また、冒頭挨拶においても同イベントの開催について周知したほか、我が国の女性政策の概要についても説明を行うことで、参加者の理解を深めることができた。

同趣旨のイベント等へのニーズが強いことも判り、今後の継続的な取組が重要との示唆を得られた。



34 “Geostrategy in East Asia” (在米国日本大使館)

■実施時期

2019年3月5日

■実施場所

ペンシルバニア州ピッツバーグ リバース・クラブ

■関係機関

全米日米協会連合(NAJAS)

ペンシルバニア日米協会

■訴求対象・開催規模

地元有力者

(SNS上で影響力を有する若者層含む)

他一般参加者等 72名

■概要・効果

2019年3月5日に、リバース・クラブにおいて、“Geostrategy in East Asia”をテーマに辰巳由紀(スティムソン・センター主任研究員)とウォレス・グレグソン(元海兵隊中将)をスピーカーに迎え、“Geostrategy in East Asia”をテーマにしたイベントを実施。主なトピックは、北朝鮮、中国、韓国に関する外交問題。参加者からは高い関心の声が寄せられた。



35 “U.S.-Japan relations at Japan-America Society” (在米国日本大使館)

■実施時期

2019年3月12日

■実施場所

アラバマ州バーミングハム

アラバマ大学バーミングハム校

■関係機関

全米日米協会連合(NAJAS)

アラバマ日米協会

■訴求対象・開催規模

地元有力者

(SNS上で影響力を有する若者層含む)

他一般参加者等 120名

■概要・効果

2019年3月12日、アラバマ大学バーミングハム校において、中山俊宏(慶応義塾大学総合政策学部教授)とブライアン・ウッダル(ジョージア工科大学国際学部教授)をスピーカーに迎え、“U.S.-Japan relations at Japan-America Society”をテーマにしたイベントを実施。アラバマ地域における日系企業の経済活動について語られ、参加者からは多くの質問が寄せられた。



③⑥ メリーランド州姉妹州プログラム主催の州議会議員向け レセプションへの出展（在米国日本大使館）

■実施時期 2019年3月6日

■実施場所 メリーランド州アナポリス市 州議会上院議長庁舎

■関係機関 メリーランド・神奈川県姉妹州委員会

■訴求対象 メリーランド政府関係者・メリーランド州議会関係者

■開催規模 500名



■概要・効果

【概要】

メリーランド州政府主催の姉妹州関連議員年次レセプションに18か国20地域の姉妹州の一つとして出展。日本食（寿司）、日本酒、地域観光や投資環境等のパンフレットを提供し、グラスルーツからの日米関係強化を促進するとともに、対日投資環境や訪日観光の魅力等をPRした。

【効果】

当日は多くの一般市民の他、ホーガン州知事夫人、ラザフォード州副知事のほか、各郡選出州議会議員、州選出上院議員、在米国各国大使館関係者がブースに立ち寄ってくれた。来訪者の中にはこんなにおいしい日本酒を飲んだことがないといって何回もリピートしてくてくれる人もおり、メリーランドにおいて継続的な日本酒の消費者をつくる可能性を感じた。寿司屋台には絶え間なく長い列ができており、間違いなくイベントで一番人気のブースになっていた。イベントに対する日本大使館の貢献に感謝の意を表する人が多数おり、存在感を示すことができた。

37 ジャパンデイ・イベント (在米国日本大使館)

■実施時期 2019年3月23日(土)

■実施場所

ペンシルバニア州チェンバースバーグ
(フランクリン・カウンティ・コイル自由図書館)

■関係機関

チェンバースバーグ市姉妹都市委員会主催
静岡県御殿場市協力

■訴求対象

チェンバースバーグ地域の
日本に関心を有する一般市民

■開催規模

約600名

■概要・効果

【概要】

チェンバースバーグ市と御殿場市の姉妹都市関係をきっかけにしてジャパンデイ・イベントを開催し、参加者に日本文化や米国における日系企業の活動を紹介、さらに姉妹都市関係を市民に知ってもらい、地元住民から行政関係者まで地域と日本とのつながりを再認識してもらい、日本ファンを増やす契機とした。

【効果】

1960年以來の姉妹都市関係がありながら、現在、地元住民が日本文化に触れたり日米の交流機会がほぼ途絶えている当地域において、再度市民に日米関係の理解を促すことが出来た。開会式にはチェンバースバーグ市長およびウィルソン大学副学長の参加を得られ、また、前日には地元新聞の一面記事としてジャパンデイイベントおよび姉妹都市関係に関する記事が掲載され、当日の一般市民参加者のみならず、地域の要人や地域市民全体へ日本についての認識を高めることが出来た。



Go around the world to Japan during Chambersburg event

Ashley Books
Chambersburg Public Library
USA TODAY Staff Writer - WASHINGTON

Japanese culture will take center stage this weekend during an event celebrating Chambersburg's relationship with its sister city.

Chambersburg Sister City Japan Day will be held on Saturday from 10 a.m. to 4 p.m. at the Coyle Free Library to help residents learn more about Columbia, according to the event's coordinator, Ashley Books.

"The sister city program was founded by Tsuruko Nagami, a native of Columbia, who studied at Welles College in the 1920s. The borough's website said she suggested the two cities establish a relationship with each other, as Chambersburg is "abundant with beautiful nature, rich historical heritage and recreational spots" just like the Japanese municipality, which sits an hour southwest of Tokyo.

Books at the foot of Mount Fuji.

In order to build this connection between the countries, American and Japanese citizens visit the each other every five years - Chambersburg every year ending in 0, and Gotohoku every year ending in 5. Most recently, the program marked its 55th anniversary with a visit from Japanese residents in July 2015.

Chambersburg is scheduled to make its first appearance in Columbia next year.

The event will give attendees the chance to experience Japanese culture first-hand through various "stations" throughout the library with activities for all ages.

These include Japanese story time, origami, display a Japanese photo booth, calligraphy and a Taiko drum performance and workshop. There will also be opportunities to learn more about Columbia, sample some sushi and singling from the Japanese embassy and sister city.

Ann women who was born and raised in Japan, Shiga has spent most of her life bridging the gap between her home country and the United States to help each culture understand one another. After spending a year in the states with a variety of host families, she later went on to graduate from several American universities with degrees in Japanese and teaching English as a second language.

Most recently, Shiga joined Washington County Public Schools in 2004 as an ESL teacher where she said she started a Japanese program two years ago at Booneville High School, which has grown and now accounts for about 10 percent of all Maryland students who study the language. In addition, she served as a former member of the Chambersburg Sister City Committee. The event was made possible through a grant Shiga received from Japan's embassy as part of an effort to

bring the country's culture and language to underserved areas near and around Washington, D.C. She said she first heard about it through her affiliation with the Mid Atlantic Association of Teachers of Japanese, and later submitted a proposal.

The Japanese native said the goal of Sister City Japan Day is to revitalize the countries' friendship, engage more locals and get the community excited about Columbia.

"Japan is the third largest economy in the world, and is a very important partner to the United States," she said. "I hope that this event will spark people in the area's interest to get to know more about Japan and possibly visit it someday."

For more information, visit facebook.com/ChambersburgJapan. Have a story or want to submit a tip? Contact Ashley Books at 717-366-4764 or email: ashley@public.net.

地元新聞紙 Public Opinion(USA Today) 3月22日一面記事

38 日本国政府とアメリカ合衆国メリーランド州との間の経済及び貿易関係に関する協力覚書 更新署名式（在米国日本大使館）

■実施時期 2019年3月29日

■実施場所 メリーランド州アナポリス市

■関係機関 メリーランド州政府



■訴求対象 メリーランド州政府関係者・企業関係者

■開催規模 50名

■概要・効果

【概要】

2016年に発効したメリーランド州と日本政府間の経済及び貿易関係に関する協力覚書が2年間の期限を迎えたため、内容を見直すとともに、ホーガン知事と杉山大使の間で新たに更新のための署名を行った。覚書は、液化天然ガス、高速鉄道、生命科学、貿易・投資、学術といった各分野での両政府の協力推進を提唱しており、今回の署名ではスポーツ・ビジネス、姉妹州・姉妹都市経済パートナーシップという項目も加えられた。



【効果】

当日は、ホーガン知事と杉山大使がそれぞれ挨拶を行い、近年の日・メリーランド経済関係が様々な分野で拡大していることを印象づけた。参加者、メリーランド州政府の関係者をはじめとして、三菱重工、住友商事、JR東海などメリーランドにおける大きな経済プロジェクトに関与している日系企業、The Northeast Maglev社やドミニオン社などそのようなプロジェクトを支える米系企業も参加していた。その他には神奈川・メリーランド姉妹州委員会やボルチモア・川崎姉妹都市委員会の関係者やメリーランド州出身のパラリンピック金メダリストも二名参加していた。イベントを通じて、メリーランドと日本の強い繋がりを確認することができた。

39 ジャパンデイ・イベント (在米国日本大使館)

■実施時期 2019年3月31日

■実施場所
バージニア州アーリントン
(アーリントン・キャリア・センター)

■関係機関
スタディ・ジャパニーズ・イン・アーリントン
(Study Japanese in Arlington, Inc.)

■訴求対象
アーリントン地区の日本に関心を有する
一般市民、全米桜祭り参加者

■開催規模 約950名

■概要・効果

【概要】

バージニア州アーリントン地区で初となるジャパン・イベントの実施。アーリントン地区では世田谷区との姉妹都市提携の動きが現在あり日米友好の機運が高まる中、書道、けん玉、折り紙、日本食等の日本文化や当地の日系企業による活動、さらには日本語教育や日米教育交流を紹介し、日本文化への理解や日系企業の米国への経済的貢献への理解を高めた。姉妹都市提携の動きを後押しすべく、会場であるアーリントン・キャリア・センターと既に姉妹校関係がある世田谷都立園芸高校も日本から参加した。

【効果】

総勢千人近くの参加があり、当地における初の日本関連イベントとしては、大きな発信効果のあるイベントとなった。アーリントンの公立学校に通う子供連れの家族が多く参加し、これまで日本になじみのなかった一般市民層に日本理解を促すことが出来た。在ワシントンDCの邦人メディアによる記事が掲載されたほか、多くの参加者がSNSでイベント様子を発信しており、波及効果も確認された。



④ 和食・日本産酒類の普及及び日本への観光促進事業の実施 (アンカレジ領事事務所)

- 実施時期 2018年6月23日
- 実施場所 アラスカ州アンカレジ市
- 関係機関 陸上自衛隊、航空自衛隊
- 訴求対象 在アラスカ米軍関係者、
在日米軍経験者、
州政府・地方政府関係者
- 開催規模 約200人

■ 概要・効果

【概要】

航空自衛隊及び陸上自衛隊第1空挺団の計約680名が、在アラスカ米軍との合同軍事演習に参加している機会を捉えて、日米の合同演習参加者、州内の在日米軍経験者、州政府・アンカレジ市要人を招いてレセプションを開催。

レセプションでは、和食を提供し、日本酒及び梅酒の試飲コーナーを設けたほか、アラスカ州内の市や郡と姉妹都市関係にある日本の都市（秋田市、下呂市、千歳市、帯広市など）から取り寄せた英文パンフレットを含む日本への観光を促進する英文資料を米側出席者全員に配布。

また、レセプションにおいて、合同演習の成功に功績があった日米の参加者各4人、計8人を表彰し、米側受賞者には、航空自衛隊及び陸上自衛隊から提供を受けた日本酒などを記念品として贈呈。

【効果】

在アラスカ米陸軍空挺団長をはじめとする米軍の将校やアンカレジ市長などの州政府・アンカレジ市要人が、和食、日本産酒類を堪能したほか、在日米軍経験者、自衛隊関係者との交流を通じて、日本の魅力に対する理解が深まったと考えられる。アンカレジ市にあるエルメンドルフ・リチャードソン空・陸軍統合基地には、米軍関係者が約2万人いることから、在アラスカ米軍関係者を対象とした日本の魅力についての発信は、波及効果を持ち、和食・日本産酒類の普及促進及び日本への観光促進に持続的な効果が期待できる。



41 「夏祭り」の実施 (アンカレジ領事事務所)

■実施時期 2018年8月4日

■実施場所 アラスカ州アンカレジ市

■関係機関 アラスカ日本人会
アラスカ大学アンカレジ校

■訴求対象 一般市民

■開催規模 約2,000人



■概要・効果

【概要】

夏の風物詩である祭りを再現し、盆踊りや和太鼓の演奏等を実施するとともに、当地剣道・空手道場の協力を得てレクチャー・デモンストレーションを実施した。また、やきそば、てりやきバーガー、日本茶を用いたフラップチーノ等日本の食文化に触れる機会も提供した。

在アンカレジ領事事務所は、観光広報デスクを設置するとともに、若年・青年層を対象に折り紙・切り紙・ペーパークラフト・ワークショップを実施した。

【効果】

日本の伝統文化を楽しむ機会を通じ、一般市民の対日理解を深め、日本人社会と米国人社会間の交流を促進するとともに、アラスカにおける日本関係団体との一層密接な協力関係を構築することができた。

また、日本語習得課程を実施しているアラスカ大学アンカレジ校にて日本の「夏祭り」を実施することで、在アンカレジ領事事務所と同大学との関係がより密接となり、ひいては高等教育関係者の親日層増加に繋がると期待できる。

さらに、日本の魅力について発信することで、アラスカ州から日本への観光促進に一定の貢献をすることができたと考えられる。

42 「アラスカ日本映画上映会」の実施 (アンカレジ領事事務所)

- 実施時期 2018年11月3日
11月4日
- 実施場所 アラスカ州アンカレジ市
- 関係機関 国際交流基金
アラスカ大学アンカレジ校
- 訴求対象 一般市民、日本語学習者、
JETプログラム経験者
- 開催規模 約120人

■ 概要・効果

【概要】

アラスカ大学アンカレジ校において、国際交流基金事業として、アラスカ日本映画上映会を実施し、「特集パッケージ(モヒカン故郷へ帰る、団地、帝一の国、オケ老人)」の4作品を無料上映した。上映前には、現地の和太鼓グループによる演奏を実施した。また、在アンカレジ領事事務所は、受付横に広報ブースを設け、各種広報資料を配布した。

【効果】

国際交流基金から良質な映画の提供を受けたため、観客からは、期待していた以上に楽しめたという評価が多かった。来場者数が想定していたよりも少なかったものの、一般市民層については、日本の文化や社会に対する関心が高まったと考えられ、日本語既修者については、日本語習得の意欲が向上し、日本に対する理解が深まったと考えられる。

さらに、日本の魅力について発信することで、アラスカ州から日本への観光促進に一定の貢献をすることができたと考えられる。



43 「内外の有識者派遣事業(五百旗頭薫・東京大学教授)」の実施 (アンカレジ領事事務所)

- 実施時期 2018年11月7日
- 実施場所 アラスカ州アンカレジ市
- 関係機関 アラスカ大学アンカレジ校
- 訴求対象 アラスカ大学アンカレジ校の教授陣、学生等関係者
- 開催規模 約35人

■ 概要・効果

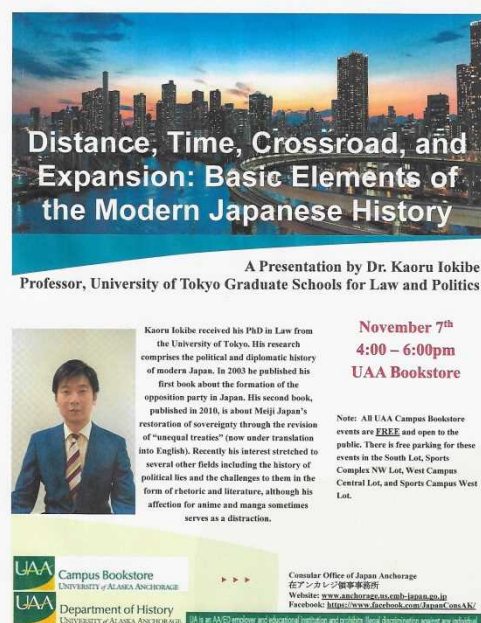
【概要】

内閣府において平成30年度国際広報事業の一環として実施された「内外の有識者派遣事業」により派遣された五百旗頭薫・東京大学大学院法学・政治学研究科教授が、アラスカ大学アンカレジ校ブックストアにおけるゲストスピーカーによる講演シリーズの1行事として、多様な切り口から日本の近代化と国際関係を読み解く講演を行った。

また、講演後、佐藤在アンカレジ領事事務所長夫妻主催の夕食会において、五百旗部教授は、日本とアラスカに関連する多様な話題に関して、アラスカ大学アンカレジ校の教授陣と意見交換した。

【効果】

講演に参加した大学関係者からは、日本の歴史に対する自らの理解を深めることができただけでなく、学生の日本の歴史に対する理解・関心が高まったとして、講演を高く評価していた。また、大学側からは、日本との知的交流の機会が貴重であり、五百旗部教授の訪問に対する謝意とともに、今後も同様な派遣事業が実施される場合には、是非積極的に受け入れたいとの要望が寄せられた。学術交流を通じて日本に対する正確な理解の促進を図る上で、大きな意義があったと考えられる。



44 「追憶の日」行事：杉原千畝展オープニングの実施 (アンカレジ領事事務所)

■実施時期 2019年2月19日

■実施場所 アラスカ州アンカレジ市

■関係機関 日系米国人市民連盟(JACL)
アラスカ支部

■訴求対象 一般市民、
アラスカ在住日系人、
アラスカ在住ユダヤ人

■開催規模 約200人

■概要・効果

【概要】

日系米国人市民連盟(JACL)アラスカ支部が、「追憶の日」(Day of Remembrance: 1942年に
ルーズベルト大統領が日系人強制収容大統領令
9066号に署名した日に因み、2月19日を「追憶の日」として
第二次世界大戦中の日系人の強制収容を回顧
しているもの)に杉原千畝に焦点を当てた行事を

開催した。この行事は、JACLアラスカ支部が、在カリフォルニア州の「命のビザ」財団から
取り寄せた写真の展示会のオープニングもかねていた。同行事の目玉は、ロンドン在住
の俳優・映画監督である梶岡潤一氏が監督し2016年に撮影された短編ドキュメンタリー
映画「杉原千畝を繋いだ命の物語ーユダヤ人と日本人、過去と未来」の上映と、梶岡監
督の講演であった。

在アンカレジ領事事務所は、経費の一部を負担し、所長が挨拶をしたほか、政府広報
誌「We Are Tomodachi」を入場者に配布した。

【効果】

今次行事のようなイベントは、日本人に対する好印象を広め、知日家・親日家を増やす
ことができる取り組みとしての意義が大きいと思われる。また、アラスカ州には約6,000人
(そのうち、アンカレジ市及びその近郊に約4,000人)のユダヤ人が在住しており、1,500人
強の日系人が在住している。今次行事を通じて、日系人とユダヤ人との交流が促進され
ることが期待される。



45 連邦・地方議員に向けた日本の情報発信イベントの実施 (アンカレジ領事事務所)

■実施時期 2019年2月28日

■実施場所 アラスカ州ジュノー市(州都)

■関係機関 アラスカ大学フェアバンクス校

■訴求対象 州議会議員、州知事、
州政府幹部職員、
連邦議会議員事務所職員、
ジュノー市長、同市議会議員

■開催規模 約70人

■概要・効果

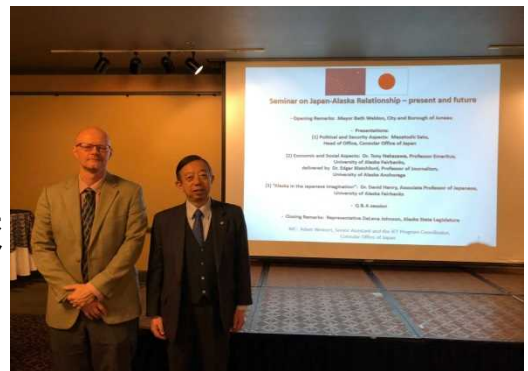
【概要】

セミナーにおいては、在アンカレジ領事事務所長が、自由で開かれたインド太平洋の維持に向けた日米協力の観点からも日・アラスカの安全保障面での協力が重要である旨強調。その後、アラスカ大学フェアバンクス校の日本研究科准教授が、最近の日本の文化人・知識人とアラスカの関わりについて講演。

レセプションにおいては、同事務所長が、天皇陛下の御退位及び皇太子殿下の御即位に言及した上で、日・アラスカ関係の主要な側面を略述し、一層の強化に向けての協力を依頼。また、日本酒、梅酒を提供したほか、アラスカ州内の自治体と姉妹都市関係にある日本の都市(秋田、下呂、千歳、帯広など)から取り寄せた英文パンフレットを含む日本への観光を促進する英文資料を紙袋に入れて、帰り際に来客に配布。

【効果】

日本とアラスカが緊密な関係にあり、この関係を維持・強化することが、いずれにとっても望ましいことを、特に副知事及び州議会議員に改めて認識してもらうことができた。また、日本の魅力について発信することで、アラスカ州から日本への観光促進に一定の貢献をすることができた。



④6 フェアバンクス日本映画上映会の実施 (アンカレジ領事事務所)

- 実施時期 2019年3月1日
3月2日
- 実施場所 アラスカ州フェアバンクス市
- 関係機関 国際交流基金
アラスカ大学フェアバンクス校
- 訴求対象 一般市民、日本語学習者、
JETプログラム経験者
- 開催規模 約60人



■概要・効果

【概要】

アラスカ大学フェアバンクス校において、「武士の献立」、「ロボジー」、「幼獣マメシバ」の3作品を無料上映した。

【効果】

国際交流基金から良質な映画の提供を受けたため、観客から好意的な評価を受けた。一般市民層については、日本の文化や社会に対する関心が高まったと考えられ、日本語学習者については、日本語習得の意欲が向上するとともに、日本に対する理解が深まったと考えられる。

47 第16回アラスカ日本語コンテストの実施 (アンカレジ領事事務所)

- 実施時期 2019年3月30日
- 実施場所 アラスカ州アンカレジ市
- 関係機関 アラスカ日本語教師会
アラスカ大学アンカレジ校
- 訴求対象 日本語学習者及び父兄、
日本語教師、
一般市民
- 開催規模 約500人
(コンテストに出場した
日本語学習者は257人)
- 概要・効果
【概要】



アラスカ州の小学校から大学まで幅広く日本語学習者が、多岐にわたる部門(スピーチ、詩、俳句、演劇、歌唱)で日頃の学習成果を発表して競い合うコンテストが開催された。今年で16回目になる。加えて、空手、剣道、和太鼓の実演や生け花の展示、書道や折り紙を体験するブースといった日本文化を紹介する催しも行われた。

在アンカレジ領事事務所は情報ブースを設置し、姉妹都市や日本文化、JETプログラムに関する情報提供を行った。

【効果】

コンテスト出場者にとっては、自らの実力を確認する機会となったほか、他の出場者から大きな刺激を得ることにより、日本語の学習意欲が一段と高まったと考えられる。年に1度のアラスカ州内最大の日本語イベントであり、日本語コンテストのみならず、日本文化を紹介する様々な催しが組み込まれており、日本語学習者の家族や友人、学校関係者、日本人コミュニティーなどの幅広い社会層の来場者に、「日本」を強くアピールできた。また、アラスカ大学アンカレジ校学長やアンカレジ市外国語教育担当教育委員が表彰式にプレゼンターとして参加するなど、在アンカレジ領事事務所とアンカレジ市、アラスカ大学との協力関係の維持・強化にも役立った。

④8 杉山駐米大使サンフランシスコ訪問に際してのレセプションの開催 (サンフランシスコ総領事館)

■実施時期 2018年4月22日

■実施場所 総領事公邸

■関係機関 当館

■訴求対象 北カリフォルニア選出の公選職、
有識者、日系人等

■開催規模 約70名

■概要・効果

【概要】

杉山晋輔駐米大使夫妻がサンフランシスコを訪問した機会に、総領事公邸にてレセプションを開催した。アンナ・エシュー連邦下院議員やケン・クーリー加州下院議員、カトリーナ・ステファニー・サンフランシスコ(SF)市議会議員、グレン・ヘンドリクス・サニーバール市長、リサ・ギルモア・サンタクララ市長、パトリック・スレイター・セバストポール市長、ジョアン・コックス・サウスリート市長といった公選職や、ジョン・ルース元駐日大使等、政界、経済界、学術界、日系人等、幅広い分野から約70名のゲストが参加した。

【効果】

主催者側が公選職を初めとする出席者との関係を強化することができた他、出席者同士の間でもネットワーキングのための大変良い機会となった。



49 第51回北カリフォルニア桜祭り (サンフランシスコ総領事館)

■実施時期 2018年4月14、15、21、22日

■実施場所 カリフォルニア州
サンフランシスコ市
サンフランシスコ日本町

■関係機関 北加桜祭り実行委員会

■訴求対象 北カリフォルニア州在住の
一般市民

■開催規模 200,000名

■概要・効果

【概要】

2週末にわたり開催される同祭りは、4日間累計約20万人が来場し、全米第2位の日系桜祭りであり米国西海岸を代表する日本文化イベントである。会場では、生花や日本舞踊、太鼓のパフォーマンス等の伝統文化をはじめポップカルチャー、食、日本酒など様々な日本文化を紹介するイベントが開催された。本年は、杉山晋輔駐米国大使夫妻も、宇山智哉総領事夫妻、当館館員とともに、日系コミュニティとサンフランシスコ市民の皆さんに対する日頃の感謝を伝えるべく、北カリフォルニア桜祭りのフィナーレであるグランドパレードに参加した。当館は他に、日本紹介ブースを設置し、「けん玉」の一般参加型コンテストを同桜祭りメイン・ステージで開催した。

【効果】

高齢者から児童まで幅広い年齢層が訪れ、会場で開催される様々なイベントを楽しみ、豊かな日本の様々な文化的側面を知ってもらうことができた。当館ブースでは、近々日本への旅行の予定がある来場者や、JETに興味のある学生や両親などに対し情報を提供することができた。



50 第9回ソノマ郡祭り「MATSURI! Japanese Arts Festival」
(サンフランシスコ総領事館)

- 実施時期 2018年5月6日
- 実施場所 カリフォルニア州ソノマ郡
サンタローザ市内
ジュリアード公園
- 関係機関 ソノマ郡祭り実行委員会
- 訴求対象 北加州ソノマ郡周辺在住の
一般市民
サンタローザ市関係者
- 開催規模 2,000名

■概要・効果

【概要】

サンフランシスコ郊外のソノマ郡で日本芸術祭が開催され、当地の三味線奏者であるカイル・アボット氏と日本から参加したシンガーソングライターのなつみゆず(Yuzu)氏が民謡や東京の伝統芸能「木遣り」を披露したほか、日本の様々な伝統文化(和太鼓、茶道、日本舞踊など)が紹介された。

同祭りは、2011年東北地方太平洋沖地震への義援金募金活動をきっかけに拡大してきたイベントで、宇山総領事による挨拶では当時の厚意に対し、感謝を表明するとともに、昨年の同地域の山火事での被害に対する当館のモラルサポートを表明した。また、当館のインフォメーション・ブースを会場内に出展し、日本の観光や文化に関する広報を行った。

【効果】

サンフランシスコ市から60キロ以上離れた地方都市サンタローザで日本文化を紹介するイベントの開催であり、また非アジア系住民からの参加が多く、新たな層への日本文化の発信及び興味の促進に繋がった。



51 サンフランシスコ・コミコンにおけるフレデリック・L・ショット氏による特別講演の開催(サンフランシスコ総領事館)

■実施時期 2018年6月10日

■実施場所 カリフォルニア州オークランド市
オークランド・コンベンション・センター

■関係機関 Imaginarium LLC

■訴求対象 サンフランシスコ・ベイエリア在住の
マンガやポップカルチャー文化
に関心のある若・中年層

■開催規模 80名

■概要・効果

【概要】



サンフランシスコ・コミコンにおいて、日本のポップカルチャー分野を中心に通訳・翻訳、また、作家として活躍するフレデリック・L・ショット氏を招いての特別講演会「Osamu Tezuka and Astro Boy: Creating the Framework for the Modern Manga and Anime Industries」を開催した。ショット氏は、手塚治虫氏の作品の翻訳を多く手掛けており、手塚氏がアメリカに訪問した際には通訳も務めた。自身の体験も含め、手塚氏の生涯と日本や海外でのマンガやアニメ業界の発展に与えた影響等について講演し、質疑応答も行われた。

【効果】

様々な背景を持つ約80名の観客が参加しショット氏の講演に聞き入っていた。アメリカのマンガへの関心は高いものの、日本のマンガ業界にはあまり詳しくなかった多くの参加者に対し、日本のマンガやアニメについて紹介し興味・関心の喚起を行うことができた。中には日本語を学んだことのある参加者もあり、ショット氏のように日本語のスキルを将来のキャリアに役立てたいとの感想も聞かれた。ポップカルチャーを通じ、日本の文化や日本語の効果的な広報ができた。

⑤2 ラグビーワールドカップセブンス2018サンフランシスコ大会における訪日観光促進事業（サンフランシスコ総領事館）

■実施時期 2018年 7月20日～22日

■実施場所 AT&Tパーク

■関係機関 JNTO、福岡県、
ラグビーワールドカップ2019組織委員会

■訴求対象
米国及び世界各国のラグビーファン

■開催規模 約100,000名

■概要・効果

【概要】

米国初のラグビー関連の世界大会となった本大会は、米国及び世界各国のラグビーファンが集まり、大盛況となった。開催中においては、日本観光促進のためのブースの運営、スタジアム内のビッグスクリーンにおける訪日観光促進動画の上映等を実施した。

【効果】

事前に用意した5,000枚のパンフレットが足りなくなるなど、想像以上の参加者がブースを訪れ、ラグビーワールドカップ2019や訪日に関する質問を受けた。米国内に住むイギリス系、アフリカ系及びポリネシア系が特に関心を示し、旅行代理店を紹介して欲しい、詳しい訪日旅行の手続きを知りたい等の依頼を受けた。

また、大会開催中ブースには、米国内で家庭内暴力等を受けた子供に対しラグビーを通じてサポートする団体や、米国ラグビープロリーグと共にラグビー普及の活動をする団体の職員等が訪れ、今後、日米友好の架け橋としてラグビーを通じて何かイベントを実施していきたい等の発言があり、ラグビーワールドカップ2019日本大会を契機に日本及び日米交流への関心を高めることができた。

アンケートに回答した約100名からは日本への良いイメージを持ったとの回答が約90パーセントを占め、米国人及び米国内在住の世界各国の人々に対して、良い理解を得た。



53 地方の魅力発信プロジェクト埼玉県物産・観光PRレセプション (サンフランシスコ総領事館)

■実施時期 2018年9月7日

■実施場所 総領事公邸

■関係機関 埼玉県

■訴求対象

加州政府関係者、サンフランシスコ市関係者、ミルブレイ市関係者(姉妹都市関係)、酒類・食品流通業者、小売業者、レストラン関係者、当地日系メディア等

■開催規模 約100名

■概要・効果

【概要】

埼玉県の酒類・食や観光資源等の魅力を当地の酒類・食関係事業者等に紹介することにより、日本の魅力の認知度向上とともに、日本産農産物の商流構築による輸出促進やインバウンド観光の促進を図る。

【効果】

本レセプションには、約100名が参加し、主催者の上田清司埼玉県知事が自らPRを行った。県の物産品として、特に日本酒に力点を置き、地元の蔵元によるPRのほか、試飲、蔵元紹介パンフレットの配布、輸出意欲の高い蔵元の商品紹介シートによるPR実施など、埼玉県の日本酒を積極的にプロモーションした。また、会場内にはポスターやバーチャルリアリティ(VR)を活用した観光スポット紹介のブースが設置され、ラグビーワールドカップ2019TM、東京2020オリンピック・パラリンピックについても広報周知するなど、埼玉県の魅力を幅広く発信した。参加者からは、「埼玉県は日本酒の生産量が全国第4位ということは知らなかった。県産日本酒に大きな可能性を感じた、取り扱いを検討したい」、「歴史的街並みを活かした観光資源が興味深い」といった声が聞かれた。本レセプションの開催により、日本の地方の多様な魅力へ認知度向上等が図られた。



JETプログラム帰国者歓迎レセプション (サンフランシスコ総領事館)

- 実施時期 2018年9月28日
- 実施場所 サンフランシスコ
総領事館公邸
- 関係機関 日本総領事館、
JETAA(元JET参加者の会)
- 訴求対象 JETプログラム帰国者、
元JET参加者、姉妹都市、
教育関係者、
日系企業関係者
- 開催規模 61名

■概要・効果

【概要】

平成29年度JETプログラム帰国者を対象に、現地在住のJET関係者(元JET参加者等)や姉妹都市及び教育関係者を集めたレセプションを開催。冒頭総領事による挨拶を行った。

JET帰国者の採用に関心のある当地日系企業11社の代表から簡単な会社紹介を行うと共に、人材募集の情報提供を行った。

【効果】

帰国メンバー(23名)、現地JET関係組織を紹介し、母国で所属すべき新しいコミュニティとの関わりを深める場を提供できた。

JET帰国者が直面する困難の一つが就職であることを踏まえ、昨年に引き続きJET帰国者と当地日系企業のネットワーキングの場として本レセプションを活用した。メーカー企業、サービス業、人材派遣企業を中心に多くの企業が参加し、双方の間で活発な交流が行われた。



55 日本酒・焼酎・泡盛に関するワークショップの開催
(日本産酒類の需要拡大・輸出促進) (サンフランシスコ総領事館)

■実施時期 2018年10月1日

■実施場所 総領事公邸

■関係機関 JETROサンフランシスコ事務所

■訴求対象

インポーター、ディストリビューター、レストランオーナー・シェフ・バイヤー、ソムリエ、バーテンダー、メディア等

■開催規模 約70名

■概要・効果

【概要】

当地事業者等に対し、日本産酒類に関する知識・魅力の普及・啓発を図り、現行の日系インポーター・ディストリビューターを経由した商流以外の新たな商流を生み出すことで、日本産酒類の需要拡大や更なる輸出促進を図る。

【効果】

参加者へのアンケート調査ではほぼ全ての参加者の満足度は極めて良好であった。一般消費者間で日本酒・焼酎・泡盛についての関心が高まる当地において、当地事業者が日本産酒類に関する知識・魅力を一般消費者に対して適切に説明することが、日本産酒類の更なる需要拡大には有効である。本イベントは当地事業者等に対する専門家によるプレゼンテーションやパネルディスカッション、多種多様な酒類の試飲を組み合わせたプログラムにより実施したことで、当地事業者への日本産酒類の知識・魅力の普及・啓発がなされ、今後の日本産酒類の需要拡大や輸出促進が図られるきっかけとなった。



56 建築家・手塚貴晴氏による講演
(サンフランシスコ総領事館)

■実施時期 2018年10月15、16日

■実施場所 カリフォルニア州
①バークレー市
(カリフォルニア大学バークレー校)
②サンフランシスコ市
(アカデミー・オブ・アート大学)



■関係機関 カリフォルニア大学バークレー校建築学部、
同日本研究センター、
アカデミー・オブ・アート大学
建築学部



■訴求対象 建築学部学生、大学関係者、
建築業界関係者、一般市民

■開催規模 350名

■概要・効果

【概要】

日本ブランド発信事業として、カリフォルニア大学バークレー校建築学部及びアカデミー・オブ・アート大学建築学部において、手塚貴晴氏による講演や学生指導等を行い、建築学部の学生や教授、建築業界関係者に対して日本の建築を紹介した。

【効果】

学生および大学関係者から、医学や教育環境の専門家、一般市民まで、幅広い層が参加した。講演の後の質疑応答が30分以上続くなど、多くの反響があった。学生や専門家に対し、日本の建築や日本の文化への興味や関心を高めることに繋がった。

57 ヘンダーソン日本祭り(秋祭り)における 日本酒等需要拡大事業（サンフランシスコ総領事館）

- 実施時期 2018年10月20日
- 実施場所 ヘンダーソン・イベント・プラザ
- 関係機関 ネバダ州日本祭り実行委員会
(Japanese Festival Association of Nevada)
- 訴求対象
日本食・食文化に興味がある米国人
- 開催規模 約300名



■概要・効果

【概要】

ネバダ州において最も大きな日本文化発信の場である日本祭り(秋祭り)において、日本酒及び泡盛についてのレクチャーや様々な銘柄(日本酒50銘柄、泡盛3銘柄、泡盛ベースのカクテル1種類)の試飲が可能な”酒テイスティングイベント”を実施。日本産酒類等のプロモーションによる需要創出・輸出促進を図る。

【効果】

酒類を含む日本食文化に興味があるネバダ州の消費者が多数来場し、熱心にレクチャーに耳を傾けつつ、試飲を体験した。日本酒造組合中央会発行の説明パンフレットは200部用意したが、全て無くなった。

試飲銘柄にはフルーツフレーバーが混ざったものやにごり酒、また、泡盛ベースのカクテルなど、初めて日本酒等を飲む方々に対しても親しみを持つことができるような工夫を行った。このことにより、来場者アンケートにおいて全員が本イベントをきっかけに日本食文化に対して良いイメージを持ったと回答した他、「これまで”Hot Sake”しか知らなかったが、日本酒・泡盛といっても様々な種類があり、好みのテイストで楽しめることが分かり驚いた。自ら購入して楽しみたい」、「フードペアリングに興味がある」、「日本酒の奥深さを知り、更に勉強したくなった」などといった感想が複数見られた。

本事業の実施により、ネバダ州の消費者等に対する日本酒及び泡盛に関する知識啓発及び需要創出に繋がった。

58 サンフランシスコ秋祭り (サンフランシスコ総領事館)

■実施時期 2018年10月20日

■実施場所 カリフォルニア州
サンフランシスコ市
サンフランシスコ日本町

■関係機関 ジャパンセンター・モール、
Japantown Merchants Association
サンフランシスコ日本町タスクフォース

■訴求対象 サンフランシスコ周辺在住の
一般市民、観光客等
同市議会議員等

■開催規模 4,000名

■概要・効果

【概要】

北米大陸に現存する3つの日系移民街区の一つであるサンフランシスコ日本町の中心、ジャパンセンター及び日本町ピースプラザの開設50周年記念の「秋祭り」が開催され、世界的にも有名な「サンフランシスコ太鼓道場」と「サンノゼ太鼓」による和太鼓パフォーマンスや、日本舞踊、折り紙や書道などの日本伝統文化を紹介する様々なイベントが開催された。当館も日本紹介ブースを設置し、観光や文化を紹介する広報を行った。

【効果】

50周年という記念すべき節目に、当地の日系コミュニティの発展の歴史を振り返るとともに、更なる発展に向けた足がかりとなるイベントとなった。地元で古くからある歴史ある団体による太鼓や踊りのパフォーマンスは大好評で、来場者からは日本を是非訪問し、日本文化について深く学びたいというコメントが多数あった。日本に対する好感度が高まった。



59 カリフォルニア州－日本姉妹都市ネットワーク立上げイベントの開催（サンフランシスコ総領事館）

- 実施時期 2018年10月26日
- 実施場所 カリフォルニア州サンフランシスコ市
在サンフランシスコ総領事公邸
- 関係機関 カリフォルニア州－日本姉妹都市ネットワーク
- 訴求対象 北カリフォルニアに所在する日本との姉妹都市の関係者
（市政府及び姉妹都市協会）
- 開催規模 28姉妹都市が参加（管内姉妹都市の約半数）
- 概要・効果

【概要】

カリフォルニア州における日本との姉妹都市活動の活性化を目的として関係者間の連携を企図する同ネットワークが設立されたことから、関係者の初対面の場として同ネットワーク会長及び在サンフランシスコ総領事の共催で立上げイベントを実施。

【効果】

日頃個別に活動している姉妹都市関係者にネットワーキング及びディスカッションの機会を提供したことにより、各者が多くの共通の課題を抱えていることが共有され、今後の姉妹都市間の横の連携に向けた機運が醸成された。本イベントを契機として同ネットワークの活動が展開されることにより、カリフォルニア州における日本との姉妹都市活動がより活発となり、ひいては草の根の日米関係の強化に繋がっていくと考えられる。



■実施時期 2018年11月4日

■実施場所 サンフランシスコ市内の
北カリフォルニア日本文化
コミュニティーセンター

■関係機関 北加日米会、
北加日本語教師会

■訴求対象 サンフランシスコ・
バイエリア在住の
日本語に関心のある若者

■開催規模 130名

■概要・効果

【概要】

総領事館と北加日米会及び北加日本語教師会の共催により、バイエリアの日本語学習者を対象に毎年実施している日本語スピーチコンテスト。第45回目となる本大会には25名の中高生及び成人が出場し、日頃の日本語学習の成果を披露した。総領事館から大会には本

61 東京観光財団共催による訪日観光セミナー (サンフランシスコ総領事館)

■実施時期 2018年 11月7日

■実施場所 総領事公邸

■関係機関 東京観光財団

■訴求対象 当地旅行エージェント

■開催規模 約35名



■概要・効果

【概要】

当地旅行エージェントに対し、東京観光財団からオリンピックを含めた東京観光プロモーションや訪日観光パッケージを多く手がけてきた当地旅行エージェントによる自身の経験を踏まえた注意事項の説明などを行った。

また、VRを用いた東京観光体験を行った。

【効果】

訴求対象が旅行エージェントであることから、ただ日本の観光名所等を紹介するのではなく、訪日旅行の専門家からのよりディテールに富んだ情報を発信することで、多くの参加者から感謝を受けた。特にオリンピックの米国内での代理店決定時期など参加者の関心の高い事項を発信することができ、今後、エージェントからその顧客である当地富裕層に対してのアクセスを働きかける土壌ができた。

また、VR観光体験では、ただの3D映像ではなく、TVゲームのように体験しながらできるものを紹介することで、参加者からの質問が多く出るなど、訴求対象に対して大変興味深いデモンストレーションとなった。

⑥2 ネバダ州リノにおける教育広報 (サンフランシスコ総領事館)

■実施時期 2018年11月13、14日

■実施場所 ネバダ州

- ① コーラル・アカデミー高校
- ② ネバダ大学リノ校
- ③ マクイーン高校



■関係機関 University Studies Abroad Consortium (USAC)※、
ネバダ大学リノ校、マクイーン高校、
コーラル・アカデミー高校

※USACは、全米の大学と連携して日本を含む海外留学を斡旋するNPO

■訴求対象 大学生、高校生、教員、
一般市民

■開催規模 約130名

■概要・効果

【概要】

ネバダ大学リノ校、マクイーン高校、コーラル・アカデミー高校の学生及び生徒に対し、次回オリンピック・パラリンピック競技大会が2020年に東京で開催されることを踏まえ、日本に関する基本情報、第二次世界大戦を経て1964年東京大会に至るまでの東京及び日本の歴史(特に米国との関わりの観点から)、2020年東京大会の準備状況や注目すべき点等についてプレゼンテーションを実施。

【効果】

ネバダ州リノは、近年パナソニックの工場が設立したことにより日本人の人口が徐々に増えつつある。しかしながら、高等教育での日本語教育を実施している学校は一校のみである。なかなか日本人と関わる機会が少ないため、遙々総領事館から訪問する事に感謝された。特に日本は今後オリンピックが行われる為、多くの学生は関心が高まった。



63 姉妹都市関係を核としたカリフォルニア州議会及び州政府との交流（サンフランシスコ総領事館）

■実施時期 2019年1月14日

■実施場所 カリフォルニア州議会（カリフォルニア州サクラメント）

■関係機関 カリフォルニア州議会、同州政府

■訴求対象 カリフォルニア州議会議員、同州政府職員

■開催規模 意見交換：約20名、州上院：定員40名、州下院：定員80名

■概要・効果

【概要】

東日本大震災の津波被害からの復興を端緒として姉妹都市となった陸前高田市ークレセントシティ及びデルノルテ郡がカリフォルニア州議会を訪問し、州議会議員及び州政府関係者と震災復興に関する意見交換を行うとともに、州議会上下両院本会議において姉妹都市関係について照会を受けた。

【効果】

震災を乗り越える過程で育まれた特色ある草の根の関係について州議会議員及び州政府職員から高い関心を得ることができ、対日理解の促進に寄与するとともに、日・カリフォルニア関係の強化に繋がった。



64 「にっぽんの宝物」米国ツアー in パロアルト (サンフランシスコ総領事館)

■実施時期 2019年1月19日

■実施場所 Lucie Stern Community Centre (パロアルト)

■関係機関 Undiscovered Gems of Japan Inc.

■訴求対象

当地在住米国人、料理学校教員、食品小売業者、レストラン関係者等

■開催規模 約90名

■概要・効果

【概要】

日本国内の地方の優れた農産品(加工品含む)の魅力を試飲・試食も取り入れて紹介することにより、当地における日本食材や食文化の更なる普及・拡大とともに、日本の多様な魅力の認知度向上を図る。

【効果】

本イベントには、約90名が参加し、日本の地方における生産者である塩職人の塩二郎氏、スイーツ職人の春田聖史氏、ジェラート職人の矢野佳仁氏のそれぞれが自らの商品に関する開発ストーリーや魅力をプレゼンテーションした。また、シアトル在住の日系人シェフであるショータ・ナカジマ氏により、それぞれの食材を活かした試飲・試食用の創作料理が提供された。

参加者からは、「以前から素材の魅力を活かした日本料理を広めるべく活動していたが、まだまだ知らない素材もあることに気付いた。今後も新しい素材を取り入れたいと思っているため、このイベントが良いきっかけとなった」、「日本の地方には知られていない奥深い魅力があることがわかった」といった声が聞かれた。

本イベントの実施により、日本の歴史・伝統や食材・食文化の多様な魅力の認知度向上が図られた。



65 カリフォルニア大学デービス校における総領事講演会 (サンフランシスコ総領事館)

■実施時期 2019年1月27日

■実施場所 カリフォルニア大学
デービス校

■関係機関 カリフォルニア大学
デービス校

■訴求対象 カリフォルニア大学
デービス校
MBA専攻の学生、教員

■開催規模 約30名

■概要・効果

【概要】

宇山総領事は、カリフォルニア大学デービス校MBAクラスを訪問し、学生と教員と交流を図った。同クラスは、今学期のテーマがアジアビジネスであるため、3月末に日本を訪問し、企業視察を1週間の日本滞在で行う。総領事は、日本訪問を心待ちにしている学生に向けて日本の貿易政策について特別講演を実施した。

【効果】

今回初めて日本を視察訪問する学生が多かった上、今学期のテーマがアジアビジネスに特化したものであったため、総領事の訪問・講演については大いに歓迎された。デービス校は、ワイナリーの研究も大変盛んなため、今後日本酒の講座等を設けて頂けないか打診してもらう機会にも繋がった。



66 サンフランシスコにおける映画「杉原千畝」上映会 (サンフランシスコ総領事館)

■実施時期 2019年2月13日

■実施場所 カリフォルニア州
サンフランシスコ市
(ランドマーク・シアター・
エンバカデロ・シネマ)



■関係機関 米国ユダヤ人委員会(AJC)
アジア・ソサエティ

■訴求対象 ユダヤ系を中心とする当地ベイ
エリアの公選職やリーダー等



■開催規模 約100名

■概要・効果

【概要】

サンフランシスコ市内中心部にある映画館で、当館とAJC、アジア・ソサエティの共催により映画「杉原千畝」の上映会を実施。上映会前には、宇山総領事及び当地訪問中の堀井巖参議院議員、松川るい参議院議員が挨拶を行った他(写真上)、映画上映後は、本映画のチェリン・グラッグ監督及び杉原サバイバーの娘であるデbbie・グラウデنز女史のパネルディスカッション(写真下)が行われた。

【効果】

本映画上映会には、AJCサンフランシスコの理事会メンバーや北カリフォルニア・アジア・ソサエティの理事会メンバーが出席した他、サンフランシスコ市議会議員の重鎮でユダヤ系のアーロン・ペスキ市議も夫妻で鑑賞しパネリストの紹介を行うなど、当地のユダヤ系の主要なリーダーに杉原千畝の業績を発信することができた。また、これまで中国関連のイベントを行うことが多かったアジア・ソサエティとも本イベントを通じて関係を強化することができた。

67 スタンフォード大学における杉原千畝に関するディスカッション (サンフランシスコ総領事館)

■実施時期 2019年2月21日

■実施場所 カリフォルニア州
スタンフォード大学

■関係機関 hillel@stanford
在サンフランシスコ・
イスラエル総領事館



■訴求対象 ユダヤ系米国人の有識者・学生

■開催規模 約150名

■概要・効果

【概要】

スタンフォード大学の学生組織であるhillel@stanfordが当館及び在サンフランシスコ・イスラエル総領事館と共催で、杉原千畝の偉業をより多くの人に知ってもらうためのイベントを開催。冒頭、宇山総領事及びコフマン在サンフランシスコ・イスラエル総領事が杉原千畝について紹介をした後、2名の杉原サバイバーの子供が、親から聞いた、杉原千畝から命のビザを受け取って生き延びたエピソードをそれぞれ披露した。



【効果】

杉原サバイバーの子孫による杉原千畝からビザを受け取ってシベリア鉄道を経由して敦賀、神戸にたどり着き、その後上海等を経由して米国にたどり着いたというエピソードは大変臨場感があり、聴衆の強い臨場感を得ていた。また、宇山総領事からは、杉原千畝の功績に加え、多くのユダヤ人避難民が上陸した敦賀の人々は彼らを温かく迎えたエピソードを紹介した。

⑥8 日米リーダーシッププログラムとの共同イベントの開催 (サンフランシスコ総領事館)

■実施時期 2019年3月1日

■実施場所 在サンフランシスコ総領事公邸

■関係機関 日米リーダーシッププログラム参加経験者及び関係者

■訴求対象 同上

■開催規模 30名

■概要・効果

【概要】

日米リーダーシッププログラムは、広範な分野から日米双方の若い指導的立場の者が参加し、2年間にわたって重要課題に関する継続的な対話等を行い相互理解とネットワークの構築を目指すもので、米日財団（United States – Japan Foundation）により運営され、2000年より開始された。北カリフォルニアに多くの同プログラム参加経験者が在住していることから、在サンフランシスコ総領事館にてパネルディスカッション及びレセプションからなる共同イベントを開催した。

【効果】

行政、経済をはじめとする各界の指導的立場にあり、かつ我が国への理解を有する多くの同プログラム参加経験者との間で、今後の各コミュニティへのアウトリーチのきっかけとなる草の根の関係を構築できた。



69 Hanami Line企画レセプションの開催 (サンフランシスコ総領事館)

■実施時期 2019年3月5日

■実施場所 在サンフランシスコ総領事公邸

■関係機関 サクラメント植樹基金並びにサンフランシスコベイエリア所在日系企業及び日系コミュニティ

■訴求対象 サンフランシスコベイエリア所在日系企業及び日系コミュニティ

■開催規模 80名

■概要・効果

【概要】

カリフォルニア州都サクラメントに桜を植樹し花見の名所とすることを目指すHanami Line企画に対し、日系企業及び日系コミュニティに同企画の趣旨を訴求しコネクションを構築する機会を提供することを目的としてレセプションを開催。

【効果】

本レセプションを契機として同企画の進捗過程においてサクラメント周辺のコミュニティ、日系企業及び日系コミュニティとの関係が強化されると考えられるほか、コミュニティ由来の同企画は完成の暁には草の根の日米関係を象徴する事例となりうる。



70 公邸料理人による現地高校生向け巻き寿司ワークショップ (サンフランシスコ総領事館)

■実施時期 2019年3月6日

■実施場所 北加日米会

■関係機関 北加日米会、
ジョージ・ワシントン高校

■訴求対象 ジョージ・ワシントン高校
日本語クラスの学生

■開催規模 約40名

■概要・効果

【概要】

公邸料理人の高橋勝幸シェフがサンフランシスコ市内にある日本語教育を実施しているジョージ・ワシントン高校の日本語クラスを対象に手巻き寿司作りのワークショップを開催した。このイベントは今年で3回目であり、日本語を学ぶ学生に日本文化を知ってもらうために開催されている。

【効果】

日本食の中でも最も馴染みがある寿司を自分たちで作るとあって、学生たちの関心度は非常に高かった。巻き寿司の中でも最もシンプルなかっぱ巻きとアメリカ人にはカリフォルニアロールで馴染みのある裏巻きに学生たちは挑戦した。手軽に家でも作れる二品であるため、体験後には、家族や友人に披露し巻き寿司の美味しさ、手軽さ、美しさを紹介したいと意気込んでいた。



71 歩こうアメリカ、語ろうニッポン(第4団) (サンフランシスコ総領事館)

■実施時期 2019年3月8日

■実施場所 カリフォルニア州サクラメント市、サンフランシスコ市

■関係機関 カリフォルニア州立大学Davis校他

■訴求対象 大学生、姉妹都市関係者、米軍関係者、JETAA、
現地有力者他

■開催規模 約100名

■概要・効果

カリフォルニア州立大学Davis校(UC Davis)を訪問し、日本語及び日本関連科目を履修する学生等に対し、伝統文化、ビジネス、科学技術分野等に関する日本の強みを発信、参加者と活発な議論を行った。

姉妹都市関係者、在日米軍経験者、JETAA等現地日本関係者を招待しての宇山総領事主催レセプションも開催し、総じて日本の魅力や各分野における日米協力について現地の理解を深めることができた。



72 第15回南ネバダ日本語弁論大会の開催 (サンフランシスコ総領事館)

■実施時期 2019年3月9日

■実施場所 パロ・ベルデ高校
(ラスベガス市内)

■関係機関 南ネバダ日本語講師会、
パロ・ベルデ高校

■訴求対象 南ネバダ在住の
日本語に関心のある若者

■開催規模 80名

■概要・効果
【概要】

総領事館と南ネバダ日本語講師会の共催により、ネバダ地域の日本語学習者を対象に毎年実施している日本語弁論大会。第15回目となる本大会には30名の高校生と大学生が出場し、日頃の日本語学習の成果を披露した。総領事館から首席領事が審査委員として出席した。

【効果】

本大会は日本語を学ぶ学生や大人にとって、日頃の努力を披露し、モチベーションを高める絶好の機会となっており、本大会の果たす役割は非常に大きい。特に日本語クラスが無い学校に通う生徒にとって、また、保護者や学校関係者にとっても、生徒の日本語学習の維持や意欲を高めるツールとして非常に有効であった。



73 在日米軍経験者レセプションの開催 (サンフランシスコ総領事館)

■実施時期 2019年3月16日

■実施場所 在サンフランシスコ総領事公邸

■関係機関 パロアルト退役軍人病院、米海兵隊、空軍及び陸軍

■訴求対象 サンフランシスコベイエリア在住の在日米軍勤務経験者及びその家族等

■開催規模 60名

■概要・効果

【概要】

米軍関係者内での知日派・親日派をつなぎ止め、増やしていくことを目的として、カリフォルニア州パロアルトに所在する退役軍人病院の協力を得て在日米軍に勤務経験のある現役・退役軍人及びその家族等を招待したレセプションを開催。会場では、日米両国家の斉唱や空軍ジャズバンドによる演奏が催され、日米の友好的な雰囲気醸成された。

【効果】

日本との繋がりを有する者を中心に招待したことで、日本での思い出を振り返り日本の近況をアップデートしてもらう機会となり、対日理解を促進するとともに、新たな草の根の関係構築に繋がった。



74 バイエリア・カウンスル・スタンフォード大学共催によるフォーラム
「バイエリアにおける日本：競争から協力へ」の開催
(サンフランシスコ総領事館)

■実施時期 2019年3月18日

■実施場所 スタンフォード大学

■関係機関

バイエリア・カウンスル

スタンフォード大学アジア太平洋研究所 (APARC)
当館



■訴求対象 バイエリアの政府関係者、
経済関係者、有識者等

■開催規模 約100名

■概要・効果

【概要】

現在、当地を代表する経済系公共政策アドバイザリー組織であるバイエリア・カウンスルがバイエリア（注：サンフランシスコやシリコンバレー等、サンフランシスコ湾に面した地域を指し、GAFAを始め多くのテック企業が集まる）における日本経済の関与についての調査を行っており、本フォーラムでは、同調査の紹介が行われた他、「台頭する新生日本」や「バイエリアで新たな方法を価値を創造する日本企業」といったテーマで、日米それぞれでビジネスを行う関係者が参加し、パネルディスカッションが行われた。

【効果】

パネルディスカッションには、日本からの投資家、学者、スタートアップ企業その他、当地シリコンバレーで活躍する企業関係者や投資家が出席し、近年中国系やインド系の伸張がめざましいバイエリアにおいて見過ごされる傾向にある日本のスタートアップ環境や当地での各日系企業が行っている取組等を紹介し、日本のプレゼンスを示す好機となった。



75 大阪府ーカリフォルニア州高校生交流レセプションの開催 (サンフランシスコ総領事館)

■実施時期 2019年3月20日

■実施場所 在サンフランシスコ総領事公邸

■関係機関 カリフォルニア州エルクグローブ統合学校区、カリフォルニア州議会上院

■訴求対象 大阪府内高校生、エルクグローブ統合学校区内高校生及びサンフランシスコベイエリア周辺日系コミュニティ関係者

■開催規模 70名

■概要・効果

【概要】

カリフォルニア州議会上院の協力を得て実施される日ーカリフォルニア州高校生交流事業でサンフランシスコを訪問中の大阪府内及びエルクグローブ統合学校区の高校生並びに日系コミュニティ関係者らを公邸に招き、レセプションを開催。

【効果】

姉妹関係である大阪府とカリフォルニア州双方の高校生と日系コミュニティ関係者が交流することで、文化や世代を超えた相互理解や日ーカリフォルニア間の草の根の関係強化に繋がった。



76 平成30年度カケハシ・プロジェクトを通じたリンウッド市との交流 (シアトル総領事館)

■実施時期 2018年4月～10月

■実施場所 ワシントン州リンウッド市

■関係機関 リンウッド市役所
スノホミッシュ郡エドモンズ学区

■訴求対象 リンウッド市、スノホミッシュ郡
エドモンズ学区の高校生

■開催規模 約60名

■概要・効果

【概要】

親日家で自ら日本滞在経験を有するニコラ・スミス・リンウッド市長を筆頭に、市が中心となりプロジェクトの実現に向けて協議を進めた。結果、スノホミッシュ郡のエドモンズ学区内の高校生および引率者計25名が7月に訪日。出発前の説明会には当館首席領事等が出席し、市関係者や参加者の保護者等と交流を深めた。また、10月にはリンウッド市議会場で報告会が実施され、市議会議員らは参加者の発表を興味深く聴いていた。参加者からは、市議会議員に対し、リンウッドと日本の都市の姉妹都市提携が提案された。

【効果】

本事業を通じて当館とリンウッド市の関係が強化され、今後様々な面での協力・提携が期待されている。今回カケハシ・プロジェクトに参加した学生および引率者は全員訪日経験がなく、日本のプレゼンスが限定的であるリンウッド市地元コミュニティにとってインパクトの強い事業となり、草の根レベルで日本への理解を深めることができた。



77 AIイノベーション・ミートアップ・イベント (シアトル総領事館)

■実施時期 2018年4月18日

■実施場所 ワシントン州シアトル市

■関係機関

総領事館、州政府商務局、
イノベーション・ファインダーズ・キャピタル



■訴求対象

米国スタートアップ企業、日系IT企業、
州政府政策担当者

■開催規模 約100名

■概要・効果

【概要】

日本のベンチャー・キャピタルであるIFCが、ワシントン州で米国と日本のIT企業を結びつけるミートアップ会合を2016年から開催しており(今回で8回目)、当該会合に併せて、総領事公邸においてピッチイベント(AI技術の紹介)とネットワーク・レセプションを開催(今回で3回目)。冒頭、総領事及び現地出張中の藺浦総理補佐官が挨拶。日本やシリコンバレーから約17社のIT関連企業の出席のほか、現地スタートアップ企業7社が参加し、AI技術全般に関する熱心な議論が交わされた。



【効果】

本件は、2016年6月に署名された日本とワシントン州の協力覚書に基づくイベントとして、州政府の高い関心を引き寄せキム・ワイマン州務長官が参加。その機会をとらえ、現地出張中の藺浦総理補佐官と現地日系企業関係者との懇談を実施し、日系企業関係者からの要望等を伝えることができた。ワシントン州からの投資・コンサルタント企業が参加し、将来的な日・ワシントン州間のビジネスに関する支援可能性について関心を高めることにつながった。

78 シアトル桜祭・日本文化祭 (シアトル総領事館)

■実施時期 2018年4月20日～22日

■実施場所 シアトル市シアトルセンター
(1965年万博跡地)



■関係機関 シアトル桜祭・日本文化祭実行委員会、シアトル市

■訴求対象 ワシントン州議会議員、
現地コミュニティ

■開催規模 約31,000名



■概要・効果

3日間の開催期間内に、現地団体による書道・茶道・華道・武道等のデモンストレーション、和太鼓・日本舞踊等の公演、紙芝居実演を含む各種日本文化紹介等が実施された。また、やましたひでこ氏の断捨離に関する講演や日本の伝統工芸品(経済産業省指定)である播州そろばん作り体験が実施された。総領事館は祭り全体を共催し、本行事に単独で広報ブースを出展。日本関連資料、観光促進パンフレット等の配布、DVDの上映等を行うとともに、侍の「鎧兜」の試着のブースを設け、日本の文化を紹介するほか、本祭り内で実施される日本語スピーチ・スキット・コンテストを共催団体とともに実施した。

また、初日の20日は総領事館主催によるレセプションを開催し、州議会議員、現地有識者・文化関係者等を招待し、イベント及び日本文化を紹介するとともに、日米文化交流のあり方についての意見交換を行い日米関係の促進を図った。

79 第35回ワシントン州日本語スピーチ・スキットコンテスト (シアトル総領事館)

- 実施時期 2018年4月20日
- 実施場所 ワシントン州シアトル市
- 関係機関 兵庫県ワシントン州事務所
ワシントン州日本語教師会
- 訴求対象 当地で日本語を学習する高校生
学校関係者、当地日系企業
- 開催規模 約65名



■概要・効果

【概要】

当地で日本語を学習する高校生を対象に、スピーチ部門とスキット(寸劇)部門を各レベルに分けて日本語力や表現力を競うコンテストを兵庫県ワシントン州事務所、ワシントン州日本語教師会、シアトル総領事館の共催で開催。また、開催にあたり、多くの当地日系企業や団体から支援を得た。

スピーチ部門の最高レベルの優勝者には、日本への短期研修の機会が与えられた。スピーチ部門・スキット部門共に、参加者の日本語能力や工夫を凝らした発表内容が高く評価された。

【効果】

当地は米国内で日本語教育が最も盛んな地域である一方、近年の教育予算カットが右教育継続に影響を与えている。本事業の実施を通じ、引き続き日本語教育を地域全体で盛り上げていくことの重要性を再認識することができた。また、関係者間のネットワーク構築につながる場所を提供することができた。

加えて、コンテストには前年参加者の姿も見られ、本事業が学生らにとって学習意欲を高めるイベントであることが確認できた。

80 在日米海軍経験者のための「トモダチ・レセプション」の実施 (シアトル総領事館)

■実施時期 2018年4月24日

■実施場所 シアトル総領事公邸

■関係機関 総領事館



■訴求対象 当地海軍幹部及び在日米海軍勤務経験者、二世退役軍人、米沿岸警備隊関係者及び現地のコミュニティー団体等

■開催規模 約100名



■概要・効果

【概要】

日本と米軍との間のより強固な絆の構築・強化を目的としたイベントであり、今回で4回目の開催となる。

冒頭、総領事より、米軍の太平洋地域における存在が、地域の安全と安定を提供し、それが日本の繁栄の礎となっているとして、米軍関係者に対し感謝の意を表した。ゲイリー・メイズ米海軍北西部管区司令官からは、日米の強固なパートナーシップと友情及び米海軍の日米安全保障同盟へのコミットメントを再確認した旨の発言があった。

参加者のうち、下士官は在日米軍での勤務経験者であり、日本を懐かしみつつ、当館館員等と食事を取りながら懇談した。

【効果】

米海軍から司令官の参加を得ることで、日米両国の安全保障分野における揺るぎない同盟関係を関係者間で改めて確認し、それを深化させる機会となった。

81 企業と連携した日本語教育シンポジウム (シアトル総領事館)

■実施時期 2018年4月25日

■実施場所 シアトル総領事公邸

■関係機関 総領事館



■訴求対象 ワシントン州日本語教師会メンバー、その他の現地の日本語教師、学校・教育委員会関係者、日系企業を中心とする企業関係者、コミュニティ関係者

■開催規模 約60名

■概要・効果

【概要】

日米教育関係者、日系企業関係者、コミュニティ関係者らを招き、現地の日本語教育の現状について理解を深める。

日本語学習者が将来活躍する場として、日本企業が挙げられるところ、今回のシンポジウムでは、日本企業関係者より「企業の求める日本語人材」についての講演を行い、日本語学習を通じた「人間力育成」の重要性を教育関係者に周知し、教育指導方法に反映してもらう機会とする。



【効果】

多くの教育関係者が熱心にプレゼンテーションのメモを取り、シンポジウムを通じて学ぶことが多かったとの感想を述べ、今後現地での日本語教育を盛り上げていく上で極めて効果的なイベントになった。

意思決定に影響力を持つシアトル学区関係者らと新たなネットワークを構築することができ、今後日本語教育支援の働きかけを行う観点からも有益であった。

日本企業関係者からも「興味深いイベントだった」とポジティブなフィードバックを得ることができた。企業関係者に日本語教育を身近に感じてもらう機会になった。

82 ワシントン州日本文化市民会館「こどもの日」イベント (シアトル総領事館)

- 実施時期 2018年5月6日
- 実施場所 ワシントン州シアトル市
(ワシントン州日本文化市民会館)
- 関係機関 総領事館、ワシントン州日本文化市民会館



- 訴求対象 日系及びアジア系コミュニティの
一般市民(子供を含む。)
- 開催規模 子供連れを中心に約850名



■概要・効果

【概要】

ワシントン州日本文化市民会館は、百年以上の歴史を有する全米最古の日本語学校であるシアトル日本語学校の校舎が母体となり、日本文化の継承及び日系移民史の保存を目的に2003年に設立された非営利団体。日本文化紹介行事や数々の講演会や歴史保存プロジェクト等が行える施設としては、現地日系コミュニティの中で唯一。

「こどもの日」イベントは、書道、太鼓、柔道、日本風カレー販売など、多彩な文化紹介が行われた。

総領事館からは、鎧甲の試着体験を行うとともに観光、留学、JETプログラム紹介の広報を行った。

【効果】

本イベントには、日系だけでなく、インド系や中国系など地元アジアコミュニティの一般市民が興味をもって参加してきており、草の根レベルでの市民交流に大いに貢献している。総領事館ブースにも、鎧甲の試着体験を中心に約100名の来場者があった。

83 マンスフィールド・ウォーターサミット (シアトル総領事館)

■実施時期 2018年5月16日～19日

■実施場所 モンタナ州ホワイトフィッシュ市

■関係機関 モンタナ大学マンスフィールドセンター
在シアトル総領事館



■訴求対象 米国、韓国、カナダ等の各国政府、学者、有識者、各国企業の代表者等（米国からは全米商工会議所理事長、モンタナ州副知事、同州司法長官、地元ミズーラ市長、ボウズマン市長等が参加）

■開催規模 約100名

■概要・効果



【概要】

水に関する地球規模及び地域の課題について議論が行われた。また、並行して開催された第4回アジア・モンタナ・エネルギーサミットにおいて、アジアのエネルギー動向及びモンタナ産石炭の必要性について議論が行われた。同サミットには総領事が出席して、水・衛生に関する日本の国際協力について講演するとともに、シアトル総領事館が日本から水資源機構及び日本エネルギー経済研究所の専門家を派遣する形で協力した。

【効果】

日本における水問題への取組みやエネルギー政策の紹介、地球規模での水不足問題への情報収集、アジアを中心としたエネルギー需要に関する相互協力の確認及びネットワーク強化をすることができた。

ワシントン州日系退役軍人会主催 第73回戦没者慰霊式典参列（シアトル総領事館）

■実施時期 2018年5月28日

■実施場所 レイク・ビュー墓地

■関係機関 二世退役軍人会

■訴求対象 日系人コミュニティ

■開催規模 120名

■概要・効果

【概要】

1946年より当地二世退役軍人会（NVC）が毎年主催。第73回戦没者本式典は、第一次世界大戦、第二次世界大戦、朝鮮戦争、ベトナム戦争等で戦死したワシントン州とゆかりのある日系米国人兵士を追悼するもの。戦没者が奉られている石碑は、日系人の寄付で1949年に建設。当初は、戦没者の魂を弔うことが主要な目的であったが、2世から3世に世代交代が進む中、日系人の歴史と教訓を確認する式典という位置付けになっている。

【効果】

士官を除くほとんどの隊員が日系アメリカ人で構成された陸軍442連隊のトシ・オカモト氏が5月19日に他界し、同連隊の生存者は3名となり、生存者の高齢化が進んでいる。総領事が連邦議員を始めとする他の参列者と共に出席し、献花を行った。戦没者の魂を弔い、第二次世界大戦時の日系人の苦労を忍び、過ちを二度と繰り返さないと誓うことで、残された家族や子孫、そして参列者全員と共に日系人の尊い歴史に敬意を払う機会となった。



85 経済及び貿易関係に関する協力覚書の更新署名式 (シアトル総領事館)

■実施時期 2018年6月28日

■実施場所 ワシントン州シアトル市

■関係機関 ワシントン州政府

■訴求対象 ワシントン州政府関係者、
州民、メディア関係者

■開催規模 20名

■概要・効果

【概要】

相川一俊駐米特命全権公使とジェイ・インズリー・ワシントン州知事との間で日本とワシントン州との間の経済及び貿易関係に関する協力覚書の更新署名が行われた。更新により、2016年6月に署名された同覚書の有効期限を更に4年間延長した。

【効果】

署名式において、インズリー知事から以下のとおり日本との経済関係を引き続き重視する旨の発言を得た。

- ・日本とワシントン州の特別かつ生産的な関係を再確認することができ大変喜ばしい。ワシントン州では日本との貿易関係及び技術的な提携によって非常に多くの雇用が創出されている。
 - ・モーゼスレイクで実施中の三菱リージョナルジェット(MRJ)の飛行試験に日本とワシントン州の人々が関わっている点は興味深い。MRJは日本とワシントン州との重要な経済関係の一例。
 - ・今日の政治環境は経済成長を危うくするものであるが、そのような中でも協力覚書に署名し、日本とワシントン州の関係を再確認することができ光栄。ワシントン州に雇用を創出するためにも成長の可能性を継続したい。
- プレスリリース、当館ホームページ、メールマガジン等で発信。



86 日・ワシントン州友好のタベレセプション (シアトル総領事館)

■実施時期 2018年6月28日

■実施場所 シアトル総領事公邸

■関係機関 政府、企業(日系・当地)関係者

■訴求対象 州政治・軍関係者、有識者、
企業関係者(日系・当地)、
コミュニティ関係者、メディア等

■開催規模 300名

■概要・効果

【概要】

当地は夏は日照時間が長く清々しい気候に恵まれるが、冬は雨空の暗い時期となる。これまで冬に実施されてきた他の大型レセプションでは参加を見送ってきた多くの要人を公邸に招き、和食や日本酒等を振る舞い、日米の親善を政治・経済・コミュニティレベルで深め、彼らの対日理解の促進、将来の知日家・親日家の育成に繋げる。

【効果】

新規政治関係者の発掘・関係構築。

政治・経済・文化分野等の各分野における日本の取組にかかる理解促進。

当地有力者、当地在留邦人及び日系コミュニティ間のネットワーク構築・強化、草の根レベルでの交流促進。

ワシントン州との経済及び貿易関係に関する協力覚書に対する更なる理解の促進及び同覚書に基づくワシントン州内における今後の協力案件の円滑な遂行のための環境醸成。



87 Japan Fair 2018
(シアトル総領事館)

■実施時期 2018年7月7日～8日(2日間)

■実施場所 ベルビュー市メイデンバウワー
センター

■関係機関 ベルビュー市、
ジャパンフェア 2018実行委員会、
ワシントン州日米協会、
シアトル日本商工会、日系人会、
兵庫県ワシントン州事務所等

■訴求対象 州議会議員、政府関係者、一般市民、
地域コミュニティ全般、各国領事団

■開催規模 約20,000名

■概要・効果

【概要】

当館が共催する日本文化・教育等紹介を行うイベントで、当地の日本文化関連団体等の参加団体が、茶道、華道、書道、各種武道、和太鼓、舞踊、着物の着付け等のレクチャー・デモンストレーションやパフォーマンスのほか、日本関連団体がブース展示を行った。開会レセプションでは、ワシントン州上院議員やキング郡運輸局長など現地政治関係者のほか、地域のコミュニティリーダーとの関係を構築。シアトル日本商工会等と連携し、現地進出日系企業によるブース展示を促進し、一般市民に対し日本の産業を通じた対日理解・関心の向上及び親日家の開拓・育成を図った。

【効果】

本イベントはアジア系住民の割合の高いベルビュー市の代表的なスポットであるメイデンバウワーセンターを活用していることから、普段日本文化に馴染みのない参加者も多く、効果的に日本文化等を対外発信できるイベントとなった。



⑧ AIイノベーションミートアップ行事 (シアトル総領事館)

■実施時期 2018年7月25日

■実施場所 シアトル総領事公邸

■関係機関 ワシントン州商務局、シアトル
大都市圏IT・AI企業

■訴求対象 ワシントン州政府、有識者、
IT関係者、メディア

■開催規模 約100名



■概要・効果

【概要】

日本からAI関連のミッション団が現地を出張した機会を捉え、交流行事を開催。当地の米国スタートアップ企業6社より、参加した日本企業15社に対してAI製品・プログラムについてのプレゼンテーションがなされた後、総領事館主催のレセプションを開催し、州商務局及びワシントン大学副学長の挨拶の後、日本企業と現地企業の交流や意見交換が盛んに行われた。

【効果】

本件は、2018年6月に延長された日本とワシントン州の協力覚書に基づくイベントとして、州政府の高い関心を引き寄せ、州政府高官が参加。

ワシントン州からの投資・コンサルタント企業が参加し、将来的な日・ワシントン州間のビジネスに関する支援可能性について関心を高めることにつながった。

今後のIT分野におけるワシントン州内での日本企業との協力促進に寄与した。

89 ワシントン州－兵庫県姉妹提携55周年関連行事 (シアトル総領事館)

■実施時期 2018年7月27日

■実施場所 ワシントン州オリンピア市

■関係機関 兵庫県、ワシントン州議員及び政府、
姉妹都市協会関係者他

■訴求対象 ワシントン州議員及び政府、有識者、
現地メディア

■開催規模 135名ほか多数

■概要・効果

【概要】

ワシントン州と兵庫県の姉妹提携55周年の記念を祝し、ワシントン州の州都オリンピアにおいてジェイ・インズリー・ワシントン州知事及び井戸敏三・兵庫県知事等による記念式典が開催。兵庫県より議会訪問団、企業を含む経済交流団、県民交流団など計7団の約70名がワシントン州を訪問し、州政府と交流協議や共同声明調印を行うとともに、日米交流団体などを訪れて、草の根交流や経済交流の促進に向けて意見を交わした。総領事が記念式典において挨拶を行うとともに、両知事の昼食会に同席し、兵庫県とワシントン州の引き続きの交流・協力について意見交換を行った。

【効果】

インズリー知事やサイラス・ハビブ副知事など政府関係者や姉妹都市関係者の多くの参加を得ることが出来たと同時に、地元政府系テレビやメディアなどにも取り上げられ、姉妹関係をアピールできた。



90 第32期JETプログラム出発前オリエンテーション 及び歓送レセプション（シアトル総領事館）

■実施時期 2018年7月27日

■実施場所 シアトル総領事公邸

■関係機関 JETAA（元JET参加者の会）、日米協会

■訴求対象 第32期JETプログラム参加者、
県人会コミュニティ、教育関係者等

■開催規模 約100名

■概要・効果

【概要】

オリエンテーションでは、新規JETプログラム参加者を対象に、プログラムの概要、日本での生活等に関する講義を実施。

【効果】

レセプションでは、訪日直前に参加者が日本での活躍を決意する良い機会になるとともに、新規JETプログラム参加者間の連携の強化及びJETAAや関係団体とのネットワークの構築に寄与。

当地メディア等を通じて同プログラムに関する広報活動を行い、イベントの様子が情報誌等に掲載された。



91 ケント・オーバン-丹波市姉妹都市提携50周年関連行事 (シアトル総領事館)

■実施時期 2018年8月9日～10日(2日間)

■実施場所 ワシントン州ケント市、オーバン市

■関係機関 丹波市、ケント市、オーバン市の
政府、議会、姉妹都市関係者

■訴求対象 地域コミュニティ全般

■開催規模 100名

■概要・効果

【概要】

丹波市とオーバン市及びケント市との交流は、1960年代、兵庫県とワシントン州の姉妹県・州関係の設立を機に、後に合併し丹波市となる当時の春日町及び柏原町との交流が開始され1968年にそれぞれ姉妹都市関係を設立したことが始まり。丹波市からの公式訪問団を招いた、オーバン市において開催された式典において当該姉妹都市交流関係者への総領事表彰を行った。また、ケント市において開催された署名式では、それぞれの市長が出席し、3市間の正式な姉妹都市提携協定書への署名が行われた。

【効果】

当地両市長をはじめ、姉妹都市関係者や市の教育関係者と交流し、両市における日本のプレゼンスを高めることができた。



ベリンハムー館山市姉妹都市提携60周年関連行事 (シアトル総領事館)

- 実施時期 2018年9月4日～6日
- 実施場所 ワシントン州ベリンハム市
- 関係機関 館山市、ベリンハム市の
政府、議会、姉妹都市関係者
- 訴求対象 ベリンハム市の各姉妹都市、
地域コミュニティ全般
- 開催規模 100名



■概要・効果

ベリンハム・館山の姉妹都市60周年記念に併せて、ベリンハム市と姉妹都市の7市(日本・館山市、オーストラリア・ポートステファン市、フィンランド・ヴァーサ市、モンゴル・ツェツェルレグ市、韓国・チョンジュ市、チリ・プンタアレナス市、ロシア・ナホドカ市)からそれぞれ市長又は担当者が参加した2018市長サミットが行われ、テーマである地域解決のための国際対話について議論がなされた。館山市は、ベリンハムとの姉妹都市の中で一番姉妹都市関係が古く、これまで、スポーツ、文化、学生、ライオンズクラブ、行政、その他(経済等)と多岐にわたる市民レベルの交流が、60年の長きにわたり継続されてきた。その60周年の友好・交流を祝うため、金丸謙一市長をはじめ市議会議員・館山国際交流協会・学生・市民等約20人がこの歴史的行事のために当地を訪問。イベントの締めとなるサヨナラレセプションでは、総領事館も共催し、ベリンハム姉妹都市委員会に対して、同委員会の当地でのこれまでの貢献や功績を称えた。また、日本と米国の更なる相互理解や友好を奨励するため、当館より総領事表彰を行った。

各国からも姉妹都市関係者が参加する中、日本のプレゼンスを示すことができたと同時に、姉妹都市関係者との関係を強固なものにすることができた。

93 第28回日米草の根交流サミット2018ワシントン大会 (シアトル総領事館)

■実施時期 2018年9月18日～24日

■実施場所 ワシントン州内14の都市・地域

■関係機関 財団法人ジョン万次郎ホイト
フィールド記念 国際草の根交流センター
ワシントン州日米協会
その他姉妹都市協会

■訴求対象 一般市民、姉妹都市関係者

■開催規模 139名の日本側参加者、
当地関係者1,000人

■概要・効果

【概要】

日米草の根交流サミットは、財団法人ジョン万次郎ホイトフィールド記念 国際草の根交流センター(CIE)が主催する日本とアメリカで毎年交互に開催している約1週間の草の交流イベント。シアトルでの開会式・閉会式、14の地方都市・地域の市民やホームステイ先で地域の特色を生かした様々なプログラム(地域分科会)を通じた草の根の人的交流を行った。

【効果】

サミット開会式及び閉会式の両方に山田総領事が出席しスピーチを行ったほか、在米大使館から島田公使の参加を得て、日米間の草の根交流を我が国として重視する姿勢を打ち出すことができた。また、当地要人の参加について、日米協会と共に当館からも働きかけた結果、ワシントン州からハビブ副知事やシェルミナーク ベルビュー市長を始めとする政治家を多数スピーカーとして招き、日本とワシントン州の緊密な関係を示すことができた。本イベントについて、各種メディアに取り上げられた。



94 ワシントン州姉妹都市会議 (シアトル総領事館)

■実施時期 2018年10月6日

■実施場所 ワシントン州議会議事堂内会議室

■関係機関 姉妹都市インターナショナル、
ワシントン州政府、
その他姉妹都市協会

■訴求対象 姉妹都市関係者

■開催規模 約80名

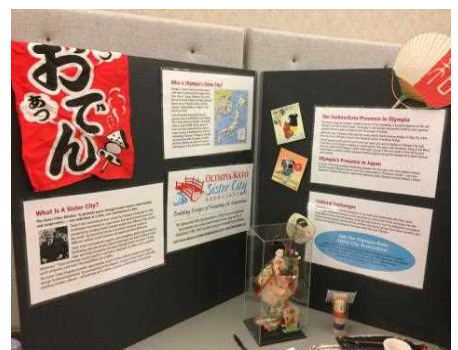
■概要・効果

【概要】

ワシントンDCに本部を置く姉妹都市インターナショナルが主催し、当館等が協力するワシントン州姉妹都市会議を開催。ワシントン州に存在する姉妹都市協会担当者を一同に集め、各団体より姉妹都市活動実績やグッドプラクティスの共有、各種情報提供及びパネルディスカッション等を通じた意見交換を行った。また、当館より、日本産菓子やお茶を提供した。

【効果】

日本に限らない姉妹都市に関わる協会関係者が集まる中、日本産食料品の提供に加え、総領事による挨拶及びパネルディスカッション参加等により、日本との活発な姉妹都市交流について周知するとともに、当日出席したワシントン州副知事やシアトル商工会議所会頭と交流し、今後、日本とのより活発な活動に向けた基盤を整備することができた。



■実施時期 2018年10月9日

■実施場所 ベルビュー市ベルビュー大学内

■関係機関 ベルビュー大学、
シアトル日本商工会、
兵庫県ワシントン州事務所等

■訴求対象 一般市民、学生、地域コミュニティ

■開催規模 約8,000名

■概要・効果

当館が共催する日本文化・教育等紹介を行うイベントで、当地日本文化関連団体等の参加団体が、パフォーマンス(日本舞踊、太鼓、日本語人形劇など)、レクチャー・デモンストレーション(茶道、華道、書道、武道、歌舞伎など)に加え、日本文化を紹介する団体のブースを設置、特に今年は日系移民150周年に当たるため、移民の歴史、苦労話、その後の成功話などゲストスピーカーを呼び、講演等を行った。当館は、本行事全体に共催団体として参画し、来場者向けにふろしきワークショップや鎧甲の試着体験ワークショップ、日本政府奨学金やJETプログラムの説明会を行ったほか、広報ブースを設置して、日本の多様な文化を紹介する冊子(にぽにか等)や、奨学金やJETプログラム等の当館パンフレットを配布するとともに、国際交流基金から借り受けている「テルマエ・ロマエ」「日本を照らした奇跡の花火」など日本の多様な文化や魅力を伝えるDVDの上映等を行った。

本イベントはアジア系移民の数も多く、近年急速に発展しているベルビュー市において、日本文化に関心のある現地学生及びボランティア、大学等と共に日本の文化を紹介することで、対日理解・関心の向上及び親日家の開拓・育成を図ることができた。また、日本イベントの少ない秋に実施していることから、普段日本文化に馴染みのない一般市民に対し、効果的に日本文化等を対外発信できるイベントであった。



96 国際農業者交流協会米国派遣農業者研修修了式 (シアトル総領事館)

■実施時期 2018年10月10日

■実施場所 シアトル総領事公邸

■関係機関 JAEC(公益社団法人国際農業者交流協会)、BBCC(ビックベンドコミュニティカレッジ)

■訴求対象 BBCC学長等関係者、ホスト農家、各種日系団体、地域コミュニティ

■開催規模 約80名

■概要・効果

【概要】

本年で53年目を迎えた米国各地の農業研修を実施しているJAEC、ワシントン州の受入れ大学であるコミュニティカレッジと連携し、18か月にわたる米国内各地での研修の修了式を実施。研修生は、約10州(ワシントン州、オレゴン州、カリフォルニア州、アイダホ州、ネブラスカ州、イリノイ州、デラウェア州、ミネソタ州、ウィスコンシン州、ハワイ州)の日本人の少ない農村地域に派遣され、その多くは地域に溶け込み、草の根交流が盛んに行われている。これまで米国に12,700人以上の研修生が派遣されており、10月10日には日米の次世代を担う農家を育成するこうした取組が評価され、地元ワシントン州メディアのKing5において研修生へのインタビューを含む番組が放送された。

【効果】

研修生の農業技術・知識の習得や英語によるコミュニケーション能力の向上、国際的な市場の動向把握、農場主の農業経営の判断プロセスや労働者の労務指導経験に加え、受入れ大学、ホスト農家、ホームステイ先等関係者間の異文化体験と相互理解を通じて日米友好関係促進に寄与。



97 いけばなインターナショナルの月例会 (シアトル総領事館)

■実施時期 2018年10月18日

■実施場所 シアトル総領事公邸

■関係機関 いけばなインターナショナル・
シアトル支部



■訴求対象 いけばなインターナショナル関係者

■開催規模 約40名

■概要・効果

【概要】

複数の流派で構成される、いけばな・インターナショナル・シアトル支部の月例会を公邸にて開催。生け花のアートパフォーマンスを撮影したビデオ及び世界各地で活躍する様々な流派による生け花展の様子がスライドショーで上映された。



【効果】

本年(2019年)に設立60周年を迎える同団体は、草月流や小原流といった主要な流派の会員が所属し、米国人を始めとする外国人や、日系人及び在留邦人に対し、生け花の神髄を説くなど、草の根交流を地道に進めている。同団体の月例会を公邸でホストすることで、同団体のこれまでの活動を政府として認知し、応援することに繋がり、当館と同団体の結び付きが更に強まった。

2020年3月に当地で開催される大規模なインターナショナル・フラワーガーデンショーに小原流家元が参加することが決まっており、その受入れに同団体が関与する予定。公邸での月例会でその旨が会員に通知され、一層の団結力が深まった。

98 ジャパン・クルーズセミナー・イン・シアトル (シアトル総領事館)

■実施時期 2018年10月24日

■実施場所 ワシントン州シアトル市

■関係機関 日本の6港(神戸港、
広島港、北九州港、
境港、金沢港、青森港)、
国土交通省中国運輸局

■訴求対象 北米に拠点を置くクルーズ船社、
旅行会社、シアトル港湾局、
シアトル市、ビジットシアトル等

■開催規模 70名

■概要・効果

【概要】

明日の日本を支える観光ビジョンが掲げるクルーズ船受入れの更なる拡充を図るため、日本の6港(神戸港、広島港、北九州港、境港、金沢港、青森港)が連携し、シアトル総領事公邸において、クルーズ船社を中心とする在米訪日旅行業界を対象とした6港への寄港機会創出を目的とした誘致イベントを開催。セミナーでは、各港のインフラ整備状況や周辺地域の観光の魅力について6港がそれぞれプレゼンテーションを実施。セミナー後はネットワーキング・レセプションを開催。

【効果】

6港の代表者がそれぞれ画像や映像を用いて地域及び港の魅力を効果的にプレゼンテーションした。また、レセプションでは、各港からの参加者がクルーズ船社や旅行代理店等の代表者と積極的に交流を行った。



99 AIイノベーションミートアップ行事 (シアトル総領事館)

- 実施時期 2018年10月31日
- 実施場所 シアトル総領事公邸
- 関係機関 ワシントン州商務局、シアトル大都市圏IT・AI企業
- 訴求対象 ワシントン州政府、有識者、IT関係者、メディア
- 開催規模 約110名

■概要・効果

【概要】

日本からAI関連のミッション団が現地を出張した機会を捉え、交流行事を開催。当地の米国スタートアップ企業10社より、参加した大阪商工会議所及びその他会員企業含む日本企業20社に対してAI製品・プログラムについてのプレゼンテーションがなされた後、総領事館主催のレセプションを開催し、州商務局及びワシントン大学副学長の挨拶の後、日本企業と現地企業の交流や意見交換が盛んに行われた。

【効果】

本件は、2018年6月に延長された日本とワシントン州の協力覚書に基づくイベントとして、州政府の高い関心を引き寄せ、州政府高官が参加。

ワシントン州からの投資・コンサルタント企業が参加し、将来的な日・ワシントン州間のビジネスに関する支援可能性について関心を高めることにつながった。

今後のIT分野におけるワシントン州内での日本企業との協力促進に寄与した。



100 平成30年度カケハシ・プロジェクト(沖縄プログラム) (シアトル総領事館)

■実施時期 2018年10月31日～11月7日

■実施場所 ワシントン州シアトル市近郊

■関係機関 JICE(日本国際協力センター)
沖縄県人会
カミアック高校(受け入れ校)

■訴求対象 カケハシ・プロジェクト参加校
(沖縄県立那覇国際高等学校)

■開催規模 約30名

■概要・効果

【概要】

10月31日～11月7日(6日当地発)の日程でカケハシ・プロジェクト沖縄プログラムに参加している沖縄県立那覇国際高等学校の派遣団が当館を訪問し、山田総領事から日系人の歴史等について講演がなされた。その後、当地沖縄県人会代表者がシアトルと沖縄の関係について講演を行い、当館職員よりワシントン州と日本の関係について説明を行った。滞在中は、当地受け入れ校のカミアック高校の学生との間で非常に盛んな交流が行われ、週末はホームステイを体験。最終日は同校にて、那覇国際高等学校の学生らが報告会を実施した。

【効果】

当館訪問の際、好奇心旺盛な学生らから様々な質問が寄せられ、当地における沖縄県人や日系人の歴史、日・ワシントン州関係等における学生の理解を深める機会となった。最終日の報告会では、学生らから当地訪問を通して感じたことや経験が共有されると同時に、沖縄に戻ってからのアクション・プランが共有され、実りあるプロジェクトになった点確認することができた。また、カミアック高校訪問中の記事が地元メディアに掲載され、カケハシ・プロジェクトのプレゼンス向上につながった。



101 エドモンズー碧南市姉妹都市提携30周年関連行事 (シアトル総領事館)

■実施時期 2018年11月1日

■実施場所 ワシントン州エドモンズ市
カスカディア美術館

■関係機関 碧南市、エドモンズ市の
政府、議会、姉妹都市
関係者

■訴求対象 エドモンズ市の各姉妹都市、
地域コミュニティ全般

■開催規模 約80名(うち日本より20名)

■概要・効果

【概要】

エドモンズ市と碧南市姉妹関係30周年記念レセプションが開催。当日、同美術館の展示に「美のまじない：角南壮一の生涯と写真」があり、20世紀初期にシアトルに来て、カメラ技術の習得を学んだ後、世界的に有名な写真舞踊家になった日本人青年についての話が紹介されており、参加者の多くは興味深く展示を見ていた。当館からは、国際友好交流促進のための献身と促進を称え、エドモンズ姉妹都市委員会に対して総領事表彰を行った。

【効果】

姉妹都市関係者や市の教育関係者と交流し、両市における日本のプレゼンスを高めることができた。



102 ワシントン州日本文化市民会館「文化の日」イベント (シアトル総領事館)

- 実施時期 2018年11月4日
- 実施場所 ワシントン州シアトル市
(ワシントン州日本文化市民会館)
- 関係機関 総領事館、ワシントン州日本文化市民会館
- 訴求対象 日系及びアジア系コミュニティの一般市民(子供を含む。)
- 開催規模 子供連れを中心に約620名



■概要・効果

【概要】

ワシントン州日本文化市民会館は、百年以上の歴史を有する全米最古の日本語学校であるシアトル日本語学校の校舎が母体となり、日本文化の継承及び日系移民史の保存を目的に2003年に設立された非営利団体。日本文化紹介行事や数々の講演会や歴史保存プロジェクト等が行える施設としては、現地日系コミュニティの中で唯一。「文化の日」イベントは、茶道、書道、太鼓、柔道、空手、紙芝居、着物展示、日本風カレー販売など、多彩な文化紹介を行ったほか、本年は、日本への観光をテーマに、日本文化等に関する写真展示や当館から貸出しを行ったDVDの放送が行われた。総領事館からは、JNTO作成観光パンフレットやJETプログラム、国費留学制度等の紹介パンフレットの配布・説明を行うとともに、上記テーマや主催者の求めに応じ、47都道府県の駅弁を紹介するパネル展示、四季折々の各県観光ポスターの展示、箸で豆や小さなおもちゃをつかみお椀に移すゲーム、箸置き作りなどを提供した。

【効果】

本イベントには、日系だけでなく、インド系や中国系など地元アジアコミュニティの一般市民が興味をもって参加するケースもあり、草の根レベルでの市民交流に大いに貢献している。総領事館ブースにも延べ300名近くの参加者があり、当該イベントを盛り上げ、参加者に日本文化を知ってもらう良い機会となった。

103 JETプログラム帰国者歓迎レセプション (シアトル総領事館)

■実施時期 2018年11月29日

■実施場所 シアトル総領事公邸

■関係機関 JETAA(元JET参加者の会)

■訴求対象 JETプログラム帰国者、元JET参加者、
日系人会、県人会、姉妹都市、
教育関係者

■開催規模 約70名

■概要・効果

【概要】

平成29年度及び30年度のJETプログラム帰国者を対象に、帰国を歓迎すると同時に現地在住のJET関係者や県人会等日系コミュニティの代表をはじめとする日米コミュニティメンバーとの交流を深めるレセプションを開催。

【効果】

帰国者が自身の日本での経験を思い思いに語り、会場は大いに盛り上がった。また、JETAAから同組織の取組について発表が行われ、同組織への加入を促した。



104 天皇誕生日祝賀レセプション(総領事表彰授与式含む) (シアトル総領事館)

■実施時期 2018年12月14日

■実施場所 シアトル総領事公邸

■関係機関 政府、日系人、企業関係者

■訴求対象 州政治関係者、有識者、
企業関係者(日系・当地)、
コミュニティ関係者、
メディア等

■開催規模 233名

■概要・効果

【概要】

平成最後の天皇誕生日祝賀レセプションの機会を捉え、地元日系コミュニティへの貢献及び日米関係促進への寄与があったとして、地元関係者3名に対し総領事表彰を授与。

●受賞者

・ミナ・ミラー氏(ピアニスト):「Music of Remembrance」(追悼の音楽)を設立し、ホロコースト、原爆、日系人の強制収容等、人種差別や偏見によって引き起こされた悲劇を、音楽を通じて人々の感情や思いに訴える活動を行ってきた。

・ダイアン・ナラサキ氏(Asian Counseling and Referral Service前事務局長):米国内のアジア・太平洋系コミュニティのニーズや権利拡大に尽力。

・スコット・オキ氏(オキ財団会長):第二次世界大戦中の日系人の強制収容史のデジタル化のために「デンショウ(伝承)」を設立。日系人のアイデンティティ及び日系人史の保護やその教育促進に尽力。

【効果】

集まった有力者を前に、受賞者の功績を紹介することで、日系人の歴史の重みが改めて共有されると同時に、それを前向きに未来志向に捉える受賞者の活動に一同から敬意が表された。



105 日本産木材製品シンポジウム (シアトル総領事館)

■実施時期 2019年1月16日

■実施場所 シアトル市内

■関係機関 (一社)日本木材輸出振興協会

■訴求対象 当地森林・林業・木材産業関係者
当地企業

■開催規模 約30名

■概要・効果

【概要】

木造住宅等の構造材や内装材等の日本産木材製品の認知度向上やブランド化を推進するため、日本の専門家等を講師に「日本産木材製品シンポジウム」を開催。小里泰弘農林水産副大臣が出席して挨拶を行い、今後の木材貿易における日本との更なる関係構築を呼びかけた。当館もイベントの周知を関係者に行った。

【効果】

日本から当地を訪問した専門家、林野庁関係者と当地木材産業関係者の交流及び意見交換を促進し、日本と米国の木材分野における協力について関係者間で議論することができた。また、日本の木材製品を紹介することで日本産業のプレゼンスを高めることができた。



106 「にっぽんの宝物」米国ツアー in シアトル
(シアトル総領事館)

■実施時期 2019年1月21日

■実施場所 ワシントン州シアトル市

■関係機関 株式会社アクティブラーニング

■訴求対象 食事業関係者、
インフルエンサー、メディア等

■開催規模 60名

■概要・効果

【概要】

日本国内地方の優れた食品、工芸品の生産者、事業者が異なる業態の事業者とコラボレーションし、米国各地で日本の産品を紹介する取組。

にっぽんの宝物食材として、高知県の①田野屋塩二郎の手作り塩、② 春田聖史のスイーツ、③矢野佳仁のジェラートの紹介及びそれらのコラボレーションに関するプレゼンテーションの後、当地中島正太シェフがこれらの食材を用いた料理を披露。

【効果】

会場は、イベントに参加した市民、直接の訴求対象である飲食業界関係者で埋め尽くされ、質の高い日本食品の試食を通じて自然や健康を重視する日本の食文化をアピールすることができた。また事後も、SNSやメディアを通じて当地市民に対し、イベントの成功と日本の良い地方産品をアピールすることができた。



107 AIイノベーションミートアップ行事 (シアトル総領事館)

■実施時期 2019年1月23日

■実施場所 シアトル総領事公邸

■関係機関 ワシントン州商務局、シアトル
大都市圏IT・AI企業

■訴求対象 ワシントン州政府、有識者、
IT関係者、メディア

■開催規模 約110名



■概要・効果

【概要】

日本からAI関連のミッション団が現地を出張した機会を捉え、交流行事を開催。当地の米国スタートアップ企業10社より、参加したテレコムサービス協会及びその他会員企業含む日本企業20社に対してAI製品・プログラムについてのプレゼンテーションがなされた後、総領事館主催のレセプションを開催し、州商務局長官代理の挨拶の後、日本企業と現地企業の交流や意見交換が盛んに行われた。

【効果】

本件は、2018年6月に延長された日本とワシントン州の協力覚書に基づくイベントとして、州政府の高い関心を引き寄せ、州政府高官が参加。

ワシントン州からの投資・コンサルタント企業が参加し、将来的な日・ワシントン州間のビジネスに関する支援可能性について関心を高めることにつながった。

今後のIT分野におけるワシントン州内での日本企業との協力促進に寄与した。

108 シアトル関空線就航記念・関空復興支援イベント (シアトル総領事館)

■実施時期 2019年2月28日

■実施場所 ワシントン州シアトル市

■関係機関 デルタ航空、JNTOロス事務所

■訴求対象 ビジネス関係者、旅行代理店、
メディア関係者、一般市民等

■開催規模 100名

■概要・効果

【概要】

デルタ航空が4月1日からシアトル関空線を就航するのに伴い、シアトル総領事公邸において記念レセプションを開催。

【効果】

関西方面に関係先を有する企業関係者や旅行代理店、メディア関係者等に対し、シアトルから関西方面への利便性向上をアピールした。また、当地日本人寿司職人による実演、日本酒の試飲などを通じて、日本食・日本酒の普及促進を行った。

特に日本酒のコーナーでは関西方面の日本酒を紹介するとともに、ポスター掲出やJNTOロサンゼルス事務所によるプレゼンテーションにより、関西を含む西日本方面の観光地をPRすることで、2018年9月の台風21号による復興支援・風評被害対策に資する取り組みとなった。



109 歩こうアメリカ、語ろう日本(第4団)
(シアトル総領事館)

■実施時期 2019年3月3日～3月4日

■実施場所 モンタナ州ミズーラ市

■関係機関 モンタナ大学、Montana World Affairs Council

■訴求対象 大学・高校生、ビジネス関係者、地元有力者、
一般米国人他

■開催規模 約400名
(日本語クラス訪問:計約50名、World Quest:約350名)

■概要・効果

モンタナ大学日本語クラス(初級・上級)での講演及びMontana World Affairs Councilと共催した全モンタナ州規模の高校生クイズ大会(World Quest)の一部に参加。山田総領事の講演に加え、伝統文化、ビジネス、科学技術分野等に関する日本の強みを発信した。

モンタナ大学では、日本への留学や日本での就職についての強い関心もあり、参加者と活発な議論を行うことができた。World Questでは主催者が事後に行ったアンケートで、全プログラムで最も素晴らしい内容であったとの評価を受け、ほぼ全参加チームから5点満点中5点の得点を得た。



110 ひな祭りイベント(於:武庫川女子大学スポケーン分校) (シアトル総領事館)

■実施時期 2019年3月5日

■実施場所 ワシントン州スポケーン市
武庫川女子大学スポケーン分校

■関係機関 武庫川女子大学スポケーン分校

■訴求対象 地元の小学校、スポケーン
市教育関係者、スポケーン
西宮市姉妹都市関係者

■開催規模 約500名

■概要・効果

【概要】

1920年代後半に、親日家の宣教師・S.L.ギューリック博士の提唱によって日米親善を図るために始まった「人形交流」を受け継いで、16年前から武庫川女子大学スポケーン分校のひな祭りイベントで地元の小学校に日本人形を贈呈している。これを通して地元小学校との交流を図るだけでなく、姉妹都市関係者や市の教育関係者と交流し、スポケーンにおける日本のプレゼンスを高める。

【効果】

約500名が参加する大規模行事となり、賑やかな会場で地元の小学校に日本人形が贈呈された。また、小学校の生徒が日本語を交えて歌を歌い、会場は大いに盛り上がった。

武庫川女子大学の学生が動画等を用いてひな人形を説明し、日本の伝統文化や日本人形を通じた日米友好活動・交流の歴史を知ってもらう良い機会となった。



111 北西部ジャパンボウル (シアトル総領事館)

■実施時期 2019年3月16日

■実施場所
ワシントン州ヴァンクーバー市

■関係機関
総領事館、オレゴン州日米協会、
ワシントン州日本語教師会

■訴求対象
オレゴン州、ワシントン州で日本語を
学習する高校生

■開催規模 約100名

■概要・効果

【概要】

ワシントン州、オレゴン州の高校生が3人1グループで出場する日本語や日本の知識に関するクイズ大会。2つのレベルに分かれて競い合い、高いレベルの優秀チームには4月13日、14日にワシントンDCで開催される全国大会への参加権が与えられた。

シアトル総領事館からブースを出展し、JETプログラム及び国費留学に関する情報提供を実施。その他、日本(語)プログラムを提供する大学がブースを設置した。参加者が日本文化に触れられるようにと習字や日本伝統音楽のパフォーマンスも披露された。

【効果】

日本語能力だけでなく政治、経済、文化、文学など日本に関する知識を競うクイズ大会となり独創性に溢れる回答も見られ、会場は大いに盛り上がった。参加者からは内容に満足したとの感想が多く寄せられた。また、日系団体・企業関係者の協力も得たことでコミュニティ全体で日本語学習をサポートしていくことの重要性を認識する有意義な機会となった。



112 第36回ワシントン州日本語スピーチ・スキットコンテスト (シアトル総領事館)

■実施時期 2019年3月29日

■実施場所
シアトル市チーフセルス国際高校

■関係機関 兵庫県ワシントン州事務所
ワシントン州日米協会
ワシントン州日本語教師会
総領事館

■訴求対象 ワシントン州で日本語を学習
する高校生

■開催規模 約60名

■概要・効果

【概要】

ワシントン州内で日本語を学習する高校生を対象に、3人1組で参加するスキット部門、スピーチ部門に分かれた日本語のコンテストを実施（各部門の中でもレベル分けを行う）。スピーチコンテストの最も高いレベルの優勝者には、ワシントンDCで開催される全国大会への出場権及び、日本への短期研修の機会が与えられる。シアトル総領事館から館員が審査員を務めるとともに、参加者に対しJETプログラム及び、国費留学の説明を行った。

【効果】

参加者の多くが創造性豊かなパフォーマンスで会場を盛り上げた。普段日本語学習に一生懸命取り組む学生の学習意欲を高める機会になったと思料。

また、日本語の教員が集まり情報交換や意見交換を行う貴重な機会ともなった。



113 アジアン・ポップアップ・シネマにおける日本映画上映 (シカゴ総領事館)

- 実施時期 2018年4月～11月
- 実施場所 イリノイ州シカゴ市内及び近郊
- 関係機関 非営利団体「Sophia's Choice」
- 訴求対象 シカゴ市近郊の日本文化及び映画に関心を有する一般市民
- 開催規模 延べ約800名



■概要・効果

【概要】

映画賞受賞作品を中心にアジア各国の映画を順次上映する「アジアン・ポップアップ・シネマ」の枠内で、以下の日本映画6本を上映するとともに、主演俳優や監督とのパネル・ディスカッションを実施した。

- 松本准平監督「パーフェクト・レボリューション」
- 三島有紀子監督「幼な子われらに生まれ」
- 坂下雄一郎監督「東京ウィンドオーケストラ」
- 行定勲監督「アジア三面鏡」
- 濱口竜介監督「ハッピーアワー」
- 上田慎一郎監督「カメラを止めるな！」

【効果】

米国の西海岸や東海岸と異なりアジア系住民が少ない中西部において日本映画を上映し、俳優や監督等とのパネル・ディスカッションを行うことにより、一般市民の対日理解を促進するとともに、日本に対する関心全般を高めることにつながった。

いずれの日本映画についても、観客の反応は概ね良好で、とりわけ主演俳優である濱津隆之氏がシカゴを訪問し、当地映画専門家とディスカッションを行った11月14日の「カメラを止めるな」の上映には多数のファンが訪れ、当地における日本コンテンツの促進にも大きく貢献するイベントとなった。



114 地方キャラバン インディアナ州ウエスト・ラファイエット市 (シカゴ総領事館)

■実施時期 2018年5月2日

■実施場所 インディアナ州ウエスト・ラファイエット市

■関係機関 国務省、州政府、ウエスト・ラファイエット市、
インディアナ経済開発公社、インディアナ地域進出の日系企業、
教育関係者、インディアナ日米協会、パデュー大学、
各市町村関係者、JETROシカゴ、JETROニューヨーク

■訴求対象 州・連邦政府関係者、
ウエスト・ラファイエット市地域住民、ビジネス・教育関係者

■開催規模 70名

■概要・効果

【概要】

2日、パデュー大学で、労働力開発セミナー及び
ネットワーキング・レセプションを開催した。インディアナ州労働開発局長、
インディアナ経済開発公社社長、スバル副社長等が参加し、労働力開発
の現状と課題についてパネルディスカッションをし、日本とインディアナ州
の更なる関係強化を促した。

セミナーに先立ちスバル・オブ・インディアナ・オートモーティブ社を訪問
し、パデュー大学の分校となっている研修所を見学した。

【効果】

今回は日米経済対話の一環として取り上げられていた「労働力開発」を
テーマにセミナーを行った。日系企業及び地元の関係者が一体となって
具体的な課題を共有し議論した。

インディアナ経済開発公社、州政府、パデュー大学をはじめとする関係
機関の多大な協力を得た。

当日は地元メディアより本官へのインタビューも行われセミナーの様
とともに地元紙で報じられた。



115 アニメ・セントラルにおける日本文化紹介 (シカゴ総領事館)

- 実施時期 2018年5月18日～20日
- 実施場所 イリノイ州ローズmont市
(ハイアット・リージェンシー・オヘア)
- 関係機関 中西部アニメ促進協会
- 訴求対象 アニメ、ポップカルチャーに関心を有する米国中西部の一般市民
- 開催規模 延べ約91,000名

■概要・効果

【概要】

1998年から毎年開催されている米国中西部最大の日本アニメ、マンガ、ポップ・カルチャーのコンベンション「アニメ・セントラル」の開会式において総領事が挨拶を行った。

また、会場内に総領事館ブースを設置して鎧兜の試着体験と日本紹介を行うとともに、新海誠監督のアニメ映画「言の葉の庭」の上映会を実施した。

【効果】

米国中西部各地から、若年層を中心に過去最大規模の来場者が訪れ、総領事館ブースにも人集りができるほどであった。アニメ映画の上映会にも多くの観衆が集まり、好評であった。

イベントを通じて、若年層を中心とした来場者の対日関心領域を広げるとともに、次世代の知日派・親日派の形成につながった。



116 第12回フォートウェイン桜祭りの機会における桜の寄贈
(シカゴ総領事館)

■実施時期 2018年5月20日

■実施場所 インディアナ州フォートウェイン市
(アレン郡公立図書館)

■関係機関 インディアナ日系人協会

■訴求対象 インディアナ州北東部の日本に
関心を有する一般市民

■開催規模 約10,000名

■概要・効果

【概要】

毎年約1万人が訪れる現地日系人団体主催のフォートウェイン桜祭りは、「桜祭り」と銘打っているものの、市内に桜の木は存在しないとの関係者の話を受け、現地の気候に適した桜の苗木を総領事館にて独自に調達し、桜祭りの機会を捉えて同市に寄贈した。

桜祭り開会式では、200名以上の聴衆が集まる中、ヘンリー市長の挨拶と「桜祭りの日」宣言に続いて総領事が挨拶を行った。続いて、約150名の観衆と地元TV局が見守る中、桜祭りの会場である図書館前にて総領事とヘンリー市長による植樹式を実施。

会場で総領事が地元TV局3社から受けたインタビューの様子は同日夕刻のニュースで放映された。

【効果】

米国中西部有数規模の日本祭の機会に日本を象徴する桜の苗木を寄贈するという象徴的な出来事が、集まった地元市民や地元メディアの多くの注目を集めるところとなり、日本とフォートウェイン市の友好関係を効果的にアピールするとともに、日本企業の地元経済への貢献を含めた肯定的なメッセージを発信する良い機会となった。



117 東部ノースダコタ州との関係強化(意見交換・日系企業訪問) (シカゴ総領事館)

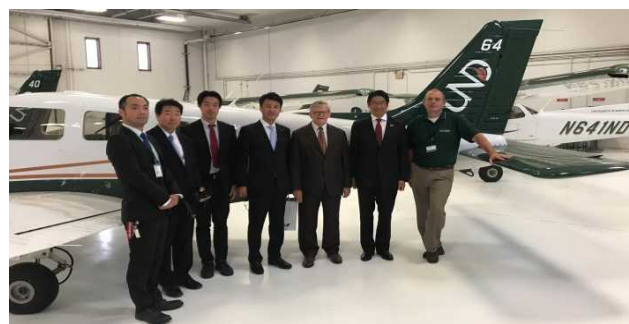
■実施時期 2018年5月30日～31日

■実施場所 ノースダコタ州ファーゴ市、
グランドフォークス市

■関係機関 クレイリー社、ノースダコ
タ州立大学、ノースダコタ大学、ミ
ネソタ州立大学ムーアヘッド校、コ
ンコルディア・ランゲージ・ビレッジ

■訴求対象 市長、州議会議員、
大学学長、その他教育関係者

■開催規模 20名(全行程あわせて)



■概要・効果

【概要】

州議会議員等と共に日系企業クレイリー社(ウエスト・ファーゴ市、農業機器製造)を訪
問し、工場見学及び日本企業の投資の現状に関する説明を行った。

グランドフォークス市長(沖縄の高校を卒業)に面会し、市長の案内で日本庭園を訪れ
た。

ノースダコタ州立大学を訪問し、学長を始めとする関係者との意見交換を行った。

東海大学や全日空と提携関係にあるパイロット養成施設を有するノースダコタ大学を
訪問し、学長を始めとする関係者との意見交換を行ったほか、同施設の見学や日本人
学生への激励を行った。

ファーゴ市に隣接するミネソタ州ムーアヘッド市のミネソタ州立大学ムーアヘッド校及び
コンコルディア・ランゲージ・ビレッジの関係者と、日本との学術交流に関して意見交換を
行った。

【効果】

グランドフォークス市長、ノースダコタ州立大学・ノースダコタ大学の学長等との意見交
換を通して、同州への日系企業の貢献や学術交流の重要性を説明した。

クレイリー社訪問には州議会議員等も参加し、工場見学を行った後、同州への日系企
業の貢献及び今後の関係強化の重要性を説明した。日系企業及び地元関係者が一体と
なって具体的な課題を共有することができた。

ノースダコタ州関係者の日本との関係強化の意欲を強く感じた。

118 シカゴ日本祭 (シカゴ総領事館)

- 実施時期 2018 年6月2日～3日
- 実施場所 イリノイ州アーリントン・ハイツ市
- 関係機関 シカゴ日本祭共同実行委員会
(シカゴ日米評議会、シカゴ日本人会、
シカゴ日本商工会議所他)
- 訴求対象 イリノイ州シカゴ近郊の日本
文化に関心を有する一般市民
- 開催規模 約7,400名

■概要・効果

【概要】

シカゴ圏最大規模の日本祭において日本の伝統文化からポップ・カルチャーに至る幅広い日本文化紹介を実施。

特に今回は「沖縄」をテーマとして、沖縄の伝統文化(三味線、エイサー踊り、沖縄伝統音楽、獅子舞、沖縄空手等)の紹介やブースでの沖縄民芸品・特産品の紹介を行ったほか、英語落語の公演を実施。

総領事館からは、開会式にて総領事が挨拶を行ったほか、会場内にブースを設置して鎧兜の試着体験や沖縄紹介等を実施。

【効果】

新たな試みとして沖縄を集中的にフィーチャーするとともに、一つの目玉として英語落語家・桂サンシャイン氏を招いて講演会を実施するなどの工夫が日本祭に目新しさをもたらし、前年の1.5倍以上の人々が来場。

日本祭は、シカゴ大都市圏における草の根レベルの対日理解の促進と親日感の醸成に寄与するとともに、沖縄の魅力発信と対日観光促進にも大きく貢献。



119 シカゴ・大阪姉妹都市提携45周年記念行事 (シカゴ総領事館)

- 実施時期 2018年6月6日～7日
- 実施場所 イリノイ州シカゴ市内各所
- 関係機関 大阪市、シカゴ姉妹都市
インターナショナル大阪委員会
- 訴求対象 姉妹都市・日米交流関係者、
日系企業関係者、学術・文化
関係者、一般市民
- 開催規模 延べ約470名

■概要・効果

【概要】

シカゴ市北ミシガン通りと大阪市御堂筋通りを姉妹ストリートとする協定書に両市長が署名する調印式を実施。併せて、総領事から万博誘致キャラクターの人形をエマニュエル・シカゴ市長に贈呈。

続いて、大阪市から招いたチンドン屋の先導の下、吉村市長はじめ大阪市代表団、姉妹都市・日米交流関係者、一般市民等がミシガン通りをパレード行進。

また、吉村市長とリヴキン・シカゴ副市長の参加の下、大阪・シカゴ両市の関係者等を招いた大規模レセプションを開催。レセプションでは、和食、大阪・関西の日本酒、日本産ウイスキー等を提供するとともに、2025年の万博誘致及び大阪の啓発グッズ・パンフレット等を積極的に配布。

【効果】

シカゴ・大阪両市長の出席の下、市内中心部で開催された記念行事を通じて、日本(大阪)とシカゴとの友好関係を人々に強く印象付けるとともに、2025年の万博誘致に向けて大阪・関西の魅力を効果的に発信した。



120 草の根キャラバン ネブラスカ州デービッドシティ市 (シカゴ総領事館)

■実施時期 2018年6月19日

■実施場所 ネブラスカ州デービッドシティ市

■関係機関 州政府、地元日系企業、
ネブラスカ大学リンカーン校

■訴求対象 州知事、州政府関係者、
州議会議員、ビジネス・教育関係者

■開催規模 50名 (全行程あわせて)

■概要・効果

【概要】

キューピーの子会社、ヘニングセン・フーズを訪問し、草の根キャラバンを実施。リケッツ知事や州議会議員等と同工場を視察。

工場敷地内において、昨年の知事訪日の成果の一つとして、キューピーとネブラスカ大学リンカーン校との協力に関して発表があり、知事や大学関係者、地域のビジネス関係者等と新たな連携の始まりを祝福。

【効果】

2018年9月に第50回の日米中西部会をホストするネブラスカ州で、イリノイ州・インディアナ州以外で初となる草の根キャラバンを実施。

ネブラスカ州と日本の関係を象徴する食品関連企業を訪問先としたことにより、日ネブラスカ間の貿易・投資関係に対する参加者の理解を深めることができた。

知事の参加も得られたことで、参加者の関心も高まるとともに、メディアの注目も高まり、より効果的に日系企業の貢献等について発信を行うことができた。



121 草の根キャラバン インディアナ州シーモア市 (シカゴ総領事館)

■実施時期 2018年7月9日

■実施場所 インディアナ州シーモア市

■関係機関 シーモア市、
インディアナ経済開発公社、州政府、
シーモア地域進出の日系企業、
インディアナ日米協会、JETROシカゴ

■訴求対象 州・連邦政府関係者、
シーモア地域住民、ビジネス・教育関係者

■開催規模 50名（全行程あわせて）

■概要・効果

【概要】

9日、日系企業シーモア・チュービングの工場を視察。地元の日系企業及び市長、州政府の参加を得て昼食を兼ねた経済サミットを実施し、日本とインディアナ州の更なる関係強化を促した。その後ホルコム知事の公邸にて杉山大使と面談を行った。

【効果】

今回は6度目となるインディアナ州でのキャラバン実施となり、シーモア市のビジネス関係者に地元の日系企業の活躍及び地域コミュニティとの良好な関係について理解を深めてもらうよい機会となった。

杉山大使の参加も実現し、日米経済関係の重要性を強調することができた。

当館管轄内で最も日系企業の雇用が多い同州で、州政府をはじめ、地域経済開発公社や市等の関係機関の多大な協力の下、キャラバンを開催。

当日は地元メディアより大使及び本官へのインタビューも行われ地元紙で大きく取り上げられた。



122 草の根キャラバン イリノイ州シャンバーグ村 (シカゴ総領事館)

■実施時期 2018年7月10日

■実施場所 イリノイ州シャンバーグ村

■関係機関 シャンバーグ村、州政府、
インターセクトイリノイ、イリノイ製造業組合、
シャンバーグ地域進出の日系企業、
シカゴ日本商工会議所、教育関係者、JETROシカゴ

■訴求対象 州政府関係者、
シャンバーグ地域住民、ビジネス・政治・教育関係者

■開催規模 60名（全行程あわせて）

■概要・効果

【概要】

村内の日系企業数が70を超えるシャンバーグ村にて草の根キャラバンを実施。サンスター・アメリカ及びアマダ・アメリカを訪問し、アマダ・アメリカ社ではラウナー知事が参加して、同社製品の見学及び昼食会を実施。その後、労働力開発プログラムが充実しているハーパー・カレッジの視察と日系企業とも取引のあるPM Mold社を訪問した。

【効果】

今回は4度目となるイリノイ州内でのキャラバン実施となり、日系企業の多いシャンバーグ地域のビジネス関係者に地元の日系企業の活躍及び地域コミュニティとの良好な関係について理解を深めてもらうとともに、地元の方々との関係構築ができた。

ラウナー知事の2度目のキャラバン参加及び杉山大使の参加も実現し、日米経済関係の重要性を強調できた。

当日はコミュニティカレッジのメディアに取り上げられるとともに、州政府のプレスリリースも発出されたことにより、参加者以外へも広く発信することができた。



123 スペシャルオリンピックス(SO)関係者レセプション (シカゴ総領事館)

- 実施時期 2018年7月18日
- 実施場所 イリノイ州エバンストン市
- 関係機関 SO日本、SO国際本部、
SO イリノイ支部及びシカゴ支部
- 訴求対象 イリノイ州内及び本邦の
SO関係者
- 開催規模 85名



■概要・効果

【概要】

7月17日～20日にSO(シカゴ発祥の知的障害者のための国際スポーツ大会)50周年記念ユニファイド・サッカー大会が当地で開催され、本邦から男子サッカーチーム選手団とともにSO日本幹部(三井嬉子会長等)及びゲスト(中田英寿グローバル・アンバサダー等)等が関連行事に参加。この機会を捉え、日本代表団及び当地SO関係者等を招いた総領事主催のレセプションを実施。



【効果】

レセプションには、日本選手団、SO日本幹部及びゲスト、当地SO関係者等85名が参加し、シュライバー・SO国際本部会長(SO創始者である故ケネディ大統領の妹の息子)等が挨拶を行ったほか、1968年の第1回大会を実現した立役者バーク・イリノイ州最高裁判事及びその夫のバーク・シカゴ市議会議員も姿を見せた。関係者からは、レセプションの開催を含め、SOへの日本の積極的な関与に対して謝辞と期待が述べられ、ネットワーキングと日本選手団の激励の双方において有意義なイベントとなった。

124 アンダーソン日本庭園夏祭り (シカゴ総領事館)

- 実施時期 2018 年7月28日
- 実施場所 イリノイ州ロックフォード市
- 関係機関 アンダーソン日本庭園
- 訴求対象 イリノイ州西部及び近郊の
日本及び日本文化に関心を
有する一般市民
- 開催規模 約1,000名

■概要・効果

【概要】

北米屈指の日本庭園で行われるアンダーソン日本庭園夏祭りにおいて、茶室での茶道体験、合気道デモンストレーションや阿波踊りの実演・体験を含む総合的な日本文化紹介を実施。

総領事館からは、総領事ほか館員が茶会に参加したほか、会場に総領事館ブースを設置して鎧兜の試着体験や広報資料・パンフレットの配布を通じた日本紹介を実施。

【効果】

夏祭りは、イリノイ州西部の普段日本との関わりが少ない一般市民が直接日本文化に触れる機会を提供し、草の根レベルの対日理解の促進と親日感の醸成に寄与するイベントとなった。

阿波踊りの実演では、来場者自らが踊りに参加して大きな盛り上がりを見せたほか、総領事館ブースにも多くの人々が立ち寄り、鎧甲を試着して様々なポーズで写真に収めるなど、多くの来場者が日本文化体験を楽しむ良い機会となった。



125 日本吟剣詩舞振興会創立50周年記念公演・ワークショップ (シカゴ総領事館)

■実施時期 2018年7月28日～29日
■実施場所 イリノイ州シカゴ市
(シカゴ現代美術館、
総領事館広報文化センター)

■関係機関 日本吟剣詩舞振興会
シカゴ日本商工会議所、
「司太鼓」他

■訴求対象 イリノイ州シカゴ近郊の日本
文化に関心を有する一般市民

■開催規模 約450名

■概要・効果

【概要】

2018年の日本吟剣詩舞振興会創立50周年を記念して、振興会幹部・パフォーマー等総勢約80名の代表団がシカゴを訪問し、シカゴ現代美術館において「司太鼓」とのコラボによる無料公演を行ったほか、振興会の若手精鋭スーパーチームがコマツ柔道大会の会場でのパフォーマンスと総領事館広報文化センターでのワークショップを実施。50周年公演では総領事が挨拶を行った。

【効果】

記念公演では、300席近くある現代美術館の会場がほぼ満席となったほか、総領事館広報文化センターのワークショップには50名近くの一般市民が集まり、吟詠・剣舞・詩舞を自ら体験し、多くの参加者に強いインパクトを与えるイベントとなった。

吟詠・剣舞・詩舞を海外に広めたいとの振興会の意向を踏まえ、総領事館と当地関係団体との協力の下、米国中西部の草の根の一般市民に対して日本の伝統芸能を効果的に発信することができた。



126 甲府市デモイン市姉妹都市提携60周年記念式典
(シカゴ総領事館)

■実施時期 2018年8月16日

■実施場所 アイオワ州デモイン市
(デモイン・シビック・センター)

■関係機関 アイオワ日米協会

■訴求対象 アイオワ州の日米交流
関係者及び一般市民

■開催規模 約40名

■概要・効果

【概要】

山梨県甲府市とアイオワ州デモイン市との姉妹都市提携60周年を祝してデモイン市において記念式典を開催。

式典では、コーニー・デモイン市長及び総領事が挨拶を行ったほか、和太鼓の演奏や獅子舞が披露され、式典を盛り上げた。

【効果】

記念式典は、大変友好的な雰囲気の下で行われ、長年にわたり活発に行われている甲府市とデモイン市との交流が、市民レベルで深く根付いていることを印象付けるとともに、両市の交流の更なる発展に向けた期待を感じさせるものとなった。

また、姉妹都市交流の節目となる年にアイオワ州の日米交流関係者が一堂に会し、相互の連携を強化する機会となった。



127 ミネソタ灯籠祭 (シカゴ総領事館)

- 実施時期 2018年8月19日
- 実施場所 ミネソタ州セントポール市
(コモ・パーク)
- 関係機関 ミネソタ日米協会
- 訴求対象 ミネソタ州及び近隣の
日本及び日本文化に
関心を有する一般市民
- 開催規模 約10,000名

■概要・効果

【概要】

コモ・パークで毎年開催されているミネソタ州最大の日本関連イベントである灯籠祭において、ステージ・パフォーマンスや日本文化体験に加え、イベントのハイライトとして日本のお盆の風習に因んだ灯籠流しを実施。

開会式ではメルビン・カーター・セントポール市長及び総領事が挨拶を行った。

【効果】

普段日本との関わりが薄い米国中西部の一般市民が直接日本文化に触れる機会を提供し、草の根レベルでの対日理解の促進と親日感の醸成に寄与するイベントとなった。米国中西部で灯籠流しを行う日本祭は少ないが、ミネソタ州最大規模の灯籠流しで、日本の夏を体験できる貴重な機会として多くの来場者が祭りを楽しむ姿が見られ、日本の魅力を効果的に発信するものとなった。

また、開会式でのセントポール市長及び総領事の挨拶は、日本とミネソタ州、及び、1955年来の姉妹都市であるセントポール市と長崎市との友好関係を効果的にアピールするものとなった。



128 草の根キャラバン ミネソタ州ハッチンソン市
(シカゴ総領事館)

■実施時期 2018年8月20日

■実施場所 ミネソタ州ハッチンソン市

■関係機関 ハッチンソン市、地元商工会、
州政府関係者、コミュニティ・カレッジ、高校、
地元企業、日米協会、JETROシカゴ

■訴求対象 州政府関係者、
地域行政関係者、ビジネス・教育関係者

■開催規模 30名

■概要・効果

【概要】

20日、「ミネソタの製造業都市」と呼ばれるハッチンソン市において、日系企業を含む地域の企業や商工会、市、教育機関等が連携して取り組む製造業分野の労働力開発について、拠点となる教育機関等を見学した。

高校から幅広い進路相談に乗ることができる体制を築き、特に製造業に必要な技能がスムーズに習得できるよう、地域一体となって取組が工夫されていた。

【効果】

ミネソタ州で初の草の根キャラバンを実施。

中西部各地で課題となっている労働力開発について、必要な技能を持った労働力の開発に地域ぐるみで取り組む同市を訪問し、取組の鍵となる関係者と関係構築できたことは有意義であった。

また、日本企業の投資意欲が高まっていることについても紹介し、日本からの投資に対する関心を高めることができた。

地元メディアを通じ、今次訪問の意義、日ミネソタ関係発展への期待について発信することができた。



129 庭師・武内知里氏による講演及びワークショップ (シカゴ総領事館)

- 実施時期 2018年8月22日～23日
- 実施場所 イリノイ州シカゴ市及びロックフォード市
- 関係機関 シカゴ公園管理局、シカゴ日米協会、アンダーソン日本庭園
- 訴求対象 庭園管理者・庭園スタッフ、一般市民
- 開催規模 約90名

■概要・効果

【概要】

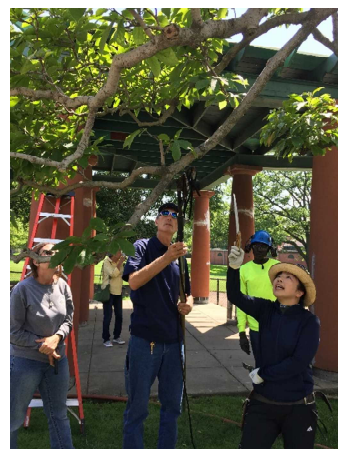
日本ブランド発信事業として、造園家・武内知里氏を派遣して、シカゴ公園管理局の庭園管理者・スタッフ等を対象として、日本庭園に関する講演を行うとともに、剪定のデモンストレーションを実施。

また、シカゴ日米協会及びアンダーソン日本庭園において一般市民を対象として、日本庭園に関する講演を行うとともに、現地で調達した身近な資材を用いてミニ枯山水の作庭デモンストレーションを実施。アンダーソン庭園では、一般市民がミニ枯山水の作庭に挑戦するワークショップも実施。

【効果】

シカゴ公園管理局向けに行った剪定のデモンストレーションは、日本の庭園技術を実践的な形で示すものとして大きな反響があった(武内氏が剪定を行った木には説明プレートが掲げられ、ウォーキング・ツアーの見学スポットとなった。)

日米協会及びアンダーソン日本庭園でのイベントは、草の根の一般市民が日本庭園に関する基本的な知識を得るとともに、日本庭園の魅力について認識を新たにする機会を提供し、日本庭園を通じた日本文化の発信につながった。



130 第42回セントルイス日本祭及び忍者・浮田知義氏派遣 (シカゴ総領事館)

- 実施時期 2018年9月1日～3日
- 実施場所 ミズーリ州セントルイス市
(ミズーリ植物園)
- 関係機関 セントルイス日本祭実行委員会、
(セントルイス日米協会、日系米国人市民同盟
諏訪セントルイス支部、セントルイス日本人会、
諏訪国際フレンドシップ委員会等)
- 訴求対象 ミズーリ州近隣の日本及び日本
文化に関心を有する一般市民
- 開催規模 約36,700名
- 概要・効果

【概要】

近郊諸州から例年3万5千人以上が来場する米国中西部最大のセントルイス日本祭において、チンドン屋、諏訪太鼓等の実演、盆栽・生け花・茶道・書道、各種日本武道等の実演・ワークショップ等を通じて、伝統芸能を中心に総合的な日本文化紹介を実施。

また、日本ブランド発信事業として伊賀忍者・浮田知義氏等を派遣し、忍者に関する講演と忍術の実演を実施。日本祭開会式ではクルーソン・セントルイス市長と総領事等が挨拶を行った。

【効果】

普段日本との関わりが薄い米国中西部の一般市民が直接日本文化に触れる機会を提供し、草の根レベルでの対日理解の促進と親日感の醸成に大きく寄与するイベントとなった。特に前提知識なく、誰もが楽しめる形で日本の伝統を紹介する忍者の講演・実演は大きな反響があり、日本の魅力を効果的に発信するものとなった。

また、開会式でのセントルイス市長及び総領事の挨拶を通じて、日本とミズーリ州との友好関係を効果的にアピールするとともに、日本祭の開催を通じて現地の日本関連諸団体を含めた日米交流のネットワーク強化を図ることができた。



131 東村山市・インディペンデンス市姉妹都市提携40周年記念式典 (シカゴ総領事館)

- 実施時期 2018年9月2日
- 実施場所 ミズーリ州インディペンデンス市
- 関係機関 東村山市、インディペンデンス市、
東村山市国際友好協会
- 訴求対象 東村山市代表団、姉妹都市関係者、
現地ホスト・ファミリー
- 開催規模 約100名

■概要・効果

【概要】

両市の間では、1978年の姉妹都市提携以来、毎年学生交流を行っているほか、5年に一度、一般市民の相互訪問を行うなど、活発な交流が継続。

今般、姉妹都市提携40周年を記念して渡部市長夫妻、伊藤市会議長等に加え、一般参加者を含む東村山市代表団がインディペンデンス市を訪問し、ウェイア現市長、ライマル前市長夫妻、ポッツ元市長夫妻ほか姉妹都市関係者及びホスト・ファミリーが参加する記念式典を開催。総領事が来賓挨拶を行ったほか、トルーマン第33代大統領の孫である作家のクリフトン・トルーマン氏が千羽鶴の佐々木禎子の親族との交流に触れつつ、平和をテーマとした基調講演を行った。

【効果】

記念式典は大変友好的な雰囲気の下で行われ、長年にわたり活発に行われている両市の交流が市民レベルで深く根付いていることを印象付け、交流の更なる発展に向けた期待を感じさせるものとなった。トルーマン氏の基調講演は、一貫して「平和」をテーマとしている両市の交流の意義を再確認する良い機会となった。



132 イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校日本館設立20周年記念イベント及び夏祭り（シカゴ総領事館）

- 実施時期 2018年9月8日～9日
- 実施場所 イリノイ州アーバナ市
- 関係機関 イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校日本館
- 訴求対象 イリノイ州南部の日本及び日本文化に関心を有する一般市民
- 開催規模 約6,500名

■概要・効果

【概要】

イリノイ州南部のイリノイ大学アーバナ・シャンペーン校にある「日本館」の設立20周年を記念し、同校大講堂及び日本館において、一般市民を対象に茶道（裏千家幹部が参加）、和太鼓、飴細工等の実演を含む包括的な日本文化紹介を実施。

20周年記念イベントの開会式において総領事が挨拶を行ったほか、夏祭り会場に総領事館ブースを設置して鎧兜の試着体験や資料・パンフレット等の配布を通じた日本紹介を実施。

【効果】

イリノイ州南部の普段日本との関わりが少ない一般市民が直接日本文化に触れる機会を提供し、草の根レベルの対日理解の促進と親日感の醸成に寄与するイベントとなった。とりわけ、太鼓演奏、飴細工の実演といったパフォーマンスに興味深く見る人たちも多く、効果的な日本文化発信を行うことができた。



133 日本・米国中西部会第50回合同会議
(シカゴ総領事館)

■実施時期 2018年9月9日～11日

■実施場所 ネブラスカ州オマハ市

■関係機関 日米中西部会事務局、
各州政府、経済開発公社、JETRO

■訴求対象
州政府、ビジネス関係者

■開催規模 400名(全行程あわせて)

■概要・効果

【概要】

第50回となる日本・米国中西部会合同会議
をネブラスカ州オマハ市で開催。

過去最大となる8州から米国側知事が参加し、日本側3県知事及び1副
県知事やビジネス関係者約400人とインフラ、イノベーション・技術、貿易
投資等に関する意見交換を行った。

なお、レセプションではホストであるリケッツ知事を公邸に招いた際に提
供した日本酒「Cowboy」が茂木キックマン名誉会長の乾杯用として使わ
れた。

【効果】

50回という節目の会議が盛大に行われ、日本と米国中西部の緊密な関
係を発信するのに非常によい機会であった。ハイレベルの参加も多く得ら
れたため、メディアの関心も高く、その点でも有効な発信機会となった。

ネブラスカを代表する農産品である牛肉と合うものとして、乾杯用の日
本酒が紹介され、参加した多くの方にPRすることができた。



134 シカゴ・グルメ等における和食・日本酒紹介事業 (シカゴ総領事館)

- 実施時期 2018年9月29日～10月1日
- 実施場所 イリノイ州シカゴ市(ミレニウム・パーク)
同州エヴァンストン市(総領事公邸)
- 関係機関 イリノイ・レストラン協会、
JETROシカゴ事務所
- 訴求対象 飲食業界関係者(レストラン・ホテル・
卸売業界関係者等)、メディア関係
者(フード記者、トラベル・ライター等)、
食に関心を有する一般市民
- 開催規模 約11,000名

■概要・効果

【概要】

11回目を迎えるシカゴ圏最大の食の祭典「シカゴ・グルメ」に和牛専門家として名高い千葉祐士社長を招き、エマニュエル・シカゴ市長等とともに開会式に出席したほか、会場内日本ブースでのプロモーション、会場内特設ステージでの講演・実演、総領事公邸での和牛を使った料理と日本酒の紹介イベントを通じて和牛を含めた和食と日本酒の魅力につき様々な形で発信。

また、日本ブースでは和食紹介・観光パンフレットに加え、当地和食レストランによる試食品と当地食品関係日本企業の提供による調味料・菓子・日本茶等の試供品を無償配布。

【効果】

和牛専門家による講演・実演やブースでのプロモーション、和牛・日本酒紹介イベントを通じて、シカゴ圏での和牛や日本酒に対する理解を深めることができた。また、観光と食に関するパンフレット配布、和食の試食品・各種試供品の無償提供は多くの来場者の関心を惹きつけ、和食の魅力や観光地としての日本の魅力の効果的な発信につながった。



135 歩こうアメリカ、語ろうニッポン(第1団) (シカゴ総領事館)

■実施時期 2018年10月2日～ 10月3日

■実施場所 イリノイ州エバンストン市、シカゴ市

■関係機関 エバンストン・タウンシップ高校、イリノイ州商工会議所、ノースウェスタン大学、シカゴ・グローバル評議会他

■訴求対象 大学・高校生、ビジネス関係者、商工会関係者、市関係者、JETAA、一般米国人他

■開催規模 約180名

■概要・効果

大島元駐韓国大使を団長とする一行が、エバンストン、シカゴを訪問。エバンストン・タウンシップ高校、グレンブルック・サウス高校、イリノイ州商工会議所、ノースウェスタン大学及びシカゴ・グローバル評議会にて発信を行った。

また、現地有力者、日本関連コミュニティのメンバーを招待し、伊藤総領事主催レセプションも開催。ビジネスピックにつき深い議論・発信を行うと共に、高校、大学では潜在的知日派である若い層への発信も実施できた。



136 第21回大カンザスシティ日本祭
(シカゴ総領事館)

- 実施時期 2018年10月6日
- 実施場所 カンザス州
オーバーランド・パーク市
- 関係機関 米国中部日米協会、
ジョンソン郡コミュニティ・カレッジ
- 訴求対象 大カンザスシティ圏(カンザス州
とミズーリ州の境界周辺)の日本
及び日本文化に関心を有する
一般市民
- 開催規模 約4,000名

■概要・効果

【概要】

旧カンザスシティ総領事館の呼び掛けで1997年から行われている米国中部最大の日本祭において、様々な実演(和太鼓、琴、三味線、日本舞踊、エイサー、飴細工等)、ワークショップ(日本語、折り紙、書道、武道等)、レクチャー(茶道、着物、日本庭園等)、展示(生け花、盆栽等)を通じて総合的な日本文化紹介を実施。日本祭開会式では総領事が挨拶を行った。

【効果】

文化紹介の実演のみならず、ワークショップやレクチャーを交えることで日本文化を体験するのみならず、知識として学ぶ機会を提供することで、普段日本文化に触れる機会の少ない米国中部の一般市民の対日理解の促進と親日感の醸成に寄与するイベントとなっただけでなく、現地の日本関係団体や地元企業を含めた日米交流のネットワークを強化する良い機会となった。開会式での総領事の挨拶を通じて、米国中部の一般市民に対して日本との友好関係を効果的にアピールした。



137 建築家・手塚貴晴氏による講演等 (シカゴ総領事館)

- 実施時期 2018年10月18日～19日
- 実施場所 イリノイ州シカゴ市内各所
- 関係機関 シカゴ美術館付属大学建築学科、シカゴ建築センター、イリノイ工科大学建築学科
- 訴求対象 建築に関心を有する一般市民、建築学科の学生・大学関係者、建築業界関係者等
- 開催規模 延べ約300名

■概要・効果

【概要】

日本ブランド発信事業として、「建築の街」シカゴに建築家・手塚貴晴氏を派遣し、シカゴ美術館付属大学、シカゴ建築センター及びイリノイ工科大学において、日本の建築及び手塚氏が手掛けるプロジェクト等に関する講演を実施したほか、シカゴ建築センターでは、シカゴ建築クラブ理事とのパブリック・インタビューを実施。

また、シカゴ美術館付属大学及びイリノイ工科大学では、講演に先立って建築学科の工房を訪れ、学生プロジェクトの講評を行った。

【効果】

使う人への日本的なこだわりを貫いた建築の素晴らしさについて、手塚氏の発想や経験とともに説得力とメッセージ性をもって効果的に発信するイベントとなった。いずれの講演も、建築という枠を超えて、日本的な考え方に対する参加者の敬意と対日関心を高めるインパクトのある内容であった。



138 草の根キャラバン インディアナ州シェルビービル市
(シカゴ総領事館)

■実施時期 2018年10月22日

■実施場所 インディアナ州シェルビービル市

■関係機関 シェルビービル市、地元経済開発
公社、静岡市、地元日系企業、
日米協会、JETROシカゴ

■訴求対象

地域行政関係者、市議会議員、ビジネス・
教育関係者、姉妹都市交流関係者

■開催規模 250名(全行程あわせて)

■概要・効果

【概要】

静岡市(旧蒲原町)との姉妹都市協定締結
30周年記念式典に合わせ、草の根キャラバンを実施。

式典に出席するため出張中の静岡市副市長やシェルビービル市長、経
済開発公社社長等とともにRyobi Die Casting(リョービの子会社)、PK USA
(プレス工業の子会社)、NSCI(日本製鉄の子会社)を訪問。

夜の式典において、より多くの参加者に当日の訪問について触れつつ、
日系企業の貢献等について発信。

【効果】

静岡市内に工場を持つリョービの子会社へ、静岡市副市長とともに訪問
するなど、姉妹都市30周年の機会を活用して有効な情報発信を行うこと
ができた。

日系企業から頻繁に挙げられる2つの点(労働力と関税)について、3社
の企業訪問で一貫して実態を質問していたところ、夜の式典における市
長の挨拶において、その2点に触れていただくことができ、有効な情報発
信となった。

さらに、地元メディアを通じ、今次訪問の意義、日本との関係発展への
期待について広く発信することができた。



139 草の根キャラバン ミネソタ州ファリボー市
(シカゴ総領事館)

■実施時期 2019年2月28日

■実施場所 ミネソタ州ファリボー市

■関係機関 ファリボー市、ライス郡、
州政府、コミュニティカレッジ、
地元企業、ミネソタ日米協会、
JETROシカゴ

■訴求対象
地域行政関係者、州議会議員、
ビジネス・教育関係者

■開催規模 30名(全行程あわせて)



■概要・効果

【概要】

ダイキンの子会社、ダイキン・アプライドのあるファリボー市を訪問し、同社の工場を視察するとともに、日ミネソタ関係についてプレゼンを行った。

全行程に市長や市職員、地元のビジネス・教育関係者が参加するとともに、夜の懇親会から参加した州上院議員等にも今次訪問について発信。

【効果】

ミネソタ州で2度目となる草の根キャラバンを実施。

工場拡大のための追加投資を行ったダイキンは、既に地元からの信頼を得ているように感じた。そこへ改めて当館が訪問したことにより、海外の企業とともに市がどのように発展していくかという議論を行うきっかけとなり、日系企業が所在することによる副次的な意味をもたらすきっかけとなった。

視察を行ったフランス企業の子会社SageGlassで製造されたガラスが羽田空港の新ターミナルに利用されるところ、ファリボー市と日本をつなぐ新たな架け橋としてアピール。

さらに、地元メディアを通じ、今次訪問の意義、日本との関係発展への期待について広く発信することができた。

140 伊藤元重東京大学名誉教授、学習院大学教授による経済講演
(シカゴ総領事館)

■実施時期 2019年3月6日

■実施場所 イリノイ州シカゴ市

- ①シカゴ・グローバル評議会
- ②シカゴ大学
- ③ユニオンリーグ・クラブ・シカゴ

■関係機関

- ①シカゴ・グローバル評議会
- ②シカゴ大学ハリス公共政策大学院
- ③シカゴ日米協会

■訴求対象

- ①シカゴ・グローバル評議会研究員
- ②シカゴ大学学生及び教授
- ③シカゴ日米協会会員及び
シカゴ日系コミュニティ

■開催規模 ①10名 ②78名 ③31名

■概要・効果

【概要】

①②③いずれも「Abenomics in 2019」と題して、アベノミクスの経済的効果、課題、労働市場改革、貿易政策などについて講演を実施。

【効果】

シンクタンク研究員、大学関係者及び学生、ビジネス関係者、日系人コミュニティそれぞれの層に対する、日本経済の現状と課題及び日米経済関係を中心とした対日理解促進において大変有意義であった。



シカゴ大学での講演



シカゴ日米協会での講演

141 ミシガン州・滋賀県姉妹州県関係50周年事業 (デトロイト総領事館)

■実施時期 2018年9月

■実施場所 ミシガン州

■関係機関 ミシガン州、滋賀県、
ミシガン州経済開発公社(MEDC)、
デトロイト日本商工会(JBSD)等

■訴求対象 姉妹都市交流関係者、一般

■開催規模 80名

■概要・効果

【概要】

2017年に滋賀県で開催された50周年記念事業に引き続き、2018年9月には、ミシガン州で記念事業が開催された。スナイダー・ミシガン州知事、三日月・滋賀県知事も参加し、7日に記念式典、サクラ植樹式が開催された。12日にはマイヤーガーデン(グランドラピッツ市)にて送別レセプションが開催された。また、同事業の一環として、滋賀県は8月から書道展の開催(アナーバー市)、信楽焼の展示(グランドラピッツ市)、富田人形劇の公演(デトロイト市、イーストランシング市)を行った。

【効果】

ミシガン州と滋賀県の州県交流は非常に活発で、毎年訪問団を派遣、受け入れしたり、JCMU(ミシガン大学連合日本センター)を設置したりなど、継続的な協力が成功に繋がっている。50年間で築かれた友好関係は、人的交流、文化交流へと発展している。また式典の様子は、当地メディアでも取り上げられた。



142 日本食・日本酒PRイベント (デトロイト総領事館)

■実施時期 2018年5月17日

■実施場所 ミシガン州ブルームフィールド市

■関係機関 ジェトロ・シカゴ事務所

■訴求対象 メディア、レストラン、日本語教師

■開催規模 約40名

■概要・効果

【概要】

ミシガン州においては、日本食・日本酒への関心が高まりつつあり、メディア、レストラン関係者や日本語教師等に、寿司の魅力を更に理解し、また、日本酒が日本食以外にも合うことなどについて実感してもらうことを目的として、総領事公邸での日本食・日本酒PRイベントを実施。

当日は、寿司の歴史や種類などについて講演、寿司職人による鯛をさばいて寿司を握る実演、日本酒の大吟醸・吟醸等の違いや食事とのペアリング等についての説明などがなされた。

会場には、4種類の日本酒の飲み比べコーナー、手巻き寿司体験コーナーを設けるとともに、公邸料理人による食事を提供し、参加者が日本食のみならず洋食と日本酒のペアリングが実感できるようにした。

【効果】

アンケート結果からは、イベントへの満足度、日本への理解の増進、日本の好感度の上昇等が図られるとともに、約半数が今回総領事館の実施する事業に初めて参加したと回答しており、新たな層の開拓にもつながった。



143 JETプログラム出発前歓送レセプション (デトロイト総領事館)

- 実施時期 2018年8月3日
- 実施場所 総領事公邸
- 関係機関 日本総領事館、JETAA
(元JET参加者の会)
五大湖支部会
- 訴求対象 JETプログラム参加者、
教育関係者等
- 開催規模 約70名
- 概要・効果

新規JETプログラム参加者を対象に渡日前のオリエンテーションを実施後、当地より出発する44名の訪日JETを激励・歓送するためのレセプションを開催。

JET参加者と当地JETAA会員、日本語や日本事情講座を提供している大学講師、配置先である姉妹都市関係者など関係団体との人脈を構築する機会を提供できた。



144 JETプログラム帰国者歓迎レセプション (デトロイト総領事館)

- 実施時期 2018年10月12日
- 実施場所 総領事公邸
- 関係機関 日本総領事館、JETAA
五大湖支部会(JET同窓会)
- 訴求対象 JETプログラム帰国者、
企業関係者等
- 開催規模 約40名
- 概要・効果

JETプログラムからの帰国者(9名)を対象に当地JETAA関係者、日本語教育関係者、日系企業関係者及び人材派遣会社など多様な分野の関係者を招待し、ネットワーク形成を支援した。帰国後すぐに帰国者たちに対し企業ブースなどを設置し就職支援及びネットワーキングの場を設けたことで、効果的な就職支援ができた。



145 ワイアンドット・小牧姉妹都市35周年レセプション (デトロイト総領事館)

■実施時期 2018年8月10日

■実施場所 ミシガン州・総領事公邸

■関係機関 小牧市関係者
ワイアンドット市関係者、
デトロイト日本商工会関係者

■訴求対象 姉妹都市交流関係者

■開催規模 26名

■概要・効果

【概要】

小牧市副市長を含む訪問団が当地を訪問する機会を捉え、姉妹都市交流35周年を迎えた小牧市(愛知県)とワイアンドット市の姉妹都市関係者を招き、姉妹都市交流の発展を祝うと同時に、さらなる関係性の深化にむけて、意見交換を行った。

【効果】

当館が主催する姉妹都市関係周年レセプションとしては初めての試みであった。姉妹都市交流関係者、当地在住の小牧市出身者を集め、イベントの趣旨に沿った交流の場としてよく機能した。特に、ワイアンドット市は近年経済状況等の状況が問題となり、学生の派遣が滞っているという問題があったが、本レセプションがきっかけとなり、2019年から学生交流が再開される見込みである。



146 フィンドレー市・川口市友好都市協定締結 (デトロイト総領事館)

■実施時期 2018年8月16日

■実施場所 オハイオ州・フィンドレー市

■関係機関 フィンドレー市、埼玉県川口市
フレンズオブフィンドレー(日系企業の団体)
日系企業関係者、大学関係者等

■訴求対象 姉妹都市交流関係者、一般

■開催規模 60名

■概要・効果

【概要】

オハイオ州フィンドレー市と埼玉県川口市の間に友好都市協定が締結された。川口市から、両市の友情を象徴する記念碑が贈呈され、フィンドレー市の多くの市民に親しまれるよう、リバーサイド・パークに設置。記念式典も同公園で開催された。記念式典の後に開催された調印式では、フィンドレー市と川口市の間に友好都市協定及び教育交換協定が締結され、両市長からは二都市の関係性は、産官学連携の成功例であり、これからはさらに両都市関係を発展させていきたい旨、挨拶が述べられた。

【効果】

友好都市提携は、フィンドレー市から30年前に派遣された経済ミッション団が発端となっており、長年温められてきた構想が結実した日となった。すでにフィンドレー市の高校で2019年から新たな日本語クラスが設置予定であるなど、日本語教育の促進にも繋がっている。



147 武内知里庭師による講演
(デトロイト総領事館)

■実施時期 2018年8月24日～26日

■実施場所 ミシガン州ルピア市、
ブルームフィールドヒルズ市、
グランドラピッツ市

■関係機関 ルピア・マスター庭師協会、
クランブルック庭園、マイヤーガーデン

■訴求対象 庭園関係者、庭園愛好家、
一般

■開催規模 70名、130名、50名



■概要・効果

【概要】

＜ルピア・ディスプレイガーデン＞日本庭園に関する講演、質疑応答、ノムラモミジ剪定デモンストレーション

＜クランブルック庭園＞日本茶園に関する講演、質疑応答、枯山水のデモンストレーション

＜マイヤーガーデン＞日本茶庭に関する講演、関守石のワークショップ

【効果】

当館のイベントに初めて参加した人の割合が8割を超え、6割以上が60歳以上であった。主体となった「退職後に自宅の庭づくりを楽しんでいる参加者」をはじめとし、参加者はこれまで必ずしも日本文化に興味を持っていたわけではないと考えられる。しかし、本事業が日本の文化や歴史に関心を持つきっかけとなり、また日本庭園の奥深さに感銘を受けたとのコメントがすべてのイベントを通して寄せられた。

148 サギノー日本祭り
(デトロイト総領事館)

■実施時期 2018年9月16日

■実施場所 ミシガン州サギノー市

■関係機関 サギノー日本文化センター
デトロイト日本商工会、
サギノーバレー州立大学、
リーマングループ社、
グラステンダー社他

■訴求対象 一般

■開催規模 800名

■概要・効果

【概要】

サギノー市は徳島県徳島市と姉妹都市関係にある。会場となる日本庭園及び茶室は、徳島市とサギノー市によって1985年に建設され、日本文化センターが管理・運営を行っている。日本祭りを同センターにて開催することで、一般市民に対し日本伝統文化の関心を高める機会を提供し、同市議会関係者や地域住民の間の対日理解を促進し、親日度を高め、同施設の維持を図る。

【効果】

ミシガン州東部で一般市民に日本文化を楽しんでもらう絶好の機会となり続けている。サギノーバレー州立大学は日本語学科を有し、四国大学との交換留学制度を設けているが、同大学にて日本語講座を受講している学生や、日本文化への関心が高い学生がボランティアとして運営を手伝っており、平成28年度叙勲を受けたモスナー陽子氏の尽力もあって、本年度も大盛況のイベントとなった。



149 日本庭園修復事業; クランブルック庭園
(デトロイト総領事館)

■実施時期 2018年10月3日～9日

■実施場所 ミシガン州
ブルームフィールドヒルズ市

■関係機関
クランブルック庭園

■訴求対象
庭園関係者、一般

■概要・効果

【概要】

100年以上の歴史を持つ日本庭園全体の大規模な再生プロジェクトのキックオフとして、庭園の池(リリーポンド)を改修、「流れ」を設けた。日本から派遣された6名の造園作業師により改修が進められ、6日(土)には改修の実施にあわせてオープンハウス(一般公開)を実施、また9日(火)には、実際に流れに水を流すお披露目会を開催した。

【効果】

草木に覆われており、歩くこともままならなかった庭園の一部が美しく改修され、庭園を楽しむ当地の人々に日本庭園の魅力を伝えている。改修は引き続き行われる予定であるが、日本から来た職人の技と、短期間で庭園が生まれ変わる様子は、当地の人々に日本の魅力を発信する絶好の機会となった。また、一般公開や、お披露目会、当館主催のレセプションを開催することで、クランブルック庭園と日本文化コミュニティの連携が強化され、今後も庭園を用いた日本文化事業が期待される。



150 在日米軍経験者とのネットワーク構築・強化事業 (デトロイト総領事館)

- 実施時期 2018年10月5日
- 実施場所 ミシガン州ブルームフィールド市(総領事公邸)
- 関係機関 ミシガン沖縄県人会、オハイオ沖縄友の会
- 訴求対象 在日米軍経験者及びその配偶者
- 開催規模 約40名
- 概要・効果

グラスルーツにおける日米交流の一端として、ミシガン州及びオハイオ州在住の在日米軍経験者とのネットワークを構築・強化する目的で本件事業を実施した。

会場のテレビモニタに「在日米軍に関する動画(官邸国際報道室作成)」を放映し、在日米軍の活動や日本との協力関係、JUMPに関する取組み等を紹介した。また参加者の現役軍人及び退役軍人からの挨拶では、在日米軍時代の思い出話が披露された他、日米同盟はインド太平洋地域における安定とバランスを保つためのキーとなる重要な関係であること等が述べられるなど、日米同盟の強固な絆を確認することができた。

また、在日米軍経験者の配偶者には沖縄県出身の人が多くことから、ミシガン沖縄県人会及びオハイオ沖縄友の会の協力により、文化事業として沖縄民謡及び琉球舞踊の披露が行われた。最後に、祭りや結婚式などの祝い事の際に踊られる「かちゃーし」を参加者全員で踊り、日本文化を紹介する上でも有意義な機会となった。



151 ノバイ日本祭りにおける和食紹介
(デトロイト総領事館)

■実施時期 2018年10月7日

■実施場所 ミシガン州ノバイ市

■関係機関

デトロイト日本商工会(JBSD)、
JSDウィメンズクラブ、
ノバイ市学校区

■訴求対象 一般

■開催規模 150名

■概要・効果

【概要】

ノバイ日本祭りは、ミシガン州に住む多くの地元米国市民や在留邦人が訪れる同州で最大規模の日本文化行事である。この機会を捉え、当地でも入手可能な材料を使用したおにぎりのワークショップを開催し、日本食・米文化のレクチャーを交えて日本食の普及促進を図るとともに、米文化を切り口とした日本文化紹介を行うことで、対日理解促進を図る。

【効果】

日本食の普及促進及び日本文化紹介の観点から、対日理解促進に効果的であった。他の出し物と比較しても特に評判がよく、来年は回数を増やすことを検討して欲しいとのコメントを頂戴した。



152 ミシガン大学日本研究センターにおける井原慶子氏による講演会 (デトロイト総領事館)

■実施時期 2018年11月15日

■実施場所 ミシガン州アナーバー市

■関係機関 ミシガン大学日本研究センター

■訴求対象 学生、研究者、一般

■開催規模 70名



■概要・効果

【概要】

講師は、現役のカーレーサーであり、モータースポーツに関するあらゆる職種で女性の活躍を推進するプロジェクト「Women In Motorsport」に従事しながら、日産自動車初の女性、最年少社外取締役である。本件講演会では、当地一般市民の関心が高い分野を通じて女性の活躍に関する我が国の取組を発信し、対日理解強化を図ることを促す。

【効果】

質疑応答では、社会構造の問題、女性のキャリア形成・女性の権利、科学と技術等様々な角度から多くの質問が出され、参加者の興味の高さが感じられた。講演会を通じて、日本の女性の活躍に関してだけでなく、日系自動車産業についての世界への貢献についても発信がされた。

153 狂言師・茂山逸平氏による講演及びデモンストレーション
(デトロイト総領事館)

■実施時期 2018年11月30日

■実施場所 ミシガン州アナーバー市

■関係機関

ミシガン大学日本研究センター

■訴求対象 大学学生・関係者、
日本文化を好む一般人

■開催規模 120名

■概要・効果



【概要】

日本ブランド発信事業により派遣された狂言師・茂山逸平氏による狂言の歴史的背景や、狂言を楽しむためのルールについての講演及びデモンストレーションの実施

【効果】

ミシガン大学日本研究センターの協力により、日本文化に関心のある学生に対して体感的に狂言の魅力を発信することができた。特に、日本語学習者が多く参加していた。また、同大学の演劇学科にも広報をし、日本に限らず芸術・芸能に興味がある新しい観客層にも日本文化の魅力を発信することができ、想定以上の観客を動員できた。

154 労働力開発セミナー
(デトロイト総領事館)

■実施時期 2018年12月3日

■実施場所 オハイオ州ダブリン市

■関係機関 CEPEX (Center for Professional Exchange)、セントラルオハイオ日米協会 (JASCO)、オハイオ州経済開発公社 (Jobs Ohio)

■訴求対象 オハイオ大学及び周辺大学の教育関係者、地元企業、州経済開発公社、日系企業等

■開催規模 約100名

■概要・効果

【概要】

CEPEXが実施する日米草の根交流支援の一環として、当地に進出している中小日系企業の生産現場の経験と先端技術の導入に係るイノベーションに関する日本式の次世代の人材育成・職業訓練の紹介等、労働力開発に関するセミナーを、同団体、セントラルオハイオ日米協会 (JASCO)、オハイオ州経済開発公社 (Jobs Ohio) 及び当館の四者の協力により実施。

【効果】

日本企業の新規進出・追加投資が続くオハイオ州において、同州において活動する日本企業の労働力開発に関する取組みについて日米企業関係者や教育関係者等に情報提供することができ、また、米国の経済成長に資する労働力開発について日米が協力しうることを示す機会となった。また、アンケートでは回答者からイベントへの高い満足度が示された。



155 大崎麻子氏公益財団法人プラン・ジャパン理事による講演会
(デトロイト総領事館)

■実施時期 2019年2月13日

■実施場所 オハイオ州シンシナティ市、
コロンバス市

■関係機関 シンシナティ大学、
オハイオ州立大学

■訴求対象 学生、研究者、一般

■開催規模 40名、70名

■概要・効果

【概要】

安倍内閣の成長戦略のうち「すべての女性が輝く社会づくり」に焦点を当て、日本が取り組んでいる女性の活躍推進政策及びその経済効果について紹介し、政府として女性の輝く社会の実現に向け前向きに取り組んでいる姿勢をアピールすることで対日理解促進を図る。実際に日本で活躍する女性リーダーの言葉で発信する。

【効果】

シンシナティ大学では、主にジェンダー学を専攻する学生が参加しており、オハイオ州立大学では、日本研究を専攻する学生が多く見られた。どちらの大学でも、日本の取組について前向きなメッセージを発信することができた。活発な質疑応答からは、米国でも提起されるジェンダーや、少子高齢化社会の問題等への関心の高さが伺われ、グローバルリーダーとしての日本の取組に注目が集まっていた。



156 ミシガン日本語スピーチコンテスト (デトロイト総領事館)

■実施時期 2019年2月17日

■実施場所 ミシガン州ノバイ市

■関係機関

ミシガン及び南西オンタリオ日米協会、
デトロイト日本商工会(JBSD)、
ミシガン日本語教師会(JTAM)、
JBSDウィメンズクラブ

■訴求対象 学生、日本語学習者、教師
一般

■開催規模 80名

■概要・効果



【概要】

日本語学習の成果を総合的に発揮できる場を提供するスピーチコンテストである。スピーチコンテストに参加をすることで、日本語学習のインセンティブを与えるだけでなく、JETプログラムや国費留学プログラムへの参加を含め、次世代の知日家を育成することを期待している。また、当地日本語教育機関と本事業を共催する日系企業の連携を高める機会として、日本語学習環境の維持への理解を促す。

【効果】

本年度は、昨年よりも参加者数が多く、参加者はスピーチを覚えるだけでなく、自らの言葉で自分の意見を発信していた。学生の家族や地域の人に対して、日本語学習の成果を発表するまたとない機会であり、学生自身も日本語学習に対するモチベーションをさらに高めていた。

①57 ミシガン大学日本研究センター／TACOMにおける西原正氏による講演会（デトロイト総領事館）

■実施時期 2019年2月20日～21日

■実施場所 ミシガン州ウォーレン市、
アナーバー市

■関係機関

米陸軍戦闘車両軍備コマンド

(US-Army Tank-automotive: TACOM)、
ミシガン大学日本研究センター

■訴求対象 陸軍関係者、学生、一般

■開催規模 100名、80名

■概要・効果

【概要】

トランプ政権下、日米同盟の重要性を当地において発信していくことの意義は高まり続けている。ミシガン州の数少ない軍関連施設であるTACOMと当館の連携は重要であり、日頃から安全保障の第一線にいる軍関係者に対し、改めて日本政府の立場を説明し、日本が米国の重要なパートナーであることを発信する。

当館管轄内でも最大規模の学生数を誇り、日本研究・日本語教育の中心的存在であるミシガン大学の学生に、東アジアの平和と繁栄のために日米関係をより強固にしていくことが重要であるというメッセージを発信し、理解を促す。

【効果】

質の高い講演が求められたTACOMでの講演は、普段アジア地域について話を聞く機会が不足しているという背景もあり、非常に好評であった。ミシガン大学では、公共政策、政治学を学ぶ学生の参加もあり、活発な議論があった。



158 オハイオ州立大学日本研究所における
2019 ブラッドレー・リチャードソンメモリアルレクチャー
(デトロイト総領事館)

■実施時期 2019年2月22日

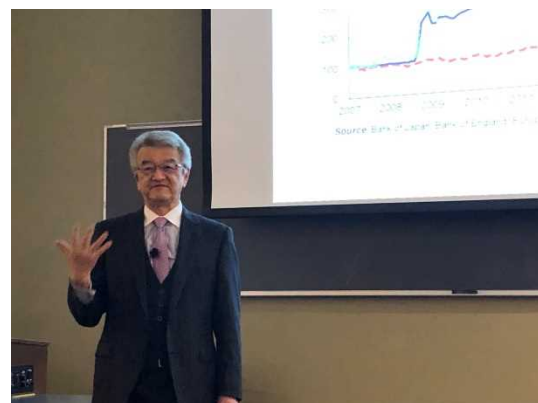
■実施場所 オハイオ州コロンバス市

■関係機関
オハイオ州立大学日本研究所

■訴求対象 学生、研究者、一般

■開催規模 70名

■概要・効果



【概要】

元コロンバス名誉領事で同日本研究所創設者でもある故ブラッドレー・リチャードソン教授(平成20年秋に叙勲)のメモリアルレクチャー第4回として、コロンビア大学から伊藤隆敏教授を招き「Japan's State of Macroeconomics in a Comparative Perspective with the U.S. Economy」と題した特別講義を実施。アベノミクス政策及び日本の経済状況の今後の展望についての講義。

【効果】

日本はオハイオ州にとって最大の投資国であるにもかかわらず、日本の貢献について必ずしも十分認識されているとは言えない。当館管轄内でも最大規模の学生数を誇り、日本研究・日本語教育の中心的存在である同大学の学生・研究者、および地元一般市民に向け本件講演会を継続的に実施することで、日本の政策への理解を深めてもらうことができただけでなく、日本研究を促進すると考えられる。

159 オハイオ日本語スピーチコンテスト (デトロイト総領事館)

■実施時期 2019年3月2日

■実施場所 オハイオ州ダブリン市

■関係機関

中央オハイオ日米協会(JASCO)、
中央オハイオ日系企業懇話会(COJAC)、
日系企業、オハイオ大学、
オハイオ州立大学日本研究所(IJS)等

■訴求対象 学生、日本語学習者、一般

■開催規模 100名

■概要・効果

【概要】

オハイオ州在住の日本語学習者を対象とした日本語スピーチコンテスト。3部門設置され、高校生部門から8名、大学生カテゴリー1で3名、カテゴリー2で7名が書類等による第一次選考を経て、本選に進出し、本選では審査員と聴衆の前で、スピーチを日本語で発表した。同日同会場では、日本語を勉強している学生と先生の出会いの場として「Japanese Education Exchange Lunch」、日本語運用能力を有する人材の確保を希望する企業との出会いの場として「キャリア・ワークショップ」を行った。さらに、今年度初の試みとして、高校生クイズボウルを開催した。

【効果】

日本語学習の成果を総合的に発揮できる場を提供することにより、JETプログラムや国費留学生への参加等を含め、次世代の知日家の育成が期待できる。今回第20回のスピーチコンテストを記念し、「Japanese Language Festival」とイベントが拡大された。継続的かつ、充実した内容の事業を通して、日本語学習者の学習意欲をさらに高めたい。



160 ひな祭り
(デトロイト総領事館)

■実施時期 2019年3月2日、3日

■実施場所 ミシガン州デトロイト市

■関係機関

デトロイト日本商工会(JBSD)、JCD、
デトロイト美術館、JSDウィメンズクラブ

■訴求対象 一般

■開催規模 8,000名

■概要・効果

【概要】

デトロイト美術館(DIA)のメインホール「リベラコート」及び「グレートホール」において、当館文化啓発品のひな人形飾りを展示し、リベラコートに設置された特設ステージで講師による茶の湯、書道、琴の演奏、グレートホールに設置されるそれぞれのブースでの日本昔話とひな祭りの由来物語読み聞かせ、折り紙デモンストレーション・ワークショップ、さらに別会場にて和菓子のレクチャー・ワークショップを行い、日本文化紹介を行う。また、「オードトリウム」では、日本から招聘する和洋折衷音楽グループの和楽器紹介と演奏が行われた。

【効果】

雛人形をデトロイト美術館という全米屈指の美術館で展示することに加え、例年1日だった事業を2日間に拡大し、茶道や生け花、琴等の日本の伝統文化を披露し、総合的な日本文化紹介行事を通じて米国一般市民及び芸術・文化に関心の高い市民層における日本への関心を更に喚起させるとともに、対日理解の一層の促進を図ることができた。



161 ランシング市・大津市姉妹都市関係50周年記念レセプション (デトロイト総領事館)

■実施時期 2019年3月3日

■実施場所 ミシガン州ランシング市

■関係機関 ランシング市、大津市、
ランシングコミュニティカレッジ、JCMU

■訴求対象 姉妹都市交流関係者

■開催規模 70名

■概要・効果

【概要】

越・大津市長の来訪に合わせ、ランシング市で姉妹都市関係50周年の記念レセプションを行った。レセプションには、大津市長、ランシング市長が出席し、また関係者や、姉妹都市交換交流卒業生らも参加した。

【効果】

ランシング市は、いくつかの姉妹都市関係を持っているが、中でも大津市との姉妹都市関係は最も古い。現在、長年続けられた学生交換交流事業が一時休止中であるが、卒業生の中には両市で現在活躍している者もあり、参加者からは事業の再開が望まれた。引き続き、50周年の祝賀事業が予定されている。レセプション中、大津市についての見所紹介もあった。



162 ミシガン日本語クイズボウル (デトロイト総領事館)

■実施時期 2019年3月10日

■実施場所 ミシガン州アナーバー市

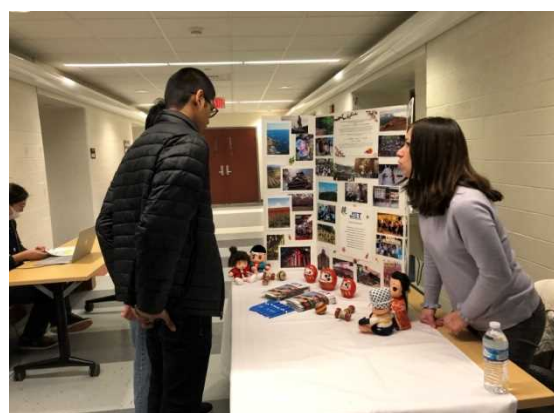
■関係機関

ミシガン大学、
ミシガン日本語教師会(JTAM)、
デトロイト商工会(JBSD)

■訴求対象 高校生、日本語学習者、
教師、一般

■開催規模 300名

■概要・効果



【概要】

チームによるトーナメント方式での日本及び日本語に関連するクイズ大会。①中学生の部、②高校生の日本語学習期間7ヶ月以下、③高校生の同学習期間2学期～4学期、④高校生の同学習期間5学期～6学期、⑤高校生の同学習期間7学期以上、の計5部門に分かれて競われた。各部門の決勝戦はメインホールで開催し、優勝、準優勝チームを表彰する。また、会場では文化・キャリアブースを設置し、学習者の日本文化への関心を高め、キャリアビジョンの形成を支援する。

【効果】

当地における初等・中等教育レベルにおける日本語教育の活性化及び日本・日本文化への関心喚起を通じて対日理解の促進を図ることができた。また、大学生による当地大学の日本語プログラムの紹介、当館によるJETブースの提供等、初等・中等・レベルの学生・生徒が大学進学すること、また大学で日本語学習を続けた後を見越して大学レベルでの日本研究・日本語学習の拡充をもたらす役割を果たすことにも繋がった。

163 日本酒紹介
(デトロイト総領事館)

■実施時期 2019年3月12日

■実施場所 オハイオ州シンシナティ市

■関係機関

JETROシカゴ、
グレーター・シンシナティ日米協会

■訴求対象 一般

■開催規模 80名

■概要・効果

【概要】

東北復興イベントの一環として、日本酒紹介を行った。オハイオ州は、在留邦人が多く、日本や、日本酒への認知度も一定程度あると言われている。他方で、東北復興の現状への正しい理解、日本酒の魅力紹介をより効果的に実施することで理解度の向上を図る。

2012年からジェトロ・シカゴは同様の東北復興イベントを開催しており、昨年3月にはオハイオ州コロンバスで日本酒紹介を交えて実施し、効果が高かったため、本年度は右の機会を捉え、オハイオ州シンシナティで東北復興の状況についての講演会と日本酒の紹介、テイスティングを実施した。

【効果】

東北復興、東北の魅力について前向きなメッセージを発信することができた。参加者は、食品産業、ビジネス、日系企業、大学関係者等々多岐にわたり、ネットワーキングの場としてもよく機能した。日本酒の認知・理解度の向上を図ることができた。



164 第32期JETプログラム歓迎レセプションの実施 (デンバー総領事館)

■実施時期 2018年7月27日

■実施場所 コロラド州・デンバー総領事公邸

■関係機関:JETAA(元JET参加者の会)ロッキーマウンテン支部

■訴求対象:第32期JETプログラム参加者、JETAA(元JET参加者の会)会員等

■開催規模 約60名

■概要・効果

【概要】

新規JETプログラム参加者を対象に、プログラムの概要及び日本での生活等に関する講義を含むオリエンテーションを実施した際に、同プログラム参加者及びJETAA会員等を公邸に招き、ネットワーキングを兼ねたレセプションを実施。

【効果】

新規JETプログラム参加者への対日理解の促進、参加者間の連携強化及びJETAA会員とのネットワークの構築強化に貢献できた。



165 デンバー市内アニメ・コンベンションにおける日本紹介ブース設置 (デンバー総領事館)

■実施時期 2018年9月1日-2日

■実施場所 コロラド州デンバー市
(シェラトン・ダウンタウン・デンバー・ホテル)

■関係機関

「ナンデスカン」

(アニメ・コンベンション実施団体)



■訴求対象

同コンベンション参加者

■開催規模 13,000名

■概要・効果

【概要】

例年デンバー市にて開催され1万人以上が参集するアニメ・コンベンション「ナンデスカン」において、日本紹介ブースを設置し、日本のアニメ、漫画、コスプレ等のポップカルチャーを好む親日派の参加者及び日本文化に関心を有する一般の米国人参加者に対し、観光庁作成のVisit Japan関連資料、「にぽにか」等の広報資料、更にアベノミクスを初めとする日本の経済政策等の広報資料を配布することを通じて、観光やクールジャパンを含む日本の魅力について幅広く広報した。また、JETプログラムの広報もあわせ実施した。

【効果】

会場のホテル及び会場周辺の主要道路には多くのアニメファンが集まり、会場内ではアニメ監督、声優等による講演会、ビデオ上映会、サイン会、コスプレグッズの販売等が終日行われた。

アニメを通じて日本への関心をもつ多くの参加者に対し、効果的に日本の魅力をアピールすることができ、当館が当初予想していた配布数を上回る部数の広報資料を配付した。アンケート結果からも、日本ブースにおける当館の対応や資料の配付は満足のものであったことが伺え、対日理解促進及び我が国の好感度の上昇に繋がる成果を得られた。



166 和風作りワークショップ及びフェスティバルの実施 (デンバー総領事館)

- 実施時期 2018年9月12日-16日
- 実施場所 コロラド州メトロ州立大学、
モンベル高校、ブラッドリー小学校
- 関係機関 コロラド日米協会、デンバー市、
デンバー市観光局、サクラ財団、
国際交流基金による共催
- 訴求対象 デンバー近郊の公立学校
生徒及び在住の一般市民
- 開催規模 約1,200名
- 概要・効果

【概要】

デンバー市において、著名な和風職人である土岐幹男氏を講師に招き、地元の公立学校(小学校～高校)の授業時間のあいだに和風作りワークショップを開催し、最終日に和風フェスティバル(風揚げ大会)を行うこと等を通じてより多くの一般市民へ日本文化の知識と情報を発信し、相互理解を深めるもの。

【効果】

参加者からは、「見本で見せてもらった和風の図柄が独特で大変興味深かった。」「アメリカの風と異なり、和紙や竹を使った日本の風作りが体験できてよかった。」「英語による講師の説明が分かりやすく、絞り染めの体験が楽しかった。」等の意見が寄せられ、とりわけ将来を担う子供たちに日本文化を体験してもらい、教員からは高い満足の声が寄せられ、大変有意義な事業となった。



167 JETAA全米総会・JET帰国者に対するレセプションの実施 (デンバー総領事館)

■実施時期 2018年9月14日

■実施場所 デンバー総領事公邸(コロラド州)

■関係機関:JETAA(元JET参加者の会)

■訴求対象:カナダを含む北米各地JETAA総会参加者、JETプログラム帰国者、CLAIR関係者等

■開催規模 約70名

■概要・効果

【概要】

JETAA全米総会が9月13日～16日の日程でコロラド州デンバー市にて開催された機会を利用、カナダを含む北米各地19支部のJETAA代表者及びJETプログラム帰国者等を公邸に招き、ネットワーキングを兼ねたレセプションを実施。

【効果】

カナダを含む北米各地のJETAA総会参加者及びJETプログラム帰国者との間で日米友好の架け橋としてのJETAAの今後の取組強化に向け、連携を強化していく必要性を共有できた。また、参加者相互間のネットワークの構築強化に貢献できた。



168 ヴァン・C・ゲッセル教授(旭日中綬章受章者)による
日本文学講演会 (デンバー総領事館)

■実施時期 2018年9月27日

■実施場所 ブリガムヤング大学
(ユタ州)

■関係機関 同大学との共催

■訴求対象 同大学関係者および学生

■開催規模 約90名

■概要・効果

【概要】

著名な現代日本文学の専門家であり、2017年の遠藤周作「沈黙」の映画化における文学監修を担当した、ブリガムヤング大学ヴァン・ゲッセル教授(旭日中綬章受章者)による講演会「『沈黙』との旅路～遠藤周作、ロドリゲスそしてマーティン・スコセッシと共に～」を開催。

【効果】

参加者からは、「素晴らしい講演だった。更に多くの日本文学を読む意欲が湧いた」、「大変素晴らしくもあり楽しい講演だった」、「映画『沈黙』を鑑賞した後に小説を購入したが、よく同テーマについて考えることがある。非常に興味深い講演会だった」等の意見が寄せられ、大変有意義な事業となった。



169 歩こうアメリカ、語ろうニッポン(第1団)
(デンバー総領事館)

■実施時期 2018年9月30日～10月1日

■実施場所 コロラド州デンバー市、オーロラ市

■関係機関 オーロラ市公会堂、コロラド大学ビジネススクール、
米日カウンシル他

■訴求対象 大学・高校生、日系ビジネス関係者、市関係者、
商工会関係者他、一般米国人他

■開催規模 約160名

■概要・効果

大島元駐韓国大使を団長とする一行がデンバー、オーロラを訪問。
オーロラ市公会堂、コロラド大学ビジネススクール及び米日カウン
シル等で発信を行った。

日本の魅力や日米協力につき現地理解を深めただけでなく、特に
北米屈指の商都であるデンバーでは、団員のビジネス分野での
バックグラウンドも背景に、経済トピックにつき深い議論・発信を行う
ことができた。



170 くまモンのコロラド州訪問の実施（デンバー総領事館）

- 実施時期 2019年2月11日-15日
- 実施場所 コロラド州デンバー市
オーロラ市、ラファイエット市
コロラド・スプリング市
- 関係機関 コロラド日米協会との共催
- 訴求対象 コロラド州在住の一般市民
（含:潜在的日本ファン）
- 開催規模 約1,200名
- 概要・効果

【概要】

ポリス・コロラド州知事からの温かい歓迎を受け記念写真を撮影。

コロラド小児病院を訪れ、子供たちと触れ合い、ダンスを通じて激励を行った他、デンバー市他において、草の根レベルでの日米経済交流促進を念頭に、日本とコロラド州の関係強化に向けた各種イベントに出席。日本企業支援も実施。

東京2020オリンピック・パラリンピック及びラグビーワールドカップ2019に向け、コロラドスプリング市の米国オリンピック・センターでは現役選手やコーチとの模擬トレーニングなどを通じての友好親善交流を実施。また、ラファイエット市の米国ラグビー本部では、ラグビーワールドカップ2019の開催地としての意気込みを共有。

各種行事では、日本の米文化の紹介を念頭に、熊本産の米粉と米焼酎を広報。



ポリス州知事

©2010 熊本県くまモン



©2010 熊本県くまモン



©2010 熊本県くまモン

【効果】

今回のくまモンの当地訪問により、草の根レベルからの経済交流の活性化に加え、州知事との特別な関係構築、東京2020及びラグビーワールドカップ2019の広報、医療分野での日米交流の促進など、重層的な結果を達成。また、通常当館を取り上げることの少ない当地有力メディアによる報道も実現し、高い関心の下で、成功裏に事業を実施。

171 第2回ジャパン・ウィーク (ナッシュビル総領事館)

■実施時期 2018年3月30日～4月13日

■実施場所 テネシー州ナッシュビル市・
クラークスビル市

■関係機関 テネシー日米協会(JAST)、
オースティン・ピー州立大学、チークウッド
植物園、ベルmont大学、テネシー国際
問題評議会(TNWAC)他

■訴求対象 一般市民

■開催規模 約6,000名

■概要・効果

【概要】

日本文化(日本庭園、自然、ポップカルチャー)、日本語教育、日本食等、多様な観点からグラスルーツレベルの情報発信を行うことを目的とし、2週間に亘り、ナッシュビル市及びクラークスビル市(ナッシュビル北西約1時間)において様々な日本関連文化事業を実施。主な事業は、第18回中部テネシー・アニメ・コンベンション、チークウッド植物園による「キッズデー」、オースティン・ピー州立大学による講義及び折り紙作り、テネシー地域日本語弁論大会、Tennessee Foreign Language Institute (TFLI)による日本語クラス、ベルmont大学における「桜」にまつわる歴史・学・文化・歌の紹介、テネシー国際問題評議会(TNWAC)主催国際キャリアパネル等。

【効果】

4月14日開催のナッシュビル桜祭りに向けた前夜祭的PRを兼ねつつ、多様な機関を巻き込み、日本に関わる様々な側面につき紹介を行い、新たな日本への関心層を開拓。



172 ミシシッピ桜祭り (ナッシュビル総領事館)

- 実施時期 2018年4月4日
- 実施場所 ミシシッピ州テュペロ市
- 関係機関 ミシシッピ日米協会(JAMIS)他
- 訴求対象 一般市民
- 開催規模 約600名
- 概要・効果

【概要】

総合的な日本文化紹介事業。合気道などの日本のスポーツから日本の歌のパフォーマンス、折り紙・習字体験コーナー、餅つき、着ぐるみ相撲等を実施。当館もブースを出展し、各種広報資料やパンフレットの配布、JETプログラムの広報を行うと共に浴衣着付けを含む日本文化紹介。セレモニーでは、総領事が挨拶を行った。

【効果】

一般市民が日本文化に直接触れる機会を醸成し、日本文化の多様性と魅力を紹介することを通じ、同地における対日理解と関心を深めた。更に、在留邦人と米国人の草の根交流の場を提供し、親日感の醸成・強化に繋げた。



173 ナッシュビル桜祭り
(ナッシュビル総領事館)

■実施時期 2018年4月14日

■実施場所 テネシー州ナッシュビル市

■関係機関 テネシー日米協会(JAST)、
ナッシュビル市、ナッシュビル姉妹都市委
員会他

■訴求対象 一般市民

■開催規模 約10,000名

■概要・効果

【概要】

日本文化総合紹介事業。各種日本文化紹介パフォーマンス、デモンストレーション、ワークショップ及び展示を実施。ステージ上ではヒューストン・雷太鼓による和太鼓演奏、大学生によるソーラン節、日本語補習校関係者による日本語の歌の合唱、ナッシュビル市と友好都市関係にある鎌倉市出身音楽家によるパフォーマンス、コスプレ・コンテスト等を実施した他、各種ブースでは折り紙ワークショップ、日本の伝統的な玩具で遊ぶコーナー、日本観光誘致などを実施。

【効果】

より多くの一般市民に日本文化の多様性と魅力を紹介することを通じ、同地における対日理解と関心を深めた。更に、在留邦人と米国人の草の根交流の場を提供し、親日感の醸成・強化に繋げた。



174 中南部日本語弁論大会
(ナッシュビル総領事館)

■実施時期 2018年5月3日

■実施場所 ミシシッピ州オックスフォード市

■関係機関 ミシシッピ大学

■訴求対象 ルイジアナ州、ミシシッピ州、
テネシー州、アラバマ州の学生

■開催規模 100名

■概要・効果

【概要】

ルイジアナ州、ミシシッピ州、テネシー州、
及びアラバマ州の大学生(1、2及び3年
のレベル別)による日本語弁論大会。日頃の日本語学習の成果を発揮し、
学習意欲を醸成することに加え、文化紹介・交流の側面も強化すべく、補
習校の学生(小学生)がコンテスト参加者やその保護者、友人等に「とな
りのトロ」の歌の歌詞を教え、最後に一緒に合唱をするという日米コミュ
ニティ交流の機会が設けられた。

【効果】

日米両国の相互理解と友好関係を促進するとともに、米國中南部にお
ける日本語教育を支援し日本語学習者の学習意欲向上を図ると共に、
日本文化を紹介する機会を設け、対日関心を高めた。特に、ルイジアナ
州においては大学における日本語コースの維持・存続が課題であるところ、
本件を実施することにより、中南部日本語教師会関係者との連携を一層強化・促進した。



175 第2回JUMP(Japan-US Military Program)在日米軍経験者
レセプション (ナッシュビル総領事館)

■実施時期 2018年7月27日

■実施場所 ルイジアナ州ニューオリンズ市

■関係機関 笹川平和財団USA、全米日米協会連合会(NAJAS)、ニューオリンズ日本協会(JSNO)

■訴求対象 米軍関係者、退役軍人関係団体他

■開催規模 約100名

■概要・効果

【概要】

笹川平和財団USA、全米日米協会連合会、及びニューオリンズ日本協会(JSNO)共催による第2回JUMP (Japan-US Military Program)在日米軍経験者レセプションを実施。本レセプションには、来賓として、元国防次官補・元第3海兵遠征軍(沖縄)司令官ウォレス・チップ・グレッグソン海兵隊退役中將を招いた。同中將によるスピーチの他、総領事によるスピーチも行われた。

【効果】

米軍関係者、及び退役軍人関係者との間でネットワークを構築し、対日関心・理解促進、草の根レベルでの日米交流を増進した。



176 第5回ノックスビル・アジアン・フェスティバル
(ナッシュビル総領事館)

■実施時期 2018年8月27日

■実施場所 テネシー州ノックスビル市

■関係機関 ノックスビル市、アジアン・フェスティバル実行委員会

■訴求対象 一般市民

■開催規模 約30,000名

■概要・効果

【概要】

テネシー州東部のノックスビル市在住の邦人が中心となり開始したアジア文化を紹介する行事。日本をはじめとし、中国、韓国、フィリピン、インド、タイ等様々なアジア諸国が参加し、ブースや屋台を出店すると共に、ステージにおいて民族舞踊や楽曲が披露された。

【効果】

日系企業が大口スポンサーを務めたため、日系企業ブースが数多く並び、アジア諸国の中でもひとときわ日本のプレゼンスの高いイベントとなった。ノックスビル市と姉妹都市関係にある室蘭市から青山市長を団長とする室蘭市代表団も参加。青山市長による挨拶、隠し芸(南京たますだれ)披露等が行われた他、日系企業代表者や補習校関係者の他に総領事も挨拶し、地域経済・社会に大きく貢献している日本の存在を一般市民にアピールする機会となった。



177 忍者専門家・浮田知義氏による講演・デモンストレーション (ナッシュビル総領事館)

■実施時期 2018年9月6日～8日

■実施場所 テネシー州ナッシュビル市、ケンタッキー州マレー市、同州レイビル市、同州フランクフォート市

■関係機関 ワトキンス大学、マレー州立大学、レイビル大学、フランクフォート高校

■訴求対象 学生、一般市民

■開催規模 約600名

■概要・効果

【概要】

本事業は、株式会社浮プロダクション・浮田知義氏を日本から当地に招き、その活動に関する講演を行ってもらうことで、日本の文化や魅力について発信。テネシー州及びケンタッキー州の各大学を巡り、浮田氏の豊富な技術や実績を背景にした忍者に関する講演(含、ビデオ放映)、忍術デモンストレーション、質疑応答を行った。

【効果】

学生から有識者層まで広く一般を対象に、「忍者」とは何かという基本的な点から、日本の文化や伝統を間近に見、触れ、体験を共有する機会となった。日本の魅力に対する関心及び日本文化に対する理解を促進する大きな効果があった。



178 レキシントン日本祭り
(ナッシュビル総領事館)

■実施時期 2018年9月8日

■実施場所 ケンタッキー州レキシントン市

■関係機関 ケンタッキー日米協会(JASK)
他

■訴求対象 一般市民

■開催規模 約250名

■概要・効果

【概要】

和太鼓演奏、日本の楽曲を中心としたジャズ演奏、コスプレ・コンテスト、武道デモンストレーション、書道や折り紙ワークショップ、日本観光誘致などを実施する総合的に日本文化を紹介。レキシントン近郊に工場をもつトヨタをはじめとする日本企業が出展し、当館もブースを出展。日本の伝統的な玩具体験・紹介、各種広報資料の配付、JETプログラムなどの広報及び観光誘致等を実施した。

【効果】

ケンタッキー州レキシントン市及びその近郊の一般市民、学生などに対して、折り紙を体験したり、日本の伝統的な玩具に触れる機会を提供し、日本文化の多様な側面と魅力を紹介することにより、対日理解・関心を深めてもらうとともに、在留邦人と米国人の草の根交流の場を提供し、親日感の醸成・強化に繋げた。



179 ナッシュビルお月見祭り
(ナッシュビル総領事館)

■実施時期 2018年9月23日

■実施場所 テネシー州ナッシュビル市(チークウッド植物園)

■関係機関 チークウッド植物園

■訴求対象 一般市民

■開催規模 約400名

■概要・効果

【概要】

日本文化総合紹介事業として、「Moon Viewing」と銘打ち、満月直後の週末にチークウッド植物園において、茶道デモンストレーション、紙芝居、ヨーヨー釣りなどの日本文化紹介を実施。会場入り口等にすすきを含む生け花を飾るなど日本らしさを演出。

【効果】

茶道を含む伝統文化から、ヨーヨー釣り、習字や紙芝居まで、様々な日本文化の側面の紹介を通じ、当地の一般市民に幅広く日本文化の魅力を発信し、対日理解を促進。更に、在留邦人と米国人の間にチークウッド植物園内にある日本庭園の認知度を高め、将来の来園者の増加につなげた。



180 映画「杉原千畝」上映会
(ナッシュビル総領事館)

■実施時期 2018年9月27日

■実施場所 テネシー州メンフィス市

■関係機関 Temple of Israel

■訴求対象 ユダヤ関係者、一般人

■開催規模 約500名

■概要・効果

【概要】

テネシー州メンフィス市のTemple of Israelとの共催で映画「杉原千畝」の上映会を実施。映画上映に先立ち、当館から、総領事が映画の背景となる多くのユダヤ人難民の命を救った杉原ビザの他、日米親善にも繋がる日・ユダヤ関係について講話した後、Temple of Israelのグリーン・スタイン上級ラビより、杉原氏の経歴を紹介されると共に、一人の人間が取った行動の尊さをユダヤ教の教えに例えながら、杉原氏を決して忘れてはならない20世紀の聖人と称えた講話がなされた。

【効果】

本上映会の実施により日本の人道主義を広く周知すると共に、ユダヤ関係者との友好親善を促進した。



181 メンフィス・ジャパン・フェスティバル (ナッシュビル総領事館)

■実施時期 2018年9月30日

■実施場所 テネシー州メンフィス市

■関係機関 テネシー日米協会(JAST)、
メンフィス市植物園

■訴求対象 一般市民

■開催規模 約7,500名

■概要・効果

【概要】

日本文化総合紹介事業として、日本庭園を擁する植物園において、各種日本文化紹介パフォーマンス、デモンストレーション、ワークショップ及び展示を実施。ステージ上では和太鼓演奏、大学生による盆踊り等を実施する他、各種ブースでは折り紙ワークショップ、日本の伝統的な玩具で遊ぶコーナー、日本語ミニ講座などを実施。「レクチャー・シリーズ」と題して、生け花、日本庭園等、日本文化の専門家などによる講演を実施する他、ストリックランド・メンフィス市長及び総領事によるステージ上挨拶、浴衣試着コーナー、日本の玩具コーナー、JETプログラムや国費留学生制度を紹介する教育広報コーナー等を出展し一般市民が日本文化に実際に触れる機会を創出。なお、今年のフェスティバルには、NBA(プロバスケットボール)のチームであるメンフィス・グリズリーズに入団した渡辺雄太選手も出席し、舞台上でのQ&Aで会場を盛り上げた。

【効果】

商工会議所や同地域に事業を展開する日系企業を含む各種企業がスポンサーとなり、メンフィス市植物園、テネシー日米協会、日本総領事館が連携し、官民を上げて日米親善強化に対する取り組みをアピールし、多くの一般市民に日本文化の多様な側面と魅力を紹介し、対日理解・関心の深化に繋げることができた。



182 ニューオリンズ・ジャパン・フェスト
(ナッシュビル総領事館)

■実施時期 2018年10月6日

■実施場所 ルイジアナ州ニューオリンズ市(ニューオリンズ美術館)

■関係機関 ニューオリンズ日本人会、ニューオリンズ美術館他

■訴求対象 一般市民

■開催規模 3,100名

■概要・効果

【概要】

日本文化紹介事業として、各種日本文化紹介パフォーマンス、和太鼓演奏、空手、剣道、居合道、合気道、柔道などの武道デモンストレーション、盆踊り、書道や折り紙ワークショップ、コスプレ・グッズ紹介、着物の着方デモンストレーション、鎧試着などを実施。また、当館のブースを出展し、JETTA・NOLA(ニューオリンズ)支部と協力して日本の玩具を使った遊び、JETプログラムの広報、各種広報資料の配付を実施。オープニングセレモニーでは、総領事が挨拶を行った他、ターナー前ニューオリンズ日本人会会長に対する叙勲伝達を行った。

【効果】

武道を含む多様な伝統文化からポップカルチャーまで、総合的な日本文化紹介を通じ、当地の一般市民に、幅広い日本文化の魅力を発信し対日理解を促進した。また、在留邦人と米国人の草の根交流の場を提供し、親日感の醸成に繋がった。



183 ウィスキー専門家・久内一氏による講演会・試飲会 (ナッシュビル総領事館)

- 実施時期 2018年11月5日～6日
- 実施場所 テネシー州ナッシュビル市
- 関係機関 ヴァンダービルト大学、おたくラーメン、現地蒸留所
- 訴求対象 一般市民、業界関係者
- 開催規模 約100名
- 概要・効果

【概要】

本坊酒造株式会社取締役・久内一氏を日本ブランド発信事業でテネシー州に招き、同氏の活動に関する講演を行ってもらうことで、日本の文化や魅力について発信。久内氏は、日本ウィスキー作리스ペシャリストとしての教育を受け、35年にわたる洋酒作りの経験から、日本国内はもとより海外でのウィスキー・プロモーション活動実績を有し、その経験・知識を元に当地で講演し、世界5大ウィスキーのひとつに数えられ、評価を得ている日本ウィスキーのブランド広報発信を行った。

また、ヴァンダービルト大学での講演・試飲会では、2名のカントリー・ミュージシャン(吉崎ひろし氏及び前田宏樹氏)に楽曲演奏をお願いし、ウィスキーとカントリーミュージックの本場テネシー州と日本との交流の効果を高めることができた。

【効果】

業界関係者との試飲・講演会では、多くの参加者から試飲したウィスキーを高く評価する声があり、セッション終了後も各参加者と久内氏との間で活発な意見交換が行われた。一般市民を招いた講演・試飲会では、参加者から驚きの声が聞こえるほど、日本産ウィスキーに対する認知度と評価を高め、日本の酒造文化や蒸留技術に対する理解を促進することができた。蒸留所の視察では、テネシーウィスキーの製造工程を視察し、生産者同士による意見交換・交流を図ることができた。



184 米国外語教授協会全国大会における日本紹介 (ナッシュビル総領事館)

■実施時期 2018年11月16日～17日

■実施場所 ルイジアナ州ニューオーリンズ市

■関係機関 米国外語教授会 (ACTFL)、国際交流基金他

■訴求対象 語学教育関係者

■開催規模 約6,000名

■概要・効果

【概要】

全米から語学教育関係者6,000名以上が参加する米国最大の教育関連行事であるACTFL全国大会。この中で展開される日本語教育エリアにブースを出展し、当館が実施する日本紹介事業(教育広報)や日本文化紹介事業等、日本への理解を深めてもらう事業の取り組みの紹介に加え、日本語教育支援(JETプログラム、国費留学生支援事業)等の紹介及び資料の提供を行った。また、全米日本語教育学会(AATJ)は、本イベントの一部として会員300名以上を招いた年次総会を開催し、当館首席領事が出席して挨拶を行った。

【効果】

ACTFL全国大会会場にブースを設け、米国外語教育関係者に対し、在米公館が実施する教育機関での日本紹介事業や日本文化事業等の取り組みに加え、日本政府が実施する日本語教育支援(JETプログラム、国費留学生支援事業、日本語オンラインコース)等の紹介及び資料の提供を行うことで、在外公館を含む日本政府の日本語教育への取り組みを周知せしめ、対日イメージ及び我が国プレゼンスの向上につなげた。



185 テレビCM放映(日本企業の地元貢献PR)
(ナッシュビル総領事館)

■実施時期 2018年11月26日～
2019年2月3日

■実施場所 ケンタッキー州
ルイビル市周辺、レキシントン市
周辺、ボーリング・グリーン市周辺

■訴求対象 一般市民

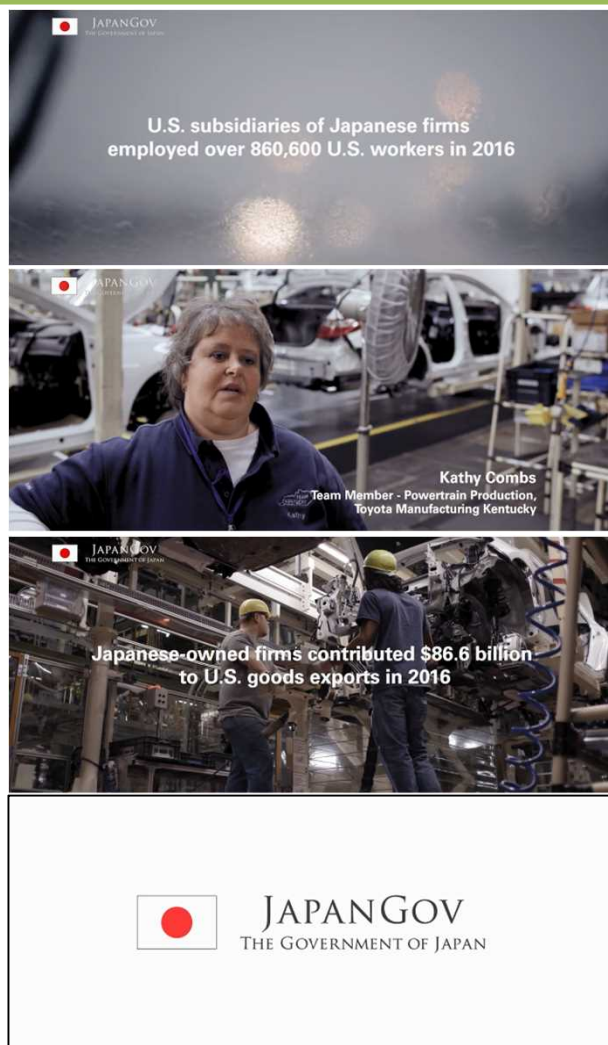
■概要・効果

【概要】

1988年にトヨタがケンタッキー州ジョージタウンに工場を建設し、自動車生産を開始してから30年が経過。州内には自動車産業を中心に約190社の日本企業が活躍し約46,000人の雇用を創出している。各日本企業は事業活動に加え、様々な活動を通じ、地元の社会及び経済に貢献しているものの、必ずしも一般市民の間にまで、日本企業のプレゼンスが理解されているわけではない。今回、身近なところで日本企業が貢献していることについて、草の根レベルで浸透を図るため、州内で8,000人以上の雇用を創出しているトヨタを題材としつつ、日本企業の米国内での貢献をPRするためのテレビCMを放映した。

【効果】

当該テレビCMは、州内で特に人口の多い地域を重点的に、ニュース番組のほか、フットボールや大学スポーツなど特に地元で人気の高い番組内で放映したことから、多くの市民が当該CMを目にすることとなった。日本企業が地元ケンタッキー州内で活躍していることが多くの一般市民にも認知されたことから、目的は達成できた。



186 日本酒試飲会
(ナッシュビル総領事館)

- 実施時期 2018年12月3日
- 実施場所 テネシー州ナッシュビル市
- 関係機関 Proper Sake
- 訴求対象 飲食業・流通業関係者
- 開催規模 30名

■概要・効果

【概要】

当地では「SAKE」という言葉の認知度はあるものの、飲食業・流通業関係者であっても、必ずしも日本酒の正しい理解は進んでいない状況。今回は、飲食業者・流通業関係者に対し、日本酒にも様々な種類があることを知ってもらうことを目的に、当地で製造されている商品を含め11種類の銘柄を用いて試飲会を実施した。参加者が日本酒について質問しやすいよう、参加者全員を集めての講義形式とはせず、各銘柄を大吟醸・吟醸・その他の3つのカテゴリーに分類し、各ステーションで当地の酒専門家が試飲者の質問に答える形式を採用した。

【効果】

講義形式で大勢の前で基本的な質問をするのを好まない人が多いという業界関係者の気質を考慮し、小さなステーションを3つ設け、質疑応答しやすい一対一形式としたこと、開催時間内における入退出自由の形式としたこと等に対して参加者から高い評価を得た。また、レストラン関係者は、日本酒と食品とのペアリングに高い関心を寄せており、寿司だけでなく、チーズやフライドチキンとの相性の良さに感嘆し、ペアリング用料理の考案・準備を行った公邸料理人に賞賛が寄せられた。当地で日本酒を更に身近なものとして普及していくに当たり、関係者に対し、ヒントとなる多くの情報を提供できたものと思料。



187 歩こうアメリカ、語ろうニッポン(第2団) (ナッシュビル総領事館)

■実施時期 2018年12月9日～10日

■実施場所 アーカンソー州リトルロック市、コンウェー市

■関係機関 クリントン・公共サービス・スクール、ヘンドリックス大学、
グローバル・ソリューション・インスティテュート他

■訴求対象 大学生、企業関係者、州政府関係者、市関係者、
一般米国人他

■開催規模 約130名

■概要・効果

谷口内閣官房参与を団長とする一行が、アーカンソー州知事を表敬した他、世界貿易センター、クリントン・公共サービス・スクール、ヘンドリックス大学、グローバル・ソリューション・インスティテュート等を巡り講演。

日本企業による米国での直接投資・雇用創出、2019年ラグビーワールドカップ、2020年東京オリンピック・パラリンピック、2025年大阪万博、更には日米安保、日米エネルギー安全保障、日本の石炭火力発電所の環境性能、日本酒文化、外国人留学生から見た日本の人々・生活・文化等、多岐にわたる分野について発信した。聴衆からの評価も高く、高い広報効果が得られた。



188 おいしいジャパン (ナッシュビル総領事館)

■実施時期 2019年1月20日

■実施場所 テネシー州メンフィス市(メンフィス植物園)

■関係機関 メンフィス大学、メンフィス植物園、メンフィス日本商工会

■訴求対象 一般市民

■開催規模 約700名

■概要・効果

【概要】

メンフィス大学日本語プログラム関係者とメンフィス日本商工会関係者が中心となって、カジュアルな日本食の魅力をグラスルーツレベルで発信するイベント。今回で6回目を迎え、日本食を提供するだけでなく、様々な催し物を実施。総領事が出席しスピーチを行った。

【効果】

毎年、参加者が増加し、そのほとんどは地元米国人。地元では毎年一回の恒例イベントとして認知されつつある。アットホームな雰囲気は、グラスルーツレベルでの日本への親近感の醸成に効果を発揮。現地の日系企業及び日系商工会がスポンサーとして協力しており、現地日系企業の地元への貢献をアピールする機会を提供。



189 小林総領事による日米関係に関する講演
(ナッシュビル総領事館)

■実施時期 2019年2月5日

■実施場所 テネシー州ノックスビル市(テネシー大学ハワード・ベーカー公共政策センター(トヨタ講堂))

■関係機関 テネシー大学

■訴求対象 大学生、一般市民他

■開催規模 約100名

■概要・効果

【概要】

テネシー大学・現代外国語及び日本文学プログラムの一環として、総領事が日米関係をテーマとした講演を行った。講演は、黒船に始まる日本と米国との歴史的な関係について時系列で概括するとともに、日米関係に関する基礎的データ、日テネシー関係、テネシーの優位性等について、イメージや図表を用いながら、日本及び日米関係についてあまり知識のない米国人にも分かりやすい内容とした。

【効果】

当日は、テネシー大学の学生ほか、元テネシー州知事等地元有力者、大学関係者、一般市民等、幅広い層の米国人を中心に約100名が来場。講演後は、参加者が列をなして総領事との歓談を求める姿が印象的だった。ノックスビル市の規模や同地域における日系企業数に比して、日本関連のイベントがあまり多くない同地域において、草の根レベルで日本について関心を深めるイベントとして効果があった。



190 杉山大使による「第5回ハワード・ベーカー記念講演」 (ナッシュビル総領事館)

■実施時期 2019年2月14日

■実施場所 テネシー州ノックスビル市(テネシー大学ハワード・ベーカー公共政策センター(トヨタ講堂))

■関係機関 テネシー大学

■訴求対象 地方政府関係者、大学関係者、企業関係者、一般市民他

■開催規模 約50名

■概要・効果

【概要】

2015年に実施された福田元総理による講演で始まった「ハワード・ベーカー記念講演」シリーズ。前回のハガティ駐日米大使に続く第5回目となる本公演では、杉山駐米大使を講師に招いて実施。チーク元テネシー大学学長をはじめとするテネシー州東部各界の要人・関係者が参加。杉山大使は、米国における日本企業の貢献及び経済における日米関係の重要性や日米安全保障・日米同盟の重要性及び北朝鮮問題等における日米連携について講演した。

【効果】

テネシー大学における我が国の政治・経済・文化の発信拠点としてのハワード・ベーカー公共政策センターの地位を強化する上で成果をもたらした。講演に対する聴衆の反響は非常に大きく、講演に対する賞賛の声が聴衆の多くから寄せられた。



191 ホットスプリングス桜祭り (ナッシュビル総領事館)

■実施時期 2019年2月16日

■実施場所 アーカンソー州ホット・スプリングス市(ルークス・エписコパル教会)

■関係機関 ホット・スプリングス国立公園
姉妹都市基金

■訴求対象 一般市民

■開催規模 約200名

■概要・効果

【概要】

総合的に日本文化を紹介する事業。各種日本文化紹介、パフォーマンス、デモンストレーション、ワークショップ及び展示を実施。ホット・スプリングス市民による盆踊りや太鼓演奏、日本酒教室等の他、総領事館は、観光誘致に繋がる日本の文化・魅力の紹介、日本の教育関連情報の紹介等、一般市民が日本を学びながら日本の文化に触れる機会を創出した。

【効果】

今年で岩手県花巻市との姉妹都市交流26周年を迎えるホット・スプリングス市は、市民の一般的な対日感情は良好で、経済面を中心に日本に対する関心はあるが日本文化に直接触れる機会はまだ限られている。同市において、より多くの一般市民に日本文化の多様な側面と魅力を紹介し、対日理解・関心を深めてもらうことができた。



192 ブルー・グラス・エリア弁論大会
(ナッシュビル総領事館)

■実施時期 2019年2月24日

■実施場所 ケンタッキー州ルイビル市（アサートン高校）

■関係機関 アサートン高校、ケンタッキー日本語教師会、ケンタッキー日米協会（JASK）

■訴求対象 学生（高校生・大学生）

■開催規模 約70名

■概要・効果

【概要】

ケンタッキー日本語教師会が中心となり、ケンタッキー州及びその周辺に在住し日本語を学ぶ学生を対象に、スピーチコンテストを開催。総領事館からは、審査員として領事が出席し、総評及び表彰状の授与を行った。

【効果】

地域の高校生及び大学生の日本文化に対する理解を促進し、日本語及び日本文化に対する学習意欲の向上を図った。同地域における日本語教育の普及に貢献。



193 日本・テネシー・フォーラム2019
(ナッシュビル総領事館)

■実施時期 2019年2月27日

■実施場所 ケンタッキー州ナッシュビル市

■関係機関 在米大使館、
全米日米協会連合会(NAJAS)、
テネシー日米協会(JAST)

■訴求対象 商工関係者、企業関係者
自治体関係者

■開催規模 約100名

■概要・効果

【概要】

テネシー州政府関係者、元USTR通商交渉関係者、経団連幹部が、日米及び日テネシーの経済関係について、マクロ経済の観点から実務レベルにおける具体的な内容に至るまで、バラエティに富んだ内容の講義を行った。総領事も挨拶を実施。

【効果】

各スピーカーの経験に基づく具体的な内容と効果的なスライドが参加者の高い関心を惹いていた。特に経団連幹部から、日本企業による米国経済への貢献に関連するインパクトのある数字が連続的に示された場面では、各参加者が大きくなすいたり、表示されたスライドを撮影する参加者が多く見られるなど、日系企業の貢献の理解促進に大変効果的であった。



194 笹川平和財団USAによる労働力開発セミナーへの協力
(ナッシュビル総領事館)

■実施時期 2019年3月7日

■実施場所 ケンタッキー州レキシントン市
Hyatt Regency Lexington

■関係機関 笹川平和財団USA、ワールド
アフェアーズ・カウンスル、
ケンタッキー日米協会

■訴求対象 州内企業関係者(労働力開発
担当者)、大学及び州政府
経済開発担当者

■開催規模 約60名

■概要・効果

【概要】

米国ワシントンに本部を置く笹川平和財団USA(Sasakawa Peace Foundation USA)のTAWA(The Alliance Working in America)プログラム(日米連携がもたらす連邦・地方レベルにおける米国の利益に関するセミナーシリーズ)の一環として、現在多くの企業が課題と考えている労働力開発をテーマとしたセミナーを開催。

【効果】

当日は、企業が直面する採用者ニーズのミスマッチと、これを補うために企業や州政府、教育機関が提供する労働力開発プログラムの現状について話し合うパネルディスカッション等が行われた。

質疑応答では、州内の労働力不足を補う州外からの人材や留学生を引きつけるための課題やビザの問題、実用的な技術研修プログラムの策定、について活発に議論された。労働力開発における各機関のそれぞれの取り組みが紹介・共有され、参加者からは、非常に有益な情報を得られたなどのコメントが寄せられた。



195 CEPEX (Center for Professional Exchange) による労働力開発 セミナーへの協力（ナッシュビル総領事館）

- 実施時期 2019年3月12日
- 実施場所 アーカンソー州 Fayetteville 市
アーカンソー大学内 Reynolds Center
- 関係機関 CEPEX、アーカンソー大学
- 訴求対象 州内企業関係者、アーカンソー大学
学生及び教育関係者、州経済
開発庁関係者等
- 開催規模 約150名



■ 概要・効果

【概要】

日米交流・次世代の知日派育成を支援するNPO団体の3CEPEX (Center for Professional Exchange) は、これまで米国中西部州を中心に次世代の人材育成・労働力開発をテーマとしたセミナーを開催している。今回はそのシリーズの一環として、地元で日本語教育の拠点となっているアーカンソー大学の協力を得て開催。

【効果】

当日は、アーカンソー大学の学生や企業関係者等、約150名が参加し、既に米国に進出している日系企業の生産現場の実例を紹介しながら議論を行った。

パネルディスカッション、質疑応答ともに、活発な意見交換が行われ、講師と参加者が一体となった有意義なセミナーとなった。また、AI、IoT等の活用が今後の経済活動の課題であり、人材育成・労働力開発においても重要項目であるという共通認識を深めることが出来た。

196 桜祭り

(ニューヨーク総領事館)

■実施時期 2018年4月9日ほか

■実施場所

- ①ペンシルベニア州フィラデルフィア市
フェアマウント公園
- ②ニュージャージー州エセックス郡
ブランチ・ブルック公園
- ③ニューヨーク市フラッシング・メドウ・
コロナ公園
- ④ニューヨーク市ルーズベルト島内
フォー・フリーダム公園
- ⑤ニューヨーク市ランドールズ島内
- ⑥ニューヨーク市ブルックリン植物園
- ⑦ニューヨーク州ホワイトプレーンズ市
ターナー公園
- ⑧ニューヨーク州バッファロー市デラウェア公園
- ⑨ニューヨーク州立大学ストーニーブルック校内



■関係機関 フィラデルフィア日米協会ほか

■訴求対象 一般市民

■開催規模 5,000名

■概要・効果

管轄地域内にて行われる桜祭りに対して、ニューヨーク総領事・大使を始めとする館員の出席による支援等を実施(特定スキームなし)。ブルックリン植物園における桜祭り(同植物園主催)は2日間で合計約7万人が参加した。

またフィラデルフィアにおいてはスバル・アメリカが冠スポンサーとなりスバル桜祭りの名前で親しまれている。

各行事とも、規模に差はあるも、また天候次第で人出が大きく増減するものの、地元に着定した日本文化等発信イベントとなっている。

197 ニューヨーク州立大学ストーニーブルック校日本センター主催
日本エッセイコンテスト（ニューヨーク総領事館）

■実施時期 2018年4月15日

■実施場所 ニューヨーク州
ストーニーブルック

■関係機関
NY州立大学ストーニーブルック校・
日本センター主催
キヤノンUSA支援



■訴求対象
ニューヨーク近郊の高校生・大学生の
エッセイコンテスト参加者及び
その家族・関係者

■開催規模
応募総数186名（高校171名、大学15名）、入賞者数 7名



■概要・効果
【概要】

日本をテーマにしたエッセイ(英語)を募集し、入賞者への表彰及び作文発表を行う。キヤノンが賞金や副賞を支援。当日は日本センターにより琴演奏、レセプション等が企画され、日本文化に触れ人的交流がはかられた。総領事館からは、佐藤広報センター長が出席し、総領事特別賞の授与及びスピーチを実施。また、後日入賞者を総領事公邸に招待し、昼食会を実施。

【効果】

英語で日本体験や日本の印象について作文を募集することで、日本語で作文・スピーチをするよりも、より広範囲の学生に手軽に応募できる機会を提供。日本についての考察を互いに披露し、表彰を行うことで親日層の拡大・深化がはかられている。

198 フェアフィールド郡桜祭り
(ニューヨーク総領事館)

- 実施時期 2018年5月6日
- 実施場所 コネチカット州ニューカナン
- 関係機関 フェアフィールド郡日米協会
- 訴求対象 一般市民
- 開催規模 300名

■概要・効果

【概要】

ニューヨーク総領事館とフェアフィールド郡日米協会の共催事業として桜祭りを開催。ニューヨーク総領事館と同日米協会等は長年フェアフィールド郡にて桜祭りを開催。

担当領事がスピーチを行ったほか、会場内では日本舞踊、和太鼓演奏、いけばなワークショップ、書道、着物体験、折り紙ワークショップ等の日本文化紹介が行われた。

【効果】

必ずしも晴天ではない中、約300名の参加があり、当該地域に桜祭りが根付きつつあること、同日米協会が地域に受け入れられていることが実感できた。

また、書道ブースについては地域のコミュニティカレッジの日本語プログラム関係者が担当しており、地域の対日関心層を取り込みながら事業を開催できている点も今後の本件桜祭りの継続に繋がるものと思料している。



199 Japan Day @ Central Park
(ニューヨーク総領事館)

- 実施時期 2018年5月13日
- 実施場所 ニューヨーク市
セントラルパーク内
- 関係機関 Japan Day Inc.
- 訴求対象 一般市民
- 開催規模 約55,000名



■概要・効果

日本文化の紹介、ニューヨーク市への感謝の表明、在留邦人や日系米国人等との草の根交流・連帯強化を目的とし、2007年から毎年実施。

Japan Run (6.4kmのランニングレース)とJapan Day Festivalによって構成。同Festivalでは音楽・踊り等日本に関連するステージパフォーマンスを行うほか、会場内にアクティビティテント(ゆかた、ヨーヨー等日本文化紹介、日本の鉄道技術紹介など)及びフードテント(お好み焼き、おにぎり等試食)を設置。

現地最大規模の日本文化紹介・発信イベントとして定着。

200 日本ブース出展イベント (ニューヨーク総領事館)

- 実施時期 2018年6月3日
- 実施場所 ニュージャージー州バーゲン郡フォートリー地区
- 関係機関 NJ日本人会(フォートリー地区イベント実行委員会)
- 訴求対象 現地住民等
- 開催規模 約5,000名
- 概要・効果

【概要】

NJ州フォートリー地区で開催された「フォートリーアーツ&ミュージックフェスティバル」においてNJ日本人会が日本ブースを出展し、当館は「グラスルーツ」案件として協力。日本の伝統工芸品(将棋並びに折り紙)を紹介。

【効果】

国籍を問わず、多くの参加者が折り紙を楽しんだことは、折り紙という日本の伝統工芸品に対する興味と需要を喚起できたことは勿論、日本の文化そのものに対する理解を深め親日感情を醸成させることに寄与した。

将棋ブースでは、NJ日本人会が主導し当地で将棋の普及活動を行っている邦人が対局指導を行った。

また、棋力三段を有する当館現地職員(ユダヤ系米国人)も対局指導を行ったところ、漢字が記載されている駒をユダヤ系米国人が動かしている様子が来場者の関心を惹き、200名もの来場者が将棋を楽しんでいた。

今般のイベントは日系コミュニティに対するポジティブな感情を促進する上で大きく貢献した。



201 ビラノバ大学における館員講演 (ニューヨーク総領事館)

- 実施時期 2018年11月16日
- 実施場所 ペンシルベニア州ビラノバ
- 関係機関 ビラノバ大学
- 訴求対象 ビラノバ大学学生
- 開催規模 50名

■概要・効果

【概要】

当館佐藤広報センター長により本年が明治維新150年に当たること、また、今日に至る日米関係をテーマに講演を実施。学長を表敬し、「カケハシ・プロジェクト」を直接説明。

【効果】

保守色の強いペンシルベニア州において、日米関係について学生と活発かつ、有益な意見交換の場とすることが出来たと共に、我が国の現状等についても紹介する良い機会とすることが出来た。また、平成30年度「カケハシ・プロジェクト」にて渡日予定の学生らに対し、事前のブリーフの機会を設けることが出来た。学長及び引率予定の教員からも訪日招待への謝意表明あり。



202 日系企業とのニュージャージー州知事訪問 (ニューヨーク総領事館)

■実施時期 2018年12月13日

■実施場所 ニュージャージー州
トレントン(州都)

■関係機関 スバル・アメリカ社
NYK Group Americas
田辺三菱製薬

■訴求対象 ニュージャージー州政府
同州経済開発公社

■開催規模 30名



■概要・効果

総領事をヘッドとして当地の日系企業の代表者と共にニュージャージー州の州都であるトレントンを訪問し、フィル・マーフィー州知事をはじめとする州政府の要路に対し、日系企業全体のこれまでのニュージャージー州での雇用及び投資といった貢献を全体的にPRし、同知事からも今後の同州と日本の密接な関係構築を期待する旨が述べられた。また、参加日系企業からは、州知事に直接、会社の地域への貢献についてアピールできる機会となったほか、州政府との人脈構築ができたとの声が聞かれた。

203 歩こうアメリカ、語ろうニッポン(第2団)
(ニューヨーク総領事館)

■実施時期 2018年12月13日～12月14日

■実施場所 ニュージャージー州ニューアーク市、トレントン市、
バーゲン郡、ニューヨーク州ニューヨーク市

■関係機関 米ユダヤ人委員会ニュージャージー(AJCNJ)、
日米協会、米日カウンスル、パラマスカソリック高校他

■訴求対象 高校生、ビジネス関係者、市関係者、
ユダヤ系コミュニティー、現地有力者、一般米国人他

■開催規模 約120名

■概要・効果

谷口内閣官房参与を団長とする一行が、ニューアーク美術館、AJCNJ、パラマスカソリック高校にて日米経済、エネルギー、日本酒、日本文化等日本の魅力について発信を行った。

特に高校では潜在的知日派に対し、活発な議論も含め、日本の魅力を発信できた。



204 「にっぽんの宝物」米国ツアー in ニューヨーク
(ニューヨーク総領事館)

■実施時期 2019年1月10日

■実施場所 ニューヨーク州ニューヨーク市
(市内イベント会場)

■関係機関 CEPEX及び
アクティブ・ラーニング社主催



■訴求対象 当地飲食業界関係者、旅行・
文化関係者、メディア、日系企業関係者等

■開催規模 約70名

■概要・効果
【概要】



日本国内地方の優れた食品、工芸品の生産者、事業者が異なる業態の業者とコラボレーションし、米国各地で日本の産品を照会するイベント。開催地第一弾のニューヨークでは、千年の歴史をもつ熊本県相良村の相良茶(川上製茶)、同村の手作り濃豆乳(親父の頑固豆腐)、宮崎県のマンゴー等を素材とするエナジージェル(ひよっとこ堂)等の「にっぽんの宝物グランプリ」受賞商品を生産者が直接紹介すると共に、国際的に活躍する山田チカラ・シェフがこれらの食材を新しい創作料理に展開。来場者は同料理を堪能した。

【効果】

当地飲食業界関係者・メディア等を中心とする来場者が、日本国内地方で開発された商品の背景となるストーリーを認知することで、これらの商品への興味を喚起し、日本の地方に対する認知及び関心の向上に貢献した。また、これらの商品の米国への輸出に向けた弾みを付けた。多くの来場者が出展ブースで生産者と交流し、素晴らしいイベントであったとの感想が多く聞かれた。日本食材及び日本の地方に対する認知及び関心の向上に寄与した。

205 在ニューヨーク投資家・金融機関を対象とする情報発信 (ニューヨーク総領事館)

■実施時期 2019年1月14日～3月21日

■実施場所 ニューヨーク州ニューヨーク市
及びマンハッタン近郊の企業

■訴求対象 在ニューヨーク及び
ニューヨーク近郊の
投資家・金融機関・
企業関係者等

■開催規模 計146名

■概要・効果

【概要】

米国の金融・経済の中心地であるニューヨークの投資家・金融機関・企業関係者等を対象に、各回のテーマに応じた有識者によるセミナーを計3回実施、日本の経済情勢や政策の方向性を発信。併せて、各テーマに精通した有識者が当地を訪問する機会を活用し、現地企業等との面談を実施、率直な意見交換を行った。

(各テーマと登壇者)

- ・1月14日:コーポレートガバナンス:金融庁 企画市場局長 三井 秀範
- ・2月26日:インフラ:立命館大学 教授 建山 和由
- ・3月19日:スマート農業:東京大学 特任教授 平藤 雅之

【効果】

任意のアンケートを実施したところ、満足度は5段階評価で平均4.4と非常に高い評価を得た(有効回答数54名)。また、セミナーを通じてこれまで知らなかった新しい情報が手に入ったと好意的なコメントが多数寄せられ、これまで十分に伝わりきらなかった日本の経済情勢や政策の方向性についての理解を促進し、日本への関心を高めることができた。また、こうした取り組みを是非続けてほしいとの要望も多数寄せられた。



206 ニューヨークにおける焼酎PRイベントの実施 (ニューヨーク総領事館)

■実施時期 2019年2月11日

■実施場所 ニューヨーク州ニューヨーク市
(本使公邸)

■関係機関 日本酒造組合中央会

■訴求対象 バーターンダー
・流通関係業者等

■開催規模 55名

■概要・効果

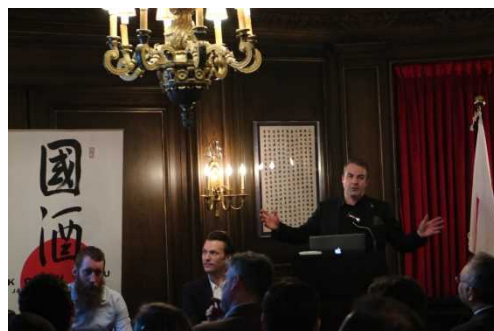
【概要】

ニューヨークでの焼酎の普及に向けたキープレイヤーであるバーテンダーや流通業関係業者等の商品知識の拡大を図るためのイベント。日本酒造組合中央会との共催により、世界的に著名なミクソロジスト等から焼酎の蒸留方法や原料の解説を行うセミナー・パネルディスカッションを実施するとともに、九州の本格焼酎の蔵元9社が自社の製品を持ち寄り、イベント参加者に対して焼酎の魅力の発信を行った。

【効果】

焼酎は、日本酒と比べていまだ当地で広く浸透しているとはいいがたく、その認知度の向上・流通経路の拡大が課題。そうした中、今回のイベントでは、米系のバーテンダー等に対して焼酎の魅力を訴求することで、日系飲食店に限らず、米系のバー等における新たな蒸留酒のカテゴリーとして、焼酎の市場を開拓していくきっかけ作りとなった。

また、本格焼酎の試飲に際し、ペアリングフードとして、敢えて典型的な日本食ではなくコンテンポラリーフレンチの料理を供したほか、著名バーテンダーによる焼酎を使ったカクテルの提供を行うなど、当地における焼酎の飲用シーンの新たな可能性をアピールすることができた。



207 フィラデルフィアにおける館員講演 (ニューヨーク総領事館)

- 実施時期 2019年2月12日
- 実施場所 ペンシルベニア州
フィラデルフィア
- 関係機関 フィラデルフィア日米協会
- 訴求対象 日米協会関係者、文化館
係者、企業関係者
- 開催規模 20名



■概要・効果

【概要】

フィラデルフィア日米協会主催によるビジネス講演シリーズの第一回目として、当館阿部首席領事により、我が国が直面する課題及びその対応、日米関係をテーマに講演を実施。

【効果】

少子高齢化といった我が国が直面する課題及びその対応、日米関係について学生と活発かつ、有益な意見交換の場とすることが出来た。

また、2020年開催予定の東京オリンピック・パラリンピックの準備状況等についても活発な質問があり、我が国の取組み等について説明する機会とすることが出来た。

208 当地コミュニティ・リーダーとの交流会 (ニューヨーク総領事館)

■実施時期 2019年2月20日

■実施場所 ニューヨーク州ニューヨーク市

■関係機関 NY日系人会



■訴求対象 当地コミュニティ団体(約20団体)

■開催規模 約30名



■概要・効果

【概要】

人種のるつぼと言われる当地ニューヨークで活動する様々なコミュニティのリーダーを招待し、総領事の出席の下、日系人コミュニティとともに日本を知って貰うための意見交換を行った。ネイティブ・アメリカン、ラテン系、メコン地域、アラブ系、韓国系、アジア系など種々のコミュニティ・リーダーが、メンタルヘルスの促進や弱者の権利保護等のテーマに関する各団体の活動内容について語り、公邸料理人による和食などを楽しみつつ、日系人コミュニティとの共通の課題や今後の協力について議論を行った。

【効果】

この種の会議は初めてであり画期的な取組である旨、参加者より高い評価を得た。日系コミュニティと各コミュニティの人脈構築及び協力関係をつなぐブリッジングができたと同時に、各コミュニティに日本食など日本をPRするためのイベントの呼びかけなど、更なる協力を拡大するきっかけづくりとなった。

209 ピッツバーグ大学における講演会 (ニューヨーク総領事館)

- 実施時期 2019年2月20日
- 実施場所 ペンシルベニア州
ピッツバーグ市
- 関係機関 ピッツバーグ大学
- 訴求対象 同大学生及び教授を中心
とした対日関心層
- 開催規模 42名



■概要・効果

【概要】

当初企画していたセミナー実施を通じたピッツバーグ大学アジア研究所支援(報文戦主管)に代えて、当館と同研究所の協力により阿部首席領事による講演会を開催(特定スキームなし)。

「Japan 2019: Outlook and Challenges」とのタイトルにて、2019年以降の日本の動き(新天皇即位、東京オリパラ、大阪万博)や内外の諸課題(国内経済、外国人労働者受入れ、東アジア情勢、日米同盟、日米経済関係等)についてのレクチャー及び質疑応答を行った。

【効果】

ピッツバーグ大学関係者を中心とした(参加者42名(満席))については学生約7割、教授2割、その他1割)対日関心層に訴求できる講演会であったほか、同大学アジア研究所が実施する日本関連プログラムの支援にもなり、今後の当館と同研究所の良好な関係の継続にも資するものであった。

210 ラトガース大学における館員講演
(ニューヨーク総領事館)

■実施時期 2019年2月21日

■実施場所 ニュージャージー州
ニューブランズウィック

■関係機関 ラトガース大学

■訴求対象 ラトガース大学学生
訪米中の立命館大学学生

■開催規模 30名

■概要・効果

【概要】

当館島田広報センター領事により、我が国が直面する課題及びその対応、日米関係をテーマに講演を実施。

【効果】

少子高齢化といった我が国が直面する課題及びその対応、日米関係について学生と活発かつ、有益な意見交換の場とすることが出来た。

また、訪米中の立命館大学学生とも意見交換の機会を持つことができ、外務省の業務について一部説明する機会もあった。

211 ピッツバーグ大学基金等との面談 (ニューヨーク総領事館)

■実施時期 2019年2月27日～28日

■実施場所 ペンシルバニア州ピッツバーグ市

■関係機関 ペンシルバニア日米協会、
ピッツバーグ大学等

■訴求対象 ピッツバーグ大学基金等

■開催規模 17名



■概要・効果

【概要】

2月27日～28日、当館財務部 藤山部長及び田畠領事がピッツバーグを訪問し、日本の社会経済に対する関心を高めてもらうべく、大学関係者や地方政府等と面談を行った。

当館財務部では、日本の社会経済に対する理解を促進するべく、日頃からニューヨークにおいて米国投資家(資産運用会社、ヘッジファンド等)との対話を行っている。今般、当館の管轄するペンシルバニア州のピッツバーグを往訪したもの。

ピッツバーグ大学基金との面談では、わが国のマクロ経済の状況及びマクロ経済政策について説明したところ、人口問題への対処、日本銀行の金融政策運営、コーポレートガバナンス改革に高い関心が示された。

【効果】

ピッツバーグ大学基金との面談では、今回の意見交換が非常に有益であり、次回はカーネギーメロン大学基金を含む拡大した参加者での情報交換の場を持ちたいとの提案を受けた。これまで、米国投資家との対話の中心は、ニューヨークであったが、ピッツバーグにおける新たな投資家開拓のきっかけ作りとなった。

212 フィラデルフィア拠点の投資家等との面談 (ニューヨーク総領事館)

■実施時期 2019年3月27日～28日

■実施場所 ペンシルバニア州フィラデルフィア市

■関係機関 —

■訴求対象 フィラデルフィア
拠点の投資家等

■開催規模 16名

■概要・効果

【概要】

3月27日～28日、当館財務部 藤山部長及び田畠領事がフィラデルフィアを訪問し、日本の経済・社会に対する関心を高めてもらうべく、投資家のほか地区連銀及び大学教授と面談を実施した。

当館財務部では、日本の経済・社会に対する理解を促進するべく、日頃からニューヨークにおいて米国投資家(資産運用会社、ヘッジファンド等)との対話を行っている。今般、当館の管轄するペンシルバニア州のフィラデルフィアを往訪したもの。

【効果】

フィラデルフィア拠点の投資家に対し、わが国のマクロ経済の状況及びマクロ経済政策について説明したところ、特に本年10月に実施予定の消費税引き上げに対する対応策、日銀の金融政策に高い関心が示され、多くの質問を受けた。

日本への投資を既に行っている投資家だけでなく今後投資を考えている投資家も含めて、日本のマクロ経済の状況及びマクロ経済政策の理解促進を図ることができ、日本への関心を更に高めることができた。



213 灯籠流しへの協力 (ハガツニヤ総領事館)

■実施時期 2018年9月15日

■実施場所 グアム準州
イパオ公園

■関係機関 グアム日系人協会

■訴求対象 地元住民

■開催規模 700名

■概要・効果

【概要】

グアム日系人会が主催する「灯籠流し」は、地元コミュニティが一体となり、故人に思いをはせる文化行事である。当館からは、本官が参加してスピーチを行った。第4回目となる今年は、身近な親族を失った(配偶者、兄弟、子供等を事故、自殺やイラク戦争で亡くした等)方々4人の体験談が披露され、自らの深い悲しみの心情を吐露しつつもその悲しみを克服していく自身の姿を話した上、亡くなった人々に対して思いをはせた。日没後の暗闇の深まりとともに、ラッテストーンへの松明点火式を行い、右を皮切りに各参加者が順次メッセージをしたためた灯籠を海に放流、故人を偲び吊った。

【効果】

グアムは、先住民のチャモロ人、フィリピン系、華系、韓国系、日系等が共存する多様な人種からなる島である。そのような島で、日本の伝統に従って故人を偲ぶ行事を行うことは、各民族の融和につながっているといわれ、主催の日系人協会は高い評価を得ている。かかる日系人協会の尽力は日グアム関係、ひいては日米関係の強化に寄与しているといえる。



214 在日米軍経験者レセプション (ハガツニヤ総領事館)

■実施時期 2018年10月18日

■実施場所 グアム準州
当地ホテル内

■関係機関 当館主催

■訴求対象 在グアム米軍

■開催規模 102名

■概要・効果

【概要】

在日米軍での勤務経験がある軍人・シビリアン及びその家族を招き、レセプションを開催した。特に、日本で発生した震災等における米軍による支援の他、年間を通じて当地で実施されている日米共同訓練等に参加する自衛隊部隊受け入れに際しての協力に感謝するとともに、和食や日本酒をふるまいながら親日感の更なる醸成を図り、日米同盟の重要性を再確認することを目的とした。

【効果】

出席者の多くは、本レセプションに参加することで共に日本で過ごした同僚と日本を思い出すことができたこと、そして、日本にいる友人を思い出すことができたことについて、大きな感謝を示していたことが印象的であった。提供した和食及び日本酒については、産地等について熱心に質問をする者、また、どこで購入できるのか教えて欲しいと質問する者も多く、日本食に対する関心の高さが改めてうかがわれた。我が国の「応援団」を形成する良い機会となったと同時に、強固なネットワークを内外に発信することができたと思料する。



215 Sake Nightへの協力 (ハガツニヤ総領事館)

■実施時期 2018年10月19日

■実施場所 グアム準州
当地大学内

■関係機関 グアム日系人協会

■訴求対象 地元住民

■開催規模 300名

■概要・効果

【概要】

日系人協会が主催するSake Night（日本酒の促進等を目的としたイベント。日本酒の他、そば等の和食も併せて提供された。）開催の機会を捉え、当館からも館員を派遣の上日本酒を提供し、ブースを開設して来場者にふるまった。

【効果】

開催場所となった大学の関係者を中心に、地元住民が多数来場した。当館ブースで足をとめ日本酒を試飲する来場者が多く、熱心に質問をする様子が印象的なイベントとなった。日系人協会がこのような日本酒プロモーションイベントを開催することにより、日本酒及び和食の魅力を多数の地元住民にアピールする絶好の機会となった。また、日系人会の活動としても地元住民の印象に残るイベントとなった。



216 秋祭りにおける日本文化紹介 (ハガツニヤ総領事館)

■実施時期 2018年11月17日

■実施場所 グアム準州
イパオパーク

■関係機関 当館主催

■訴求対象 地元住民

■開催規模 890名

■概要・効果

【概要】

グアム最大行事のひとつであるグアム日本人会主催「秋祭り」(毎年3-4万人の来場者がある)の機会に、地元住民を対象として、餅つきレクチャー・デモンストレーションを実施した。

なお、今次餅つきにおいては、日本のお正月を説明するビデオと餅つきをしているビデオを上映し館員より餅つきの意義を説明した。当地の日本語学習者や親日的市民だけでなく、普段日本文化に触れる機会が少ない一般市民も多く訪れるこの機会に餅つきについて説明を行い、実際に餅つきを体験してもらうことにより、親日感の醸成の機会とした。

【効果】

秋祭り自体には約4万人が来場し、そのうち890名の地元住民が当館ブースに来場した。昨年を上回る来場者を確保することができ、餅つきに関するレクチャー用の動画を見て当館館員から説明を受けたいという参加者が多かった。更に、餅つきのレクチャー・デモンストレーションは、老若男女を問わず多くの参加者が来て賑わった。グアムは親日の島であるゆえ、日本文化に興味がある人が多いというベースがあるところ、特に伝統文化の紹介であったことが成果が出た要因と思われる。



217 合気道レクチャー・デモンストレーション (ハガツニヤ総領事館)

■実施時期 2019年1月23日

■実施場所 グアム準州
地元高校

■関係機関 当館主催

■訴求対象 地元高校生

■開催規模 300名

■概要・効果

【概要】

地元高校生(ノートルダム高校)に対し、普段目にする機会が少ない日本武道(合気道)のデモンストレーションを披露し、解説を加えた。日本(文化)への興味と関心を高めること、特に、日本語課程の生徒に対しては日本文化への一層の関心の喚起・理解の深化に繋がるよう企画した。

【効果】

日本人の師範に依頼し合気道のレクチャー・デモンストレーションを実施した。ノートルダム高校校長からは、生徒達が真剣な眼差しでレクチャー・デモンストレーションを見ていたことに教師である自分が感動した、これは普段見られないことである旨、このようなイベントをしていただき非常に有り難い旨の謝意表明があった。実際に5人の生徒が師範の合気道を習いに行くこととなった旨報告があったところ、日本文化を紹介する上で非常に有益な活動であったと思料する。



218 Arts & Craft Fairにおける茶道レクチャー・デモンストレーション (ハガツニヤ総領事館)

- 実施時期 2019年3月3日
- 実施場所 グアム準州
当地ホテル内
- 関係機関 グアム日本人会
- 訴求対象 地元住民
- 開催規模 200名



■概要・効果

【概要】

グアム日本人会が主催するArts & Crafts Fairに対する協力として、当館から茶道レクチャーデモンストレーションを実施するブースを出展した(毎年実施)。当日は、日本人の先生4名に依頼し、茶道のレクチャー・デモンストレーションを行いつつ、来場者は抹茶と和菓子を体験した。



【効果】

約200名の地元住民が当館ブースに来場し、茶道を体験した。グアム政府からはレオン・ゲレーロ知事夫妻(写真下)及びその親族が来場した他、当地中国商工会議所や韓国婦人協会の会長等も来場する等、日本の伝統文化である茶道を地元コミュニティに幅広くアピールすることができたと思料する。会場では、茶道の成り立ちや意義等を概説した1枚紙を席上配布し、茶道に対する理解が促進されるよう取り組んだ。なお、知事については総領事の案内で会場に1時間以上滞在し、けん玉や書道を紹介する他ブースにも関心を示していたのが印象的であった。

219 ジャパンフェスティバル関係者によるパネルディスカッション (ヒューストン総領事館)

- 実施時期 2018年4月14日
- 実施場所 テキサス州ヒューストン市(公邸)
- 関係機関 ドナ・コール米日カウンシル理事主催
- 訴求対象 ヒューストン市関係者、現地ビジネス関係者ほか
- 開催規模 約70名



(パネルディスカッションの様子)



(ズームダンケ(けん玉)による余興)

■概要・効果

【概要】

ヒューストン市内の日本庭園があるハーマンパークで毎年開催を許可されているジャパンフェスティバルは、週末2日間で3万人程度が来場するなど、同市における主要イベントの一つ。多くの地元の人々が日本関連のパフォーマンス、日本文化、日本食等を身近に楽しむ機会。25周年を迎えた本年、その開始や発展の経緯について、右に貢献した地元アメリカ人から話を聞く機会として実施。パネリストは、日本庭園設立に貢献したウェイランド日米協会会長(弁護士)、ジャパンフェスティバルの開始に貢献したグレン・ゴンドー・同フェスティバル実行委員長(スシックスCEO)、5月の日テキサス経済サミットのヒューストン開催に貢献したドナ・コール米日カウンシル理事(コールケミカルCEO)の3名。その他、同フェスティバルのためヒューストンに来訪したプロのパフォーマーに演技をしてもらい、質の高い日本文化を招待者に印象づけた。

【効果】

同フェスティバル開催に貢献している関係者、ヒューストン市関係者、今後日本とのビジネス関係強化を検討している米国ビジネス関係者、更には本年同フェスティバルのため来訪したプロのパフォーマーが、上記3名のパネルトークを共有できたことによって、現在では当然と感じる日本への強い関心が構築された過程には、同人らの努力があったことを改めて認識する貴重な機会となった。

220 ジャパンフェスティバル(25周年)
(ヒューストン総領事館)

■実施時期 2018年4月12日(オープニング)
14、15日(フェスティバル)

■実施場所 テキサス州ヒューストン市
ハーマンパーク内

■関係機関 ジャパンフェスティバルインク主催、
ヒューストン日米協会、ヒューストン市、ヒューストン
日本商工会、ヒューストン日本人会等協力

■訴求対象 ヒューストン市民ほか

■開催規模 オープニング:約3,000人
フェスティバル:約30,000人

■概要・効果

【概要】

日本庭園がある市営ハーマンパークで毎年日本のみが開催許可されている同フェスティバルには、約3万人が来場するなど、同市主要イベントの一つ。地元の人々が日本関連のパフォーマンス、文化、食等を身近に楽しむ機会。25周年の本年、通常土曜日の開会式を別の日に特別会場にて開催。開会式では総領事館の他、ヒューストン市、日米協会、日本商工会、日本人会、日系人連盟代表者が祝辞を述べ、今年のパフォーマーのグループのひとつにより和太鼓の演奏が行われた。週末のフェスティバルでは、複数舞台での日本関連パフォーマンスやブース(当館、JET、日本商工会、日本人会等も協力)が多数の来場者を引きつけた。

【効果】

地元の人々の憩いの場であるハーマンパークにて行われる本件フェスティバルの開催を通じ、日本文化等に親しんでもらうとともに、特に日本庭園の存在をアピールし得るもの。また、本年で25年という期間続けられてきたことから、日本とヒューストンとの絆を表す効果をもたらしている。



(オープニングの鏡割り)



(日本紹介ブース)

221 米国太平洋戦争博物館日本庭園再開所式 (ヒューストン総領事館)

■実施時期 2018年4月28、29日

■実施場所 テキサス州フレデリックスバーグ市

■関係機関 太平洋戦争博物館

■訴求対象 博物館関係者、地元市民、
日米政府関係者

■開催規模 300名

■概要・効果

【概要】

ニミッツ提督の故郷フレデリックスバーグ市にある本博物館の日本庭園の再開所式として、米側は、ハギー・ニミッツ基金会長、クラウダー元米海軍第七艦隊司令官及びシーファー元駐日大使、日本側は、原田義昭議員、中山泰秀議員、青山繁晴議員、杉山大使、更には東郷平八郎のひ孫である保坂宗子氏も出席し、前夜祭と式典が開催。前夜祭での交流会の翌日の式典では、中山議員、保坂氏等両国代表挨拶、記念植樹、地元コーラス隊による「さくら」、雷太鼓、茶道デモンストレーションの披露が行われた。

【効果】

本式典は、日米交流の貢献者であるカバノー同博物館館長が翌月退職予定であったため最後の一大プロジェクト。そのため、平和の象徴としての日本庭園の再開所式が我が方ハイレベル関係者の出席も得て、退職前に実現できたことの意義は大きかった。

本行事に参加した日米関係者が更に交流を深めることにより、ネットワーク強化にも貢献することが期待される。また、地元メディアにも取り上げられたことで、日米関係の良好な関係についての広報を行うことができた。



(式典での中山議員挨拶)



(式典での記念植樹)

222 熊本市とサンアントニオ市の姉妹都市提携30周年イベント (ヒューストン総領事館)

■実施時期 2018年5月2日

■実施場所 テキサス州サンアントニオ市
(クマモト園)

■関係機関 サンアントニオ市主催、
サンアントニオ日米協会

■訴求対象 熊本市長、サンアントニオ市長、
現地日米交流、ビジネス関係者等

■開催規模 約200名

■概要・効果

【概要】

熊本市とサンアントニオ市が姉妹都市提携30周年を記念し、大西一史熊本市長や市議がサンアントニオを訪問して式典を実施。ランチ交流会に続いて、日本庭園がある庭園に移動、式典が行われた。日本庭園は、姉妹都市提携2年後の1989年に熊本市からサンアントニオ市に贈呈され、「クマモト園」と命名。両市の結びつきを象徴している。式典では、熊本市長、サンアントニオ市長、また、当館からも首席領事が挨拶を行った。大西市長等による「クマモト園」の視察が行われた。

【効果】

2016年の熊本地震に際しては、復興のための支援の動きがサンアントニオ市において広がるなど、緊密な関係強化が進んでいる中、今回の式典は、これまでの関係と今後目指すべき関係について確認する良い機会となった。また、今後はビジネス交流の強化も目指したいとの認識が関係者で共有された。



(ニーレンバーグ市長の挨拶)



(クマモト園視察の様子)

223 日米食文化紹介行事 (ヒューストン総領事館)

■実施時期 2018年5月6日

■実施場所 テキサス州ヒューストン市
(総領事公邸)

■関係機関 米日カウンシル、愛知県知事、
経団連関係者等

■訴求対象 当地ビジネス、日米交流関係者等

■開催規模 約100名

■概要・効果

【概要】

大村愛知県知事及び早川経団連副会長(トヨタ)等が、ヒューストンにおいて開催された米日カウンシル主催の日テキサス経済サミットへの出席のため当地を訪問した機会を捉え、アイリーン・ヒラノ女史等の同サミット講演者、モレスレー・テキサス商工会議所会頭等の当地経済関係者、日系コミュニティ、ヒューストン市関係者、シーファー元駐日大使等の日米交流関係者を招いて、本件行事を開催。

具体的な行事内容としては、愛知県の食(天むす、手羽先、味噌カツ)等とテキサスワインとの相性についての説明を専門家等から行い、その後参加者が試食・試飲するとの流れで、愛知県知事等による日本食や日本酒紹介の機会とした。

【効果】

テキサス州への関心(トヨタ北米本社、クボタトラクター北米本社、ダイキンなどのテキサスへの進出)が高まる中、日本とテキサス州の関係強化を経済的な側面から捉えた日テキサス経済サミット開催直前に本行事を開催したことで、関係者の事前の関係構築の機会となり、同サミットの意義を高めた。

2016年に愛知県はテキサス州協力覚書を締結、更に今回の日テキサス経済サミットが開催されることによって、今後も経済的な関係強化の促進が期待されることを踏まえ、テキサス・ワインと名古屋名物を中心とした和食との相性の良さをアピール、更に愛知県産等の日本酒を紹介することで、当地関係者に、愛知県の食をはじめとする日本食への理解を深め、文化的な側面からも親しみを感ぜてもらうことにより、更なる日本とテキサス州の関係強化のための環境造りを行った。



(大村知事のご挨拶)



(ワイン、日本酒と日本食との相性に関するセミナー)

224 日テキサス経済サミット (ヒューストン総領事館)

- 実施時期 2018年5月7日～9日
- 実施場所 テキサス州ヒューストン市
(マリオットマルキスホテル)
- 関係機関 ドナ・コール米日カウンシル理事主催
- 訴求対象 テキサス州関係者、ヒューストン市
関係者や 現地ビジネス関係者ほか
- 開催規模 約300名

■概要・効果

【概要】

昨年のハワイに続く第2回米日カウンシル主催日テキサス経済サミットがヒューストン市で開催され、日本側は、大村愛知県知事、早川経団連副会長、杉山大使等が、米側は、テキサス州務長官、ヒューストン、サンアントニオ、オースティン、ダラスなどテキサス州の主要都市代表や各姉妹都市関係にある日本関係者も参加。5月7日の開会式後、3日間にわたって、日本企業の活動、米国との協力状況、各都市の紹介がなされ、また、パネルディスカッションが行われた。当館は実行委員の一人として準備段階から支援した。

【効果】

シェールガス革命も背景として、ビジネスフレンドリーな環境を有し、好調な経済のテキサス州第一の都市ヒューストンでは、日本企業のプレゼンスが益々高まっている。そのような状況において、今回のサミットにより、日本企業の重要性について広報されることとなった。また、当地ビジネス関係者である日系人ドナ・コール米日カウンシル理事がイニシアチブをとり成功に導いたことにより、同理事の活躍の幅が広がる結果となった。



(米日カウンシル代表者と大村知事)



(オープニング: 杉山大使とコール理事)

225 ダラスサンアンドスター授賞式 (ヒューストン総領事館)

■実施時期 2018年5月10日

■実施場所 テキサス州ダラス市
(オムニ・フリスコホテル)

■関係機関 ダラス日米協会主催

■訴求対象 ダラス市及びダラス周辺都市
関係者や日系人、現地ビジネス関係者ほか

■開催規模 485名

■概要・効果

【概要】

毎年恒例のダラス日米協会によるサンアンドスター授賞式。ダラス周辺の日本企業と米国企業がスポンサーとなっている。本年は、大村愛知県知事がLegacy Awardを受賞、高橋NEC北米社長がBridge to Friendship賞を受賞。当館から岩崎総領事代理が出席して挨拶を行った。

【効果】

ダラスにおける日本のプレゼンスを高め、また、関係者の交流促進の場となっているサンアンドスター式典において、本年、大村愛知県知事が受賞したことは、愛知県とテキサス州が締結した交流促進の覚書を受けた双方の関係強化に対するダラスコミュニティの評価と言える。

また、ヒューストンで直前に行われた日テキサス経済サミットに参加した大村知事やアイリーン・ヒラノ米日カウンスル会長がサンアンドスターに出席したことで、ダラスでの交流の幅が広がっていることを印象づけた。



(大村知事の挨拶)



(メインゲストの大村愛知県知事と高橋NEC北米社長)

226 子供博物館での七夕イベント (ヒューストン総領事館)

- 実施時期 2018年7月7日
- 実施場所 テキサス州ヒューストン市
(ヒューストン子供博物館)
- 関係機関 ヒューストン子供博物館、
ヒューストン日米協会、当館
- 訴求対象 ヒューストン市民(親子)ほか
- 開催規模 約450名

■概要・効果

【概要】

同博物館において日本の七夕にまつわる様々な日本文化を紹介。同館ロビーで七夕飾りを紹介するとともに、来場者は短冊や飾り付けを体験。また、七夕への理解を深めるため、各ブースで七夕にまつわるアクティビティに参加した子供達はポストカードでスタンプラリーを行った。七夕説明パネルや顔出しパネルも設置したことにより、参加者の理解を促進。

【効果】

同博物館は、親子でのみ入場可能という厳しいセキュリティから、館内では、のびのびと子供が体験する環境となっている。その博物館で、特に夏休みのタイミングで七夕を紹介することは、短冊に願いを書くという夢のある日本文化を体験してもらい親しみを感じてもらう良い機会となっている。



(七夕イベントの様子)



(七夕イベントの様子)

227 千葉市とヒューストン市の青年交流35周年記念レセプション (ヒューストン総領事館)

■実施時期 2018年8月29日

■実施場所 テキサス州ヒューストン市
(総領事公邸)

■関係機関 当館、ヒューストン日米協会

■訴求対象 ヒューストン市関係者、
訪日した生徒やその家族ほか

■開催規模 約40名

■概要・効果

【概要】

ヒューストン市と千葉市間の青少年交流事業が35周年を迎えたことを祝し、交流を実施しているヒューストン日米協会、当地受入れ校リバーオークス・バプティストスクールの今夏訪日した生徒と家族及び学校関係者、更にはヒューストン市やヒューストン市姉妹都市委員会会長等を公邸に招待し、報告会を兼ねたレセプションを開催。各団体代表による祝辞（熊谷千葉市長及びペンス副大統領夫人メッセージ代読含む）、訪日した生徒による報告会、その後懇談が行われた。

【効果】

ヒューストン市幹部からの冒頭祝辞で、千葉市との交流を非常に重視しているとの紹介があったことや、熊谷市長、ペンス副大統領夫人からのメッセージが届いたことは、本件交流に対する強力な支援者が存在することを示し、これまでのヒューストン日米協会や学校関係者にとって、今後の更なる活発な活動を後押しするきっかけとなった。



(訪日した生徒)



(懇談の様子)

228 石井教授による東アジア情勢についての講演会 (ヒューストン総領事館)

■実施時期 2018年9月17日

■実施場所 テキサス州フレデリックスバーグ市
(ロータリークラブ講堂)

■訴求対象 ヒューストン市関係者や現地ビジネス関係者ほか

■開催規模 約100名

■概要・効果

【概要】

かつての太平洋艦隊司令官ニミッツ提督の故郷であるフレデリックスバーグ市において、主にロータリークラブの会員を対象として、石井望長崎純心大学准教授による尖閣諸島問題を含む東アジア情勢にかかる講演会が行われた。テキサスバーベキュー昼食会での交流後、同准教授による講演会及び質疑応答が行われた。

【効果】

米国人の敬意を集めるニミッツ提督の故郷において、ロータリークラブ会員を中心に現在の東アジア情勢にかかる理解を促進することは、日米関係を更に成熟させることに資する活動であったと考える。



(講演会の様子)



229 オクラホマ州日米協会再結成記念レセプション (ヒューストン総領事館)

- 実施時期 2018年10月2日
- 実施場所 オクラホマ州オクラホマ・シティ
- 関係機関 オクラホマ日米協会、
ヒューストン総領事館
- 訴求対象 オクラホマ日米協会、
地元親日派ほか
- 開催規模 約110名

■概要・効果

【概要】

福島総領事は、オクラホマ日米協会の再結成記念レセプションを主催。多数の現地親日派や在留邦人の出席を得て、同地域を拠点とした日米草の根交流の活性化についての意見交換が行われた。

【効果】

オクラホマにおける日米関係強化にかかる活動の中心となり得る同協会関係者の間での情報共有やコネクション構築に資する機会となった。

また、同訪問中に福島総領事はファリン州知事等関係者に着任表敬したことから、総領事より知事に対し、今回のオクラホマ日米協会の再結成を含む日本関係者の動きを共有しつつ、日オクラホマ関係の更なる発展等にむけた取組を強化していくことにつき一致することができた。



(レセプションの様子1)



(レセプションの様子2)

230 女性指導者養成ワークショップ (ヒューストン総領事館)

- 実施時期 2018年10月5日
- 実施場所 テキサス州ダラス市
- 関係機関 米日カウンスル、外務省
- 訴求対象 米日カウンスル、ダラス市等、
その他女性指導者ほか
- 開催規模 約110名

■概要・効果

【概要】

テキサス州ダラス市での米日カウンスル主催による本イベントは、日本の外務省からの支援を受け、米日カウンスルがRegional Women in Leadershipというプログラムを全米各地方で展開している流れを受けたもので、テキサス州では初開催。米日カウンスルのアイリーン・ヒラノ理事長をはじめヒューストンからドナ・フジモト・コール理事など本分野における知識・見識を有する参加者の間で、能力があるキャリア女性が指導者として企業や社会でレベルアップしていくために必要な自己啓発と社会・制度の変革等について闊達な意見交換が行われた。福島ヒューストン総領事も出席。

【効果】

「女性が輝く社会」を優先政策とする日本が、この分野で一步先をいく米国と連携して共通の社会経済課題に地域レベルで取り組む良い機会となった。特にテキサスで活躍する女性リーダーであるドナ・フジモト・コール理事のイニシアチブに日本政府が協力する形で実施されたことで、日本の取り組みにかかる地元関係者への理解を促進する効果があった。



(講演会の様子1)



(講演会の様子2)

231 大阪府工業協会海外視察メンバーとの意見交換会 (ヒューストン総領事館)

■実施時期 2018年10月9日

■実施場所 テキサス州ヒューストン市

■関係機関 ヒューストン総、
大阪府工業協会、
ヒューストン日本商工会

■訴求対象 大阪府工業協会の海外視察
ミッションメンバー、ヒューストン
日本商工会幹部

■開催規模 約50名

■概要・効果

【概要】

大阪府工業協会の海外視察ミッションメンバーが当地を訪問した機会を捉え、当地の日本人ビジネス関係者との意見交換の機会を総領事公邸で実施。福島総領事は、経済的勢いのあるテキサス州で、日本企業は高く評価されており、今次訪問も踏まえ更なる参画を期待する旨述べ、三野禎男日立造船副社長は、同工業会の海外視察ミッションとしては初米国訪問となる今次機会を活用して今後の可能性を探っていききたい旨述べた。本多ヒューストン日本商工会会長も挨拶し、テキサスの文化を実感していただくための試みとして、当地ダイキン・グッドマンの協力を得たカントリダンス体験も実施された。

【効果】

当地で活躍している日本人ビジネス関係者と意見交換を行い、また、当地の文化の体験を行ったことは、今次ミッションに参加した大阪企業関係者が海外展開等についての参考情報を入手する良い機会となった。



(ヒューストン日本商工会会長の挨拶)



(テキサス文化体験)

232 アジア太平洋広域経済圏セミナー (ヒューストン総領事館)

■実施時期 2018年10月12日

■実施場所 テキサス州ダラス市

■関係機関 JETRO、ダラス商工会、
ダラス日米協会、
ダラスワールドアフェアーズ
カウンシルほか



熱心に聞き入る聴衆(ジェトロ撮影)

(熱心に聞き入る聴衆)

■訴求対象 ダラスの政府やビジネス関係者
ほか

■開催規模 約70名

■概要・効果

【概要】

JETRO主催の本セミナーでは、ペトロスキーダラス商工会会長及び福島ヒューストン総領事よりの挨拶後、アジア太平洋経済統合における日米の役割について、石毛JETRO理事長やルーニー・ブッシュ研究所長からの基調講演が行われた。更に日本、米国、中国、タイからの参加者によるパネル・ディスカッションが行われた。

【効果】

ダラスは、2017年の北米トヨタ社による本社機能移転にみられるように、近年他州から移転する企業が増加傾向にあり、日本のビジネス関係者による同地域への投資意欲も高く、ダラス商工会等地元政府関係者による期待も高い。その様な中、JETRO理事長が来訪し、アジア太平洋経済統合における日米の役割について議論された今次セミナーは、時宜を得たものとなった。

233 淡交会ヒューストン支部25周年記念レセプション (ヒューストン総領事館)

- 実施時期 2018年10月19日
- 実施場所 テキサス州ヒューストン市
(総領事公邸)
- 関係機関 淡交会ヒューストン支部主催
- 訴求対象 米国内淡交会関係者、ヒューストン市関係者や現地ビジネス関係者ほか
- 開催規模 約60名

■概要・効果

【概要】

当地における裏千家淡交会ヒューストン支部の設立25周年の機会を捉え、公邸にて関係者を招きレセプションを開催。町田宗芳先生が日本から参加、また、当地からはドナ・コール支部長、望月緑幹事長に加え、ヒューストン市国際部関係者なども参加。この機会に、健康食品としての日本茶の効能についての伊藤園のロナ・タイソン副社長によるレクチャーが行われたとともに、「杵屋」による和菓子手造りデモも行われた。

【効果】

当地における長年の日本文化紹介にかかる淡交会の貢献を関係者で賞賛するとともに、日本文化の持つ多面的な魅力としてお茶の持つ健康的な側面や和菓子の持つ色彩などについて、ヒューストン市関係者の理解を促進する機会となった。



(伊藤園タイソン副社長のレクチャー)



和菓子店「杵屋」による手造りデモ)

234 ヒューストン日本人会秋祭り (ヒューストン総領事館)

- 実施時期 2018年10月24日
- 実施場所 テキサス州ヒューストン市
(望月会館)
- 関係機関 ヒューストン日本人会主催
- 訴求対象 ヒューストン地域在住の邦人
- 開催規模 約420名



(盆踊りの様子)



(雷太鼓による余興)

■概要・効果

【概要】

日本人会主催の第2回目の「日本の秋祭り」が望月文化会館にて開催。元スポーツクラブを改修した同会館は、日頃ヒューストンの和太鼓グループ「雷太鼓」や茶道、日本舞踊、合気道の練習場として開放されている。当日の会場には、居酒屋WA、Soma寿司、AGUラーメンなどの日本食レストランが立ち並び、子供コーナーには人形・風船すくい、綿菓子、焼き芋スタンドを設置。美容コーナーでは、ヒューストン進出予定のアルカス社によるスタイリングも行われた。サンフランシスコから参加の三和酒類は「いいちこ」試飲会。アサヒビール・ソフトドリンクは無料サービス。ステージでは日本から来られた若手ポップ歌手のレインボーしほさんが歌と踊りを、高校生がトランペットを演奏した。会場奥では雷太鼓ワークショップも設けられ、子供達が太鼓グループのリーダーに太鼓を習った。福島総領事は冒頭挨拶。

【効果】

参加者は、去年の約250名から今年は約420名に増加。秋祭りは、基本的に日本コミュニティ対象ではあったが、国際結婚した米国人家族やその友人としての地元市民等の参加も見られ、米国人への文化紹介イベントの側面も有し始めた。

235 ヒューストン日米協会(JASH)50周年ガラ (ヒューストン総領事館)

■実施時期 2018年11月3日

■実施場所 テキサス州ヒューストン市
(River Oaks Country Club)

■関係機関 ヒューストンJASH主催

■訴求対象 ヒューストン市関係者や 現地ビジネス関係者ほか

■開催規模 約300名

■概要・効果

【概要】

ヒューストン日米協会が本年50周年を迎えたため、本年Galaで新たな賞が設置された。トマス・シーファーリーダーシップ賞が前駐米日本大使の佐々江賢一郎氏と信子夫人に、ヒューストン日本友好賞が著名なビジネスマンであり市民リーダーであるマーク・ワッツThe Friedkin Group CEO、Greater Houston Partnership 会長に授与された。50周年記念ということから、これまでのオムニホテルではなく、館員制クラブであるリバーオークスカントリークラブで開催された。

【効果】

ヒューストンにおいて日本人とアメリカ人の絆をより強固なものにするため、積極的に活動を行ってきたJASHの50周年を地元関係者が盛大に祝い、また、ヒューストンの日米協会として日米関係強化に貢献した関係者に対する賞を設けたことは、全米人口規模第4位のヒューストンのプレゼンスを高めることとなった。



(受賞者の佐々江前大使夫妻等)



(シーファー元大使とJASH新会長)

236 サン・アントニオ日米協会主催秋祭り (ヒューストン総領事館)

- 実施時期 2018年11月24、25日
- 実施場所 テキサス州サン・アントニオ市
- 関係機関 サン・アントニオ日米協会主催
- 訴求対象 サン・アントニオ市民
- 開催規模 2,000名

■概要・効果



(SA市長とブース視察)



(参加者と)

【概要】

11月24～25日、サン・アントニオ日米協会主催による恒例の「秋祭り」が開催された。参加したニーレンバーグ市長は、日本との関係を非常に重視しているとの挨拶をしたほか、日系人のピーター・サカイ判事をはじめ、親日家の市民が多数参加、穏やかな秋の日差しの下、和食や日本の伝統・現代文化の紹介を楽しんだ。福島総領事も参加。

【効果】

テキサス中南部に位置する同市は、スペイン占領時から300年の歴史を有する国際色豊かな経済・文教・観光都市。テキサス独立をめぐる対墨戦争「アラモ砦の戦い」でもよく知られており、日本との関係は熊本市と30年余りの姉妹都市関係を構築、製造業をはじめとした日系企業の進出もみられている。サン・アントニオ市民の日本についての理解を促進する良い機会となっている。

237 ダラス・フォートワース日米協会主催新年会
(ヒューストン総領事館)

■実施時期 2019年1月13日

■実施場所 テキサス州ダラス市

■関係機関 ダラス・フォートワース日米協会主催
Fujitsu Network Communications, Inc協力

■訴求対象 ダラス市関係者や 現地ビジネス関係者、在留邦人ほか

■開催規模 1,173名

■概要・効果

【概要】

19年目となった同行事には、多数の参加者の中には、在留邦人だけでなく、リチャードソン市長など地元関係者も含まれる。もちつきや和太鼓の演奏が行われた。福島総領事も参加。

【効果】

邦人企業数の増加等から、日本人コミュニティのプレゼンスも高まっている中、日本人同士の新年挨拶の場としてだけでなく、日米協会関係者をはじめとする地元関係者との関係強化、更には日本文化紹介の場ともなっている。



(福島総領事によるもちつき)



(和太鼓による余興)

238 カケハシ学生へのブリーフ (ヒューストン総領事館)

- 実施時期 2019年1月24日
- 実施場所 テキサス州ヒューストン市
(総領事館)
- 関係機関 総領事館
- 訴求対象 高校生
- 開催規模 25名



(総領事館訪問した生徒たち)



(質疑応答)

■概要・効果

【概要】

外務省青年交流「カケハシ」の一環として、約10日間、福岡等の高校生がテキサスのヒューストン、サンアントニオ、フレデリックスバーグを訪問。ヒューストンでは、福島総領事によるテキサスに関するブリーフを受けた。また、サンアントニオやフレデリックスバーグでの交流を行った。フレデリックスバーグでは、米国太平洋戦争博物館を訪問した。

【効果】

日本の若者による、米国第4位の都市ヒューストンにおける交流や体験は、特に米国南部を実感する良い機会となり、今後の米国についての幅広い見方を構築することになる。更には、太平洋戦争博物館を視察することで、日米の和解の歴史も学ぶこととなった。

239 ヒューストン日米協会主催ジャパンアップデート (ヒューストン総領事館)

■実施時期 2019年1月24日

■実施場所 テキサス州ヒューストン市
(The Petroleum Club邸)

■関係機関 ヒューストン日米協会主催

■訴求対象 ヒューストン市関係者や現地ビジネス関係者ほか

■開催規模 約100名

■概要・効果

【概要】

本プログラムは、笹川平和財団や全米日米協会協力のもと、日米が直面する課題への関心を確認するJapan Updateプログラムシリーズの一部。ヒューストンで第4回目の本年ジャパンアップデートでは、日米のエネルギー関係についてのレクチャーが行われた。

【効果】

世界のエネルギーの首都といわれるヒューストンには、エネルギー関係の日本企業が多数存在する中、現在日米の企業が共同で、ヒューストン南にあるフリーポートでLNG輸出基地開設に向けた準備が進んでいることもあり、地元関係者に対するエネルギー分野での日本企業の動きをアップデートでき、時宜を得たものとなった。



(スピーカー等)



(レクチャーの様子)

240 映画上映会「ペルソナノングラータ」 (ヒューストン総領事館)

■実施時期 2019年1月27日

■実施場所 テキサス州ヒューストン市
(ホロコースト博物館)

■関係機関 米ユダヤ人協会ヒューストン支部、
ヒューストンアジア協会



(シーラジャクソンリー議員(右端)等出席者)

■訴求対象 ヒューストン市関係者、
ヒューストン総領事団ほか

■開催規模 約70名

■概要・効果

【概要】

米ユダヤ人協会ヒューストン支部は、米国3番目の規模であるヒューストンにおける領事団に対する広報を目的として、毎年ユダヤ人を救った人物を紹介してきた。今年は日本の杉原副領事が表彰、映画「Persona Non Grata」が上映され、続いて映画監督Cellin Gluckとの質疑応答が行われた。子供のころ杉原からビザが発給されたエディス・ハーマーの孫娘、エミリー・ハーマー氏も出席。上映に先立ち、シーラ・ジャクソンリー連邦下院議員と福島ヒューストン総領事が挨拶。同議員は、AJCヒューストン等に表彰状を授与した。映画の上映準備においては総領事館が協力。

【効果】

杉原千畝氏の功績を当地外交団や地元関係者に知ってもらう良い機会となった。また、総領事館とユダヤ人協会との緊密な連携のものと本イベントが行われたことで一層の関係強化が進んだ。

241 テキサス大学サンアントニオ校での日本食紹介イベント (ヒューストン総領事館)

■実施時期 2019年2月8日

■実施場所 テキサス州サンアントニオ
テキサス大学サンアントニオ校

■関係機関 テキサス大学サンアントニオ校
東亜学院

■訴求対象 ヒューストン市関係者や 現地ビジネス関係者ほか

■開催規模 約70名

■概要・効果

【概要】

テキサス大学サンアントニオ校の東亜学院主催で、「Taste of Japan」シリーズと称して、映画(「武士の献立」)が上映され、更に和食についてのプレゼンテーションやパネルディスカッション等が行われた。福島総領事も参加し、出席者に実際の寿司も振る舞われた。

【効果】

ヒスパニック系の割合が高いサンアントニオだが、日本食人気も高まりを見せている中、このような大学でのイベントによって、若者への日本食の魅力発信の効果があった。



(パネルディスカッション)



(イベントで振る舞われた寿司)

242 ダラスジャパンアップデート (ヒューストン総領事館)

■実施時期 2019年2月15日

■実施場所 テキサス州ダラス市
(Dallas/Plano Marriott at Legacy
Town Center)

■関係機関 ダラス日米協会主催、南メソジスト
大学

■訴求対象 ダラス市・現地ビジネス関係者ほか

■開催規模 約120名

■概要・効果

【概要】

ダラス・フォートワース日米協会による本年ジャパンアップデートでは、中林美恵子マンスフィールド財団名誉フェロー等が「2019年日米同盟の乱れ？」というタイトルのもと、東アジアにおける日米同盟、米国の安全保障政策、中国の台頭、北朝鮮問題等を説明しつつ、2019年の日本の動きについて講演。続くパネルディスカッションでは、Sarah Carabias-Rush(ダラス地区商工会議所の国際担当上級副社長)、Josh Mayfield(オリックスコーポレーション副社長)、Julia Wada(トヨタファイナンシャルサービスのイノベーション等マネジメント)が昨今のダラス周辺における日本企業と米国企業の関係について議論。

【効果】

ダラス地域では日本企業のプレゼンスが高まってきており、同時に地元の期待も高まってきている中、このようなセミナーの開催を通じて、日米同盟、東アジア情勢についての地元関係者の的確な理解を得ておくことは、日本の更なる進出のための環境を構築することとなる。



(レクチャーの様子)



(スピーカー)

243 テキサス大学サンアントニオ校主催の日本ビジネスセミナー (ヒューストン総領事館)

■実施時期 2019年2月22日

■実施場所 テキサス州サンアントニオ市
(テキサス大学サンアントニオ校)

■関係機関 テキサス大学サンアントニオ校
東亜学院

■訴求対象 UTサンアントニオ校関係者

■訴求対象 ヒューストン市関係者や 現地ビジネス関係者ほか

■開催規模 約60名

■概要・効果

【概要】

テキサス大学サンアントニオ校で初めて開催した日本に関するビジネスセミナー「Business With Japan 101」。講師は、ヒューストン総領事館員、JETRO、トヨタ関係等であり、出席者は、学生に加え、ビジネス関係者、軍関係者等。日本ビジネス慣行やエチケットに関する講演やプレゼンテーションが行われ、参加者には日本食も振る舞われた。

【効果】

本件セミナーは、日本とのビジネス関係に関心を有する米国人に対して、日本との文化的ギャップを埋めるのに役立つこととなった。また、テキサス大学サンアントニオ校の東亜学院とビジネス部門との協力が促進される機会となった。



(レクチャー(JETRO)の様子)



(質疑応答)

244 米国立太平洋戦争博物館主催日系人関連イベント (ヒューストン総領事館)

■実施時期 2019年2月23日

■実施場所 テキサス州フレデリックバーグ市
(米国立太平洋戦争博物館)

■関係機関 米国立太平洋戦争博物館主催

■訴求対象 フレデリックバーグ市関係者や
フレデリックバーグ

■開催規模 約100名



(博物館の日本庭園視察)



(日系人の歴史について説明)

■概要・効果

【概要】

真珠湾攻撃後の日系人の強制収容移転を追悼し、日系人部隊等の特別な貢献を賞賛する記念行事がフレデリックスバーグ市にある太平洋戦争博物館で行われた。当日、サンジャント大学のAbby Grubb博士が「Go for Broke: 日系アメリカ人の第二次世界大戦での体験」とのタイトルのもと講演。ドキュメンタリー映画「Proof of Loyalty: ヤマネカズオとハワイの二世兵士」と「Honor and Sacrifice: ロイ・松本物語」を上映。和太鼓グループによる公演や桜の絵を描いたり、箸のスキルを競うなど、日本文化体験も行われた。

【効果】

太平洋司令官であったニミッツ提督の故郷にある太平洋戦争博物館は、後生への歴史の伝達とともに、日米の和解への活動も行っている。このような博物館で日系人にかかるイベントが行われることは、大戦中の日系人の歴史についても未来志向の一環として関係者が努力していることをあらわしている。

245 日米イスラエルAI会議
(ヒューストン総領事館)

■実施時期 2019年2月25日

■実施場所 テキサス州ヒューストン市
アジア協会

■関係機関 全米ユダヤ人協会、コールケミカル主催
イスラエル総領事館、米日カウンシル、
JETROほか

■訴求対象 ヒューストン市関係者や 現地ビジネス関係者ほか



(当館より貸与のパロ)

■概要・効果

【概要】

米日カウンシル、ユダヤ人協会やJETRO等が協力して、最先技術を有する日米イスラエルの関係者が、医療分野のAIについて議論が行われた。医療産業で進行中の驚くべき変化が、ヘルスケアと高齢化人口の未来を形作るとして、人工知能が安全性と効率性の新たな可能性を切り開き続けている中、どのような社会的影響を期待できるのかという点についての発表があった。更に、患者と高齢者のために開発された対話型ロボット・パロの開発者である柴田博士による講演も行われた。当館所有のパロで実演。

【効果】

ヒューストンには、世界最大規模のメディカルセンターが存在する中、今回の会議によって、医療分野での交流も促進されることが期待される。

246 生け花インターナショナルテキサス支部総会
(ヒューストン総領事館)

■実施時期 2019年3月5日

■実施場所 テキサス州ヒューストン市
(総領事公邸)



(参加者一同)

■関係機関 生け花インターナショナルテキサス支部

■訴求対象 生け花インターナショナル会員

■開催規模 約30名



(日本舞踊紹介)

■概要・効果

【概要】

生け花インターナショナルテキサス支部の年次総会として、ひな祭りのタイミングで活動報告や交流促進、更には日本舞踊等の日本文化紹介が行われた。総領事公邸には、雛人形も飾られ、総領事夫人による雛祭りについての紹介もされた。

【効果】

当地における生け花紹介の活動に貢献している関係者と総領事館とは日頃から緊密な連携をとってきていることもあり、今回のイベントで連携が更に強化され、当地での日本文化紹介活動の活性化に資することが期待される。

生け花以外の日本文化について、米国人関係者に紹介できたことで、日本文化の幅広さに対する理解を促進できた。

247 伊藤元重東京大学名誉教授・学習院大学教授による講演会 (ヒューストン総領事館)

■実施時期 2019年3月7日

■実施場所 テキサス州ダラス市
南メソジスト大学

■関係機関 南メソジスト大学主催

■訴求対象 大学関係者、一般米国市民ほか

■開催規模 約150名

■概要・効果

【概要】

南メソジスト大学のアジア研究機関であるタワーセンターにおいて、伊藤元重東京大学名誉教授／学習院大学国際社会科学部教授が、アベノミクスをはじめとした日本経済の現状について講演を行った。

講演前は交流会、講演後は質疑応答や意見交換が行われた。

【効果】

安倍政権発足から6年間経済財政諮問会議委員であった同教授は、データの政策活用についての経験を踏まえつつ、アジア研究者や関心のある市民に紹介することで、更なる対日理解を促進できた。

日本企業の活動が益々活発になっているダラスエリアにおいて、主要アジア研究機関である南メソジスト大学タワーセンターとの協力で実施された経済関係の講演会によって、日本企業を支える環境構築にも資することとなる。



(伊藤教授(右)による講演の様子)



(聴衆の様子)

248 「にっぽんの宝物」米国ツアー in ヒューストン
(ヒューストン総領事館)

■実施時期 2019年3月10日

■実施場所 テキサス州オースティン市

■関係機関 アクティブラーニング社

■訴求対象 ヒューストン市関係者や 現地ビジネス関係者ほか

■開催規模 80名

■概要・効果

【概要】

各業者とコラボレートして、米国各地で日本の産品を紹介するイベントの一つとして、テキサス州の州都であるオースティンにおいて、毎年行われているサウスバイサウスウエストの機会を捉えて、日本の和牛や甘酒などといった具体例を活用して日本食の紹介を行った。サウスバイサウスウエスト会場に経産省が設置したジャパン・アイランド・ブースを活用した。

【効果】

当地飲食業界関係者を含むサウスバイサウスウエストへの来場者が、日本国内の商品開発の背景等を学ぶことで、これらの価値を認識し、日本食等に対する関心を高めることに貢献した。今回のイベントでの試食を通じ、商品開発の努力が反映された上質な味であることが確認できたとの声に参加者から聞かれた。



(ジャパンアイランドブース)



(和牛紹介: 尾崎宗治氏)

249 テキサスアジア協会における日本映画祭 (ヒューストン総領事館)

- 実施時期 2019年3月11～15日
- 実施場所 テキサス州ヒューストン市
(テキサスアジア協会)
- 関係機関 テキサスアジア協会、総領事館
- 訴求対象 地元市民
- 開催規模 数百名



(挨拶をする福島総領事)



(映画上映場の様子)

■概要・効果

【概要】

当地で最大のアジア系非営利団体テキサスアジア協会は、米国の教育機関が春休みとなる期間に、毎年アジアから一カ国を選び、その国の文化等を紹介するイベントを実施。本年は「Spring Break Journey through Japan」というテーマのもと日本が選ばれ、その一環として、日本映画上映会が実施された。上映された邦画は、「夜明け告げるルーのうた」、「ポケットモンスター ミュウツーの逆襲」、「ホッタラケの島～遙と魔法の鏡～」、「未来のミライ」。

【効果】

本件イベントには、地元の小中学生とその家族を中心に、一週間で約1000名以上が足を運ぶと言われている中、最新の日本のアニメ映画の上映を通じ、我が国ポップカルチャーの魅力を発信、当地の若年層の対日関心を高めることができた。

250 テキサスアジア協会における弁当ワークショップ (ヒューストン総領事館)

- 実施時期 2019年3月13日
- 実施場所 テキサス州ヒューストン市
- 関係機関 テキサスアジア協会、総領事館
- 訴求対象 地元親子ほか
- 開催規模 約100名



(お弁当についての説明)



(お弁当作り体験)

■概要・効果

【概要】

当地で最大のアジア系非営利団体テキサスアジア協会は、米国の教育機関が春休みとなる期間に、毎年アジアから一カ国を選び、その国の文化等を紹介するイベントを実施。本年は「Spring Break Journey through Japan」というテーマのもと日本が選ばれ、その一環として、総領事館が地元市民に対し、弁当の背景にある日本人のライフスタイルや考え方等を紹介しつつ、お弁当作り体験などの和食文化の紹介を行った。

【効果】

本件イベントには、地元の小中学生とその家族を中心に、一週間で約1000名以上が足を運ぶと言われている中、同ワークショップを通じ、和食の魅力を発信、当地の若年層等の対日関心を高めることができた。

251 日本語スピーチコンテスト

(ヒューストン総領事館)

- 実施時期 2019年3月23日
- 実施場所 テキサス州ヒューストン市
ライス大学
- 関係機関 ヒューストン日米協会、総領事館
テキサス日本語教師会、
ヒューストン日本商工会、
ヒューストン日本人会ほか
- 訴求対象 大学生、高校生、その家族
- 開催規模 約100名

■概要・効果

【概要】

テキサスで日本語を学ぶ学生が日頃の日本語学習の成果を披露するスピーチコンテストとして、中学生、高校生、大学生から広く参加者を募り、暗唱部門、俳句部門、日本語フリースピーチ部門等にて日本語能力を競った。

【効果】

日本語教育の振興、日米の文化交流促進の観点から重要なイベントであり、将来の親日派育成に向け、日本への関心と理解を高めることができた。



(スピーチの様子)



(聴衆の様子)

252 阿川教授による講演会
(ヒューストン総領事館)

■実施時期 2019年3月20日

■実施場所 テキサス州ダラス市
南メソジスト大学

■関係機関 南メソジスト大学主催

■訴求対象 SMU関係者や現地ビジネス
関係者ほか

■開催規模 約200名



(講演の様子)



(聴衆の様子)

■概要・効果

【概要】

阿川直之・同志社大学特別客員教授は、2018年1月に続き、今回も来訪。前回の来訪時と同じテーマである安全保障を中心とした日米同盟関係について、最新の状況をアップデートする形での講演会を行った。

武居智久元海上自衛隊幕僚長、パトリックウォルシュ元米国海軍太平洋艦隊司令官も特別ゲストとして同席し、ディスカッションに参加した。

【効果】

前回の来訪でも扱った、日米関係や日本の立場について、北朝鮮問題、中国との関係といった時宜を捉えたトピックに触れつつ、聴衆の関心を引きつける形で行われた講演会によって、継続的な情報提供を行うことができ、日米関係の重要性についての理解を促進した。

253 日テキサスリーダーシップシンポジウム
(ヒューストン総領事館)

- 実施時期 2019年3月27日
- 実施場所 テキサス州サンアントニオ市
- 関係機関 全米国際姉妹都市協会
サンアントニオ市
- 訴求対象 サンアントニオ市民、
日米交流支援関係者ほか
- 開催規模 約250名



(ペンス副大統領夫人の挨拶)



(相川次席公使等)

■概要・効果

【概要】

全米姉妹都市国際協会とサン・アントニオ市等の共催。日本とテキサスの草の根やコミュニティレベルでの経済・文化・人的交流のさらなる振興にむけた方途について各界の有識者がパネル形式による議論を深めた。

在米日本大使館から相川次席公使が出席し開会の辞を述べたほか、安倍昭恵夫人からのメッセージの代読、昼食基調講演ではカレン・ペンス副大統領夫人が自らの日本の学生との交流の思い出を語るなど対日交流の意義と重要性を熱弁した。

【効果】

ビジネスフレンドリーなテキサス州は、日本企業の進出も活発に進んでいる中、多様性に富んだサンアントニオにおいて、有識者の参加を得て、日テキサス関係についての議論が行われたことは、その重要性が改めて認識される良い機会となった。特にサンアントニオの市長が、全米国際姉妹都市協会の現会長であること、また、本年7月には全米姉妹都市協会の年次会合がヒューストンで行われることから、本シンポジウムのテキサスでの開催は時宜を得たものとなった。

254 オースティン日米協会アワードディナー (ヒューストン総領事館)

- 実施時期 2018年3月29日
- 実施場所 テキサス州オースティン市
- 関係機関 オースティン日米協会
- 訴求対象 オースティン市民ほか
- 開催規模 約100名



(福島総領事の挨拶)

■概要・効果

【概要】

オースティンの日米協会が毎年日米交流促進等のために実施するアワードディナー。本年のアワード「Bridges to Friendship Award」は、裏千家の准教授／サウスウエストテキサス州立大学名誉教授のシーラ教授に授与された。シーファー元駐日大使をはじめ、地元企業等代表による講演も行われた。オースティン周辺で活躍する太鼓グループによるパフォーマンスも行われた。

【効果】

州内で、ヒューストン、ダラスに次ぐ在留邦人数を有するオースティンは、経済的な勢いがあり、また、リベラルな環境を有し、テキサスでも独特な存在感を有する。そのオースティンで、日頃より日米交流を活発に行っているオースティン日米協会の関係者の交流を深める良い機会となった。

更に、このような機会へのダラス(シーファー大使等)やヒューストン(当館等)からの参加は、州内各主要都市において日米関係の促進を行っている関係者の交流を深める機会にもなった。

255 ハーバード大学フェアバンクセンターとの共催セミナー
(ボストン総領事館)

■実施時期 2018年3月27日

■実施場所 マサチューセッツ州
ハーバード大学
フェアバンクセンター
(中国研究センター)

■関係機関 ハーバード大学

■訴求対象 同大学に所属する東
アジア及び中国研究
を行っている研究者
及び学生

■開催規模 約200名

■概要・効果

【概要】

中国のハイテク産業の海外進出と知的財産権・所有権の問題をテーマとし、米国や我が国等の知的産業先進国への影響他を検討するセミナーを開催。

【効果】

本セミナーは、米通商代表部(USTR)が通商法301条に基づく中国の不公平な貿易慣行への対抗措置を発表した直後に行われたことから極めてタイムリーなものとなり、当地有識者の高い関心を集めた。

出席者については、バランス感覚に富んだ人選を行うことで、過度に中国に対して批判的なものとなることを避けつつ、中国ハイテク産業の海外進出と知財問題という日米ならびに先進国の共通課題を、ハーバードの有識者を中心とする当地インフルエンサーに向けて発信することができ、有意義なセミナーとなった。



256 **ボストン日本祭り**
(ボストン総領事館)

■実施時期 2018年4月28日・29日

■実施場所 マサチューセッツ州ボストン市

■関係機関 ボストン日本祭り実行委員会

■訴求対象 ボストン周辺の一般市民

■開催規模 延べ72,000名

■概要・効果

【概要】

日本からアメリカへのさくら寄贈100周年にあたる2012年に開始され、毎年ボストン市内で実施されている日本祭りは7年目を迎えて着実にボストン市民の間に定着してきている。2018年には開催日を2日間とし、日本食その他の100以上のブース出展に加え、ステージでは雅楽のパフォーマンスやコスプレコンテスト、ワークショップコーナーでは茶道、書道や折り紙などの紹介などが行われたほか、新たな試みとして黒船やジョン万次郎など日本とニューイングランドの歴史的繋がりを紹介するコーナーを設置し好評を得た。

総領事館は日本文化等を紹介するテントを設け、ワークショップコーナー及び歴史紹介コーナーの運営を担当しパフォーマーとの調整や、デモンストレーション、歴史を紹介するパネルの制作などを行った。

【効果】

ボストン市の中心にあるボストンコモンにおいて大規模な日本祭りを開催することで、知日層のみならず当地一般市民に広く日本文化を紹介する大きな機会となっている。また、イベントに向けた準備過程においては、日本人、米国人双方を含めた当地日本関連コミュニティが一致団結し、友好関係を高める効果があった。

開会式では州議会議員や州政府高官が出席して挨拶を行ったほか、州知事からのメッセージが読み上げられた。



257 CICサテライト・ブース グランドオープニングイベント (ボストン総領事館)

■実施時期 2018年5月8日

■実施場所 マサチューセッツ州
ケンブリッジ市、
ケンブリッジ・イノベーション・センター
(CIC)

■関係機関 CIC、CICベンチャーカフェ

■訴求対象 ボストン周辺の企業、
大学およびイノベーション・コミュニティ
関係者

■開催規模 約150名

■概要・効果

【概要】

当館がサテライト・ブースを設置したCICにてグランドオープニングイベントを開催。冒頭で総領事の挨拶に引き続き、当地に拠点を構える日系企業3社(FUJIFILM Pharma、ASICS、Takeda Pharmaceuticals)による当地スタートアップ企業向けにビジネスパートナーへの要望を伝えるリバース・ピッチを実施。

【効果】

日本人および現地の方がそれぞれ半数程度、大企業やベンチャー企業、大学、投資家と多様な参加者を集めることができた。参加者の多様性に伴い、これまででは得られなかったコネクションを形成することができたと参加者からのコメントがあった。企業のリバース・ピッチでは、これまで現地で知られていなかった取り組みを知ることができた(参加者コメント)など、日系企業のプレゼンスを向上させることができ、ピッチ後のネットワーキングの時間では、スピーカーが当地企業から様々な問い合わせを受けていた。



日系企業による当地企業向けのプレゼン



ネットワーキングの様子

258 ロードアイランド・ビジネスネットワーキングセミナー (ボストン総領事館)

■実施時期: 2018年5月24日

■実施場所: ロードアイランド州議会
グレートホール
(ロードアイランド州プロビデンス市)



■関係機関: ロードアイランドジャパン
ソサエティー、米海軍大学、
リーガンコミュニケーション



■訴求対象: ロードアイランド州における対日世論
形成に影響力を有する州議会関係者、
有力州議会議員

■開催規模: 200名

- (1) ダニエル・マーキー(ロードアイランド州知事代理)
- (2) ケネディ・ブライアン・パトリック(ロードアイランド州議会上院議員)
- (3) ジェフリー・ハーレー(米海軍大学校長)
- (4) ハリー・ウンスロップ(ニューポート市長)
- (5) 長田茂(東レプラスチック元上級副社長)

■概要・効果:

ロードアイランド州プロビデンス市において、同州ニューポート名誉領事に就任したウィリアム・レジス・ファレル(William R. Farrell)全米日米協会連合(NAJAS)前理事長を講師とするビジネスネットワーキングセミナーを開催し、同州議会関係者、主要政治家、同州日系企業等とのネットワーキング作り、政治・経済分野のキーパーソンとの関係構築・強化を図るとともに、当地に進出している日系企業の活動支援を行った。

259 CICサテライト・ブース ライフサイエンス・イノベーション・ナイト (ボストン総領事館)

■実施時期 2018年6月7日

■実施場所 マサチューセッツ州
ケンブリッジ市、
ケンブリッジ・イノベーション・センター
(CIC)

■関係機関 CIC、CICベンチャーカフェ、
JETRO、ボストン日本協会

■訴求対象 ライフサイエンス関連企業、
大学およびイノベーション・コミュニティ
関係者

■開催規模 約850名

■概要・効果

【概要】

当館がサテライト・ブースを設置したCICにてライフサイエンス・イノベーション・ナイトを開催。冒頭での総領事による挨拶に引き続き複数の会議室等でパネルディスカッション、ピッチセッション、デモ展示などを実施。また、JETRO NYとCICによる業務提携の発表が行われた。

【効果】

ライフサイエンス業界における世界最大の展示会・商談会であるBIO Int 2018の開催時期に合わせて実施したことにより、想定を上回る集客を達成。日米のベンチャー企業による投資家向けのピッチでは、全ての企業が後日投資家との個別面談を実施するなど具体的なビジネスの機会に発展する場面が見られた。JETRO NYとCICによる業務提携の発表後にはパンフレットを探し求めたり担当者を探す参加者の姿も見られた。



超満員となったベンチャーカフェ



デモ展示の様子



パネルディスカッションの様子

260 ハートフォード夏祭り (ボストン総領事館)

- 実施時期 2018年6月16日
- 実施場所 コネチカット州ハートフォード市
- 関係機関 グレーター・ハートフォード日本協会
- 訴求対象 ハートフォード市周辺の一般市民
- 開催規模 約3,000名



■概要・効果

【概要】

グレーター・ハートフォード日本協会が開催する「夏祭り」において、同協会と当館の共催で日本文化紹介を実施。太鼓グループによるパフォーマンス及びワークショップを始め、茶道レクチャー・デモンストレーション、墨絵実演、コスプレ・ショー、箸の使い方、浴衣体験、日本語教室、折り紙等の行事を行うと共に、日本食屋台等の出店を出すことにより夏祭りの雰囲気盛り上げた。和太鼓ワークショップは、参加者(大人子供、男女を問わない)に基本となるばちの使い方、和太鼓の打ち方を指導した。

【効果】

総領事館から遠隔に位置し、相対的に日本文化に接する機会の少ないハートフォード市及び同市周辺の人々に多様な日本の文化を理解してもらうと共に、幅広い層に日本への関心を高めてもらい、日本に対する親近感を醸成することができた。

261 MIT-ILPセミナー (ボストン総領事館)

■実施時期 2018年8月22日

■実施場所 マサチューセッツ州
ケンブリッジ市、
ケンブリッジ・イノベーション・センター
(CIC)

■関係機関 CIC

■訴求対象 ボストン周辺の企業

■開催規模 49名

■概要・効果

【概要】

マサチューセッツ工科大学の産学連携プログラムであるMIT-ILPの紹介、および会員企業による活用事例の紹介。

【効果】

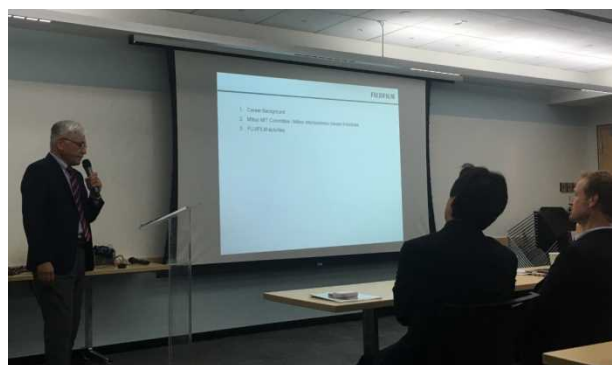
参加者からはこれまでMITとの連携方法を模索していた中で今回のセミナーを通してMIT-ILPのことを知ることができ、今後本社とも相談して会員になることを検討したいという声、既に自社が会員であることをセミナーの中で知り、今後同大学との連携において一層活用していきたいとの声が聞かれた。セミナー後、各スピーカーはMIT-ILPに興味を持った参加者からの問い合わせを多数受けていた。



総領事による挨拶



MIT-ILPオフィスからの説明



ILP会員企業からの説明

262 CICサテライト・ブース ライフサイエンス・イノベーション・ナイト (ボストン総領事館)

■実施時期 2018年10月22日

■実施場所 マサチューセッツ州
ボストン市、
ケンブリッジ・イノベーション・センター
(CIC)

■関係機関 CIC、ボストン日本協会

■訴求対象 マーケティング関連企業、
イノベーション・コミュニティ関係者

■開催規模 約50名

■概要・効果

【概要】

当館がサテライト・ブースを設置したCICにてデジタル・マーケティングをテーマにしたイベントを開催。冒頭での総領事による挨拶に引き続き地元企業、日系企業の発表および参加者との個別面談が行われた。

【効果】

当館のCICにおける活動において、各企業がデジタル・マーケティングに強い興味を有していることを認識していたことから、これまでの面談企業などをスピーカーとして選別したところ、技術面や経済的な観点など幅広い観点での発表となり、参加者から同分野に関して理解を深められたという意見が見られた。また、各参加企業からも日系企業に関しては、自社が日系企業であることがあまり知られていなかったため、プレゼンスの向上に役立ち、地元企業からは当地における邦人とのコネクション形成に役立ったとのフィードバックが得られ、参加者、発表者の双方にとって有意義なものとなった。



本官による挨拶



発表企業によるプレゼンテーション

263 ポストン・イノベーション・ツアー・レセプション (ボストン総領事館)

■実施時期 2018年11月9日

■実施場所 マサチューセッツ州
ブルックライン市(公邸)

■関係機関 CIC、HIS

■訴求対象 日本における起業
関係者、ボストン周辺の企業、
大学およびイノベーション・コミュニティ
関係者

■開催規模 40名

■概要・効果

【概要】

CICとHISが共同で企画した日本において当地のイノベーションに興味を有する方、起業を検討している方向けのツアーにおけるレセプション。

MassChallengeやLabCentralなど、当地における有力な起業支援機関の視察を行った後に、当地のエコシステム関係者との人的ネットワークの形成を目的とするレセプション。

【効果】

ツアーの参加者以外には当地の大学関係者、投資家、日系および米国企業のイノベーション担当部署の関係者が参加した。ツアー参加者との交流を通して、参加者は当地のエコシステムの現状を知ると共に、中心となって活動している方とコネクションを形成できたとの声が聞かれた。また、当地からの参加者からは将来的な人的ネットワークが形成できたこと、日本での起業に関して、現状と課題を学ぶことができたとの声が聞かれた。



MassChallengeの様子



LabCentralの様子

264 The 3rd Japan-US Science Forum in Boston 関係者を対象にした
レセプションの実施（ボストン総領事館）

■実施時期 2018年11月10日

■実施場所 総領事公邸

■関係機関 当館以外のフォーラム共催者：
日本学術振興会(JSPS)ワシントン研究連
絡センター／海外日本人研究者ネットワーク
(UJA)

■訴求対象 本フォーラムにおける、講演者、
パネリスト、ポスター発表者、
フォーラム企画員、その他

■開催規模 40名

■概要・効果

【概要】

ボストン地区における日米の研究者が、専門分野の垣根を越えた議論・交流を通じ、世界的課題の克服にむけて協力を推進していくことを目的とし、毎年開催されるフォーラム（当館は共催者）。今年度、「睡眠と神経科学」をテーマに第3回を迎えた。フォーラムには、当地区で研究活動に励む日米の研究者を中心に、約160名の参加者を得た。フォーラム終了後、一層の意見交換・交流の場を提供すべく、実施・運営に貢献した関係者を公邸に招き、レセプションを開催した（当館主催）。

【効果】

フォーラム及びレセプション会場において、睡眠科学を巡る活発な議論、学術的な話題に限らない幅広い意見交換、多様な分野間の交流が行われた。学術コミュニティーにおけるネットワークが強化されたのみならず、日本及び米国出身の研究者が主たる参加者であったことから、良好な日米関係の維持・向上にも資するものとなった。



265 バイオ系スタートアップ企業によるピッチイベント (ボストン総領事館)

■実施時期 2018年11月27日

■実施場所 マサチューセッツ州
ケンブリッジ市、
ケンブリッジ・イノベーション・センター
(CIC)

■関係機関 AZCA Inc.、CIC、
CICベンチャー・カフェ

■訴求対象 日系製薬企業、
バイオ系スタートアップ企業および
イノベーション・コミュニティ関係者

■開催規模 約60名

■概要・効果

【概要】

当館がサテライト・ブースを設置しているCICにおいて、バイオ系スタートアップ企業が日系製薬企業に対し、ピッチを行うイベント。総領事による挨拶に引き続き、6社のスタートアップ企業が順次登壇し、自社が保有するテクノロジーや開発状況について、外部との協業の可能性も訴求しつつ、1社あたり30分間の持ち時間を利用してプレゼンテーションを行った。

【効果】

1社のピッチが終わる度に、技術の原理や応用例、今後の見通しに関する活発な質疑応答が行われた。ピッチ後に設けられたネットワーキングの場では、スタートアップ企業と日系製薬企業との間でさらに詳細な情報交換、その他セクターからの参加者を交えた幅広い話題の会話がなされていた。参加した日系製薬企業関係者からは、イベント内容と参加する機会に恵まれたことに対する満足の声が多数聞かれた。



本官による開催挨拶



ピッチと質疑応答



ネットワーキング

266 J-Winと当地有識者の意見交換レセプション (ボストン総領事館)

- 実施時期 2018年12月10日
- 実施場所 マサチューセッツ州ボストン市
- 関係機関 ボストン総領事館主催
- 訴求対象 日米ビジネス関係者等
- 開催規模 140名



■概要・効果

【概要】

企業での女性の活躍やリーダー育成を支援する日本のNPO法人J-winの海外研修参加者(主に日本企業の女性幹部)が当地を訪問する機会を捉え、当地ビジネス関係者を中心に、女性エンパワーメント関係者その他有識者等が集まる場を設け、ニューイングランド情勢に関するブリーフィングを行うとともに、意見交換やネットワーク構築を行った。

【効果】

当地を訪問した日本企業の女性幹部が、当地の主要なビジネス関係者や有識者とともに会し、効果的にネットワーキングを行うと同時に、活発な意見交換を行うことができた。

267 国際保健専門家による講演会及び関連機関関係者との意見交換の実施（ボストン総領事館）

■実施時期 2019年2月11日－12日

■実施場所 ハーバード大学公衆衛生大学院／
Institute for Healthcare Improvement (IHI)

■関係機関 ハーバード大学公衆衛生大学院／
Institute for Healthcare Improvement (IHI)

■訴求対象 各国の国際保健専門家、ハーバード大学公衆衛生大学院の武見プログラムフェロー・学生、その他

■開催規模 20名

■概要・効果

【概要】

瀧澤郁雄JICA（国際協力機構）人間開発部次長を講師として、ハーバード大学公衆衛生大学院において、JICAのアフリカ諸国における活動（感染症対策など）やUHC（ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ）達成に向けた協力、国際保健分野における日本の貢献について、紹介・解説する講演会を実施した。また、当該講師は、当地に所在する世界有数のグローバルヘルス関連機関であるIHIの幹部及び実務者と、特にアフリカ諸国における公衆衛生上の重要課題、国際保健関連プロジェクトに係る方法論、日米両機関の途上国支援面での協力の可能性に関し意見交換を行った。

【効果】

日本の国際保健分野における活動や歴史を、JICAの第一線の実務者が、公衆衛生に関わる具体的な課題について研究・実践している精鋭の専門家（アフリカ出身者多数）に対し集中的に紹介することにより、重要な課題への日本の貢献ぶりや実績を効果的に示すことができた。また、当該講師が、当地における世界有数の関連機関の要人や有識者と交流したことにより、両機関の将来的な協力関係の構築、具体的な協働プロジェクトの始動が期待できる。



268 ノーウィッチ大学における武居智久前海上幕僚長講演会 (ボストン総領事館)

■実施時期 2019年2月19日

■実施場所 バーモント州
ノースフィールド市
(ノーウィッチ大学)

■関係機関 米海軍大学

■訴求対象 将来、その多くが職業
軍人になることが見込
まれる同大学の学生
及び教官

■開催規模 約50名

■概要・効果

【概要】

ロードアイランド州に所在する米海軍大学で教授を務める武居智久氏(前海上幕僚長)に出張してもらい、講義を実施。

講義のテーマは「インド太平洋：対立の海を繁栄の海へ」というもので、主として中国の活発な海洋進出を解説し、今後、日米両国が進むべき道を提示するという内容は時宜に適っており、質疑応答で多数の質問がなされるなど、聴衆の高い関心が窺われた。

【効果】

同大学における我が国自衛隊関係者の講演は今回が初めて。大学側は国際交流に積極的で、従来より日本との交流拡大に高い関心を示していた。今回の講義は、それ自体大変意味のあるものであったが、単発の講演会に終わることなく、今後の日米防衛関係者の交流促進という観点からも、極めて有意義な機会となった。



269 CIC Japan Education Innovation Night
(ボストン総領事館)

■実施時期 2019年3月7日

■実施場所 マサチューセッツ州
ケンブリッジ市,
ケンブリッジ・イノベーション・センター
(CIC)

■関係機関 CIC, ボストン日本協会,
JETRO

■訴求対象 教育関係者,
イノベーション・コミュニティ関係者

■開催規模 660名

■概要・効果

【概要】

教育における日米のイノベーションを様々な形で紹介。教育関連の事業を行っている起業家による講演、パネルディスカッションや投資家が審査員として参加するEdTech関連のベンチャー企業によるピッチイベントを実施。

【効果】

参加者からは、教育関係で起こっているイノベーションに関して新たな知見を多く得られたとの声が多数聞かれた。登壇した起業家、企業、投資家からは、イベントを通して、各種問い合わせの増加、将来的に有用なコネクション形成に寄与したとの声が聞かれた。



スタートアップ企業のプレゼンテーション



ネットワーキングの様子

270 京都ボストン姉妹都市60周年記念イベント (ボストン総領事館)

■実施時期 2019年3月26日

■実施場所
マサチューセッツ州ボストン市

■関係機関
ボストン市
京都市

■訴求対象 ボストン市民、政府関係者

■開催規模 約300名



開会式の様子



和食デモンストレーション

■概要・効果

【概要】

2019年にボストン市と京都市が姉妹都市提携60周年を迎えることを記念して、ボストン市役所ロビーにおいて茶道、生け花、香道、和食など京都にちなんだ日本文化のデモンストレーション、折り紙や版画のワークショップ、和食（寿司、ラーメン、和菓子等）の試食提供を行い、ボストン市民やボストン市・マサチューセッツ州政府関係者らに日本とボストンの歴史的繋がりを改めてアピールした。開会セレモニーには市役所を訪れていた一般市民に加え、州政府高官、州議会関係者などが出席、総領事の挨拶の中では京都市長からのメッセージが読み上げられた。

【効果】

幅広い層に日本とボストンの繋がりについて効果的に周知させるとともに、4月に予定されている京都市長のボストン訪問や、ボストン日本祭りに向けて大きな弾みを付けることができた。

271 ハワイ日系人の歩み写真展 (ホノルル総領事館)

■実施時期 2018年を通して開催

■実施場所

ハワイ州オアフ島内各地、マウイ島、
カウアイ島、ハワイ島

■関係機関 二世ベテランレガシー

■訴求対象 一般市民

■開催規模 約10,000名

■概要・効果

【概要】

年間を通じて、ハワイ日系人の歴史を紹介する「ハワイ日系人の歩み写真展」をオアフ島内各所及び隣島各地で開催。1868年(明治元年)に日本から初めて移民が渡った土地がハワイであり、最初の移民である1世から現代に至るまで日本の文化や価値観がどのようにハワイにおいて受け継がれてきたかをハイライトした内容となっている。

【効果】

当事者である日系人のみならず共感できる内容であるとのことで、各地の来場者からは高評価を受けた。隣島でも開催したことで、ホノルル市民のみではなく、様々な層にもアプローチをすることができ、本写真展には多くの感銘の声があった。6月に御来訪された秋篠宮妃両殿下も御高覧になられた。また、若い世代に伝えたいという声もあり、2019年にはハワイの学校でも開催依頼があったりと、写真展を見た人の次の行動にもつながった。



ホノルル市内カハラモールにて



マウイ島カフルイ地区にて

272 元年者150周年記念式典／シンポジウム (ホノルル総領事館)

- 実施時期 2018年6月7日
- 実施場所 ハワイ州ホノルル市
(市内ホテル)
- 関係機関 元年者150周年実行委員会
- 訴求対象 ハワイ州日系人、
ハワイ州政府関係者、
元年者子孫、大学関係者、
ハワイ州民間企業関係者
- 開催規模 約550名

■概要・効果

【概要】

150年前の6月に最初の日本人移民がハワイに上陸したことを記念して、2018年6月に、この激動の時代を生きた日系1世達(元年者)を偲び、日系人の歴史を振り返り、現状の日系人社会を見つめ、今後の日系人社会の在り方について考える式典及びシンポジウムを実施した。開会式には州知事等の他、秋篠宮同妃両殿下が御臨席になり、出席者に深い感銘を与えた。

【効果】

元年者の子孫間のネットワークを構築し、かつ、次世代の青年層も参画させることにより、彼らが日本を身近な存在として捉えるきっかけを作り、現地コミュニティにおける新たな親日家の醸成に繋がった。

また、当地主要英字紙及び日系紙において、元年者の特集号が掲載された。秋篠宮同妃両殿下の御訪問と併せて当地のメディアに大々的に報道され、元年者について(日系人のみならず)現地の人に広く認知された。さらに、2018年を元年者150周年と正式に認知する宣言が州知事によって署名された。



273 ボーイスカウト・メンバーによる総領事館訪問 (ホノルル総領事館)

■実施時期 2018年6月14日

■実施場所
ハワイ州ホノルル市（総領事公邸）

■関係機関
ボーイスカウト・オブ・アメリカ・アロハ支部

■訴求対象 現地のボーイスカウトグループ

■開催規模 約10名

■概要・効果
【概要】

在日米軍勤務経験者が幹部として関わっている現地のボーイスカウトグループを招き、日本にまつわるクイズ、JNTO観光ビデオ上映、総領事館の役割や日ハワイ関係についてのプレゼンテーションを行った。若年層・青年層への対日関心・訪日意欲の喚起につながり、今後もこのような地域コミュニティとの連携を強化できる取組を行っていく。

【効果】

日頃アプローチのしにくい若年層・青年層へ向けて、東京オリンピックに関する広報を行うことができた。日本に関する知識を増やしてもらうのみならず、親日感の醸成につながった。



274 広島ハワイ次世代ビジネスリーダー・プログラム歓迎レセプション (ホノルル総領事館)

- 実施時期 2018年8月27日
- 実施場所 ハワイ州ホノルル市
(総領事公邸)
- 関係機関 ホノルル日本人商工会議所、
広島県
- 訴求対象 広島とハワイの次世代
ビジネスリーダー
- 開催規模 31名

■概要・効果

【概要】

実施2年目を迎えたビジネス・リーダー研修プログラム。友好都市であるハワイと広島の次世代ビジネスリーダー各10名がハワイで交流し、共にビジネス・リーダーシップ研修を受けた。

【効果】

この交流を支援するため、総領事館がホノルル日本人商工会議所と共催で歓迎レセプションを開催。両者の絆を深めるのに貢献した。



275 沖縄フェスティバルにおける泡盛輸出促進イベント (ホノルル総領事館)

■実施時期 2018年9月1-2日

■実施場所 ハワイ州ホノルル市
(ハワイ・コンベンション・センター)

■関係機関 ハワイ沖縄連合会

■訴求対象 一般市民

■開催規模 約2,700名

■概要・効果

【概要】

(1) 泡盛の歴史等に関するパネル展示

(2) 泡盛創作カクテルと泡盛を使った料理のペアリングコンテスト(入場無料)と試飲・試食(参加費25ドル)

初日に、ホノルルの人気レストラン6店の協力を得て、各店のバーテンダーと料理人のペアによる泡盛カクテルとペアリング料理のコンテストを実施。イゲ知事夫妻、コールドウェル・ホノルル市長、本官夫妻が来賓として参加。地元食業界関係者が各レストランの評価を行い、知事賞(カクテルと料理のベスト・ペアリング)、市長賞(ベスト泡盛カクテル)及び総領事賞(ベスト泡盛の活かし方)を授与した。

(3) 泡盛の試飲

2日間1日2回午前と午後に2時間ずつ、試飲セッションを提供した。(2種類で5ドル)

【効果】

イベント実施後のホリデー商戦期(サンクス・ギビングがある11月初頭から1月第1週)に、イベント実施下請けを行った泡盛販売業者のハワイ州における売り上げが、前年同時期に比べて約3倍(967本から3,142本)となった。

沖縄県から、ハワイ沖縄フェスティバル出席のため出張していた嘉手苅文化観光スポーツ部長も本イベントに参加し、地元民による地元テイストに合わせた創作カクテルや料理を、地元民が評価する企画に感銘を受けていた様子で、本件イベントの実施に謝意を表明。



276 海上自衛隊練習艦隊を迎えてのJUMPレセプション (ホノルル総領事館)

■実施時期 2018年10月15日

■実施場所 ハワイ州ホノルル市
(総領事公邸)

■関係機関 ハワイ日米協会と共催

■訴求対象 ハワイ在住の米軍人

■開催規模 200名

■概要・効果

【概要】

海上自衛隊の練習艦隊がホノルル港に寄港する機会を捉え、インド太平洋軍や太平洋艦隊をはじめとする当地の各司令部に勤務する米軍人を夫妻で公邸に招き、JUMPレセプションを実施。米軍の現役将官が3名も参加。泉練習艦隊司令官(当時)及びダルトン太平洋艦隊作戦部長の双方より、日米間の緊密な協力についてスピーチ頂くとともに、練習艦隊の音楽隊によるコンサート、太鼓グループによる実演、空手グループによる実演を行った。

【効果】

日米同盟の前線で活躍してきた日米双方の将官よりスピーチ頂くことで、日米同盟の緊密性を再認識し、その重要性を訴えることができた。

また、練習艦隊の音楽隊、太鼓グループ及び空手グループによる実演は大変レベルが高い内容であり、多くの参加者から賞賛の声が上がり、在日米軍経験者からは日本滞在を懐かしむ声が、未経験者からは今後の在日米軍勤務に関心を示す声が聞かれた。



277 秋の夜長レセプション～公邸における日本舞踊の紹介 (ホノルル総領事館)

■実施時期 2018年10月22日

■実施場所

ハワイ州ホノルル市（総領事公邸）

■関係機関 国際交流基金

■訴求対象 一般市民

■開催規模 52名

■概要・効果

【概要】

当館と数年来の関係があり、また、国際交流基金から平成30年度の助成を受ける日本舞踊家の藤間貴雅氏が団長を務める特定非営利活動法人ハーモニージャパンを迎え、来客に日本舞踊を間近で体験してもらう機会を設けた。若年層に日本文化に親しんでもらい、親日派の拡大を図ることを目的に、当地日系人諸団体のみならず、当地大学にて日本語や日本文化を学ぶ学生も招待した。



【効果】

演目冒頭に、当地でも若手民謡演奏家として活躍している円杏寿氏が三味線を伴う歌唱を披露した。ハワイの日本人移民が生み出した労働歌であるホレホレ節に始まり、大阪民謡天神さん、藤間氏の団員二名の踊りも加わった四季のメドレーが披露された。大阪民謡天神さんでは、円氏が会場に手拍子を求め、会場が一体となって楽しんだ模様であった。最終フィナーレでは、藤間氏と若柳慶次郎による長唄「知盛」が披露された。藤間氏の衣装、また小道具である長刀の動きに会場は大盛況となった。全項目終了後も、藤間氏と写真を撮ろうとする来客が多く、間近で体験する日本舞踊を大いに楽しんだ模様。その後の公邸料理人によるビュッフェと懇談会、日本酒の提供は来客に好評で、若年層を対象とした日本の魅力発信、日本文化や日本食の普及等日本文化を広めるのに有意義なイベントとなった。

278 アジア系商工会議所との合同イベント ～「Nuuanu NIHONの夕べ」(ホノルル総領事館)

■実施時期 2018年11月7日

■実施場所 ハワイ州ホノルル市

■関係機関 ホノルル日本人商工会議所、
ハワイ韓国商工会議所、
ハワイ中国商工会議所、
ハワイ・フィリピン商工会議所



■訴求対象 日中韓比系米国人企業家

■開催規模 100名

■概要・効果

【概要】

ホノルル日本人商工会議所(当地の日系米国人企業家らが運営する団体)と共催する形で、日中韓比の4つのアジア系商工会議所で構成するクアッド商工会議所の会員を公邸に招き、ビジネス・ネットワーク・レセプションを開催。日系の枠を超えて当地のエスニック・コミュニティとの交流を促進するため、日中韓比の商工会議所のそれぞれから、会頭や役員を含む25名の代表メンバー計約100名の参加となった。立食レセプション形式で日本料理と日本酒及び泡盛を振る舞い、途中、日系人演奏家による琴のミニ演奏会も実施することで、日本の魅力を発信。



【効果】

クアッド商工会議所としての行事を関係国の総領事公邸を会場として実施することは今回が初めての試みであり、関係者の間で相当な話題になった模様。中国商工会議所では、所内の参加者を募集した際にウェイティング・リストができるほど応募が集まった由。また、行事に参加した中韓比系の参加者からは、「初めて日本の公邸に招待されて光栄であり、公邸での開催を提案してくれたことに感謝する。」との評価や「かつて日本に行ったことがあるが、また行きたくなった。日本料理や飲み物に琴の演奏などいずれも素晴らしかった。」などの声が聞かれ、当地での良好な対日観の維持、当地エスニック・グループにおける対日理解促進に資する場となった。

279 ハワイ州との運転免許試験相互免除に関する協力覚書締結 (ホノルル総領事館)

- 実施時期 2018年12月20日
- 実施場所 ハワイ州ホノルル市
- 関係機関 ハワイ州運輸局
- 訴求対象 ハワイに住む日本の運転免許保持者、日本に住むハワイ州免許保持者



■概要・効果

【概要】

2018年12月20日に、伊藤ホノルル総領事とブテイ・ハワイ州運輸局長との間で、日ハワイ運転免許試験相互免除に関する協力覚書に署名を行った。この新しい取決めに周知するために2018年12月20日を「日本の運転免許相互認証の日」と定めたイゲ知事及びグリーン副知事による公式声明文が発出された。

【効果】

まだハワイ州運転免許を保有していなかった多くの在留邦人が連日、必要書類申請のために当館を来訪するようになった。日ハワイ間の人物・経済交流促進に寄与した。



280 日系移民/日ハワイ交流の歴史に関するセミナー (ホノルル総領事館)

- 実施時期 2019年1月29日
- 実施場所 ハワイ州ホノルル市
(州議会庁舎)
- 関係機関 ハワイ日米協会
- 訴求対象 州上下院議長、議員、
補佐官
- 開催規模 53名
- 概要・効果



【概要】

2018年は、日本から最初の移民がハワイに到着してから150周年の節目の年として日系移民及び日ハワイに関する多くの行事が行われ、日系人やその歴史が注目を浴びた。そのモメンタムを失わないよう2019年1月に、日系移民や日本とハワイの歴史的関係をあらためて振り返り、日本とハワイの深く特別な関係の理解を深めて貰うセミナーを実施した。

【効果】

日系移民／日ハワイ交流の歴史に関するセミナー(The Bridge between Hawaii and Japan)と題し、ハワイ大学のオガワ教授及びカナダ人落語家の桂サンシャイン氏を講師に招き、ハワイ日系移民の歴史、今日の日本社会、と日米文化の違いについて講演。

州議会の会期冒頭の多忙な時期にもかかわらず、ハワイ州上下院から両院の議長(冒頭挨拶)及び議員や補佐官など53名が参加し、地方政治の指導者層に日本文化と日系人の歴史等に触れてもらう貴重な機会となった。

281 落語を通した日本文化紹介 (ホノルル総領事館)

■実施時期 2019年1月30日

■実施場所

ハワイ州ホノルル市
(ハワイ大学マノア校オービス講堂)

■関係機関

ハワイ大学マノア校日本研究センター
ハワイ日系人連合協会

■訴求対象 一般市民

■開催規模 約400名

■概要・効果

【概要】

カナダ人落語家の桂サンシャイン氏による公演。

桂氏は、創作落語に定評があり、世界に向けて日本文化の発信を行っている。

日本文化に親しみのある当地においても落語を体験したことのある人は少なく、親しみやすいと思われる英語落語を通して、一般市民や地域の学生の日本文化の理解促進、対日関心喚起を目的に開催。

【効果】

目標としていた来場者数を上回り、実施後のアンケートでも高い評価を受けた。会場が一体となって楽しんでいるのが伝わってくる公演となった。今回のみならず、当館の今後の広報文化活動にもつながる大変有意義な公演となった。



282 ホノルルビジネス・リーダーとの関係強化公邸レセプション (ホノルル総領事館)

- 実施時期 2019年2月20日
- 実施場所 ハワイ州ホノルル市
(総領事公邸)
- 関係機関 Hawaii Business Roundtable
- 訴求対象 ホノルル有力企業の社長、
主要大学学長、有名レストランシェフ、
ハワイ州政府関係者等
- 開催規模 45名

■概要・効果

【概要】

ホノルルの主要企業及び主要大学のトップ、有名レストランシェフ、ハワイ州政府経済産業開発観光局長等を招き、最近日本から出身地であるハワイに戻ってきたポール・ヨナミネ・セントラル・パシフィック・バンク会長兼CEOによるプレゼンを行い、最新の日本経済の動向や同人の日本におけるビジネスの経験を共有。日本文化(三味線と歌)の紹介を短時間行った。

【効果】

初めての企画であったが、初めて日本総領事公邸に招待された者も多くいて、招待されて嬉しい、このような多様な業界のトップクラスが一堂に会するのは珍しく、大変良い企画だったとの声が聞かれた。

新たな当館の人脈形成、日本の応援団の育成に繋がった。



283 につぼんの宝物米国ツアー in ホノルル (ホノルル総領事館)

■実施時期 2019年2月19日

■実施場所 ハワイ州ホノルル市
レストラン・山田チカラ

■関係機関
Undiscovered Gems of Japan Inc.

■訴求対象
食品輸入卸売り業者、レストラン業者、
一般市民

■開催規模 30 名

■概要・効果

【概要】

地方の優れた産品を全国規模での学び合いやコンテストを通じて守り・育てる「につぼんの宝物」プロジェクトを紹介。ホノルルでは、グランプリ受賞産品の中からオオヤブデイルーファームのヨーグルト、魚兼の鮎の塩麴漬け、尾崎牛について、それぞれ生産者がプレゼンを行い、ゲストシェフの山田チカラ氏が、同産品を使った斬新なメニューの試食を提供。

【効果】

国際的に活躍するシェフとのコラボレーションメニューで、日本の食品素材の可能性を当地の食業界関係者を含めて体感してもらい、日本の地方の魅力を知ってもらうことが出来た。

ハワイを代表するオーナー・シェフでパシフィック・クイジーヌを得意とするアラン・ウォン氏から、産品をレストランで取り入れたいとのコメントがあった。その他、イベント開催の提案やメディアとのコラボを希望する声、とても勉強になった、新たな日本の魅力を感じた、今回紹介された生産者の地域に行ってみたい、初めて鮎を食べて感動した、和牛に対する意識が変わったなどの声が聞かれた。



284 日系移民ハワイ移住150周年締めくりレセプション (ホノルル総領事館)

- 実施時期 2019年3月1日
- 実施場所 ハワイ州ホノルル市
(総領事公邸)
- 関係機関 歌舞伎公演関係者
- 訴求対象 政財界、米軍、
日系人・日本人諸団体、
文化施設などの代表、
メディア
- 開催規模 約150名
- 概要・効果
【概要】



ハワイ日系移民(元年者)150周年記念事業を締めくくるに当たり、当地政財界の有力者及び米軍司令官を招いたレセプションを総領事公邸にて開催した。52年振りのハワイ公演を翌日に控えた歌舞伎関係者の参加を得て、同公演が元年者150周年記念事業の最後を飾る行事になるとともに、本年度の「Japan2019」事業(米国における大規模日本文化紹介・交流事業)の先駆け行事となることを紹介する場ともなった。

【効果】

参加者の多くから、数々の元年者150周年記念行事を通じて、ハワイ日系人の歩みを再認識するとともに、日系人社会、引いては日ハワイ関係の連携強化につながる良い機会となったという声が聞かれた。

また、本レセプション開催に際し、当地不在のため参加できなかったギャバード連邦下院議員から、元年者周年行事を祝う書簡が寄せられるなど、連邦議員に改めてハワイの日系人連携の重要性を周知する機会ともなった。

285 第25回ホノルルフェスティバル・レセプション (ホノルル総領事館)

■実施時期 2019年3月7日

■実施場所
ハワイ州ホノルル市（総領事公邸）

■関係機関
ホノルルフェスティバル財団

■訴求対象
ハワイ州知事、ホノルル市長、日系団体代表、
現地有識者、各国総領事（韓国、豪州、
及びフィリピン）等

■開催規模 約100名

■概要・効果

【概要】

ホノルルフェスティバルは、日系旅行会社JTBが中心となって設立したホノルルフェスティバル財団が主催する、環太平洋地域諸国の文化交流を目的とした現地最大の行事である（毎年10万人以上が来場）。歴代の在ホノルル総領事は、同フェスティバル実行委員会の名誉会員を務めており、例年、3日間の行事の前日に、公邸において、関係者の親睦を深めることを目的に、ホノルルフェスティバル財団とともにキックオフ・レセプションを共催している。

【効果】

今年はホノルルフェスティバル25周年という節目の年で、コールドウェル・ホノルル市長及びホノルル市の姉妹都市である茅ヶ崎市の佐藤市長から、長年ホノルルフェスティバルへの貢献・功績をたたえ、ホノルルフェスティバル財団治福理事長への表彰がプログラムに盛り込まれ、日・ハワイ友好を象徴する会となった。



286 第25回ホノルルフェスティバルにおける日本映画上映会の開催 (ホノルル総領事館)

■実施時期 2019年3月9日・10日

■実施場所

ハワイ州ホノルル市
(ハワイ・コンベンション・センター)

■関係機関

国際交流基金、ホノルルフェスティバル財団

■訴求対象 一般市民

■開催規模 約1,500名

■概要・効果

【概要】

文化交流を通じてハワイと日本を中心としたアジア太平洋諸国・地域の親善の輪を広げることを目的とした「第25回ホノルル・フェスティバル」がホノルル市内で開催された。

同フェスティバルには毎年10万人以上の参加者・観客が集まるため、その機会を捉え、5本の日本映画上映を実施。

【効果】

映画上映を通じて、日本文化および日本の魅力を幅広く発信することで、対日関心喚起、対日理解促進、訪日観光誘致を目的とするが、アンケート内容からも上映映画の内容等も含め高評価であった。日系人を中心に、対日関心度の高い人が多い当地であるが、こういった映画上映等を通して、より日本への関心を高め、日本に行きたい、といった印象をもって会場を後にする人が多かった。



287 アイダホ州知事就任の機会を捉えた日系企業及び日本人コミュニティとの関係強化（ポートランド領事事務所）

■実施時期 2019年3月11日

■実施場所 アイダホ州ボイジー市内ホテル

■関係機関 ポートランド領事事務所主催

■訴求対象 アイダホ州やボイジー市政府、
州議会関係者、日系企業、
日本人会、日系人会ほか

■開催規模 約80名

■概要・効果

【概要】

アイダホ州は、毎年在留邦人数が増加、また、進出日系企業も増えつつある。特に半導体企業のマイクロン本社及び研究開発施設があることから、半導体関連の日系企業が増加。最近では、規模は小さいものの日本人学校も新たに立ち上がった。

また、今年からアイダホ州知事が新たに就任したことから、この機会を捉えて、アイダホ州政府等やアイダホ州で活動する日系企業やアイダホ日本人会などの日本コミッティーとの関係を強化のためのレセプションを開催。

【効果】

相互の交流を通じて、アイダホ州政府に日系企業や日本人コミッティーの活動を知らしめる事が出来た。また、これまで関わった事がない州各市政府関係者とも繋がる事が出来た。

参加した州政府や州議会関係者等からは、何か必要な事があればいつでも協力する旨の発言もあり、アイダホ州において日系企業や日本人コミッティーが活動しやすい環境作りを行う事が出来た。



288 日本酒セミナー(オーランド)
(マイアミ総領事館)

■実施時期 2018年5月30日

■実施場所 フロリダ州オーランド市
中部フロリダ大学内
Beer & Wine Lab

■関係機関 三越アメリカ、牛角、中野BC(株)
中部フロリダ大学ホスピタリティ学部

■訴求対象 外食・酒流通等関係者、
メディア関係者、一般市民等

■開催規模 セミナー23名、
レセプション29名

■概要・効果

【概要】

5月30日、オーランド市中部フロリダ大学内 Beer & Wine Labにおいて、外食・酒流通等関係者向けにセミナーを、その後、一般市民向けにレセプションを開催し、52名の参加者を得た。レセプションでは、日本酒の試飲だけでなく、牛角及び三越からの協力を得て日本食とのペアリングも提案した。

【効果】

アンケート集計結果では、本イベントに対する高い満足度や日本文化への理解度の向上があったとする回答が大半を占めており、業界関係者及び一般市民の日本酒や日本文化に対する理解促進に貢献した。



289 日タンパ・ビジネス・フォーラム
(マイアミ総領事館)

■実施時期 2018年6月13日

■実施場所 フロリダ州タンパ市
(タンパ港役員室)

■関係機関 タンパ港

■訴求対象 地元政治・経済関係者

■開催規模 約60名

■概要・効果

【概要】

冒頭在マイアミ総領事から日米経済関係について、続いて日立アメリカ、米国三菱電機、米国三菱重工、三菱日立パワーシステムズ・アメリカ及びNECアメリカが各社の技術・サービスを紹介するプレゼンテーションを実施。

地元政治家からの発言及び参加者との質疑応答の後、レセプションにて交流をはかった。

【効果】

在マイアミ総領事から、日米及び日フロリダ州の経済関係を説明し、日系企業の地元での活動や社会貢献等をアピールした本フォーラムは、日系企業の技術及びサービスを地元政治家及び経済関係者に紹介する機会となった。



290 在日米軍経験者とのネットワーク構築・強化事業(JUMP) (マイアミ総領事館)

- 実施時期 2018年6月28日
- 実施場所 フロリダ州タンパ市タンパ港
- 関係機関 在マイアミ総領事館主催、米軍統合司令部及びマクデイル米空軍基地協力
- 訴求対象 在日米軍駐在経験者等
- 開催規模 101名

■概要・効果

【概要】

開場後、和太鼓演奏を披露しつつ、総領事が来場者を出迎えた。レセプションでは、buffet形式で和食及び日本酒を含む飲み物を供した。なお、会場のテレビモニターに「在日米軍に関する動画」を放映し、在日米軍の活動や日本との協力を紹介した。

続いて、総領事の講演では、日米同盟の重要性について述べるとともに、日本とフロリダ州の関係についても紹介した。

米軍統合司令部Dorman少将による挨拶、Carlin大佐(沖縄勤務経験)、Tuero少佐(三沢基地勤務経験)及びDuke少佐(沖縄勤務経験)から、日本滞在中の経験について、具体的なエピソードや感想を述べた。

【効果】

米軍統合司令部少将 Edward Dorman、米軍統合司令部大佐 Curtis Carlin(沖縄勤務経験有)等米軍ハイレベルの参加も得られた。

多くの参加者は、本事業が日本勤務の経験を思い出し、日米関係の重要性を再認識する大変有意義な機会であったと評価し、総領事に対して謝意を述べた。

なお、和太鼓演奏は、場を盛り上げ、日本関連イベントを演出する上で効果的であった。



291 ゲインズビル地域経済関係者向け会合
(マイアミ総領事館)

■実施時期 2018年7月2日

■実施場所 フロリダ州ゲインズビル市

■関係機関 ヨーホー連邦下院議員事務所、在マイアミ総領事館、JETRO
アトランタ事務所

■訴求対象 地元経済関係者

■開催規模 11名

■概要・効果

【概要】

総領事がゲインズビル市に出張し、ヨーホー連邦下院議員（共、フロリダ州3区、外交委アジア太平洋小委員長）の主催による地元経済関係者向け会合に参加（本会合は、ヨーホー議員がかねがね地元への日系自動車産業誘致に関心を有することから、総領事からJETROアトランタ事務所長に関連情報ブリーフを依頼し、当館がヨーホー議員事務所と協力してアレンジ）。

ヨーホー議員から冒頭挨拶、総領事から日米・日フロリダ経済関係にかかるブリーフ、JETRO所長から日系自動車産業誘致に関するブリーフを実施・意見交換。

【効果】

ヨーホー議員及び同議員スタッフ4名、パットナム郡、クレイ郡、ブラッドフォード郡の経済振興関係者6名が出席。

意見交換の結果、各種機会をとらえて日系企業と面談する必要性について参加者の間で認識が共有された。

292 日・南フロリダ・ビジネス・フォーラム
(マイアミ総領事館)

■実施時期 2018年7月31日

■実施場所 フロリダ州マイアミ市
(マイアミ港ターミナル)

■関係機関 マイアミ港

■訴求対象 地元政治・経済関係者

■開催規模 約35名

■概要・効果

【概要】

冒頭在マイアミ総領事から日フロリダ州経済関係について、続いて日立アメリカ、米国三菱電機、米国三菱重工、三菱日立パワーシステムズ・アメリカ及びNECアメリカが各社の技術・サービスを紹介するプレゼンテーションを実施。プレゼンテーション後、レセプションにて交流を図った。

【効果】

在マイアミ総領事から、日フロリダ州の経済関係を説明し、日系企業の地元での活動や将来のビジネスチャンスをアピールした本フォーラムは、日系企業の技術及びサービスを地元経済関係者に紹介する機会となった。また、同総領事は地元テレビ局NBC6/WTVJの取材も受け、同局HPに掲載された他、翌日のニュース番組内で放映された。



293 ペンサコーラ盆祭り
(マイアミ総領事館)

■実施時期 2018年9月1日

■実施場所 フロリダ州ペンサコーラ市
ブカーTワシントン高校

■関係機関 ペンサコーラ盆フェスティバル
実行委員会及び在マイアミ総領
事館による共催

■訴求対象 一般市民

■開催規模 約800名

■概要・効果

【概要】

会場中央に櫓を設置して、盆踊り大会、御神輿パレード、沖縄エイサー、日本舞踊披露、日本語学習者による唱歌、和太鼓公演、和太鼓教室(和太鼓の実技体験)を行うほか、金魚すくい、輪投げ等の屋台の出展を通じて日本の伝統的な夏祭りの風景を紹介した。

なお、総領事館から首席領事が参列し、挨拶を行ったほか、盆踊りにも参加した。

【効果】

在マイアミ総領事館によるPRコンサルタントを活用しての事前広報やSNS広報も功を奏し、事前予想の500人を大幅に上回る800人の参加者を得た。

本祭りの継続的な実施が、一般米国市民の日本文化に対する理解を深めることに貢献している。また、例年、VIPの参加が限られていたが、2018年は次期ペンサコーラ市長の有力候補であるGrover Robinson郡議会議員の参加を得て、総領事館と関係を構築することができた。



294 Way of the Ninja
(マイアミ総領事館)

- 実施時期 2018年9月5日
- 実施場所 フロリダ州ブロワード郡
Performing Arts Center
- 関係機関 ブロワード郡Performing
Arts Center及び在マイアミ総
領事館による共催
- 訴求対象 一般市民
- 開催規模 約200名(2公演合計)

■概要・効果

【概要】

日本ブランド発信事業として、“忍者”をテーマとする講演・デモンストレーション等を実施した。

なお、在マイアミ総領事館から総領事が参列し、挨拶を行った。

【効果】

日本文化の中でも比較的その名称を知られており一般市民の興味を引く“忍者”をテーマとする講演・デモンストレーション等を実施することにより、広く一般を対象に日本の歴史・文化・魅力に関する理解促進を図ることができた。

また、これまではVIPの参加が限られていたが、今回はフォートローダーデール市長の参列を得て、総領事と関係を構築することができた。



295 JETプログラム帰国者レセプション (マイアミ総領事館)

- 実施時期 2018年9月8日
- 実施場所 フロリダ州オーランド市
(中部フロリダ大学)
- 関係機関 在マイアミ総領事館主催、
中部フロリダ大学協力
- 訴求対象 JETプログラム帰国者、
JETAA(元JET参加者の会)会員、
日系企業関係者等
- 開催規模 約40名



■概要・効果

【概要】

総領事館主催で、JETプログラム帰国者、JETAA会員、日系企業関係者等をゲストに迎えて、ネットワーキングのためのレセプションを中部フロリダ大学において開催した。開会に際して、出張して参加した広報担当領事及び在オーランド名誉領事から、JETプログラムの意義や今後の活躍を祈念する旨の挨拶を行い、元JET参加者としての自覚を促した。

【効果】

三越アメリカからは人事担当部長及び元JET参加者の社員が出席するなど、JETプログラム帰国者のキャリア支援としても良い機会となった。

エクスぺリエンス・アジア2018における日本文化紹介事業 (マイアミ総領事館)

■実施時期 2018年10月6日

■実施場所 フロリダ州タラハシー市
Bloxham & Lewis Parks

■関係機関 Asian Coalition of Tallahassee
(ACT)、Japanese Community of
Tallahassee (JCT) 及び在マイアミ総領事
館

■訴求対象 一般市民

■開催規模 約1,500名

■概要・効果

【概要】

ACT主催によるアジアをテーマとしたイベントで、舞台における舞踊や音楽の演奏、武術やヨガなどのデモンストレーションと、各国の文化や伝統、芸能、習慣などの紹介ブースから構成される。在マイアミ総領事館はJCTと共同で日本ブースを出展し、カタカナやひらがなによる名前書き、折り紙体験、七夕飾り、浴衣試着体験、御輿の展示、生け花展示、「にぽにか」等資料の展示・配布、折り紙クラフトの展示等による日本文化紹介を行った。舞台の特別演目として、フロリダの和太鼓グループ「祭座」による演奏を、開会式直後及び閉幕時という多くの聴衆を見込める時間帯に披露するほか、盆踊り、よさこいソーラン節の踊りも披露する。また、子供たちによる御輿を担いでの場内練り歩きを行った。

【効果】

在マイアミ総領事館によるJCTとの事前の綿密な打ち合わせや、JCTによる多大な事前準備、当日の多くのボランティアの参加等により、一般市民との草の根の交流が促進されるとともに、日本のプレゼンスを示し、対日理解の促進に貢献した。



297 在日米軍経験者とのネットワーク構築・強化事業(JUMP)
(マイアミ総領事館)

■実施時期 2018年10月6日

■実施場所 フロリダ州ペンサコーラ市
(国立海軍航空博物館)

■関係機関 北西フロリダ日米協会主催、
笹川国際平和財団協力
在マイアミ総領事館協力

■訴求対象 在日米軍駐在経験者等

■開催規模 約300名

■概要・効果

【概要】

北西フロリダ日米協会主催で、在日米軍駐在経験者等をゲストに迎えて、JUMPイベントをペンサコーラにある国立海軍航空博物館において開催した。

出張して参加した総領事から「在日米軍経験者は日米同盟の基盤の一つとして極めて重要であり、日米友好の証である。」ことを伝えるとともに、日本に対する印象や日本の思い出話等を聴取することに努めた。

レセプションにおいては、日本食を供すると共に日本酒試飲カウンターを設け、和太鼓の演奏も行う等日本を懐かしんでもらえるよう工夫を凝らした。

【効果】

多くの参加者は、本事業が日本勤務の経験を思い出し、日米関係の重要性を再認識する大変有意義な機会であったと評価し、謝意を述べた。

なお、日本酒試飲カウンターを設けたところ、日本に駐在歴のある者にとって日本酒は身近なものであることを確認できた。



298 藤沢市マイアミビーチ市姉妹都市交流レセプション
(マイアミ総領事館)

■実施時期 2018年11月2日

■実施場所 フロリダ州マイアミ市
(総領事公邸)

■関係機関 在マイアミ総領事館主催
マイアミ・ビーチ市姉妹都市交流委員会、
神奈川県藤沢市訪問団

■訴求対象 マイアミビーチ市関係者

■開催規模 50名

■概要・効果

【概要】

藤沢市によるマイアミ・ビーチ市訪問団の来訪を捉まえて、総領事公邸において、藤沢市マイアミビーチ市姉妹都市交流委員会メンバー、藤沢市訪問団等を招待してのネットワーキングのためのレセプションを開催し、両市の更なる交流を図った。

【効果】

藤沢市とマイアミビーチ市の姉妹都市提携60周年記念祝賀行事として、両市の更なる人的交流を図ることができた。

299 オーランド日本祭
(マイアミ総領事館)

- 実施時期 2018年11月4日
- 実施場所 フロリダ州キシミー市
(レイクフロント公園)
- 関係機関 オーランド日本人会、
在マイアミ総領事館共催
- 訴求対象 地元市民
- 開催規模 約3,000名

■概要・効果

【概要】

フロリダ州最大の日本祭として18回目を迎えた「オーランド日本祭り」はオーランド日本人会の主催で毎年開催されている。特設ステージでは、墨絵パフォーマンス、和太鼓演奏、日本舞踊演舞、居合い抜きデモンストレーション等各種の日本文化紹介イベントを実施。総領事が来賓として出席し、挨拶を行ったほか、総領事館ブースを開設し、折り紙コーナー等を設け日本文化紹介を実施するとともに、観光資料を含む各種広報資料を用いた日本事情の紹介やJET等の広報も実施。

【効果】

市民に広く受け入れられている事業であり、日本の存在をアピールすると同時に、対日理解の促進を図ることができた。



300 鹿児島市マイアミ市姉妹都市交流イベント (マイアミ総領事館)

■実施時期 2018年12月3日及び4日

■実施場所 フロリダ州マイアミ市
(3日:総領事公邸)
(4日:ガリバー高校)

■関係機関 マイアミ市鹿児島市市姉妹都市交流委員会、
鹿児島市、ガリバー高校
在マイアミ総領事館

■訴求対象 地元市民

■開催規模 約50名(3日)、約40名(4日)

■概要・効果

【概要】

鹿児島市中中学生マイアミ訪問団の来訪の機会に、公邸にて、マイアミ市鹿児島市姉妹都市交流委員会メンバー、鹿児島市中中学生一行、受け入れホストファミリー等を招待して、ネットワーキングのためのレセプションを開催し、更なる両市の交流発展を図った。また、受け入れホスト校であるガリバー高校が開催した日米同盟に関連する討論会において総領事が基調講演を行い、日米関係に関する理解促進を図った。

【効果】

鹿児島市とマイアミ市の交流を促進することができた。特に、レセプションにおいてホストファミリーに対して中学生受け入れに対す謝意を伝達するとともに、日本への関心を喚起した。また、高校における討論会においては米側高校関係者に対して、日本の存在をアピールすると同時に、対日理解の促進を図った。



301 ペンサコーラ新年会
(マイアミ総領事館)

- 実施時期 2019年1月12日
- 実施場所 フロリダ州ペンサコーラ市
(Wright Place)
- 関係機関 北西フロリダ日米協会主催
- 訴求対象 ペンサコーラ市在住の日本に
関心を有する一般市民
- 開催規模 約700名

■概要・効果

【概要】

北西フロリダ日米協会が主催する新年恒例の行事で、地元の教会付属施設を借りて実施。

冒頭、来賓として出席したロビンソン・ペンサコーラ市長、ジャクソン在アラバマ州名誉領事(名誉領事としての管轄は異なるも、比較的至近に在住)、当館を代表し出張して出席した高橋領事が挨拶を行った。引き続き、オーランド・和太鼓団体「祭座」による演奏(開演直後の30分間、終了前の30分の計2回のパフォーマンスを実施)、沖縄県人会らの日本舞踊、武道デモンストレーション、子供達による小太鼓パフォーマンスなどが実施された。会場内では、日本工芸品の販売や焼きそば、カレー、おにぎり、スイーツ店が出店していた他、地元和食レストラン「Sake Cafe」も食事を提供した。

【効果】

来場者の国籍は、米国人9割、日本人1割程度で、日本駐在経験のある軍人及びその日本人配偶者、海軍関係者などが多数来訪していた。

地元メディアによる取材もあり、WEAR-TVのウェブネット版にて本件イベントが掲載されていた。



302 **マイアミ市市村庭園冬祭**
(マイアミ総領事館)

- **実施時期** 2019年1月13日
- **実施場所** フロリダ州マイアミ市
(市村庭園)
- **関係機関** マイアミ市、市村友の会
- **訴求対象** 地元市民
- **開催規模** 約400名

■ **概要・効果**

【概要】

市村友の会がマイアミ市市村庭園で開催する冬祭において、生け花デモンストレーション、茶道デモンストレーション等の日本文化紹介を実施。開会式では、総領事が挨拶を行った。

【効果】

総領事挨拶において、来場した地元市民に対し、日本への関心を喚起した。

303 陶芸家・大樋長左衛門氏によるワークショップ等 (マイアミ総領事館)

■実施時期 2019年1月21日～23日

■実施場所 フロリダ州マイアミ市
(セラミックリーグマイアミ、
フロリダ国際大学)
同州デルレイビーチ市
(森上博物館・日本庭園)



■関係機関 セラミックリーグマイアミ、
フロリダ国際大学、
森上博物館・日本庭園、
在マイアミ総領事館



■訴求対象 地元市民、美術系学生等

■開催規模 約330名



■概要・効果

【概要】

日本ブランド発信事業として、著名な陶芸家である十一代大樋長左衛門氏を講師に迎えて、ワークショップ、講演会及び当地裏千家の協力を得て茶道デモンストレーションを実施した。ワークショップでは、陶芸の経験のある地元市民や美術系学生等を主たる対象として、日本陶芸の深い知識や技術を教授することにより、当地での日本陶芸の発展のきっかけとなることを企図した。また、講演会及び茶道デモンストレーションでは、広く一般市民、学生、有識者等を対象として、日本及び日本陶芸に関する関心・理解促進を図った。

【効果】

主に一般市民の対日理解を促進した。また、当地主要メディアへの記事掲載により日本のプレゼンスを示した。

304 World of Nationsにおける日本文化紹介事業
(マイアミ総領事館)

- 実施時期 2019年2月22日～24日
- 実施場所 フロリダ州ジャクソンビル市
(Metropolitan Park)
- 関係機関 ジャクソンビル市
ジャクソンビル日本人会
在マイアミ総領事館協力
- 訴求対象 ジャクソンビル一般市民
- 開催規模 約8,000名



■概要・効果

【概要】

ジャクソンビル市が主催し、本年は世界33カ国が参加した恒例の文化行事で、日本ブースは地元のジャクソンビル日本人会が運営し、ポケモンマーク入り手作りしおりにカタカナで来客者の名前を筆ペンで書いたり、折り紙の折り方教室などのサービスを行うと共に、焼き鳥、餅アイス、お菓子・雑貨販売等を実施。舞台では日本人の子供たちがソーラン節と忍者ダンスを披露した。在マイアミ総領事館は広報資料・グッズを提供した。

【効果】

有料イベント(入場料5ドル)ながら多くの来場者があり、特に子供からの人気が高い。地元メディアによる日本ブースの取材もあり、テレビ局のグルメリポートで焼き鳥も紹介されたほか、イベント後にテレビ番組からジャクソンビル日本語学校の生徒がインタビューを受け、放映された。

305 Cool Japan @ FIU
(マイアミ総領事館)

- 実施時期 2019年2月23日～24日
- 実施場所 フロリダ州マイアミ市
(フロリダ国際大学(FIU))
- 関係機関 FIUアジア研究プログラム、
FIU近代言語学科、
FIU国際・公共学部共催
国際交流基金助成
マイアミ日本商工会協力
在マイアミ総領事館協力



- 訴求対象 一般市民、大学生等
- 開催規模 約200名

■概要・効果

【概要】

フロリダ国際大学(FIU)における日本に関連する学部・学科等が共催し、本年度で4回目を迎えた日本紹介イベント。FIU所属の日本語教師が中心となって運営し、舞台における和太鼓・三味線演奏、着物レクチャー・デモンストレーション、琴演奏、居合道演武、空手道演武等を実施。コスプレ大会、カラオケ大会も実施。子供コーナーとして縁日風のゲーム屋台を設けた。在マイアミ総領事館は開会式に首席領事が参列して挨拶したほか、グッズを提供。

【効果】

1日目は大学生の、2日目は家族連れの参加が多く、日本文化を幅広く広報できた。特に子供は風船つり等を楽しんでいた。

306 The Future of AI & Health Care: the U.S. Japan and Israel
(マイアミ総領事館)

■実施時期 2019年2月26日

■実施場所 フロリダ州マイアミ市
(マイアミデードカレッジ(MDC))

■関係機関 米国ユダヤ人委員会(AJC)、
国際交流基金グローバル
パートナーシップセンター(CGP)、
米日カウンスル共催
在マイアミ・イスラエル総領事館
協力

■訴求対象 一般市民、大学生等

■開催規模 約100名

■概要・効果

【概要】

MDCのThe IDEA Centerにおいて、AJC、CGP
及び米日カウンスルの共催、在マイアミ総領
事館及び在マイアミ・イスラエル総領事館も
協力で、三国間協力セミナーを開催。在マイ
アミ総領事館からはセミナーに総領事及び首席領事が参列し、総領事が歓
迎挨拶をしたほか、翌日には関係者を公邸に招いて総領事主催ランチ
を実施。

【効果】

ユダヤ系及び医療関係者の出席もあり、質疑応答も活発に行われ、関
心の高さが窺えた。



307 アジアン・カルチャー・フェスティバルにおける日本文化紹介事業 (マイアミ総領事館)

■実施時期 2019年3月2日～3日

■実施場所 フロリダ州ホームステッド市
フルーツ・アンド・スパイスパーク

■関係機関 マイアミデード郡アジア系
米国人諮問委員会(AAAB)、
南フロリダ・タイ・アメリカン協会
在マイアミ総領事館共催

■訴求対象 一般市民

■開催規模 約1,800名

■概要・効果

【概要】

フロリダ州南部における最大のアジア系イベント「アジアン・カルチャー・フェスティバル」において日本ブースを出展し、生け花インターナショナルによる生け花レクチャー・デモンストレーション及びワークショップ並びに在マイアミ総領事館館員及びマイアミ補習校のボランティアによる書道及び折り紙のレクチャー・ワークショップ等の日本文化紹介を行った。同ブースでは広報資料の配付、各種照会対応、JETプログラムの広報を、特設ステージでは和太鼓による日本伝統音楽の演奏を実施した。総領事も参列して特設ステージにて挨拶を行った。

【効果】

アジア各国との競争の中で日本のプレゼンスをアピールすると同時に、対日理解の促進に貢献した。主催者から総領事に対して感謝状が授与されるなど、アジア系団体との関係が強化される機会となった。

運営団体、協力団体等と事前に綿密な打ち合わせを行ったことが、当日のスムーズな運営に繋がった。フロリダの人々の嗜好に合うパフォーマーとして太鼓公演を披露したことにより、特設ステージにおける公演の中では最多の集客を得た。



308 「にっぽんの宝物」米国ツアー in マイアミ
(マイアミ総領事館)

■実施時期 2019年3月8日

■実施場所 フロリダ州マイアミ市
(レストランNOVIKOV MIAMI)

■関係機関 (株)アクティブラーニング主催、
在マイアミ総領事館協力

■訴求対象 食事業関係者、
インフルエンサー、
メディア等

■開催規模 約35名

■概要・効果

【概要】

日本国内地方の優れた食品、工芸品の生産者、事業者が異なる業態の事業者とコラボレーションし、米国各地で日本の産品を紹介する取組をマイアミで実施。

【効果】

本事業の実施により、直接の訴求対象である飲食業界関係者やメディアを通じて米国民に日本の良い産品をアピールできる有意義な機会となった。



309 カケハシ・プロジェクト大学生交流イベント
(マイアミ総領事館)

■実施時期 2019年3月11日

■実施場所 フロリダ州マイアミ市
(総領事公邸)

■関係機関 熊本大学、マイアミデード大学
在マイアミ総領事館

■訴求対象 マイアミデード大学学生

■開催規模 28名

■概要・効果

【概要】

熊本大学カケハシ・プロジェクト一行のマイアミ訪問の機会に、公邸にて、熊本大学学生一行、交流先大学のマイアミ・デード大学学生及び同大学関係者等を招待して、レセプションを実施した。

なお、12日にマイアミ・デード大学にて実施された歓迎式典には、在マイアミ総領事が出席して挨拶を行った。

【効果】

カケハシ・プロジェクトに参加する両大学の学生同士が活発に交流し親睦を深める様子が見られた。マイアミ・デード大学側からは、エドゥアルド・パドロン学長、2名のキャンパス長等の出席を得ることができ、在マイアミ総領事館としてもグラスルーツの取組を推進する上で有用な人脈を構築することができた。



310 マイアミデード郡アジア系米国人諮問委員会との交流イベント (マイアミ総領事館)

■実施時期 2019年3月22日

■実施場所 フロリダ州マイアミ市
(総領事公邸)

■関係機関 在マイアミ総領事館
マイアミデード郡アジア系米国人諮問委員会(AAAB)

■訴求対象 マイアミデード郡アジア系米国人諮問委員会メンバー等

■開催規模 30名

■概要・効果

【概要】

在マイアミ総領事館所在のマイアミデード郡にはアジアに何らかの関係を有する現地在住米国人から構成されるアジア系米国人諮問委員会(AAAB)が存在するところ、在マイアミ総領事館は、AAABとの更なる交流を図るべく、総領事公邸において3年前からレセプションを実施してきた。今回はAAABメンバーの配偶者に加え、当地に駐在するアジアの領事団及び経済文化事務所関係者も招待した。

【効果】

AAABメンバーの関連国は日本、韓国、中国、台湾、インド、タイ、フィリピン、トルコ等多岐に渡るところ、アジア系米国人等と親睦を深め、和食・日本酒の魅力を発信するとともに、在マイアミ総領事館としてもAAABメンバーの配偶者である州議会議員を含めグラスルーツの取組を推進する上で、有用な人脈を構築することができた。



311 生け花インターナショナル・マイアミ支部創設50周年記念イベント (マイアミ総領事館)

- 実施時期 2019年3月29日～31日
- 実施場所 フロリダ州パインクレスト町
(Pinecrest Gardens)
- 関係機関 生け花インターナショナル・
マイアミ支部主催
在マイアミ総領事館他協力
- 訴求対象 生け花インターナショナル・
マイアミ支部メンバー、一般市民
- 開催規模 約50名



■概要・効果

【概要】

2019年に創設50周年を迎えた生け花インターナショナル・マイアミ支部が、3日間にわたり生け花デモンストレーション及び展示を含む記念イベントを実施。

3月30日の部においては、来賓として出席した在マイアミ総首席領事、ラッセル・マイアミ市議会議員等が挨拶を行った。

【効果】

来場者の国籍は、米国人9割、日本人1割程度。生け花への関心が高く、日本文化への親和性の高さが認められた。

312 「日本春祭り」における和食紹介事業 (マイアミ総領事館)

■実施時期 2019年3月31日

■実施場所 フロリダ州マイアミビーチ市
(ボタニカルガーデン)

■関係機関 マイアミビーチ市ボタニカルガーデン、
在マイアミ総領事館共催

■訴求対象 地元市民

■開催規模 約150名

■概要・効果

【概要】

マイアミビーチ市のボタニカルガーデンで例年春に開催される「日本春祭り」において、屋内会場特設ステージにて、日本食レストランオーナー関田充利氏(元在マイアミ総領事館広報文化班現地職員)を講師に迎えて、日本の食文化に関するレクチャー及び寿司を作るデモンストレーションを実施。また、デモンストレーション後、レクチャー内容の理解を深めてもらうために試食を実施。なお、オープニングでは、在マイアミ総領事が挨拶を行った。

また、日本産酒類を活用して寿司とのマッチングを提案した。

【効果】

総領事挨拶において、来場した地元市民に対し、日本への関心を喚起した。

フロリダでは、寿司が日本由来の食べ物であることは知っていても、本格的な寿司やその食文化に関する理解に乏しい状況。したがって、日本文化の中でも最も一般に浸透している寿司を題材として、一般市民を対象に、日本の食文化及び日本文化を紹介し、対日関心の増進及び対日理解の促進を図ることができた。



313 第29回アリゾナ州日本語弁論大会
(ロサンゼルス総領事館)

■実施時期 2018年4月11日

■実施場所 ピマ・コミュニティ・カレッジ
(アリゾナ州ツーソン市)

■関係機関 アリゾナ州日本語教師会

■訴求対象 日本語学習者
日本語教育従事者

■開催規模 約200名

■概要・効果

【概要】

アリゾナ州内の高校生以上を対象とした日本語弁論大会。
日本語学習年数により4つのカテゴリーに分け、それぞれのカテゴリー毎に日本語能力を競う。また、会場では別途、日本舞踊、三味線演奏、折り紙・書道の実演等の日本文化紹介を実施。

【効果】

日本語学習者の学習意欲を高めるのみならず、若い世代の親日派・知日派の育成にも寄与した。また、コンテストにあわせてJETプログラムや日本紹介の活動も実施し、日本への関心を高める相乗効果も見られた。



314 第1回グレンデール市における桜祭り (ロサンゼルス総領事館)

■実施時期 2018年4月15日

■実施場所 カリフォルニア州
グレンデール市ブランド公園

■関係機関 Friends of Shoseian
グレンデール市

■訴求対象 グレンデール市議
グレンデール市民

■開催規模 約2,000名

■概要・効果

【概要】

琴、茶道、柔道、空手、太鼓のデモンストレーション、救助犬(秋田犬)紹介などがなされたほか、会場には、着物着付け体験、書道体験、折り紙教室、盆栽展示、日本旅行紹介ブースなどが設置された。

植樹式では、ガルペティアン前市長より、先般の日本訪問を通じ、多くのグレンデール市民の出身国であるアルメニアと日本との間には、家族の絆等多くの共通点があることを認識できたこと等を発言。

東大阪ライオンズクラブを代表して樽本東大阪市議千葉総領事、グレンデール市議、他が参加した。

【効果】

日本政府の支援を受け整備された日本庭園を市民に広める機会となった。グレンデール市議をインボルブさせる形で桜祭りを実施し、そこに東大阪市議にも参加いただくことで姉妹都市間の信頼関係再活性化に向けた第一歩となったと思われる。



東大阪市議、グレンデール市議と植樹に参加する本官



修復された池で遊ぶ子供たち



315 サンディエゴ州立大学日本研究セミナー (ロサンゼルス総領事館)

■実施時期 2018年6月14日

■実施場所 カリフォルニア州
サンディエゴ市

■関係機関 サンディエゴ州立大学、
アメリカ州立大学連合

■訴求対象 大学教員

■開催規模 20名

■概要・効果

【概要】

日本の専門家ではないが将来何らかの形で日本研究をカリキュラムに組み込みたいと考えている大学教員が全米各地から集まり、2週間サンディエゴ州立大学に宿泊して、連日、日本の政治、経済、社会、文化等日本関連の講義を受ける集中プログラム。

当館から例年、館長や次席がプレゼンテーションを行っている(テーマ例:日本の戦後の歩み等)。全米各地から参加しているので、在米公館や各地日米協会の存在等についても紹介し、日米関係・日米交流についても理解を深めてもらう。

【効果】

日本を専門としていない大学教員の対日関心を深め、ひいては米国大学生の対日理解を促進する。米国大学教育における日本研究のカリキュラム組み入れを支援。



Photo: Megan Haberstroh



316 LA七夕フェスティバルの開催
(ロサンゼルス総領事館)

■実施時期 2018年8月11日～12日

■実施場所 リトル・トーキョー地区

■関係機関 七夕フェスティバル
実行委員会



■訴求対象 地域コミュニティ、地元団体、地域選出議員

■開催規模 約150団体

■概要・効果

【概要】

当地最大の日系人による祭典である二世週祭に合わせて実施される。例年、当館からも館員が制作したKAZARIを出展するほか、総領事が名誉委員長に就任し、表彰式に参加している。本年で10周年記念となり、南カリフォルニアの各種日系団体や日系企業のほか、ロサンゼルス市役所、地元選出議員事務所、地元小学校等が KAZARIコンテストに出展するなど、地域に定着したイベントとなっている。

【効果】

当地日系社会における最大の祭典である二世週祭の中でも歴史があり、伝統的な日本文化である「七夕祭り」を当地にて再現する本イベントに領事館が主体的に関わっていくことで、日系社会の連携を促すことができた。



317 ジャパン・ハウス ロサンゼルス全館開館記念行事 (ロサンゼルス総領事館)

■実施時期 2018年8月24日

■実施場所 カリフォルニア州
ロサンゼルス市

■関係機関 ジャパン・ハウス
ロサンゼルス
(JHLA)

■訴求対象 米国議会・地方
政府関係者、
企業・文化・報
道関係者、日系
団体代表他

■開催規模 800名

■概要・効果

【概要】

俳優ジョージ・タケイ氏司会のもと、河野太郎外務大臣・エリ

ック・ガルセッティ ロサンゼルス市長・海部優子JHLA館長による挨拶、JHLA協賛企業の1つであるソフトバンク社代表によるロボットPepperとの挨拶、アートテクノロジー集団Rhizomatiks ResearchとELEVENPLAYによるダンスパフォーマンス、JHLA有識者アドバイザーの1人であるX JAPANのYOSHIKI氏による演奏を実施。

【効果】

日米要人はじめ800名に上る多数の出席を得て、ジャパン・ハウスの重要性を強く印象づけるとともに、内外プレス注目も集め、日系コミュニティを含む米国社会に対し、JHLA全館開館を全米規模でアピールすることができた。多数の出席者から、本件記念行事への賛辞とJHLAの今後に大いに期待しているとの高い評価が寄せられた。



河野太郎外務大臣、マーク・タカノ連邦下院銀、エリック・ガルセッティ ロサンゼルス市長他日米要人が出席。



河野外務大臣による挨拶



LA市長による挨拶



(C)JAPAN HOUSE Los Angeles



(C)JAPAN HOUSE Los Angeles

318 JETプログラム帰国者歓迎レセプション (ロサンゼルス総領事館)

■実施時期 2018年10月3日

■実施場所 総領事公邸

■関係機関 JETAA
(元JETプログラム参加者の会)
姉妹都市関係者
大学関係者
日本文化コミュニティ関係者



■訴求対象 平成30年度JETプログラム帰国者

■開催規模 約100名

■概要・効果

【概要】

平成30年度JETプログラム帰国者を総領事公邸へ招待し、帰国を歓迎するレセプション。ゲストとして当地の日本関係者を招待し、ネットワーク強化を図った。



【効果】

JETプログラム帰国者と日本関係者の双方が積極的に交流し、今後に向けた継続的なネットワーク構築と活動の基盤作りができた。

319 日韓ハーモニーコンサート (ロサンゼルス総領事館)

- 実施時期 2018年10月27日
- 実施場所 カリフォルニア州
トーランス市
- 関係機関 FSルーテル・コミュニティ
(当館及び当地韓国総領事館協力)
- 訴求対象 日系及び韓国系住民
- 開催規模 約100名

■概要・効果

【概要】

冒頭、主催団体を代表し、韓国生まれで日本育ちのキム牧師が本イベントの意義(本国の政治問題とは距離を置いた健全なコミュニティ関係の構築)を説明した。

その後、当地で活躍する日韓の舞踊及び音楽グループがパフォーマンスを披露。特に、発達障害を抱えながら太鼓演奏に打ち込む韓国人少年や大人顔負けの演奏をする日本の太鼓グループ(浅野太鼓)などに喝采があがった。

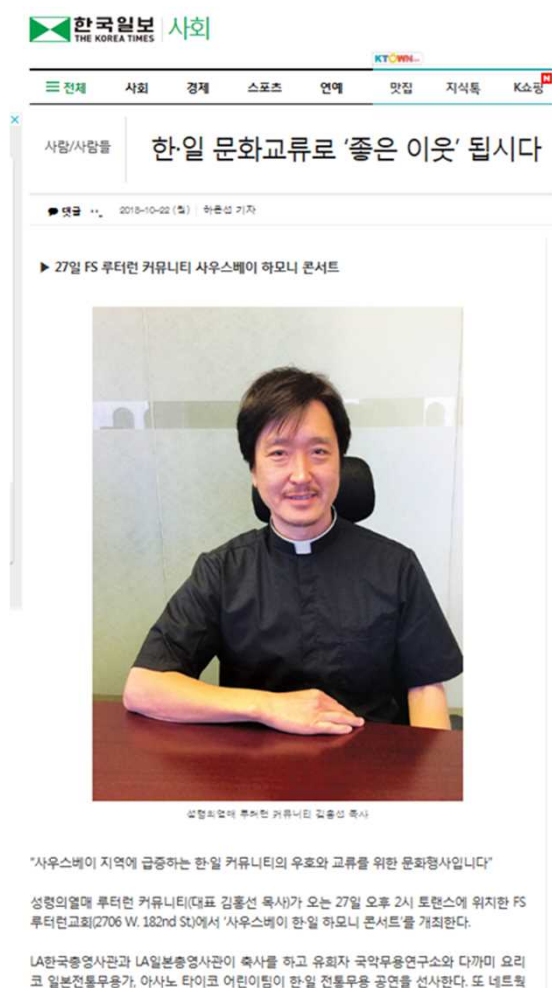
演奏の間にネットワークキングの時間を設け、日韓友好に理解を示す参加者たちが懇談を行った。

【効果】

本件イベント開催に際し、主催者は事前と事後に日韓のコミュニティ・メディアで本イベントを紹介し、とかくネガティブな情報が多い相手側コミュニティとの友好関係構築の必要性をアピールする努力を行った。



日韓パフォーマーの集合写真



韓国系メディアにおける本イベントの紹介

320 平成30年度カケハシ・プロジェクト(大学生招へい)
(ロサンゼルス総領事館)

- 実施時期 2019年1月14日～22日
- 実施場所 東京都および名古屋市
- 関係機関 ロサンゼルス市
- 訴求対象 ロサンゼルス市関係者
大学関係者
大学生
- 開催規模 25名



■概要・効果

【概要】

エリック・ガルセッティ ロサンゼルス市長からの要望に基づき、ロサンゼルス市のコミュニティ・カレッジ9校から学生の代表者23名および引率者2名をカケハシ・プロジェクトにて日本へ招へいした。

【効果】

若年層の米国人が、日本の文化や風土を肌で体感できただけでなく、ロサンゼルス市とより良好な関係を築くきっかけとなった。

321 「浦沢直樹 - 漫画という芸術 -」展 オープニングイベント (ロサンゼルス総領事館)

■実施時期 2019年1月22日及び23日
(展覧会会期:2019年1月23日～3月28日)

■実施場所 ジャパン・ハウス ロサンゼルス

■訴求対象 文化芸術関係者、報道関係者、
企業関係者、一般市民等

■開催規模 約105名
(22日:内覧会及びレセプション)
約140名
(23日:アーティストトーク)



■概要・効果

ジャパン・ハウスの巡回企画展「浦沢直樹 - 漫画という芸術 -」展の開催に伴い、招待客及びメディアを対象とした内覧会及びレセプションを実施するとともに、オープニング当日には、浦沢直樹氏のアーティストトークを開催。

両日ともに浦沢氏によるライブドローイングも実施した。浦沢氏の作品展開催は北米初であり、遠方から駆けつけた参加者も多く見られた。

浦沢氏の作品を多様な視点から包括的に紹介しながら、作品のみならず、作家と出版社の連携など、漫画出版をめぐる概況紹介も含めた日本の漫画のスタイルも展示に含めることで、漫画ファンのみならず、幅広い層の関心を呼び、日本の漫画を効果的に発信することができた。

オープニングイベントを始め、本展に関しては、現地及び日本の主要メディアで数多く報じられ、世界的な日本の漫画人気や漫画市場の活況をあらためてアピールする機会にもなった。

322 “Discover Japanese Craft Spirits!” Reception
(ロサンゼルス総領事館)

■実施時期 2019年1月31日

■実施場所

カリフォルニア州ロサンゼルス市

■関係機関

JETROロサンゼルス事務所、
ジャパン・ハウス ロサンゼルス共催

■訴求対象

米系メディア・インフルエンサー

■開催規模 50名

■概要・効果

【概要】

焼酎及び泡盛の普及月間イベント「Japanese Craft Spirits Month」(2/1-2/28)のキックオフイベントの位置づけとして実施。イベントにはレストラン関係者やメディア、インフルエンサー約50名が参加し、月間イベント等について情報拡散を行った。また、本レセプションにおいては、6名のバーテンダーが焼酎や泡盛を使ったカクテルを提供したほか、JETROブースでは20種類以上の焼酎及び泡盛をストレートやロックで提供した。

【効果】

焼酎や泡盛を使ったカクテルを提供した米国人バーテンダーからは、「焼酎や泡盛のことは初めて知ったが、まだあまり知られていない食材を知るいい機会になった。」等の前向きな声が多数聞かれた。

また、来場者からは、ストレートやカクテルとして楽しむことができる焼酎や泡盛について、「とてもおいしい」、「多様な種類があってクール」等の意見が相次いだ。

本イベント後、米系メディアがニュースやYouTubeで取り上げたほか、インフルエンサーはSNS上に相次いで投稿を行い、月間イベントの拡散を行った。



トマトやバジルを添えた
マルゲリータ



色とりどりの花を
浮かべたマティーニ



来場者とバーテンダーの懇談の様子

323 “Japanese Craft Spirits Month” (ロサンゼルス総領事館)

■実施時期 2019年2月1日～2月28日

■実施場所 カリフォルニア州
ロサンゼルス市

■関係機関 JETROロサンゼルス事務所、
ジャパン・ハウス ロサンゼルス共催

■訴求対象 米国人の一般消費者

■開催規模 数1,000名

■概要・効果

【概要】

当地ではまだ馴染みのない焼酎・泡盛の認知度を高めるため、一般消費者向けの月間イベントを実施。バー、レストラン及び小売店50店舗が参加し、焼酎や泡盛を使った特別なカクテル等の提供を通じてPRした。専用HPでは、参加店舗やメニュー等を掲載し、専用SNSでは、参加店舗で提供されたカクテル等の写真を掲載した。月間イベント前日にはメディアやインフルエンサー向けのレセプションを実施した他、月間イベント参加1店舗では、ポップアップ・ストアを展開し、米国人消費者に焼酎や泡盛の認知度向上を図った。また、イベント期間中、SNS上で広告を配信した。

【効果】

焼酎を注文した消費者からは、「日本の伝統的な蒸留酒に興味を持った」旨の意見が相次いだ。また、初めて焼酎を扱った米系バーからは、「イベントに参加してよかった。また参加したい」という声が聞かれた。

また、専用SNSではフォロワー数が550を超えた他、SNS広告は20万回以上露出し、うち約4,000回のクリックが確認できた。



月間イベント参加店舗で提供された焼酎カクテル等



専用SNSでは、イベント期間中にフォロワー数が550を突破



月間イベント参加店舗に配布したパンフレット及び記念品(コースター)



ポップアップ・ストア展開の様子

324 在日米軍経験者レセプション (ロサンゼルス総領事館)

■実施時期 2019年2月7日

■実施場所 総領事公邸

■関係機関 米軍関係者・退役軍人関係団体

■訴求対象 在日米軍経験者及びその家族

■開催規模 約150名

■概要・効果

日本との友好親善の促進。家族とともに
日本文化プログラムや日本食・日本酒を
楽しみ対日理解を一層深めた。



③25 男女共同参画に関する講演会 (ロサンゼルス総領事館)

■実施時期 2019年2月11日

■実施場所 ジャパン・ハウス ロサンゼルス

■関係機関

ジャパン・ハウス ロサンゼルス

■訴求対象 学生、企業経営者、研究者等

■開催規模 29名

■概要・効果

【概要】

“Gender Equality As a Global Goal
-Where Do We Stand Now?”と題した
講演会と対談形式のパネルディスカッション。

講師(大崎麻子公益財団法人・プラン・ジャパン理事)による男女共同参画についての世界的な状況、女性の活躍の政策の現状についての講演の後、対談相手のウェンディ・シバ氏より、自身の弁護士としての企業での経験を紹介。その後、登壇者二人によるパネルディスカッションが行われた。パネルディスカッションでは、現在メンター制度に加え米国で広まっている、直接先輩が後輩にチャンスを作るスポンサー制度や、女性管理職としての働き方等について議論が行われた。

【効果】

政府の女性活躍に関する取組の紹介等ができた。メモを取りながら、講演を熱心に聴く方々が目立った。女性参加者が多い中、幅広い年齢層の男性参加者も見受けられた。全体的に満足度が高いイベントとなった。



326 歩こうアメリカ、語ろうニッポン(第3団)
(ロサンゼルス総領事館)

■実施時期 2019年2月14日～ 2月15日

■実施場所 カリフォルニア州サンディエゴ市

■関係機関 イナモリ庭園、サンディエゴ州立大学、米第三艦隊他

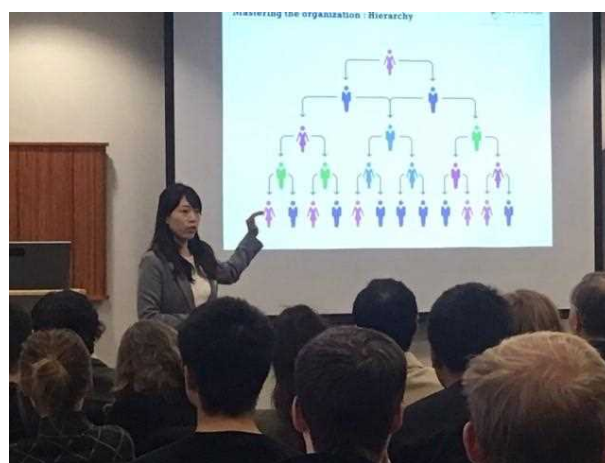
■訴求対象 大学生、ビジネス関係者、米軍関係者、一般米国人他

■開催規模 約170名

■概要・効果

島内元駐ブラジル大使を団長とする一行が、日本庭園・日本館及びサンディエゴ州立大学で発信事業を行ったほか、第三艦隊司令官を表敬するとともに、名誉領事のアレンジによって地元のアジア関係有力者と交流。

総領事館所在地から遠隔の都市を訪問し、日米関係全般、日米安保、日本とビジネス交流する際のポイント、草の根日米交流の重要性等、日米関係について多様な切り口から発信を行うことで現地における対日理解促進に寄与した。



327 南カリフォルニア日米協会 JAPAN UPDATE Symposium (ロサンゼルス総領事館)

■実施時期 2019年2月21日

■実施場所 ロサンゼルス市内
インターコンチネンタル センチュリーシティー

■関係機関 南カリフォルニア日米協会

■訴求対象

日米企業関係者、有識者・研究者・大学教授、
日系コミュニティ関係者等

■開催規模 150名

■概要・効果

【概要】

(1) 伊原純一寿府代大使(元在ロサンゼルス総領事)よりWTOでの経験を踏まえ、ルールに基づくシステムの重要性やTPPの意義を強調した。また、日米は共通の価値観を有する自然な同盟国であり、共にルールに基づくシステムを運営する責任を有する旨述べた。

(2) 水谷友重ニットータイヤUSA会長兼CEOより、自身の20数年に及ぶ米国でのビジネス経験におけるマーケティング戦略の成功について紹介した。

(3) サトウ・リメイエ イースト・ウェスト・センター ワシントンD.C.所長より、最新の研究調査”Japan Matters for America/America Matters for Japan”を紹介し、日本は米国にとり、政治・安全保障、経済、人的交流のいずれにおいても大きな役割を有しており、両国の一層の協力が双方にとり重要である旨を強調した。

【効果】

(1) 当地の企業関係者や有識者層を中心に、日本は米国にとって、民主主義・市場経済・法の支配といった共通の価値を有している、信頼できるパートナーであることを改めて印象づけた。

(2) 参加者からは、米国にとっての日本の重要性や日米協力の意義について理解を深めることができた、日本企業の米国進出の努力について具体的な経験を聞くことができ興味深かった等高い評価が寄せられた。



328 アリゾナ祭り (ロサンゼルス総領事館)

- 実施時期 2019年2月23日～24日
- 実施場所 アリゾナ州フェニックス市
- 関係機関 アリゾナ祭り実行委員会
- 訴求対象 一般市民
- 開催規模 約8万人

■概要・効果

【概要】

例年8万人を集める日本関連のイベント。総領事館ブースを出展し、日本文化、観光、JETプログラム、MEXT奨学金等の広報活動を行った。



【効果】

日本の伝統文化からポップカルチャーや「食」などを総合的に集めた日本祭り。在留邦人・日系人が多くないアリゾナ州において、草の根交流を促進する大きな効果があった。

329 歩こうアメリカ、語ろうニッポン(第4回) (ロサンゼルス総領事館)

■実施時期 2019年3月6日～ 3月7日

■実施場所 カリフォルニア州ロサンゼルス市、グレンデール市

■関係機関 ハンティントン・ライブラリー、ジャパン・ハウス、
グレンデール高校他

■訴求対象 現地学生(小・中・高校生)、ビジネス関係者、市関係者、
JETAA、米軍関係者、姉妹都市関係者、現地有力者、
一般米国人等

■開催規模 約640名

■概要・効果

ロサンゼルス市のハンティントン・ライブラリー、ジャパン・ハウス及びグレンデール高校を訪問し、伝統文化、ビジネス、科学技術分野等に関する日本の強みを発信し、参加者と活発な議論を行った。

姉妹都市関係者、在日米軍経験者、JETAA等現地日本関係者を招待しての千葉総領事主催レセプションも開催し、日本の魅力や各分野における日米協力について現地の理解を深めることができた。



330 学校訪問 (ロサンゼルス総領事館)

- 実施時期 2018年度下期
- 実施場所 当館管轄地域小中高校及び大学10校
- 関係機関 管轄地域内の教育委員会
大学
- 訴求対象 小中高大学生
大学関係者
- 開催規模 各訪問につき50名～200名
(合計約900名)

■概要・効果

【概要】

ロサンゼルス総領事館管轄地域内の小中高校及び大学を訪問し、パワーポイントを用いて日本について紹介し、帰国JET等の講師が日本での実際の生活を伝える。

【効果】

若年層の米国人に対して、日本の風土・文化や日本語に対する関心・理解を高め、対日世論を好意的なものとする。また将来のJETやMEXT奨学金の潜在的候補者を広げるものとする。



331 ハンティントン・ビーチ桜祭り (ロサンゼルス総領事館)

■実施時期 2019年3月15日～17日

■実施場所 カリフォルニア州オレンジ郡ハンティントン・ビーチ市

■関係機関 ハンティントン・ビーチ姉妹都市協会

■訴求対象 一般市民

■開催規模 約60,000人

■概要・効果

【概要】

ハンティントン・ビーチ市の姉妹都市協会が例年開催する日本文化祭であり、桜の木を有する公園を会場に、日本の音楽や踊りのパフォーマンス、武道のデモンストレーション、工芸等の展示、飲食物の販売等が行われ、姉妹都市である愛知県安城市からの訪問団も参加した。

【効果】

ハンティントン・ビーチ市及び近隣市民・家族連れが幅広く会場を訪れ、日本文化に親しみ、愛知県安城市の訪問団と市民交流を深めることができた。



332 ジャパン・ボウル・オブ・カリフォルニア (ロサンゼルス総領事館)

■実施時期 2019年3月16日

■実施場所 ロヨラ・メリーマウント大学

■関係機関

南カリフォルニア日米協会

アラタニ財団

在ロサンゼルス総領事館

■訴求対象 日本語を学ぶ高校生

■開催規模 約250名

■概要・効果

【概要】

ジャパン・ボウルは、ワシントンDC日米協会が1992年に設立した日本語・日本文化の知識を競う大会で、米国をはじめとした諸外国において日本語学習者が参加して行われる。米国各地ではワシントンDCで開催される全国大会を目指す地域大会が行われ、南カリフォルニア地域では約250名の高校生が参加した。言語のみならず日本の文化、社会、経済、日常生活、歴史、地理、そして時事問題も出題されることが特徴である。当館としては、カリフォルニア大会に首席領事が来賓として、担当領事が審査員として参加した。

【効果】

若年層の知日派・親日派育成及び日本に対する理解の深化に大きく貢献。大会が終わってからも継続的に日本について学び、日本への旅行や、留学や就職を希望する学生も多く、将来的にビジネス、学術、芸術、公共サービス等を通して日本とのつながりを持つことを望んでいる。経済的な観点からも、日米関係を強化する役割を担う学生を支援でき、大会参加者だけでなく、来場者にも親日感情が醸成され、日本のプレゼンスを向上できた。



333 サンディエゴ日本語弁論大会 (ロサンゼルス総領事館)

■実施時期 2019年3月17日

■実施場所 カリフォルニア州サンディエゴ市

■関係機関 サンディエゴ日本語弁論大会実行委員会

■訴求対象 日本語学習者
日本教育従事者

■開催規模 131人

■概要・効果

【概要】

サンディエゴにおける唯一の日本語弁論大会であり、高校生部門と大学生部門の2部構成に分けて実施される。各自が3～5分程度の発表を行い、審査員による質疑応答を行い、部門別に1位～3位の入賞者を決定する。

【効果】

サンディエゴ市周辺における日本語学習者の日本語能力向上を図るとともに、同地域の特に関心若い世代の知日派・親日派の育成に寄与。



③34 第二回グレンデール市における桜祭り (ロサンゼルス総領事館)

- 実施時期 2019年3月17日
- 実施場所 カリフォルニア州
グレンデール市ブランド公園
- 関係機関 Friends of Shoseian
国際交流基金
グレンデール市
- 訴求対象 グレンデール市議
グレンデール市民
- 開催規模 約2,000名(主催者発表)

■概要・効果

【概要】

裏千家大阪支部より16名の茶道家が参加し、修復がなされた茶室(松声庵)で4回の茶会を行った。また、日本庭園において、琴、阿波踊り、太鼓、三味線の公演がなされた。

特に、「宝船」による阿波踊りは、公演後、老若男女の観客がパフォーマーとともに踊るなど、大きな盛り上がりを見せた。

姉妹都市の東大阪市の子供たちより送られた折り紙の桜が茶室に飾られ、それらに記されたメッセージの一部が読み上げられた。

また、会場では書道体験、和菓子販売などのブースが設置されたほか、隣接の駐車場には、日本食のフードトラックが設置され、多くの訪問者が庭園内で日本食を楽しんだ。

【効果】

2018年4月に引き続き、第二回桜祭りを成功裏に実施することができ、今後恒例化させていく上で貴重なイベントとなった。日本の支援を受け整備された日本庭園及び茶室をグレンデール市民に広める機会となった。



千葉総領事挨拶



阿波踊り公演を鑑賞する観客

335 サンディエゴ桜祭り
(ロサンゼルス総領事館)

- 実施時期 2019年3月22日～24日
- 実施場所 カリフォルニア州サンディエゴ市
- 関係機関 サンディエゴ日本友好庭園
- 訴求対象 一般市民
- 開催規模 約15,000人

■概要・効果

【概要】

サンディエゴ市の日本友好庭園が例年開催する日本文化祭。桜の木を有する庭園を会場に、ビアガーデンやティーガーデン、工芸等の展示、書道等の日本文化体験ブース、飲食物の販売等が行われた。

【効果】

サンディエゴ市及び近隣市民・家族連れが幅広く日本文化に親しむことができた。京セラ等の日系企業がスポンサーとして積極的に関与しており、日本文化を発信する機会としては効果的であった。



336 フェニックス日本親善庭園春祭り
(ロサンゼルス総領事館)

- 実施時期 2019年3月23日
- 実施場所 アリゾナ州フェニックス市
- 関係機関 フェニックス日本親善庭園
- 訴求対象 一般市民
- 開催規模 約550 人

■概要・効果

【概要】

フェニックス市の日本親善庭園「鷺鳳園」が例年開催する日本文化祭。日本庭園を会場に、ビアガーデン、お茶のデモンストレーション、日本民謡、太鼓ショー、音楽イベント、飲食物の販売等が行われた。

【効果】

フェニックス市及び近隣市民・家族連れが幅広く日本文化に親しむことができた。日本文化に触れる機会の比較的に少ないフェニックス市では、日本文化の発信という観点から本イベントは有益であった。



337 トーランス桜祭り
(ロサンゼルス総領事館)

■実施時期 2019年3月31日

■実施場所 カリフォルニア州トーランス市

■関係機関 トーランス市、トーランス姉妹都市協会

■訴求対象 一般市民

■開催規模 約2,500人

■概要・効果

【概要】

トーランス市が例年開催する日本文化祭。桜の木を有する公園を会場に、日本の音楽や踊りのパフォーマンス、折紙のワークショップ、工芸等の展示、飲食物の販売等が行われた。

【効果】

トーランス市及び近隣市民・家族連れが幅広く日本文化に親しむことができた。トーランス市とトーランス姉妹都市協会が主体的にイベントを運営しており、日本文化を発信する機会としては効果が高い。

